

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第719集

はせどうかいづか
長谷堂貝塚発掘調査報告書

市道猿石線他2路線改良工事関連遺跡発掘調査

2020

大船渡市
(公財)岩手県文化振興事業団

長谷堂貝塚発掘調査報告書

市道猿石線他2路線改良工事関連遺跡発掘調査



遺跡周辺遠景(平成14年10月西側上空から)



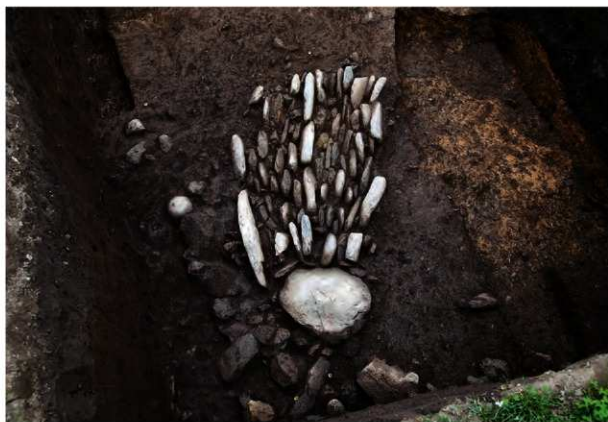
調査区中央部(平成29年度)



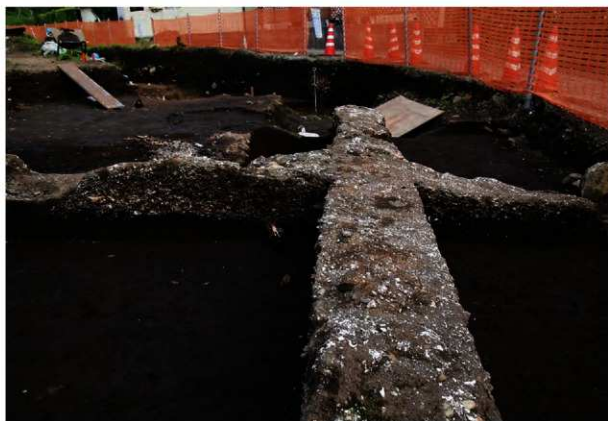
B区北端遺構群



SI25に伴う配石遺構 SQ09



配石遺構 SQ06



貝層10断面



貝層10内イヌ等骨集積



人面付礫石製品

序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されており、それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を因らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、創設以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行ない、その調査の記録を保存とする措置をとってまいりました。

本報告書は、東日本大震災からの復興を果たすべく事業が推進されている大船渡市道狼石線改良工事に関連し、大船渡市の委託を受け平成28、29年度に実施した長谷堂貝塚発掘調査の成果をまとめたものであります。

今回の調査では、広大な面積に広がることが明らかとなっている長谷堂貝塚の中で、東側に集中する縄文時代中期集落の一部を検出しております。密集する竪穴住居跡や配石遺構等、各種の遺構遺物がみつき、特にアサリを主体とする貝層に伴って、良好な状態で多量の動物遺存体が出土しました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書作成にあたり、御理解と御協力をいただきました大船渡市都市整備部建設課、大船渡市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和2年3月

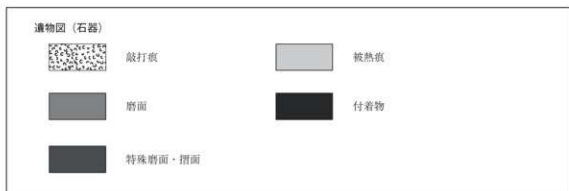
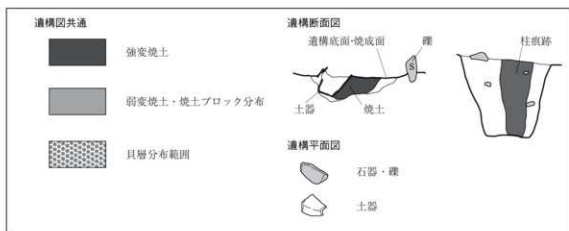
公益財団法人 岩手県文化振興事業団
理事長 高橋 嘉行

例 言

- 1 本報告書は、岩手県大船渡市猪川町字長谷堂地内に所在する長谷堂貝塚第16次・17次発掘調査の成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡登録台帳における遺跡番号・調査略号は次のとおりである。
長谷堂貝塚 遺跡番号：LF20-2223 遺跡略号：HSD-16・HSD-17
- 3 本遺跡の発掘調査は市道猿石線他2路線改良事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、大船渡市の委託を受けた（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 野外調査面積・調査期間・担当者、及び室内整理期間・担当者は次のとおりである。
＜野外調査＞ 調査終了面積：1,750㎡
平成28年度 平成28年6月9日～12月16日（950㎡）
高木晃 星雅之 佐藤奈津季 佐々木正樹 戦場由裕
平成29年度 平成29年6月1日～12月14日（800㎡）
高木晃 小林弘卓 佐藤奈津季 中島康佑
＜室内整理＞
平成28年度 平成28年9月5日～平成29年3月31日
高木晃 佐藤奈津季 佐々木正樹
平成29年度 平成29年12月1日～平成30年3月31日
高木晃 小林弘卓 佐藤奈津季 中島康佑
平成30年度 平成30年6月16日～平成31年3月31日
高木晃 小林弘卓
平成31年度 平成31年4月1日～5月31日
高木晃
- 5 本報告書の執筆分担は次のとおりである。
第Ⅰ章：大船渡市都市整備部建設課
第Ⅱ～Ⅴ章：高木（第Ⅳ章 遺構原稿の一部は星、佐藤作成草稿を元に高木編集）
- 6 各種委託業務は次の機関に依頼した（順不同・敬称略）。
石器・石製品の石質肉眼同定：花崗岩研究会
石器実測：（株）ラング
- 7 動物遺存体の観察・同定・記載にあたっては、佐々木務氏（岩手県教育委員会）、富岡直人氏（岡山理科大学）、江川達也氏（笠岡市教育委員会）の御指導をいただいた。
- 8 野外調査、及び室内整理にあたり、以下の機関、個人、並びに周辺住民の方々から御協力いただいた（順不同・敬称略）。
大船渡市教育委員会 大船渡市立博物館 県立大船渡高等学校 長谷寺
金野良一 工藤やよい 熊谷常正 熊谷賢 白土豊 鈴木めぐみ 松崎哲也 村田匠
- 9 これまでに、調査成果の一部を現地説明会資料、調査概報、遺跡報告会等において公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。
- 10 本遺跡の出土遺物及び諸記録類は岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

凡 例

- 1 本書では国土地理院発行2万5千分の1地形図「盛」・「大船渡」、5万分の1地形図「大船渡」並びに国土地理院発行1:2500災害復興計画基図（迅速図）X-NF39-1・3を使用した。
- 2 遺構図中で記載した座標値は平面直角座標第X系（世界測地系）に基づく。
- 3 遺構図等の方位は真北を表示している。
- 4 土層の記載には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」を使用した。
- 5 図中で用いた記号等は下図のとおり。なお下記によらない場合は、必要に応じ各図に凡例を示している。
- 6 本文中、または引用文献名等において、「教育委員会」を「教委」、「埋蔵文化財センター」を「埋文」と省略して表記した箇所がある。



目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	2
1	地理的環境	2
2	歴史的環境	7
III	調査と整理の方法	13
1	野外調査	13
2	室内整理	20
IV	検出された遺構と遺物	33
1	概 要	33
2	縄文時代の遺構	33
(1)	竪穴住居跡	33
(2)	炉跡・焼土遺構	45
(3)	土 坑	47
(4)	掘立柱建物跡	61
(5)	配石遺構	62
(6)	埋設土器	64
(7)	遺物包含層	64
(8)	貝 層	65
(9)	小 柱 穴	66
3	近世の遺構	121
4	縄文時代の遺物	124
(1)	土 器	124
(2)	土 製 品	128
(3)	石器・石製品	131
(4)	骨 角 器	138
(5)	動物遺存体	307
5	古代～近世の遺物	344
(1)	土師器・須恵器	344
(2)	陶 磁 器	344
(3)	動物遺存体	344
V	総 括	347
1	縄文時代の集落	347
(1)	集 落 構 造	347
(2)	敷石住居と配石遺構	347

(3) 生 業 活 動	350
(4) 人 犬 合 葬	351
2 ま と め	351
報 告 書 抄 録	495

表 目 次

第1表 長谷堂貝塚の調査歴	11	第25表 二枚貝同定標本数	313
第2表 竪穴住居跡一覧	67	第26表 ウミナガ高計測値	314
第3表 竪穴住居跡付属跡一覧	68	第27表 アサリ計測値	314
第4表 舟跡・焼土遺構一覧	68	第28表 魚骨集計表	316
第5表 土坑一覧	69	第29表 魚類椎骨集計表	325
第6表 配石遺構一覧	71	第30表 カエル類集計表	328
第7表 区別別土器重量集計	71	第31表 ヘビ類集計表	328
第8表 貝層一覧	72	第32表 鳥綱同定標本一覧	329
第9表 貝層試料集計	72	第33表 鳥綱集計表	330
第10表 小柱穴計測表	73	第34表 ネズミ科・モグラ科集計表	331
第11表 北端近世遺構一覧	121	第35表 ムササビ集計表	331
第12表 土製品集計	128	第36表 ノウサギ集計表	331
第13表 石器・石製品集計	131	第37表 食肉目同定標本一覧	332
第14表 出土地点別剥片集計	136	第38表 ニホンジカ集計表(1)	334
第15表 出土地点別礫片集計	137	第39表 ニホンジカ集計表(2)	335
第16表 貝層内チップ類集計	137	第40表 イノシシ集計表(1)	336
第17表 骨角器集計	138	第41表 イノシシ集計表(2)	337
第18表 縄文土器観察表	241	第42表 イヌ集計表	339
第19表 土製品観察表	262	第43表 イヌ属性表	340
第20表 石器・石製品観察表	295	第44表 イヌ歯牙集計表	342
第21表 骨角器観察表	306	第45表 イヌ体高推定	342
第22表 出土動物遺存体種名表	308	第46表 人骨属性表	343
第23表 種別同定標本数集計表	310	第47表 ウマ歯属性表	344
第24表 巻貝同定標本数	313	第48表 古代土器・陶磁器観察表	346

挿 図 目 次

第1図 長谷堂貝塚の位置	3	第8図 調査区全体図	15
第2図 長谷堂貝塚周辺の地形・調査区の位置	4	第9図 遺構配置図	22
第3図 長谷堂貝塚周辺の地形分類図	5	第10図 遺構配置図(1)	23
第4図 長谷堂貝塚周辺の表層地質図	6	第11図 遺構配置図(2)	24
第5図 長谷堂貝塚周辺の遺跡分布	8	第12図 遺構配置図(3)	25
第6図 大船渡市周辺の貝塚分布	9	第13図 遺構配置図(4)	26
第7図 長谷堂貝塚の既往調査地点	10	第14図 遺構配置図(5)	27

第15回	遺構配置図拡大(1)	28	第61回	貝層12・貝層試料整理手順	120
第16回	遺構配置図拡大(2)	29	第62回	北端近世遺構群(1)	122
第17回	遺構配置図拡大(3)	30	第63回	北端近世遺構群(2)	123
第18回	遺構配置図拡大(4)	31	第64回	縄文土器(1)	140
第19回	遺構配置図拡大(5)	32	第65回	縄文土器(2)	141
第20回	SI01住居跡	79	第66回	縄文土器(3)	142
第21回	SI02住居跡・SI03住居跡	80	第67回	縄文土器(4)	143
第22回	SI04住居跡(1)	81	第68回	縄文土器(5)	144
第23回	SI04住居跡(2)・SI05住居跡	82	第69回	縄文土器(6)	145
第24回	SI06住居跡・SI08住居跡(1)	83	第70回	縄文土器(7)	146
第25回	SI08住居跡(2)	84	第71回	縄文土器(8)	147
第26回	SI09住居跡	85	第72回	縄文土器(9)	148
第27回	B区北端遺構群全体図	86	第73回	縄文土器(10)	149
第28回	B区北端遺構群断面図	87	第74回	縄文土器(11)	150
第29回	B区北端遺構群 関係図	88	第75回	縄文土器(12)	151
第30回	B区北端遺構群分解図(1)	89	第76回	縄文土器(13)	152
第31回	B区北端遺構群分解図(2)	90	第77回	縄文土器(14)	153
第32回	B区北端遺構群重複関係図・SI13住居跡	91	第78回	縄文土器(15)	154
第33回	SI14住居跡・SI21住居跡・SI15住居跡	92	第79回	縄文土器(16)	155
第34回	SI18住居跡・SI20住居跡	93	第80回	縄文土器(17)	156
第35回	SI23住居跡・SI30住居跡	94	第81回	縄文土器(18)	157
第36回	SI24住居跡(1)	95	第82回	縄文土器(19)	158
第37回	SI24住居跡(2)・SI25住居跡(1)	96	第83回	縄文土器(20)	159
第38回	SI25住居跡(2)・SQ09配石遺構	97	第84回	縄文土器(21)	160
第39回	SI26住居跡・SI27住居跡・SI29住居跡	98	第85回	縄文土器(22)	161
第40回	SI28住居跡	99	第86回	縄文土器(23)	162
第41回	炉跡・焼土遺構(1)	100	第87回	縄文土器(24)	163
第42回	炉跡・焼土遺構(2)	101	第88回	縄文土器(25)	164
第43回	土坑(1)	102	第89回	縄文土器(26)	165
第44回	土坑(2)	103	第90回	縄文土器(27)	166
第45回	土坑(3)	104	第91回	縄文土器(28)	167
第46回	土坑(4)	105	第92回	縄文土器(29)	168
第47回	土坑(5)	106	第93回	縄文土器(30)	169
第48回	土坑(6)	107	第94回	縄文土器(31)	170
第49回	土坑(7)	108	第95回	縄文土器(32)	171
第50回	土坑(8)	109	第96回	縄文土器(33)	172
第51回	掘立柱建物跡柱穴分布(1)	110	第97回	縄文土器(34)	173
第52回	掘立柱建物跡柱穴分布(2)	111	第98回	縄文土器(35)	174
第53回	掘立柱建物跡柱穴分布(3)	112	第99回	縄文土器(36)	175
第54回	配石遺構(1)	113	第100回	縄文土器(37)	176
第55回	配石遺構(2)	114	第101回	縄文土器(38)	177
第56回	配石遺構(3)・埋設土器	115	第102回	縄文土器(39)	178
第57回	遺物包含層断面	116	第103回	縄文土器(40)	179
第58回	土器重量分布	117	第104回	縄文土器(41)	180
第59回	貝層分布	118	第105回	縄文土器(42)	181
第60回	貝層10	119	第106回	縄文土器(43)	182

第107回	縄文土器 (44).....	183	第153回	縄文土器 (90).....	229
第108回	縄文土器 (45).....	184	第154回	縄文土器 (91).....	230
第109回	縄文土器 (46).....	185	第155回	縄文土器 (92).....	231
第110回	縄文土器 (47).....	186	第156回	縄文土器 (93).....	232
第111回	縄文土器 (48).....	187	第157回	縄文土器 (94).....	233
第112回	縄文土器 (49).....	188	第158回	縄文土器 (95).....	234
第113回	縄文土器 (50).....	189	第159回	縄文土器 (96).....	235
第114回	縄文土器 (51).....	190	第160回	縄文土器 (97).....	236
第115回	縄文土器 (52).....	191	第161回	縄文土器 (98).....	237
第116回	縄文土器 (53).....	192	第162回	縄文土器 (99).....	238
第117回	縄文土器 (54).....	193	第163回	縄文土器 (100).....	239
第118回	縄文土器 (55).....	194	第164回	縄文土器 (101).....	240
第119回	縄文土器 (56).....	195	第165回	土製品 (1).....	258
第120回	縄文土器 (57).....	196	第166回	土製品 (2).....	259
第121回	縄文土器 (58).....	197	第167回	土製品 (3).....	260
第122回	縄文土器 (59).....	198	第168回	土製品 (4).....	261
第123回	縄文土器 (60).....	199	第169回	石器・石製品 (1).....	264
第124回	縄文土器 (61).....	200	第170回	石器・石製品 (2).....	265
第125回	縄文土器 (62).....	201	第171回	石器・石製品 (3).....	266
第126回	縄文土器 (63).....	202	第172回	石器・石製品 (4).....	267
第127回	縄文土器 (64).....	203	第173回	石器・石製品 (5).....	268
第128回	縄文土器 (65).....	204	第174回	石器・石製品 (6).....	269
第129回	縄文土器 (66).....	205	第175回	石器・石製品 (7).....	270
第130回	縄文土器 (67).....	206	第176回	石器・石製品 (8).....	271
第131回	縄文土器 (68).....	207	第177回	石器・石製品 (9).....	272
第132回	縄文土器 (69).....	208	第178回	石器・石製品 (10).....	273
第133回	縄文土器 (70).....	209	第179回	石器・石製品 (11).....	274
第134回	縄文土器 (71).....	210	第180回	石器・石製品 (12).....	275
第135回	縄文土器 (72).....	211	第181回	石器・石製品 (13).....	276
第136回	縄文土器 (73).....	212	第182回	石器・石製品 (14).....	277
第137回	縄文土器 (74).....	213	第183回	石器・石製品 (15).....	278
第138回	縄文土器 (75).....	214	第184回	石器・石製品 (16).....	279
第139回	縄文土器 (76).....	215	第185回	石器・石製品 (17).....	280
第140回	縄文土器 (77).....	216	第186回	石器・石製品 (18).....	281
第141回	縄文土器 (78).....	217	第187回	石器・石製品 (19).....	282
第142回	縄文土器 (79).....	218	第188回	石器・石製品 (20).....	283
第143回	縄文土器 (80).....	219	第189回	石器・石製品 (21).....	284
第144回	縄文土器 (81).....	220	第190回	石器・石製品 (22).....	285
第145回	縄文土器 (82).....	221	第191回	石器・石製品 (23).....	286
第146回	縄文土器 (83).....	222	第192回	石器・石製品 (24).....	287
第147回	縄文土器 (84).....	223	第193回	石器・石製品 (25).....	288
第148回	縄文土器 (85).....	224	第194回	石器・石製品 (26).....	289
第149回	縄文土器 (86).....	225	第195回	石器・石製品 (27).....	290
第150回	縄文土器 (87).....	226	第196回	石器・石製品 (28).....	291
第151回	縄文土器 (88).....	227	第197回	石器・石製品 (29).....	292
第152回	縄文土器 (89).....	228	第198回	石器・石製品 (30).....	293

第199回	石器・石製品 (31).....	294	第206回	アサリ殻長分布	314
第200回	骨角器 (1).....	303	第207回	魚類椎骨出土数	327
第201回	骨角器 (2).....	304	第208回	古代土器・陶磁器 (1).....	345
第202回	骨角器 (3).....	305	第209回	古代土器・陶磁器 (2).....	346
第203回	二枚貝・巻貝組成グラフ	313	第210回	縄文時代遺構分布変遷	348
第204回	ウミナ最高分布	314	第211回	長谷堂貝塚の縄文中期後葉集落構造	349
第205回	アサリ最高分布	314	第212回	岩手県域の敷石住居跡	350

写真図版目次

写真図版1	調査区 (1)	357	写真図版36	土坑 (7)	392
写真図版2	調査区 (2)	358	写真図版37	土坑 (8)	393
写真図版3	調査区 (3)	359	写真図版38	土坑 (9)	394
写真図版4	竪穴住居跡 (1)	360	写真図版39	土坑 (10)	395
写真図版5	竪穴住居跡 (2)	361	写真図版40	土坑 (11)	396
写真図版6	竪穴住居跡 (3)	362	写真図版41	土坑 (12)	397
写真図版7	竪穴住居跡 (4)	363	写真図版42	土坑 (13)	398
写真図版8	竪穴住居跡 (5)	364	写真図版43	土坑 (14)	399
写真図版9	竪穴住居跡 (6)	365	写真図版44	土坑 (15)	400
写真図版10	竪穴住居跡 (7)	366	写真図版45	土坑 (16)	401
写真図版11	竪穴住居跡 (8)	367	写真図版46	土坑 (17)	402
写真図版12	竪穴住居跡 (9)	368	写真図版47	配石遺構 (1)	403
写真図版13	竪穴住居跡 (10)	369	写真図版48	配石遺構 (2)	404
写真図版14	竪穴住居跡 (11)	370	写真図版49	配石遺構 (3)・埋設土器	405
写真図版15	竪穴住居跡 (12)	371	写真図版50	遺物包含層	406
写真図版16	竪穴住居跡 (13)	372	写真図版51	貝層 (1)	407
写真図版17	竪穴住居跡 (14)	373	写真図版52	貝層 (2)	408
写真図版18	竪穴住居跡 (15)	374	写真図版53	貝層 (3)	409
写真図版19	竪穴住居跡 (16)	375	写真図版54	貝層 (4)	410
写真図版20	竪穴住居跡 (17)	376	写真図版55	北端近世遺構群 (1)	411
写真図版21	竪穴住居跡 (18)	377	写真図版56	北端近世遺構群 (2)	412
写真図版22	竪穴住居跡 (19)	378	写真図版57	縄文土器 (1)	413
写真図版23	竪穴住居跡 (20)	379	写真図版58	縄文土器 (2)	414
写真図版24	竪穴住居跡 (21)	380	写真図版59	縄文土器 (3)	415
写真図版25	竪穴住居跡 (22)	381	写真図版60	縄文土器 (4)	416
写真図版26	如跡・焼土遺構 (1)	382	写真図版61	縄文土器 (5)	417
写真図版27	如跡・焼土遺構 (2)	383	写真図版62	縄文土器 (6)	418
写真図版28	如跡・焼土遺構 (3)	384	写真図版63	縄文土器 (7)	419
写真図版29	如跡・焼土遺構 (4)	385	写真図版64	縄文土器 (8)	420
写真図版30	土坑 (1)	386	写真図版65	縄文土器 (9)	421
写真図版31	土坑 (2)	387	写真図版66	縄文土器 (10)	422
写真図版32	土坑 (3)	388	写真図版67	縄文土器 (11)	423
写真図版33	土坑 (4)	389	写真図版68	縄文土器 (12)	424
写真図版34	土坑 (5)	390	写真図版69	縄文土器 (13)	425
写真図版35	土坑 (6)	391	写真図版70	縄文土器 (14)	426

写真図版71	縄文土器 (15)	427	写真図版105	縄文土器 (49)	461
写真図版72	縄文土器 (16)	428	写真図版106	土製品 (1)	462
写真図版73	縄文土器 (17)	429	写真図版107	土製品 (2)	463
写真図版74	縄文土器 (18)	430	写真図版108	石器・石製品 (1)	464
写真図版75	縄文土器 (19)	431	写真図版109	石器・石製品 (2)	465
写真図版76	縄文土器 (20)	432	写真図版110	石器・石製品 (3)	466
写真図版77	縄文土器 (21)	433	写真図版111	石器・石製品 (4)	467
写真図版78	縄文土器 (22)	434	写真図版112	石器・石製品 (5)	468
写真図版79	縄文土器 (23)	435	写真図版113	石器・石製品 (6)	469
写真図版80	縄文土器 (24)	436	写真図版114	石器・石製品 (7)	470
写真図版81	縄文土器 (25)	437	写真図版115	石器・石製品 (8)	471
写真図版82	縄文土器 (26)	438	写真図版116	石器・石製品 (9)	472
写真図版83	縄文土器 (27)	439	写真図版117	石器・石製品 (10)	473
写真図版84	縄文土器 (28)	440	写真図版118	石器・石製品 (11)	474
写真図版85	縄文土器 (29)	441	写真図版119	石器・石製品 (12)	475
写真図版86	縄文土器 (30)	442	写真図版120	石器・石製品 (13)	476
写真図版87	縄文土器 (31)	443	写真図版121	石器・石製品 (14)	477
写真図版88	縄文土器 (32)	444	写真図版122	石器・石製品 (15)	478
写真図版89	縄文土器 (33)	445	写真図版123	石器・石製品 (16)	479
写真図版90	縄文土器 (34)	446	写真図版124	石器・石製品 (17)	480
写真図版91	縄文土器 (35)	447	写真図版125	骨角器 (1)	481
写真図版92	縄文土器 (36)	448	写真図版126	骨角器 (2)	482
写真図版93	縄文土器 (37)	449	写真図版127	動物遺存体 (1)	483
写真図版94	縄文土器 (38)	450	写真図版128	動物遺存体 (2)	484
写真図版95	縄文土器 (39)	451	写真図版129	動物遺存体 (3)	485
写真図版96	縄文土器 (40)	452	写真図版130	動物遺存体 (4)	486
写真図版97	縄文土器 (41)	453	写真図版131	動物遺存体 (5)	487
写真図版98	縄文土器 (42)	454	写真図版132	動物遺存体 (6)	488
写真図版99	縄文土器 (43)	455	写真図版133	動物遺存体 (7)	489
写真図版100	縄文土器 (44)	456	写真図版134	動物遺存体 (8)	490
写真図版101	縄文土器 (45)	457	写真図版135	動物遺存体 (9)	491
写真図版102	縄文土器 (46)	458	写真図版136	動物遺存体 (10)	492
写真図版103	縄文土器 (47)	459	写真図版137	動物遺存体 (11)	493
写真図版104	縄文土器 (48)	460	写真図版138	動物遺存体 (12)	494

I 調査に至る経過

長谷堂貝塚は、「猿石線他2路線道路改良事業」に伴い、その事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

猿石線他2路線道路改良事業は、大船渡市猪川町字長谷堂から大船渡市猪川町字善藏敷間の総延長約600mの道路改良事業であり、周辺住民の生活道路及び、児童生徒の通学路、農業用道路として使用されている市道を改良する事業である。

事業対象箇所は市道は道路幅員が極めて狭く、交通及び防災上の問題を抱えており、この問題の解消と、利便性の向上のため道路の拡幅改良を行うものである。

当事業の実施に際し、大船渡市都市整備部建設課から平成22年4月13日に大船渡市教育委員会に対して埋蔵文化財発掘調査の有無の確認を行っており、大船渡市教育委員会は平成22年4月23日に発掘調査が必要な旨を回答している。

調査費用と期間の積算のため、大船渡市教育委員会が平成22年8月18日から平成22年8月20日にかけて試掘調査を実施し、報告書の刊行を含め数年を要するとの回答を受け、協議した結果、公益財団法人岩手県文化振興事業団に調査を依頼する方針で決定した。

平成23年4月1日付で公益財団法人岩手県文化振興事業団と大船渡市（建設課）で契約をするために準備を進めていたが、平成23年3月11日の東日本大震災の影響により事業を中断せざるを得なくなった。

平成27年度から事業を再開。市町村が主体となる開発に関連する埋蔵文化財調査は市町村教育委員会が担当することとなり、大船渡市都市整備部建設課と大船渡市教育委員会が再度発掘調査の方針について協議を行い、大船渡市教育委員会は復興関連調査の増大と調査員不足の状況から、岩手県教育委員会と協議を行い、本調査においては公益財団法人岩手県文化振興事業団が受託することとなった。

その結果を踏まえて大船渡市は、平成28年5月31日付で公益財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

(大船渡市都市整備部建設課)

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

(1) 遺跡の立地(第1・2図)

長谷堂貝塚は岩手県大船渡市猪川町字長谷堂^{ヒサカウ}内に所在する。大船渡市は岩手県の南東部、三陸沿岸に位置し、総面積322.5km²、人口37,321人(平成29年11月現在)、水産業、鉱工業が発達する県南沿岸地域の中核的都市である。2011(平成23)年3月に発生した東日本大震災の甚大な津波被害により沿岸部一帯は壊滅的打撃を受けたが、現在は官民挙げての復興事業が進行している中にある。

遺跡の立地する場所は、1952(昭和27)年に大船渡市が誕生するまでは旧気仙郡猪川村に属し、昭和30年代までは畑地に農家が点在する農村地帯であった(岩手県教委1972)。1962(昭和37)年に大船渡高校が現在の敷地に開校、また周辺では県道赤崎線沿線を中心に急速な市街地化が進み、現在では東日本大震災後に被災地から移転した住宅建設も相次ぎ、宅地の占める割合が増大している。

なお、1970(昭和45)年には、長谷堂貝塚の中央部に県営長谷堂住宅が建設され、最初の着工、及びその後の建て替えに伴う発掘調査が数次にわたって実施されている(岩手県教委1972、岩埋文1999・2001・2004)。これらを含めた過去の調査歴については本章第2節(2)に記載する。

今回の調査区は国土地理院発行2万5千分の1地形図「盛」の図幅に含まれ、北緯39度05分37秒、東経141度43分15秒付近に位置する。調査区の現況は、調査原因となった市道猿石線の幅員2mの現道部分、及び現道に沿った道路拡幅用地の畑地部分、移転した住宅跡地からなる。市道猿石線は住宅地と農地の間を縫うように北西から南東へ伸びており、調査区も蛇行するため調査区両端間の実延長距離は約230mである。調査区の現地表面標高は海拔28~32mである。

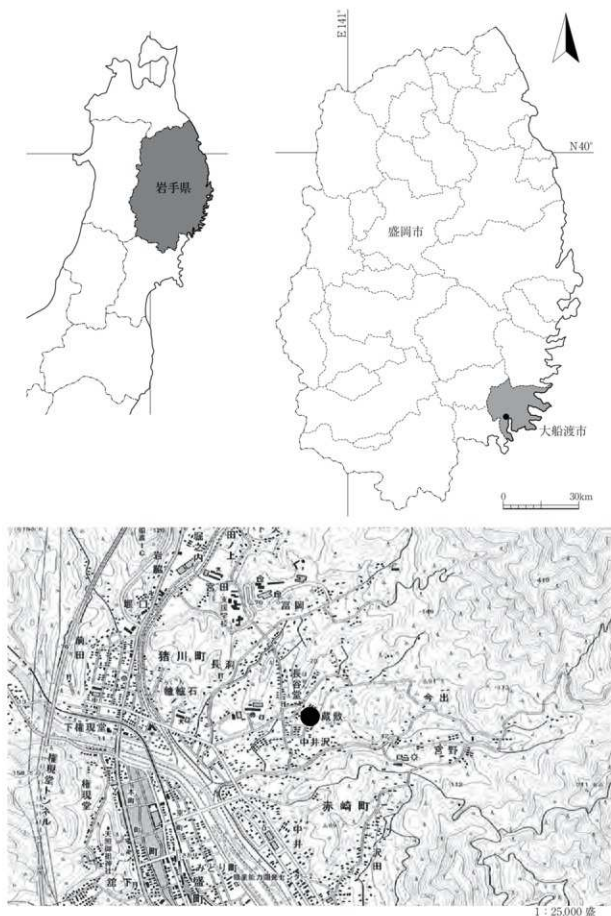
(2) 遺跡周辺の地形・地質(第3・4図)

大船渡市を含む三陸沿岸南部地方一帯は北上山地南東部にあたる。標高1,351mの五葉山をはじめとする五百~千m級の山並みが沿岸から至近距離に連なり、山地斜面がリアス式海岸に落ち込む地形が卓越する。総じて海岸平野、段丘面は発達せず、湾奥を河口とする各河川流域も狭い。このため現在の市街地、農地は狭い平野部に集中する分布となっている。

長谷堂貝塚はこのようなリアス式海岸の中では比較的広い平野部を有する大船渡湾の北岸、盛川左岸の大船渡丘陵上に位置する。大船渡丘陵は段丘が開析された地形面が連続し、小河川と緩い起伏の尾根が並列する。東方には今出山(標高756m)を中心とする今出山山地が位置し、遺跡の周辺には山地西麓の緩斜面が広がる。

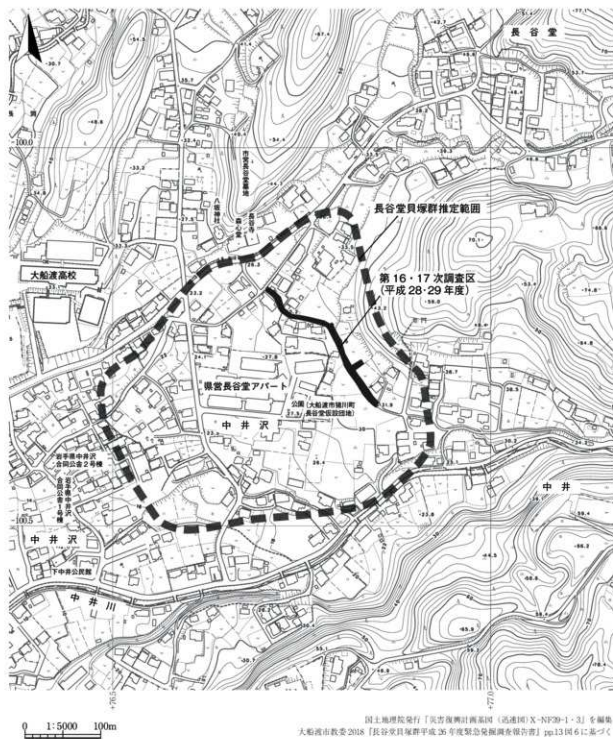
遺跡範囲は東西、南北とも300m強の広がりを持つと推定され、北は盛川支流、南は中井川に面する範囲とされる(大船渡市教委2018)。東側から中央部にかけてが緩い尾根地形の高まりとなり、北、西、南側に向かって緩傾斜で落ち込む地形である。三方が開けた高台にあるため、東西に山脈が走る大船渡市内では日照時間の長い地区である。遺跡の標高は海拔20~32mの範囲となる。

遺跡中央部の位置は現在の海岸線からの直線距離で約2.5km離れる。次節に記載する当地方の貝塚立地傾向とは一見、異なる立地と捉えられる。しかし、現海岸から1.6km遡った地点で縄文時代早期の海水堆積層が確認されていることから(大船渡市1978)、縄文時代における海岸線との距離は1km

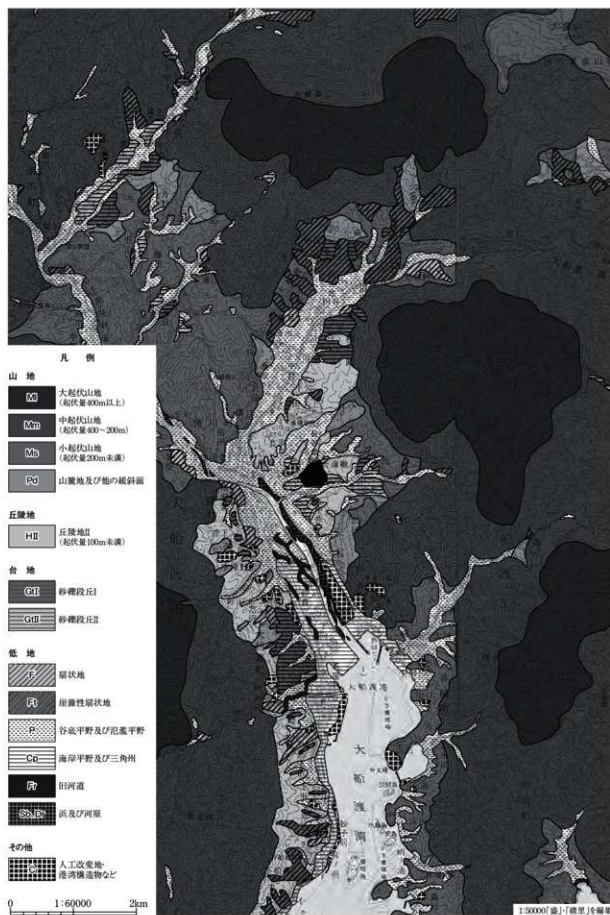


第1図 長谷堂貝塚の位置

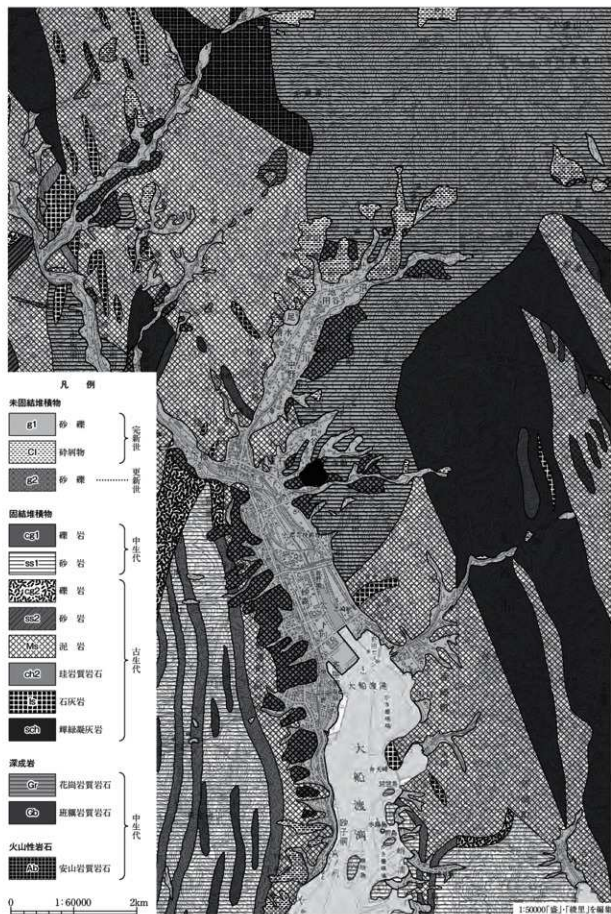
1 地理的環境



第2図 長谷堂員塚周辺の地形・調査区的位置



第3図 長谷堂貝塚周辺の地形分類図



第4圖 長谷堂貝塚周辺の表層地質図

以下であった可能性が高いと考えられる。

長谷堂貝塚が立地する今出山山地西麓には、中生代白亜紀前期に貫入した花崗岩質岩石(立根岩体)、古生代ペルム紀前期と推定される頁岩・石灰岩等で構成される古生層、中生代白亜紀前期の砂岩・頁岩・礫岩・凝灰岩等からなる大船渡層群の分布が見られる。大船渡丘陵では古生層、中生層の基盤層上位に、新生代第四紀更新世の段丘堆積物が広く分布し、風化の進んだ礫層・砂層・泥層で構成される(大船渡市教委2001)。

2 歴史的環境

(1) 周辺の遺跡(第5・6図)

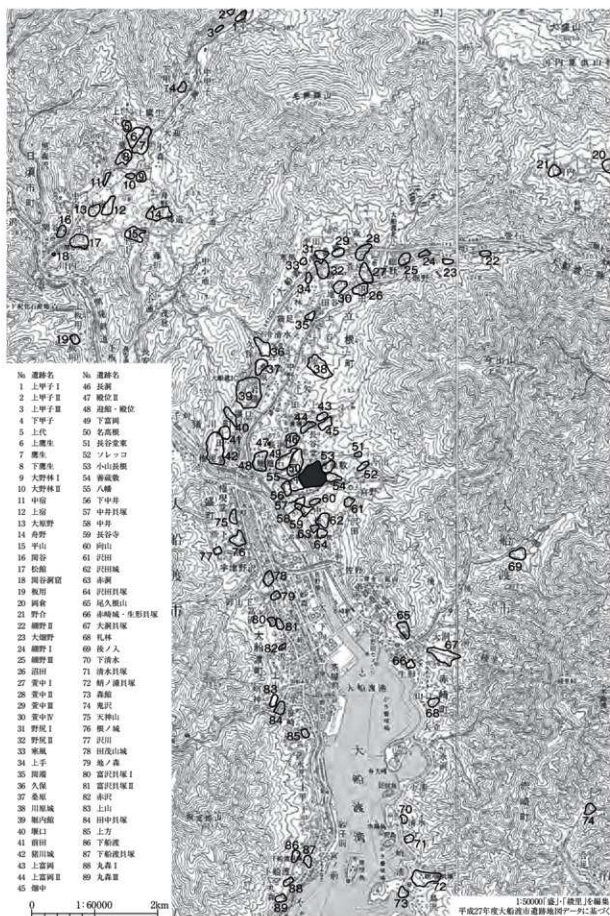
大船渡市内では193箇所の遺跡が確認されており、このうち縄文時代の遺跡は全体の8割に達するとされる(大船渡市教委2018)。これらは、長谷堂貝塚周辺を含めた猪川町、立根町地区を中心に盛川、立根川流域に広がる平野部、段丘面に濃密に分布する状況が見て取れる(第5図)。特に長谷堂貝塚近隣においては遺跡の密集度が顕著である。長谷堂貝塚の東側には小山長根遺跡、善蔵敷遺跡が位置し、西側は八幡遺跡、名高根遺跡に隣接する。加えてこの地域では近年開発が進んでいることもあり、長谷堂貝塚の他に、名高根遺跡、中井貝塚、長谷寺遺跡、上富岡遺跡、長洞遺跡、善蔵敷遺跡での調査が実施され、名高根遺跡では大船渡高校増築に伴う調査で縄文中期後葉の集落、中井貝塚では縄文中期中葉と古代の集落、長谷寺遺跡では縄文前期から中期の包含層と平安時代の住居跡、上富岡遺跡と長洞遺跡では縄文中期から後期にかけての遺物が出土した。

また陸前高田市を含めた当地方は全国有数の貝塚密集地帯でもある。大船渡湾、広田湾、綾里湾、越喜来湾岸を中心に、国史跡に指定されている大洞貝塚、蛸ノ浦貝塚、下船渡貝塚、中沢貝塚をはじめ、大船渡市内に限っても31箇所の貝塚が確認されている(第6図)。主要な貝塚では、縄文前期から中期にかけての宮野貝塚、蛸ノ浦貝塚、清水貝塚、内田貝塚、細浦上ノ山貝塚等、同中期の沢田貝塚、長谷堂貝塚等、同後期から晩期にかけての野々前貝塚、大洞貝塚、田中貝塚、下船渡貝塚等が挙げられる。貝塚立地の傾向としては、前期から中期にかけては海浜近くの、舌状に張り出した丘陵突端部が多く、後期から晩期にかけては海浜から遠ざかり、湾奥に形成される貝塚が主体となる。また貝塚規模は前期から中期に大規模な貝塚が形成される傾向があることが指摘されている(大船渡市教委2018)。

(2) 長谷堂貝塚の調査歴(第7図 第1表)

当貝塚は江戸時代からその存在が知られており、また「長谷堂貝塚」の名称は大正年間には定着していたようである(大船渡市教委2018)。昭和30年には早稲田大学による初めての本格的な発掘調査が行われ、A～D地点の4箇所の貝塚が確認された(西村1959)。このうち縄文中期のA地点貝塚、同晩期のC地点貝塚が調査され、いずれもアサリを主体とする貝層、仰臥屈葬人骨等が発見されている。以来、今回報告する調査に至るまで、17次にわたる学術、緊急調査が行われてきた。その内容を第1表に記載する(註1)。

このうち、平成8～14年度にかけて4次にわたって実施された、遺跡中央部の県営長谷堂アパート建設事業に伴う調査(第4・6・8・10次調査)では、縄文晩期末～弥生前期の墓域に伴う集落跡、縄文中期後葉の環状に展開する掘立柱建物跡群や竪穴住居跡群からなる集落跡が検出されている。また、遺跡西側の南北道路以西の区域にかかる調査(第5・7・11～15次)では、主に縄文時代後期、



第5図 長谷堂貝塚周辺の遺跡分布



第6図 大船渡市周辺の貝塚分布

晩期の集落、遺物包含層、墓塚群等が発見されている。14次調査ではD地点貝塚の一部が対象となり土坑内に良好に残存する貝層が検出された。

総じて、遺跡東側では縄文中期の遺構・遺物分布、西側では同晩期の遺構・遺物が主となる傾向が明らかで、今回の調査は縄文中期集落域の東側を南北に縦断する形で実施することとなった。

註1

長谷堂貝塚の調査履歴については、大船渡市教委2017「長谷堂貝塚群・丸森一里塚平成25年度緊急発掘調査報告書」、岩手県文化振興事業団2004「長谷堂貝塚発掘調査報告書」、鈴木2009等に詳細に記載されており、ここでは概要のみ記す。

(第II章関係 引用・参考文献)

阿部勝則2005「大船渡市長谷堂貝塚における縄文時代中期の集落構造－掘立柱建物跡の検討を中心に－」『紀要』XXIV(財)

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県企画開発室1973「北上山系開発地域土地分類基本調査 盛」

岩手県教育委員会1972「岩手県大船渡市長谷堂貝塚－昭和46年度緊急調査報告－」

岩手県教育委員会1998「岩手の貝塚」岩手県文化財調査報告書第102集



第7図 長谷堂貝塚の既往調査地点

第1表 長谷堂貝塚の調査歴

次号	調査年	調査面積	調査機関	調査概要	文献
1	1955	-	早稲田大学考古学研究室	A・C地点貝塚を発見。 A地点貝塚：縄文中期(大木9式期主体)のアサリ主体貝層、遺物を確認。 C地点貝塚：縄文晩期(大洞A式期主体)のアサリ主体貝層、同隊屋敷の人骨確認。	西村1959 高橋ほか 1998・1999
2	1971	-	若手県教育委員会	縄文後期(縄文2式期)の散石住居跡、弥生中期(終形式期)の住居跡、縄文中期(大木10式期)のアサリ主体貝層調査。	若手県教委1972
3	1978	-	大船渡市教育委員会	A地区：大木8b～10式期・大洞A式期の遺物出土。 多量の漆が内部に付着した土器(大洞A式)出土。 石割石を基礎とされる遺構を2基検出。 B地区：敷基により残存状況不良。	大船渡市教委1979
4	1996	530㎡	(財)若手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	遺構：縄文晩期後葉～弥生前期の住居跡6棟・住居状遺構1棟・土坑31基・墓壇1基・焼土遺構3基・灰石遺構3基・柱状土坑25基等。 遺物：縄文中期～晩期・弥生時代の土器・石器。	若手県埋文1996
5	1996	280㎡	大船渡市教育委員会	遺構：なし。 遺物：縄文晩期主体(大洞BC～C2式)土器・石器。	大船渡市教委2001
6	1997	2,700㎡	(財)若手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	遺構：縄文晩期後葉～弥生前期の住居跡17棟・掘立柱建物跡10棟・土坑約260基・柱状土坑百数十基・伊勢2基・焼土遺構3基・配石遺構2基・土器埋設遺構3基。 遺物：縄文前期末～晩期、弥生時代の土器・土製品・石器・石製品・須恵器・磁器・人骨。	若手県埋文1999
7	1998	471㎡	大船渡市教育委員会	N区 遺構：土坑13基・焼土遺構2基・小ピット49基。 K区 遺構：住居状遺構1棟・土坑5基・小ピット17基。 遺物：縄文前期～晩期(大木7式・大洞BC～C2式主体)。	大船渡市教委2001
8	1999	2,800㎡	(財)若手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	遺構：縄文中期と晩期後葉の住居跡30棟・住居状遺構1棟・掘立柱建物跡3棟・土坑96基・焼土遺構17基・配石遺構5基・土器埋設遺構5基・縄文中期～中葉～後葉のアサリ主体貝層。 遺物：縄文前期～晩期(中期後葉～末と晩期末主体)の土器・土製品・石器・石製品・骨角器・磁器・アスファルト塊。	若手県埋文2001
9	1999	342㎡	大船渡市教育委員会	遺構：縄文中期～晩期の住居跡1棟・土坑3基・焼土遺構1基・小ピット3基。 遺物：縄文中期～晩期(大木7～8式主体)の土器・石器。	大船渡市教委2001
10	2002	2,900㎡	(財)若手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	遺構：縄文中期の住居跡45棟・晩期後葉の住居跡7棟・掘立柱建物跡32棟(中期25・晩期7)・大型の列石(晩期)・土坑406基・焼土遺構8基・配石遺構6基・土器埋設遺構5基・柱状土坑332基。 遺物：縄文中期～晩期、弥生時代(縄文中期後葉・晩期末主体)の土器・土製品・石器・石製品・骨角器・焼酎・アスファルト塊。	若手県埋文2004
11	2003	135㎡	大船渡市教育委員会	遺構：縄文時代の土坑18基・焼土遺構1基・土器埋設遺構1基・平安時代の住居跡1棟。 遺物：縄文時代中期～晩期(大洞BC～A式主体)の土器・土製品・石器・石製品。	大船渡市教委2001
12	2005	54㎡	大船渡市教育委員会	遺構：縄文中期～弥生前期の土坑41基・墓壇7基・焼土遺構4基・土器埋設遺構8基。 遺物：縄文中期～晩期(大木7式・大洞C1～B式主体)、弥生前期～9期の土器・土製品・石器・石製品。	大船渡市教委2007
13	2013	100㎡	大船渡市教育委員会	遺構：縄文前期と後期の住居跡2棟・土坑21基・土器埋設遺構1基。 遺物：縄文前期後葉～晩期中葉(後期前葉・晩期前葉主体)の土器・土製品・石器・石製品。	大船渡市教委2017
14	2014	57㎡	大船渡市教育委員会	遺構：縄文中期と晩期の住居跡3棟・住居状遺構2棟・土坑69基(墓塚含)、土器埋設遺構3基。 遺物：縄文早期・中期前葉～晩期中葉(晩期前葉主体)の土器・土製品・石器・石製品・人骨。	大船渡市教委2018
15	2014	310㎡	大船渡市教育委員会	遺構：縄文中期の住居跡4棟・平安時代の住居跡4棟ほか。	未報告
16	2016	950㎡	(公財)若手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	遺構：縄文中期の住居跡22棟・土坑22基・伊勢14基・焼土遺構2基・配石5基・埋設土器2基・貝層9箇所。 遺物：縄文中期～晩期(中期後葉主体)の土器・土製品・石器・石製品・骨角器・動物遺存体。	本書
17	2017	800㎡	(公財)若手県文化振興事業団 埋蔵文化財センター	遺構：縄文中～晩期の住居跡9棟・土坑82基・焼土遺構3基・配石5基・埋設土器1基・貝層3箇所・近畿後半の掘立柱建物跡群・懸穴状遺構1基・溝2基・配石3基。 遺物：縄文中期～晩期(中期後葉主体)の土器・土製品・石器・石製品・骨角器・動物遺存体・近畿の陶磁器。	本書

2 歴史的環境

- (財) 岩手県文化振興事業団1999「長谷堂貝塚発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第296集
- (財) 岩手県文化振興事業団2001「長谷堂貝塚発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第367集
- (財) 岩手県文化振興事業団2004「長谷堂貝塚発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第434集
- (公財) 岩手県文化振興事業団2015「海岸遺跡発掘調査報告書」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第637集
- 及川千代松1962『遺跡を訪ねて』社教シリーズ第13集。大船渡市教育委員会
- 大船渡市1978『大船渡市史』第1巻。地質・考古編
- 大船渡市教育委員会1978『長谷堂中貝塚緊急発掘調査概報』
- 大船渡市教育委員会2001『長谷堂貝塚群 -平成8・10・11年度緊急発掘調査報告書-』
- 大船渡市教育委員会2005『長谷堂貝塚群 -平成15年度緊急発掘調査報告書-』
- 大船渡市教育委員会2007『長谷堂貝塚群 -平成17年度緊急発掘調査報告書-』
- 大船渡市教育委員会2017『長谷堂貝塚群 -丸森一里塚 -平成25年度緊急発掘調査報告書-』
- 大船渡市教育委員会2018『長谷堂貝塚群 -平成26年度緊急発掘調査報告書-』
- 大船渡市立博物館1991『気仙の遺跡 -大船渡市・三陸町の各遺跡の出土品-』
- 鈴木めぐみ2009「長谷堂貝塚の縄文時代における土地利用」『日々の考古学2』東海大学文学部考古学研究室(編)
- 鈴木めぐみ2012「気仙地方における縄文遺跡の分布傾向と特徴について」『岩手考古学』第23号
- 高橋龍三郎ほか1998「岩手県大船渡市長谷堂貝塚の研究(Ⅰ)」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第44輯
- 高橋龍三郎ほか1999「岩手県大船渡市長谷堂貝塚の研究(Ⅱ)」『早稲田大学大学院文学研究科紀要』第45輯
- 西村正壽1959「岩手県大船渡市長谷堂貝塚」『日本考古学年報』8

Ⅲ 調査と整理の方法

1 野外調査

(1) 調査工程(第8図)

調査区内を縦断する現道市道猿石線は地元小学校の通学路に指定されており、発掘調査による全面通行止めが不可能であったため、歩道を確保しながらの調査工程を採用した。すなわち、第一段階で現道脇の畑地部分を調査し、終了後に埋め戻して仮設通路設置、その後現道部分の路盤を除去し掘り下げるといった工程をとった。このため、たとえば1つの遺構であっても2段階に分割して精査を行うといった場面が頻繁に生じている。

なお、平成28年度は調査区中央部にある工所用杭L27より南東端までを調査対象とし、平成29年度は工所用杭L27より北西端までを調査対象とした。

(2) 調査区割

①調査区

前述の工程によって分断される調査区のみまごりにA区～J区の名称を付した。区域の境界には、調査前に打設されていた工所用杭等を目安として用いている。このうち、A～F区(合計950㎡)は平成28年度、G～J区(合計800㎡)は平成29年度に調査を行った。

A区：L35～L33間	現道北東側農地	(78㎡)
B区：L33～L27間	現道北東側農地	(352㎡)
C区：L33北東	側道予定農地	(84㎡)
D区：R21～R13間	現道南西側農地	(215㎡)
E区：L43～L33間	現道路線内	(111㎡)
F区：L33～R8間	現道路線内	(110㎡)
G区：L13～L27間	現道北東側農地	(343㎡)
H区：L8～L13間	現道北東側農地	(75㎡)
I区：D1329～R8間	現道路線内	(277㎡)
J区：R5～D1329間	現道路線内	(105㎡)

②部分終了確認

個々の調査区は前述の工程で調査後の埋め戻しを必要としたことから、調査区ごとに部分終了確認を実施している。実施日、対象範囲は次のとおりである。

平成28年7月21日	対象：187㎡ (A区78㎡、B区南端25㎡、C区84㎡)
10月20日	対象：430㎡ (B区327㎡、D区103㎡)
12月6日	対象：333㎡ (D区112㎡、E区111㎡、F区110㎡)
平成29年6月27日	対象：78㎡ (H区75㎡、G区電柱移設部分3㎡)
9月22日	対象：406㎡ (G区南東部除く301㎡、J区105㎡)
10月4日	対象：39㎡ (G区南東部39㎡)

11月27日 対象：277㎡（I区277㎡）

③実際の掘削範囲

A4011杭より東側のD区（現道脇農地）を調査したところ、遺物、遺構の出土が極めて希薄であったことにより、平成28年10月20日に実施されたD区部分終了確認の際に、県教育委員会、市教育委員会の協議を経て、A4011杭以東の現道路盤下部分（E区南東部に該当）は本発掘調査を実施せずに終了扱いとしている。

また、各区の掘削深度が1mを越す部分が多数発生したため、保安上の理由から調査区境界部分は一定幅で余裕を持たせて掘削しており、実質精査面積は上記数値より少ない。

（3）基本層序

ここに示す基本層序は、今回の調査区内にのみ適用する層序区分である。大別してI層～V層が認められる。

<I層>

I層は黒褐色～暗褐色シルト層で現耕作土、ないし表土層である。層厚は20cm～100cm程度で、調査区中央の現道脇畑地において最も厚い状態である。全体的に締まりが中程度のシルト質で、砂粒、礫の含有は多い。また、本層では現道路盤下位、及び道路脇で角礫巨岩が集中する地点がある。本道路一帯は今出山山腹斜面の崖錐性堆積物が分布する地域にあたり、これに起因して元々は隣接畑地に散在していた角礫を、耕作の際にまとめて道路脇に廃棄した等の要因が考えられる。縄文土器他の遺物包含も多いが、土器類では摩滅が進行しているものが目立つ。陶磁器、金属製品、プラスチック製品等の近現代遺物も含まれる。

<II層>

II層は黒褐色砂質シルトを主とする層で、遺物包含層の主体である。層厚は10cm～60cm程度で、調査区中央部のB・F区で最も厚く、北端のH・J区、南端のD・E区では層厚が薄いか、もしくは分布が途切れる状態である。

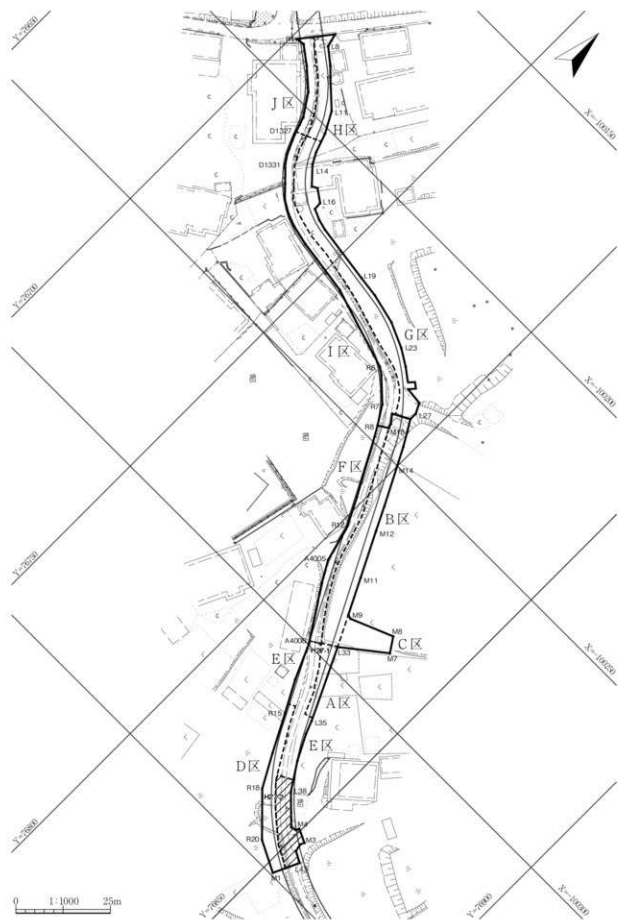
全体に層中の礫包含が多く見受けられるが、混入量は区域よっての差が顕著である。北端H区、南端A区では円磨度が高い円礫、亜円礫が主体で、かつ粒径は小さく細礫～小礫を主とする。一方、調査区中央部B・F・G・I区では小礫～大礫、巨礫を多量に含み、特にG区中央部・I区中央部ではほぼ礫層とみて差し支えない程度に礫混入率が高い。礫の円磨度は低く、角礫、亜角礫を主体としていることから、崖錐性堆積物の主体部分がこの区域に分布しているものと捉えられる。

また層中には小径の焼土粒、径1cm以上の焼土ブロック、極細粒～細粒の炭化物及び炭化材が含まれる。これらの含有度については地点別の把握、記録ができていないため正確ではないが、調査区中央部南半のB区・F区に多く、北半G・I区、南端のA・E区等では比較的少ない印象がある。

本層では縄文時代中期を主とする人工遺物が多量に包含される。特に焼土、炭化物を含むB・F区の北半を中心に遺物密度が大きく、これから南北方向に向かって遺物量が少なくなる。また、遺物包含層と重複する状態で貝層が分布する。貝層は概ね、基本層序II層中に形成されているものと捉えている。

<III層>

黒色～黒褐色シルト層で、夾雑物はごく少なく均質な層相である。A区・B区南半・C区・E区・F区南半に主に分布し、この区域では上層のII層遺物包含層との層界は明瞭に観察される。層厚は10



第8図 調査区全体図

～30cm程度で、下部はより明色のⅣ層に漸変する。B・F区の本層上部には、縄文中期前葉～中葉の遺物が少量含まれる。

<Ⅳ層>

黄褐色～にぶい黄褐色を呈する粘土質シルト層で、上位Ⅲ層から漸変する漸移層である。A～F区では全体に同質で広がるが、G・I区以北では局所的に角礫の混入が顕著であり、礫層ないし混土礫層として把握される。A区・B区・C区・F区の一部では本層最上部に縄文中期前葉の遺物を少量含むが、これは上層からの混入の結果か、または層序認識の誤りである可能性がある。また調査区北端のH区・J区はⅠ層下面が直接Ⅳ層上面となっていることから、Ⅳ層上面が全ての時代の遺構検出面として把握した。なお、ほぼ全ての区域で、Ⅳ層が露出した時点で下位への掘り下げを停止しており、深い遺構壁面等で観察される場所以外には、正確な層厚は把握していない。

<Ⅴ層>

黄褐色～灰黄褐色粘土層からなる、所謂地山である。深掘りトレンチ等による積極的な層序観察は行っていない。B・G区等の深い遺構の下部において、Ⅳ層上面から1m程度下位に本層の存在を認識した。小礫～中礫の角礫が多量に含まれている。

(4) 調査方法

①基準点測量

今回の調査に際しては、市道用に平成27年11月に今回の事業に係る設計測量用に設置された工事用基準点(H27-1・H27-2)を利用し、測量成果は大船渡市都市整備部建設課から提供いただいた。また基準点をもとに、適宜実測用の補助点を打設した。利用したH27-1・H27-2の成果は次のとおりである。

H27-1 4級基準点 X=-100297.545, Y=76818.652, H=32.293 (第X系)

緯度:北緯39度05分35.3676秒、経度:東経141度43分16.9009秒

H27-2 4級基準点 X=-100334.419, Y=76839.399, H=31.767 (第X系)

緯度:北緯39度05分34.1653秒、経度:東経141度43分17.7492秒

②表土掘削・遺構検出・障害物

全域の粗掘りは基本的に重機(0.25)を使用し表土を掘削した。掘削深度の目安は試掘トレンチの状況から判断し、Ⅱ層上面が露出した段階で人力での精査に切り替えている。排土は隣接農地を借地して仮置きした。遺構検出は一定区域ごとに鋤鎌を用いて進めた。調査区南北端(A区南半、D区、H区、J区)については遺物包含層の分布範囲から外れていたため、検出作業の過程でⅣ層褐色土層面まで露出し、この段階で検出した遺構の精査を行った。これ以外の区域では表土直下に全面Ⅱ層遺物包含層が広がっており、Ⅱ層上面で後述する包含層内遺物取り上げ用の区画を設定し、手作業によって包含層掘り下げを進めた。またこの過程で、並行して遺構検出を繰り返し、適宜遺構精査を行った。

調査の支障物件としては、F区北半の中央、及びJ～I区西側に複数の自家水道管等が埋設されており、状態に応じて移設可能なものは所有者の同意を得て移動後に下位の精査を行った。移設不可能なものについては管路を発見した段階で土手状に掘り残し、下位の精査を行っていない。

③遺構精査・遺物の取り上げ

遺構精査は、遺構の規模に応じて2分法・4分法を用いて断面を残し土の堆積状況を記録した。

遺構内遺物の多くについては層位別の取り上げが実施できなかったため、上層・下層程度の簡略化した区分、もしくは埋土一括での取り上げを行っている。

④遺構名の登録

遺構種別ごとに略号を用い、竪穴住居跡：SI01、土坑：SK01等と命名した。遺構略号は次のとおりである。

竪穴住居跡：SI 竪穴状遺構：SKI 炉跡・焼土遺構：SN 土坑：SK 配石遺構：SQ 埋設土器：SR
柱穴状小土坑：P 竪穴住居跡の柱穴：Pit 埋設土器の土器番号：RP

なお、一度登録した遺構のうち、竪穴住居跡に伴う柱穴・炉等の付属施設に登録変更したもの、精査の結果、独立した遺構とは認め難いもの等が含まれており、これらについては登録抹消、欠番扱いとしている。

⑤配石遺構の調査

遺物包含層の掘り下げ過程で、一定程度の大きさの礫を可能な限り原位置に残しながら周辺の露出を進める方法をとった。その結果、礫が平面的に集中し、なおかつ立石や板状礫が縦位置で残存している等、人為的な礫の配置が行われた可能性が濃厚とみられる場合に配石遺構と判断した。記録は礫分布状況の写真撮影、平面・断面実測（縮尺1/10）を行い、礫撤去後に任意設定のトレンチにより下部土坑等の付属施設有無を確認した。遺物取り上げに際しては、礫群の隙間にある土器等について当該配石遺構に伴うものとして取り上げた。また配石を構成する礫は現地で石器と判断したもののみ持ち帰り、残りは現地に廃棄した。時間的余裕がなく構成礫の使用石材の調査は断念している。

なお、SQ06についてはその特異な形状が目されることから、県教育委員会の調整を受けて大船渡市教育委員会と現地で協議を行った結果、移設保存の方針が示された。3Dデータに置き換え可能な写真撮影を行った上で構成礫個別番号を付して取り上げ、市教委に引き渡している。

⑥遺物包含層の調査

A・B・C・F・G・I区の全域、及びD・E区北半、H・J区南端については濃密な遺物の出土が見られたため、遺物包含層としての精査を行った。

手順としては各調査区を約3mごとに区画し順に①・②…と命名、更にB区では南西現道側と北東調査区境側でa・bに細分しB区①a等の名称を与えた。1小区画は概略3m四方の広さとなる。また、蛇行する調査区に概ね直交させる区画境界を設けていることから、調査区全域をカバーする方眼グリッドとは異なり、区画ごとに境界の向きと面積は均一ではない。

包含層掘り下げに際しては区画境界部分で任意幅の土層確認用トレンチを設定し、トレンチ断面の層相に基づき包含層を細分した。概ね全域を通じてⅡ層上部、Ⅱ層中部、Ⅱ層下部の3細分が適用できると判断しこれによって遺構検出、遺物の取り上げを行っている。

⑦貝層の調査

包含層の掘り下げ過程でアサリを主体とする貝殻の集中ブロックが複数検出された。ほぼ純貝層と捉え得る状態の集中ブロックから、混貝土層状態の貝殻ブロックまで、貝殻含有率には幅がある。規模は径1m未満の小規模なものを主体とし、最大では径6mに達するやや大きなものも含まれる。また貝層の層厚は20～30cm程度のものが多い。名称は、検出順に貝層01・02…と付し、貝層12までを登

1 野外調査

録した。このうち、貝層04・05・10では隣接する小ブロックのまわりに細分できることから、a・b・c…の細分名称を与えている。

貝層の精査にあたっては貝層表面を露出し、検出状況の写真撮影、分布範囲の平面実測を行った後、包含層区画別に貝層を掘り上げた。貝層内部の断面記録は適宜実施した。貝層には獣骨、魚骨をはじめ、土器、石器、骨角器といった人工遺物が含まれるケースが多く見受けられたが、基本的には人工遺物や貝殻以外の動物遺存体ごと貝殻を全量採取した。当初は外業中に水洗選別を試みたが、作業環境が整備されていないためごく一部を実施したに留め、大部分は室内整理段階での水洗選別を行った。この内容、作業方法については第IV章2(8)、4(5)に記載する。

なお、G区北端で検出した貝層10についてはイヌ骨の集中が検出され、平面図を記録しながら取り上げている。

⑤遺構記録

遺構の平面実測は、光波トランシットを用いた電子平板による実測を主とし、坪平面図等の微細図は簡易通り方測量を併用した。断面実測は手取り実測による。

写真撮影は、中判645カメラ（モノクロフィルム使用）と35mm判デジタルカメラを併用した。デジタルデータはLAWデータと同時にJPEGデータを生成し、LAWデータは銀塩写真と共に記録保存用とし、JPEGデータを報告書写真図版原版に使用した。

なお、遺跡周辺遠景写真は（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが平成14年度に実施した調査において撮影した空撮写真（カラーリバーサルフィルム）を再利用している。

(5) 調査経過

①平成28年度

- 5月16日 現地確認実施。
- 6月9日 調査開始。調査員3名、作業員13名体制。試掘トレンチで遺物包含層残存が良好な状態を確認、一部に貝層を伴う状況を把握。
- 6月21日 重機稼働（～7月5日）A・B・C区表土除去。南側のA区から精査に着手。
- 7月中旬 B区②に配石遺構検出（SQ01・02）。
- 7月21日 部分終了確認実施。対象：187㎡（A・C区、B区南端）。配石遺構について、未着手部分の分布状況によっては現地保存等の措置を含めた取り扱いを検討すること、従ってB区北西側に着手区域を広げ遺構分布状況を早急に把握することを求められる。
- 7月下旬 遺物包含層掘り下げを主とした作業を進捗させる。土器出土量は1日平均2～3箱。B区南半①～⑦区内で土器埋設を伴う石囲炉を複数検出。竅穴住居跡を想定し検出を試みるも床面・壁面の確認に至らず。配石遺構群の分布は大きく拡大せず通常の精査対象とし構成磚取り上げ後に下位遺物包含層の精査を行う。
- 7月26日 金野良一氏（元大船渡市教育委員会）来跡。遺跡全体の状況等について教示いただく。
- 8月27日 現地説明会開催（土曜日午後）。参加者113名。
- 9月前半 B区中央部包含層掘削を進める。複数の貝層を検出、貝層全量取り上げを実施。B区北半に竅穴住居跡群検出。SI03・04周辺では石囲炉が狭い範囲に集中し、複数の住居跡が重複している状況を把握。
- 9月12日 A・C区埋め戻し、仮設道路を設置。引き続きE区精査に着手。

- 10月3日 調査員1名増員、作業員増員(20名体制)。B区北半遺構群精査を主に作業を進める。柱穴、溝、炉跡が密集しており、複数の堅穴住居跡が重複している状況と捉えられる。現地での個別の遺構抽出は困難を極める。
- 10月20日 部分終了確認実施。対象：430㎡(B・D区)。D区南半(R18幅杭以南)では遺構、遺物検出を見ないことから、隣接する現道下(L38以南)については本調査を省略し終了扱いとなる。
- 10月20日 重機稼働(～11月9日)、B・D区埋め戻し、仮設道路設置。E・F区掘削着手。現場での掘削作業と並行し、遺物水洗作業を行う。F区中央には貝層09が広がる。今年度調査では最大のボリュームを持つ貝層試料取り上げとなる。
- 11月28日 調査員1名増員。F区遺構密集区区域を中心に精査を進める。
- 12月6日 終了確認実施。
- 12月16日 機材撤収、調査区埋め戻し(12月27日まで)。

②平成29年度

- 6月1日 調査開始。調査員4名、作業員13名体制。試掘トレンチでG区北部に貝層10の良好な残存状況を確認。
- 6月12日 重機稼働(～6月16日)。G・H区表土除去。遺構検出に着手。G区は礫含有の多いⅡ層掘り下げと遺構検出に難航。H区は近世建物跡の柱穴群検出。
- 6月中旬 G区南端にSQ06検出。大船渡市教育委員会職員の現地視察により、移設保存の意向が示される。
- 6月下旬 貝層10精査着手。十字にベルトを設定し貝層の掘り下げを行う。貝層に隣接して多数のイヌ骨集積を確認。原位置で同定を行い平面図に記入して取り上げる作業に時間を要する。
- 6月27日 部分終了確認実施。対象：78㎡(H区、G区電柱移設予定地)。
- 6月28日 松崎哲也氏(奈良国立文化財研究所)来跡。貝層精査について指導いただく。
- 7月上旬 G区中央で住居跡上部に平坦に敷きつめた配石遺構(SQ09)確認。周辺に堅穴住居跡群の他に、掘立柱建物跡を構成する大型の柱穴群を確認する。作業はこれらの精査に集中。
- 8月5日 現地説明会開催(土曜日午後)。参加者116名。
- 8月7日 大船渡市教育委員会職員により移設を前提としたSQ06の記録、取り上げ作業実施。
- 8月22日 富岡直人氏(岡山理科大学)、研究室一行来跡。取り上げた動物遺存体同定について指導いただく。
- 9月12日 豪雨により調査区一部冠水。9月19日、10月23日にも同様の被害発生。復旧作業により一時精査作業が停滞する。
- 9月22日 部分終了確認実施。対象：406㎡(G区、J区)。
- 10月5日 G区重機により埋め戻し(～13日)。仮設道路設置。
- 10月16日 I区重機により掘削(～19日)。これよりI区精査を中心に作業を進行。
- 11月27日 終了確認実施。
- 12月5日 調査区埋め戻し(～7日)。以降、現場事務所にて取り上げ貝層試料の選別作業を行う。
- 12月14日 機材撤収。

2 室内整理

(1) 遺構整理

①遺構図面編集

電子平板により作成した遺構平面図はドローイングソフト上で編集作業を行った。手取り平面図と断面図は原因をスキャナーで読み込み、パソコン上で平面図との整合性を点検しこれをデジタルトレースした。遺構計測は現地での計測値を優先し、これに加えて電子平板ソフトのツールを使用した計測値を記載した。

②遺構図版作成

遺構ごとに平面・断面図を掲載した。縮尺は、堅穴住居跡、土坑：1/50、灰跡・焼土遺構、配石遺構、埋設土器：1/30を基本とし、遺構規模に応じ適宜変更している。図版にはスケールと方位を付した。

(2) 遺物整理

①土器類

土器類は現地で袋詰めした単位別に取り上げ番号をつけて台帳化し、重量を計測、更に年代や特殊な土器の含有の有無等の内容を記録した。取り上げ番号は平成28年度分がNo.1～1765、平成29年度分がNo.2001～3089である。土器の総重量は平成28年度出土分が2,400kg、29年度出土分が920kg、合計約3,320kgである。

全体を一度に接合作業できるスペースは確保できないため、一定区域別に広げて接合作業を繰り返した。平成28年度分は1回分の接合作業対象として150～200kg程度を目安とし、16工程を実施、平成29年度分は同様に8工程に分けて実施。この過程で出土地点別に土器の内容（年代等）を把握し、同時に図化掲載資料の選抜を行った。選抜にあたっては、接合後に器形を復元できる個体、文様の判明する個体を中心に、遺構ごとの特徴を把握できるように努めた。合計743点を図化資料としている。図化は手描き実測図を作成し、トレースと拓影等を組み合わせた後にスキャン画像を作成、図版レイアウトを行った。

②石器・石製品類

石器は全点登録し、観察、器種分類、計測を行った。掲載資料の選抜にあたっては、各器種の特徴を示すことができるように、あわせて出土地点情報を加味して行った。石器・石製品の図化は(株)ワンクに特許「物体表面の構造線の自動抽出システム」技術を用いた実測図作成を委託した。合計288点を図化資料としている。納品されたデジタルトレース図データにより図版レイアウトを行った。

③土製品・骨角器類

これらは全点登録し、観察、器種分類、計測を行った。骨角器については完成品に加えて、獣骨、鹿角に製作時の痕跡が残るものを抽出している。図化は一部を除き(株)ワンクに委託し、上記技術によるPEAKIT画像を作成。これを素図としてドローイングソフトを用いた線画実測図を作成し、図版レイアウトを行った。図化資料は土製品68点（37点は上記方法による）、骨角器46点（35点は上記方法による）である。

④土師器・須恵器・陶磁器

古代の土師器・須恵器、及び近世から近代にかけての陶磁器片が少量出土しており、遺構内出土品

を主体に15点を選抜し図化資料とした。

⑤動物遺存体

貝類、魚骨、獣骨の整理方法・内容は第IV章4（5）に記載する。

⑥遺物図版作成

遺物の縮尺は、縄文土器：1/3、土製品：2/3、石器：2/3・1/3・1/5、骨角器：2/3を原則とした。なお、遺物写真図版の掲載番号は遺物図版と同一である。

（3）写真図版作成

遺構写真図版は、野外調査で撮影した写真データ（JPEG形式）のうち掲載分を所定サイズにトリミングし、編集ソフト上にレイアウトして原稿を作成した。遺物写真図版は個々に撮影したデジタルデータ（JPEG形式）をトリミングし種類別の所定縮尺にサイズ調整した画像を、編集ソフト上にレイアウトして原稿を作成した。なお、動物遺存体のうち同一種、同一部位が複数あるものについては、残存度の良好なものを選択し掲載した。

（4）室内整理経過

①平成28年度

出土遺物量が貝層取り上げ資料を含めて多量となったことから、野外調査と並行して平成28年9月5日より埋蔵文化財センターに搬入した遺物の水洗を開始した。水洗作業には日々雇用作業員が11月30日まで従事、引き続き室内整理作業員が10月17日から12月26日まで行った。遺物水洗と並行し、11月1日から遺物仕分け作業に着手、12月28日までに一次仕分け作業を終える。1月4日から土器接合作業、合わせて2月13日から貝類の仕分け選別作業を整理終了の3月31日まで行う。

②平成29年度

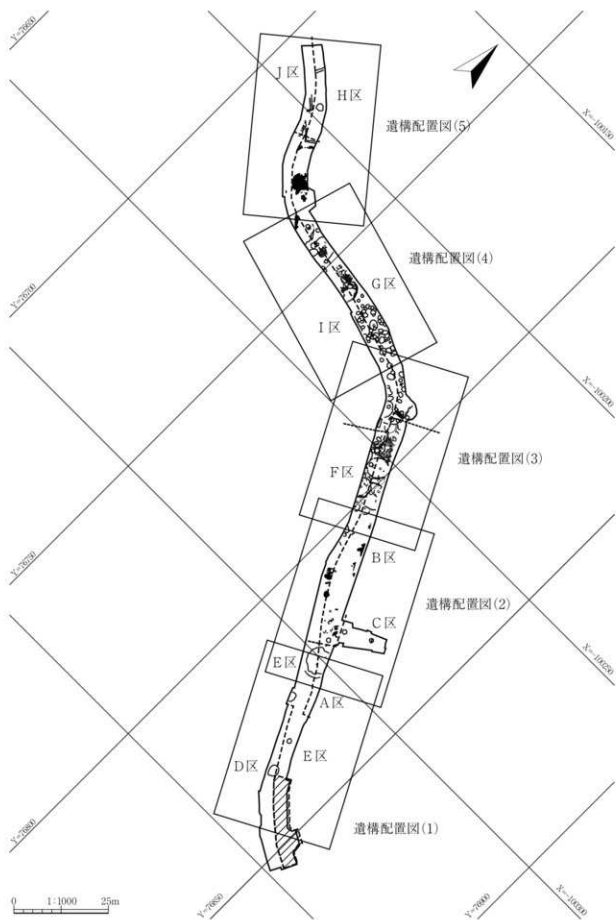
今年度冬季は日々雇用作業員（最大7名）による遺物水洗作業を行う。日程は12月1日～15日、1月9日～22日、2月9日～28日、3月8日～28日。主に貝層取上資料を対象として、貝類、獣・魚骨類、人工遺物、その他に一次選別作業を行った。この間、調査員により遺構図編集、遺構写真類データ整理、獣骨類の仕分け選別・同定を実施。

③平成30年度

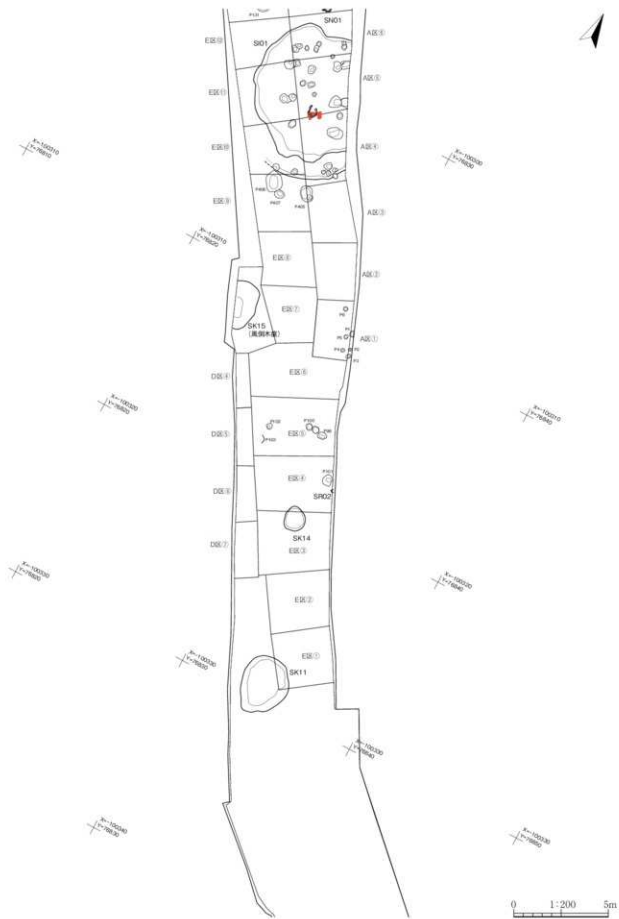
6月18日から開始。作業員14名、調査員1名で29年度出土土器の接合から開始し、28年度出土分も含めた土器復元を9月20日まで行う。土器類の実測、採拓作業を引き続き1月25日まで実施、土製品、骨角器実測は委託により計測作図した下図を基に線画を作成する。これら人工遺物実測図は1月下旬からデジタル編集用にスキャニングし、データ処理を3月末まで行う。また、上記の人工遺物対象作業と並行し、各種動物遺存体の選別同定・集計作業を2～3名稼働して継続し、3月29日までに一次選別同定作業を行う。

④平成31年度・令和元年度

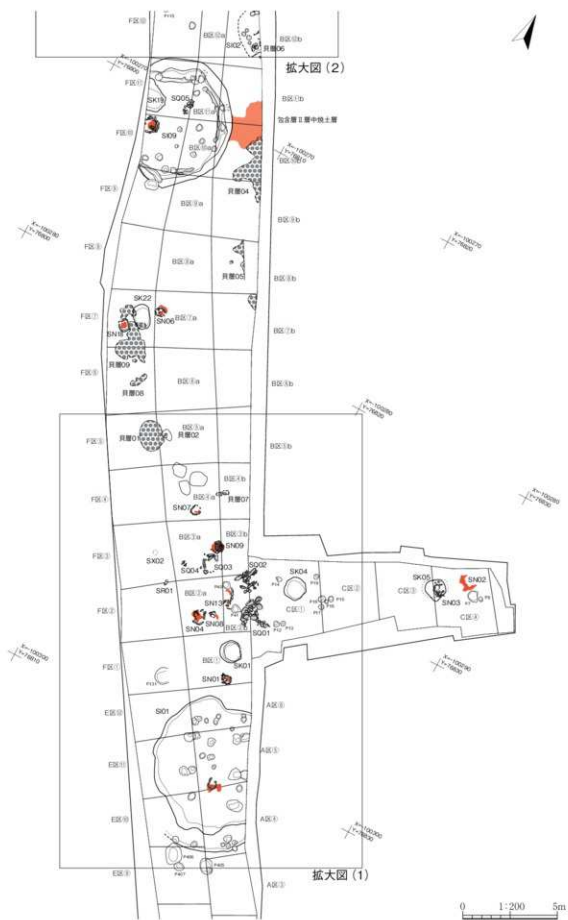
4月1日から5月31日まで図版原稿類の作成、遺物仮収納作業を行い室内整理作業を完了した。



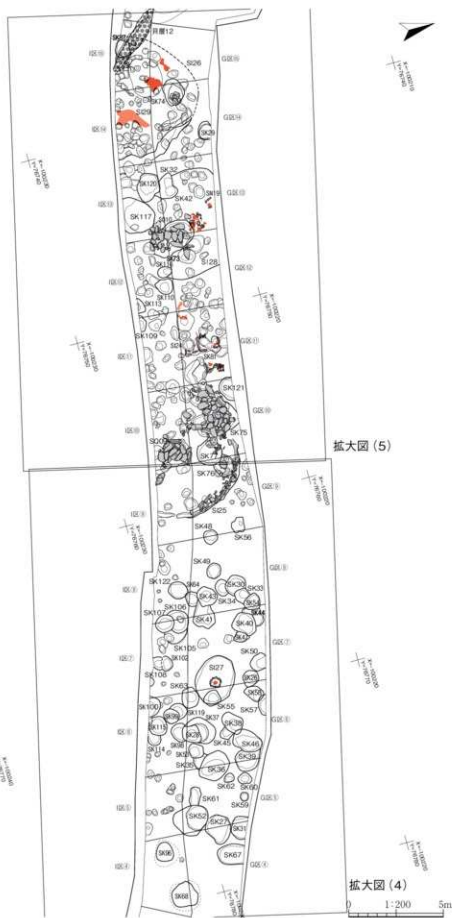
第9図 遺構配置図



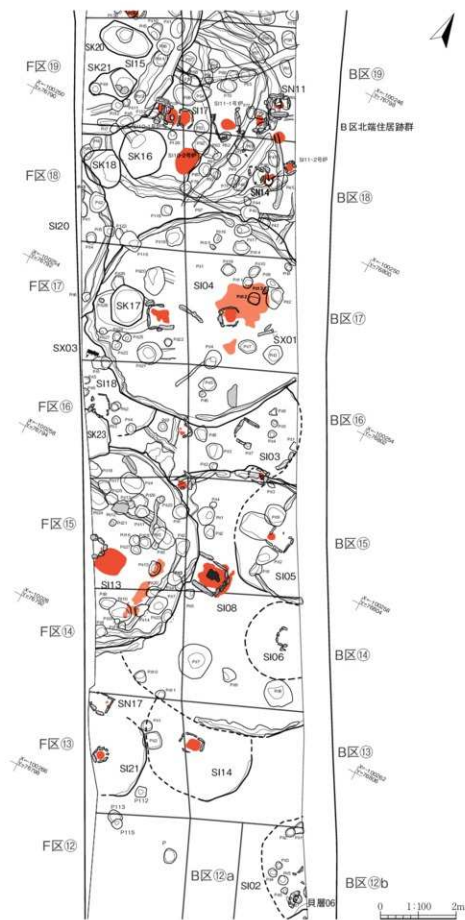
第10図 遺構配置図(1)



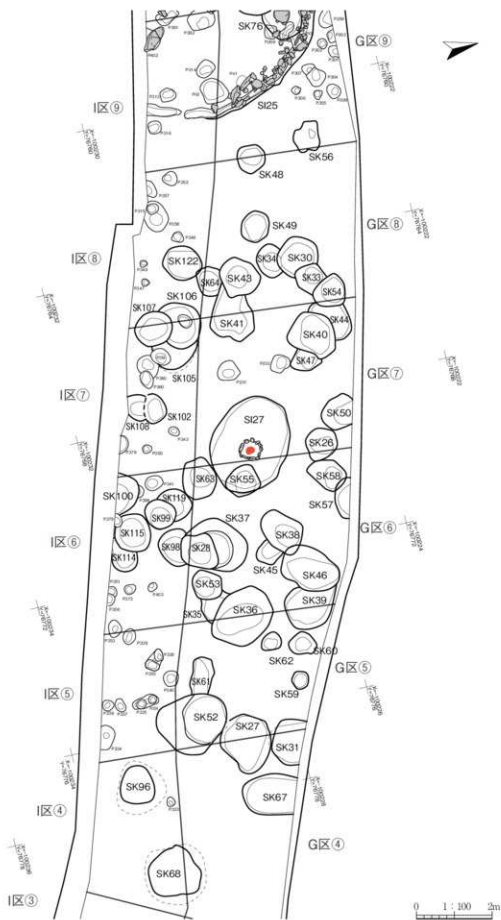
第11図 遺構配置図(2)



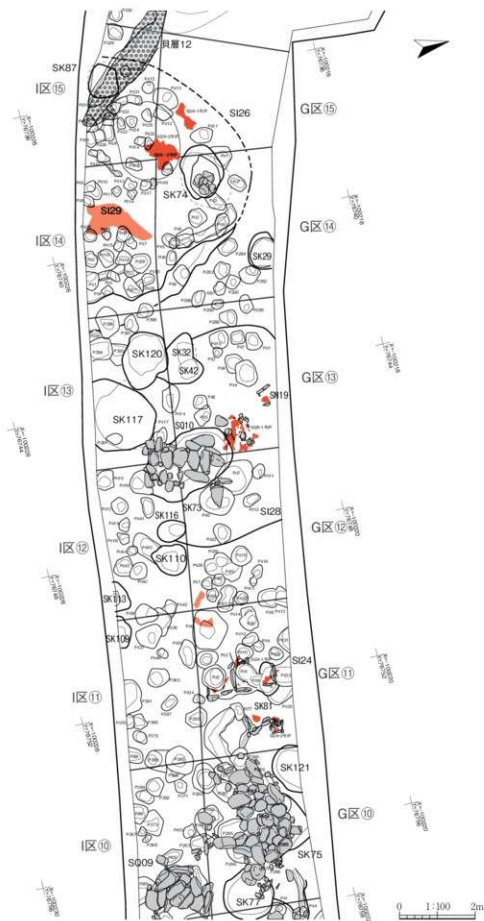
第13図 遺構配置図 (4)



第16図 遺構配置図拡大(2)



第18図 遺構配置図拡大(4)



第19図 遺構配置図拡大(5)

IV 検出された遺構と遺物

1 概 要

検出遺構は、大きく縄文時代中期を中心とした時期に帰属するもの、近世後半に帰属するものに分かれる。前者として、竪穴住居跡30棟、炉跡・焼土遺構15基、土坑104基、配石遺構9基、埋設土器3基、遺物包含層、貝層12箇所を確認した。後者の近世後半の遺構としては、掘立柱建物跡を構成する柱穴群、竪穴状遺構1基、土坑3基、配石遺構2基、溝2条がある。

遺構は南北に長い調査区のうち南端のD区を除く範囲に広く分布し、特に中央部のB・F区北半からG・I区にかけては縄文時代の竪穴住居跡を中心とした遺構が密集する。また北端のH・J区には近世後半の遺構群が集中している。一方、調査区南端のD区では遺構・遺物の分布が途切れる空白域に移行する状況が確認される。

以下、縄文時代、近世と時代別に区分し、その中で種別ごとに記載する。

2 縄文時代の遺構

(1) 竪穴住居跡

単独の竪穴住居跡としては合計24棟を登録、精査している。これに加えてB区北端遺構群として複数の住居跡等が顕著に重複しているエリアにおいて、住居跡最低6棟の存在を推定しており、合計数は最低30棟を数えると判断している。概ね石囲炉等を伴い平面形は円形プランの縄文中期後葉を主体とした時期の遺構が大多数で、これに加えて縄文中期前葉（SI01）、同晩期（SI27）がある。

SI01住居跡（第20図、写真図版4）

【位置・検出状況】 A・E区④～⑥IV層上面検出。検出当初は単独の炉跡SN05として登録したが、周辺の柱穴群の配置と壁の立ち上がりを確認し、SI01竪穴住居跡へ登録変更した。遺構東側は調査区外へ延びる。なお、調査工程によりA区、E区に分割して精査している。

【平面形・規模】 やや歪な楕円形を呈し、規模は長軸推定7m以上。深さは最大35cm。

【堆積状況】 黒褐色シルト層主体の堆積土で焼土を少量含む。埋土上部をIIb層が覆う。

【床面・壁】 床面は若干の凹凸があり中央が低い。壁は緩く外傾する。南側でテラス状遺構を検出したがE区側では不明瞭。

【炉・付属施設】 床面南側に石囲炉1基を検出した。規模は64×48cm。石囲内部南側に弱い焼成面がある。炉の外側には50×30cmの被熱の弱い現地性焼土が分布する。柱穴は33基を検出。炉を囲むように、「コの字」形に並び、炉を通る住居中軸線を挟む状態で概ね左右対称に配置される。ただし、主柱穴配置は明確ではない。

【遺物出土状況】 埋土下部の土器はa1～a12等の大木7b～8a式段階の土器が主体で、大木9～10式段階のものが少量含まれる。

【帰属時期】 出土遺物から大木7b～8a式段階の遺構と推定される。

SI02住居跡（第21図、写真図版5）

〔位置・検出状況〕 B区⑩bⅡ層下部検出。精査時、南西側壁面を把握できず正確なプランはつかめていない。また、遺構東側は調査区外へと延びる。堆積土上部に貝層06が分布する。

〔平面形・規模〕 概ね円形と考えられる。遺構図には推定プランを図示した。規模は推定で径25m程度、深さは最大32cm。

〔堆積状況〕 黒褐色シルト主体の堆積土で炭化物和焼土を少量含む。埋土上部をⅡ層が覆う。

〔床面・壁〕 床面はやや凹凸が見られ、中央部は硬化する。壁は外傾する。

〔炉・付属施設〕 床面中央部に石囲炉1基がある。内部に焼成面は形成されておらず、炭化物分布も少ない。柱穴は7基検出した。概ね壁際に沿うように不規則な間隔で配置される。

〔遺物出土状況〕 出土土器は大木9式が主体となる。なお、Pit6・7間の埋土中にニホンジカ下顎骨が出土した。貝層06に伴うものと判断される。

〔帰属時期〕 出土遺物から大木9式段階の遺構と推定される。

SI03住居跡（第21図、写真図版6）

〔位置・検出状況〕 B区⑩Ⅱ層下部で炭化物和焼土を含む黒褐色土のプランとして検出した。

〔重複遺構〕 SI04・05・13・18より古く、SI08より新しい。

〔平面形・規模〕 北東壁の一部以外は重複する遺構群により消失しているが、周溝と柱穴の配置からおおむね円形のプランと考えられる。平面規模は不明、深さは最大25cm。

〔堆積状況〕 黒褐色シルトを主体としたレンズ状の堆積が観察される。堆積土には焼土と炭化物を含む。

〔床面〕 床面は平坦で硬化する。

〔炉・付属施設〕 石囲炉4基(1・2・3・4号炉)を検出した。いずれも同一床面上に設置されており、各炉の間隔は1～2m以内に収まる。個別の住居跡に伴う可能性があるが特定はできず、暫定的にSI03住居跡に伴う炉と判断している。1・4号炉はSI08住居跡壁面上に設置されている。各石囲炉の規模は、1号炉が56×48cm、2号炉が66×53cm、3号炉が48×30cm、4号炉が46×40cm。各炉内部では焼成面の形成は弱い。他に柱穴9基と周溝2条を検出した。周溝は幅10cm、深さ5cm。

〔遺物出土状況〕 この一帯を掘り下げる過程で包含層出土扱いで取り上げた遺物が大半である。結果としてSI03・05・08住居跡堆積土出土遺物を一括しており、本住居跡に伴うと特定できた遺物は少量である。堆積土出土遺物は概ね大木9式段階に相当する。3号炉の石囲構成礫に台石(c248)が含まれる。

〔帰属時期〕 出土遺物、重複関係から大木9式段階の遺構と推定される。

SI04住居跡（第22・23図、写真図版7・8）

〔位置・検出状況〕 B・F区⑩～⑪Ⅱ層中で、焼土と炭化物を含む黒褐色土の分布により検出。調査工程によりB・F区部分に分割して精査を行った。北東側は一部調査区外に延びる。

〔重複遺構〕 SI03・10・11・18より新しく、SI20、SK17より古い。

〔平面形・規模〕 平面形は円形。規模は径約5.7m前後。深さは最大54cm、床面積は推定23㎡以上。

〔堆積状況〕 黒褐色シルトと暗褐色シルトを主体にレンズ状の堆積が観察され、焼土と炭化物を含む。堆積土上部をⅡ層上部が覆う。住居壁際は壁面崩落土が混じる。

〔床面・壁〕 床面はやや凹凸が見られ硬化、壁面は緩やかに外傾する。

〔炉・付属施設〕 東側に石囲炉1基(1号炉)、西側に複式炉1基(2号炉)を検出。両者は住居中軸

線上に並ぶ。1号炉は直角礫9個を楕円形に設置。規模は54×51cm。石囲内部は被熱し赤褐色を呈する。焼土厚は3cm。2号炉は石囲部と前庭部により構成される複式炉で全長は215cm。石囲部は重円礫8個を「コ」字状に、一部は二重にして設置される。規模は75×54cm。石囲東半の欠落については、当初からの開放か、あるいは後からの脱落か判断できない。石囲内部東側には強い被熱を受けた焼成面が見られる。焼土厚は5cm。前庭部の規模は150×125cm、「ハ」字形に浅く掘られ、半分以上はSK17土坑に破壊される。他に付属施設として柱穴28基、周溝を検出した。主柱穴は、配置と規模からPit 1・2・3・5・20・21が中軸線上を挟んで左右対称の六角形に配置される。周溝は一部途切れる状態で壁際を巡る。幅5～10cm、深さ5cm前後。他に床面中央部やや西寄りの1・2号炉の間に「ハ」字形に細い直線的な溝を伴う。

〔出土遺物〕 堆積土中から多量の遺物が出土する。床面出土土器を含めて大半が大木9式段階の土器とみられる。南東部床面では片面に摩滅痕を持つ台石が2点出土している(不掲載)。大きさは全長66cm、及び全長49cmに達する大型の扁平礫を使用している。また、住居南半堆積土下部から人面を模した軽石製品(c281・c282)が出土した。これは出土時には認識できず出土状態の記録を欠く。Pit 2・3間の床面では剥片集中(SX01)を検出した。径10cm程の範囲に、合計16点の剥片がまとまる。石材はメノウ製で粗割り段階のものである(不掲載)。剥片の大きさは全長6.4～20cmの範囲で平均3.8cm。同一母岩の可能性が高い。

〔帰属時期〕 出土遺物、重複関係から大木9式段階の遺構と推定される。

SI05住居跡(第23回、写真図版9)

〔位置・検出状況〕 B区⑤のSI08住居跡床面で、SI08を切る遺構壁面の立ち上がりとそれに沿うように周溝が巡り、炉も検出したことから住居跡と認識した。遺構東側は調査区外へ延びる。

〔重複遺構〕 SI03・06・08より新しい。

〔平面形・規模〕 平面形状はやや多角形気味の円形を呈し、規模は径2.5m程度である。深さは最大17cm。

〔堆積状況〕 暗褐色と黒褐色シルトの混在層がレンズ状に堆積する。堆積土上部をII層が覆う。

〔床面・壁〕 床面はやや凹凸が見られ、壁面は緩やかに外傾する。

〔付属施設〕 西壁際に複式炉1基を検出した。石囲炉と前庭部で構成される。全長146cm。石囲部は直角礫6個を「コ」字形に設置する。規模は63×49cm。石囲北東側の欠落については、当初からの開放か後からの脱落か判断できない。石囲内部では焼土が南西側に偏在する。前庭部の規模は94×70cmで楕円形の浅い掘り込みである。また柱穴2基、周溝2条を検出した。周溝は規模は幅10～12cm、深さ4cm。南壁沿いに2条巡る。

〔出土遺物〕 SI03住居跡と同様に本住居跡に伴うと特定できた遺物は少なく、SI03・06・08住居跡堆積土出土遺物と一括して取り上げているものが大半である。概ね大木9式段階の土器が主体となる。

〔帰属時期〕 出土遺物、重複関係から大木9式～10式段階の遺構と推定される。

SI06住居跡(第24回、写真図版9)

〔位置・検出状況〕 B区⑤II層下部で検出した。石囲炉を検出し、対応する床面を調査区境断面で確認した。平面プランは把握していない。

〔重複遺構〕 SI05より古くSI08より新しい。

〔平面形・規模〕 形状、規模は不明。円形と推測される。

〔堆積状況〕 暗褐色シルト主体の堆積土。上部をIIb層が覆う。

【床面・壁】 床面は石囲炉周辺と断面で確認した。褐色土によりSI08堆積土中に貼床を施している。
 【炉・付属施設】 石囲炉を1基検出した。規模は54×24cm。石囲内部には明瞭な焼成面が形成されておらず、炭化物も観察できない。

【出土遺物】 SI05住居跡と同様に本住居跡に伴うと特定できた遺物は少なく、SI05・06・08住居跡堆積土出土遺物と一緒に取り上げているものが大半である。大木8b～10式段階の土器が多いが主体は大木9式と捉えている。

【帰属時期】 出土遺物、重複関係から大木9式段階の遺構と推定される。

SI08住居跡（第24・25図、写真図版9・10）

【位置・検出状況】 B区⑤・⑥Ⅱ層下部を掘り下げ、SI05・06炉が設置された床面下に本住居跡床面を検出した。東側は調査区外に延びる。

【重複遺構】 SI03・05・06・13より古い。南側はSI14住居跡と接する状態だが新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 プラン残存部分から推測するとやや東西方向に長い楕円形を呈する可能性がある。規模は径6m程度、深さ最大29cm。

【堆積状況】 黒褐色シルトを主体に堆積する。

【床面・壁】 床面は凹凸があり中央部が若干低い。また床面中央部の硬化が顕著である。壁は緩く外傾。

【炉・付属施設】 床面中央部に石囲炉1基がある。西側はSI13住居跡に切られるため複式炉かどうかは判断できない。残存部分は直角礫9個を方形に設置している。内部は強い被熱により上面が硬化する。柱穴は11基検出した。規模と深さ、配置からPit1・7・8・9が主柱穴を構成するとみられ、炉を通る東西方向の中軸線を挟み左右対称に配置される。特に南側のPit7・8は90cm以上の深さがある。壁際には周溝が巡る。幅10～20cm、深さは5cm以下。

【出土遺物】 柱穴出土遺物は大木8b～9式前半段階を主体とする。

【帰属時期】 出土遺物、重複関係から大木8b式～9式前半段階の遺構と推定される。

SI09住居跡（第26図、写真図版11・12）

【位置・検出状況】 B区⑩・⑪aⅡ層上部を除去した段階で、炭化物を含む黒色土の円形プランを検出した。調査工程によりB区側、F区側に分割して精査している。西側は調査区外に延びる。

【重複遺構】 SK19・SQ05より古い。

【平面形・規模】 やや多角形気味の円形プラン。規模は径7m前後、深さ最大79cm。

【堆積状況】 壁際に含有物の少ない黒色シルトが堆積し、その後中央に焼土粒、炭化物を含む黒褐色シルト層がレンズ状に堆積する。上部に二次堆積焼土層が介在し炭化物を多量に含む。

【床面・壁】 床面は緩く西側に向かって傾斜し中央部が硬化する。壁面下部は急な立ち上がり、上部で外側に向かって開く。

【炉・付属施設】 西寄りに石囲炉1基。長楕円形の重円礫を一部は二重に用いて円形に設置している。位置から推測して、調査区外に前庭部を伴う可能性がある。規模94×63cm。焼成面は強く被熱する。柱穴は深さのあるPit1・3・5・20が壁面から一定の距離を置いて並ぶが、全体の主柱穴配置は判然としない。北東壁際には壁面を挟り込む横穴状のPit15・16・17がある。周溝は断続的に壁際に巡り、浅い柱穴を伴う状態である。

【出土遺物】 堆積土下層から上層にかけて大木9式段階の土器が多量に出土した。炉の焼成面に密着して出土した中型の深鉢(a126)は「逆U字形」のモチーフと蕨状沈線で文様が構成される。同類の土

器出土が多い。床面中央部からは小型土器(a135・137・138)、巨大焼成粘土塊(b27)が出土した。b27は床面に1cm程埋め込まれた状態で、密着していた部分以外の表面は二次被熱を受けている。石器では南西部床面から堆積土下部にかけて、砂岩製有縁石皿が極端に破砕された状態で出土した(不掲載)。
[帰属時期] 出土遺物から大木9式段階の遺構と推定される。

B区北端遺構群 (第27～32図、写真図版13～16)

[位置・検出状況] B区⑳～㉑、F区㉒～㉓にかけて、複数の石囲炉、複式炉、地床炉と柱穴群、周溝群が密集している状況を確認した。精査段階では炉を基軸としてSI10・11・12の3遺構が重複しているものと捉え、個々の炉に伴う柱穴と溝の抽出により遺構全体を把握しようとしてみた。しかし実際にはSN11・14を含めた8基の炉、溝は15条前後、柱穴は70基前後を検出し、現地における個別の遺構プラン確定は断念した。従って、この一帯に分布する遺構群を総体としてB区北端遺構群として、平面位置関係と重複関係を元に机上での分解を行い、後述する8通りのプランを抽出した(第30・31図)。

[重複関係] 本遺構群はSI04・15・16より古く、SI17より新しい。また遺構群内での関係については把握し切れていない部分が多いが、大きくはSN11、SN14の炉跡が最終段階の炉となり、下位の住居跡堆積土中に設置されている。これらの炉を伴う住居跡が新期の段階に位置づけられる。SI10-1・2号炉、SI11-1・2号炉、SI12-1・2号炉は、一段低い床面に設置され、これらを伴う住居跡が古い段階に位置づけられる。溝、柱穴の重複について精査時に確認できた新旧関係は以下ようになる。

- P52 (新) > SI11-1号炉 (古)
- P64 (新) > SI10溝3、SI12溝1 (古)
- P55 (新) > P68 (古)
- P76、P87 (新) > P88 (古)
- SI10-1号炉 (新) > P132 (古)

[炉] 以下の8基が本住居跡群の炉として設置されたとみられる。

SI10-1号炉 東北東-西南西の中軸線上に石囲炉2基、斜位埋設土器を配した複式炉と捉えられる。ただし、東側の石囲炉(第1室)、西側の埋設土器を持つ石囲炉(第2室)は別個の可能性がある。一体のものとした場合の全長は135cm。東側の第1室石囲炉は7個の礫を楕円形に配し内部は強く被熱する。規模は49×40cm。西側の第2室石囲炉は石囲に隙間があり南側に開口部を中心に向けた埋設土器(a145)を伴う。土器上下方ともに強く被熱した焼土が形成されており、内部が開口状態で機能していたとみられる。規模は62×52cm。隣接して弱い被熱部分を伴い西側に扁平礫を配した前庭部が設置される。

SI10-2号炉 楕円形の現地性焼土面である。規模は76×55cm。礫抜き取り痕は観察されず地床炉と判断される。

SI11-1号炉 北東-南西の中軸線上に石囲炉2基が並ぶ複式炉である。全長は147cm。北東側の第1室石囲炉はやや歪む方形の掘り込みを持ち、南東側に垂角礫を設置する。中央の一部に焼成面が形成される。規模は長軸89cm。南西側の第2室石囲炉は棒状角礫で第1室と接し、南西側を小礫で面する。内部の一部に強い被熱の焼成面がある。また堆積土上部に貼床が施される。規模は72×71cm。

SI11-2号炉 方形に組まれた単式の石囲炉。小ぶりの礫8個を方形に配する。規模は35×31cm。内部の焼成はやや弱く火床面上には炭化物が散在する。

SI12-1号炉 不整形の浅い掘り込み壁面に沿って3辺に礫を配した石囲炉。規模は56×49cm。内部の焼成は弱く、全体には焼土粒が散在する程度である。

SI12-2号炉 楕円形の掘り込み周囲に礫を配した石囲炉。規模は54×31cm。焼成はごく弱い。

SN11炉 検出時には単独の炉跡と判断し登録したもので、周囲の精査によって住居跡群の一部をなすと判明した。内部に斜位埋設土器を伴う方形の石囲炉。規模は69×60cm。各辺とも長大な棒状角礫を用い堅固なつくりとなっている。焼成面中に中型深鉢（a239）を斜位に埋設する。土器下位は強い被熱を受けており、使用時に開口していたとみられる。

SN14炉 SN11と同様に単独の炉跡として精査し、後に住居跡群に伴う炉と判断したものである。東西中軸線上に正立埋設土器と石囲炉が並ぶ複式炉。全長は73cm。東側に深鉢下半（a242）が正立状態で設置される。周囲は強く被熱する。西側は50cm四方の不整形の石囲炉。

[溝] 住居跡群に伴うと判断される溝は14～15条を数える。これらの中には狭い間隔で平行するもの、重複して交差するもの含まれるが、個々の新旧関係については正確に把握できていない。全体としてはSI10-1号炉、SI11-1号炉周辺を中心に同心円状に巡る状態となっており、この一帯に多数の住居の建て替えが繰り返された結果とみられる。

[柱穴] 本住居跡に伴う柱穴としてP42～P138のうち68基が抽出された。この中では深さが50～60cm強に達するP44・46・50・54・55・61・63・83・87・92・127等が主柱穴になるかと考えられる。

[遺構群分解想定] 以下、個別に分解した推定プランについて記載する。

SI10住居跡プランA（第30図）

SI10-1号炉のうち西側の第2室、前庭部を中心として、円形に巡る周溝（SI10溝1）を伴う住居跡である。住居軸線は北東-南西と捉え、中央から壁寄りに位置する複式炉と判断した。柱穴はP50・66・72を使用する。炉の両側に対応する主柱穴があった可能性が高いが、重複するSK16、SI15部分で切られていると推定される。

SI10住居跡プランB（第30図）

SI10-1号炉東側第1室の石囲炉を中心として、南北方向に軸線を持つ長方形、長楕円形の住居跡である。SI10溝2がL字状に曲がり、これに囲まれた空間の中央に上記炉が位置することから判断した。P70・87・92・132・118とSK18部分に想定される1基を含めた6本が長方形配置の主柱穴を構成すると考えられる。北端はSI10溝2の外周に位置するSI11溝1を含めたプランの可能性もある。

SI10住居跡プランC（第30図）

SI10-1号炉東側第1室石囲炉を中心に円形に巡るSI10溝2・4を使用する円形、ないし楕円形の住居跡である。南西側プランは判然としない。また、SI10溝3の南北部分はこれと組み合うかどうかははっきりしない。西側ではSK20Pit1、SI15Pit9が本遺構に伴うものであった可能性を想定している。

SI11住居跡プランA（第30図）

SI11-1号炉を囲む円形に巡るSI11溝4、SI12溝2を使用する円形、ないし楕円形の住居跡である。炉の軸線に合致する東北東-西南西の中軸線を挟み、P45・48・57・66が対称に配置される主柱穴を構成すると捉えた。西側は溝の延長部分が検出されず不明瞭となる。

SI11住居跡プランB（第31図）

上記のプランAとはほぼ同様にSI11-1号炉を囲む円形住居跡で、北側についてSI12溝3、SI11溝1の一部を使用し、一回り小型と捉えたプランである。柱穴はP46・57を充てているが、プランAと同じ柱穴で構成される可能性もある。

SI11住居跡プランC（第31図）

SI11-2号炉を中心にSI11溝3・4で囲まれる小型の円形住居跡。西側ではプランが判然としないがP42・48・49・73が弧状に並び、この外側に溝の延長があったものと想定した。

SI12住居跡プランA (第31図)

SI12-1・2号炉を中心にSI12溝1で囲まれる北東-南西に長軸を持つ楕円形の住居跡である。2基の炉を結ぶ軸線と遺構プランの軸線が一致しており、両炉が併存していた可能性も考えられる。2号炉を挟み対称の位置にあるP59・74・75が主柱穴を構成すると推定した。

SN14炉跡プランA (第31図)

SN14を中心として、周囲に配置されるP44・69・71等で構成される円形住居跡。外周を示す溝を特定できないため規模は不明だが、小型のプランが想定される。

【出土遺物】 SI10-1号炉埋設土器(a145)は中期末の深鉢、SN14埋設土器(a242)は大木10式前半段階の土器である。その他、本住居跡群堆積土下部から大木9式～10式にかけての土器が出土している。

【帰属時期】 出土遺物、重複関係から大木9～10式前半段階の遺構群と推定される。

SI13住居跡 (第32図、写真図版16・17)

【位置・検出状況】 B区⑩・F区⑭～⑯IV層上面で検出した。調査工程によりB区側、F区側に分割して精査している。遺構西側は調査区外へ延びる。

【重複遺構】 SI08・18より新しく、SK23より古い。

【平面形・規模】 平面形は円形のプランと考えられる。規模は推定径4.3m以上、深さ42cm。

【堆積状況】 黒褐色シルトと暗褐色シルトを主体に堆積し、炭化物和焼土を少量含む。床面直上は地山ブロックを少量含む。

【床面・壁】 床面はやや凹凸が見られる。壁側は中央部より一段高く、壁はやや外傾して立ち上がる。

【炉・付属施設】 中央部に石囲炉1基を検出した。西側は調査区外にあり、単独の石囲炉かどうかは確定できない。規模は径55cm。内部は焼成面がわずかに確認できる。石囲炉東側に接する床面に径70cmの焼成面がある。こちらは強く被熱を受ける。石囲炉と一体となった炉の焼成面、あるいは石囲炉と時期差のある地床炉とも考えられるが判然としない。柱穴は28基検出した。主柱穴はPit 6・10・24による方形の配置を取ると考えられる。この主柱穴を囲うようにPit 1・2・3・7・18が配置される。また、周溝5条を検出した。平均値で幅10cm、深さ5cm程度である。

【出土遺物】 床面、堆積土下部出土土器は大木9式段階を主体とする。

【帰属時期】 出土遺物、重複関係から大木9式段階の遺構と推定される。

SI14住居跡 (第33図、写真図版17)

【位置・検出状況】 B区⑬II層下部で検出した。当初は石囲炉のみを確認し、隣接するB区⑬・⑭遺物包含層断面を観察した結果、東壁面の立ち上がりを確認し住居跡と認識したものである。全体の3/4はプラン不明瞭である。

【重複遺構】 北側でSI08住居跡、西側でSI21住居跡に接する状態だが、新旧関係は不明である。

【平面形・規模】 残存部分から推定して概ね円形のプランと考えられる。規模は推定径3m程度。深さ34cm。

【堆積状況】 暗褐色シルトを主体に堆積し、黄褐色シルトと焼土を少量含む。埋土上部をII層上部～中部が覆う。

【床面・壁】 床面はほぼ平坦で、西側がやや低い。壁は外傾して立ち上がる。

【炉・付属施設】 石囲炉1基がある。垂角礫5個を楕円形に設置する。規模は69×50cm。石囲炉内部の焼成面は焼土ブロックが偏在するのみで、明瞭な焼成面や炭化物は観察できない。他に柱穴2基を

検出した。

〔出土遺物〕 遺物は少量で大木9式段階の土器片を含む。

〔帰属時期〕 出土遺物から大木9式段階を前後する時期の遺構と推定される。

SI15住居跡（第33図、写真図版17・18）

〔位置・検出状況〕 B区⑨・⑩、F区⑬・⑭IV層上面で検出した。調査工程によりB区側、F区側に分割して精査している。遺構西側は調査区外へ延びる。

〔重複遺構〕 B区北端遺構群、及びSI16・17より新しく、SI23、SK13・20・21より古い。

〔平面形・規模〕 平面形は円形のプランと考えられる。規模は径7mを超える大型と推定される。

〔堆積状況〕 比較的均質な黒褐色シルトを主体に堆積する。

〔床面・壁〕 床面はやや凹凸が見られ全体に硬化する。壁面は直立気味。

〔炉・付属施設〕 中央部に石囲炉1基を検出した。東西に長軸を持つ不整形の掘り込みがあり、この底面と側壁の一部に被熱面が形成されている。東辺の一部に垂角礫が設置される。規模は長径2m程。掘り込みは東西に分割される状態で、複式炉の一種とも捉えられる。柱穴は壁際に14基を検出した。主柱穴配置は不明である。周溝は一部で二重に巡る。

〔出土遺物〕 柱穴、堆積土下部から大木9～10式段階の土器が出土している。Pit1では大木10式土器(a181・182)がある。

〔帰属時期〕 出土遺物、重複関係から大木9～10式段階の遺構と推定される。

SI16住居跡（第27図、写真図版18）

〔位置・検出状況〕 B区⑫で北端遺構群に隣接して検出した。弧状に巡る周溝があり、これを東側プランと判断し独立した住居跡と認識している。

〔重複遺構〕 SI15・23、SK13より古い。B区北端遺構群とは重複関係にあり、本住居跡が新しい可能性が高い。

〔平面形・規模〕 平面形は円形のプランと考えられる。規模は不明。

〔堆積状況〕 礫を多く含む黒褐色シルトの堆積土である。

〔床面・壁〕 床面はやや凹凸が見られ全体に硬化する。壁面は確認できない。

〔炉・付属施設〕 P83～85が本住居跡に伴う柱穴の可能性が高い。炉は検出していない。

〔出土遺物〕 堆積土下部から大木9～10式段階の土器が出土している。小片で図示に至らない。

〔帰属時期〕 出土遺物、重複関係から大木9～10式段階の遺構と推定される。

SI17住居跡（第27図）

〔位置・検出状況〕 B区⑬・⑭の北端遺構群下位で検出した。SI10-1号炉が設置された床面下で半円形に残存するプランを確認している。

〔重複遺構〕 B区北端遺構群、及びSI15、SK18より古い。

〔平面形・規模〕 平面形は径4m程度の小規模な円形プランと考えられる。深さは最大32cm。

〔堆積状況〕 上位遺構の貼床が堆積土に相当しており、黒色土ブロックを含む褐色粘土質シルトが主体となる。

〔床面・壁〕 床面はやや凹凸が見られ全体に硬化する。壁面の残存部分は外傾して立ち上がる。

〔炉・付属施設〕 P128・129・132が本住居跡に伴う柱穴の可能性が高い。炉は検出していない。

- [出土遺物] 堆積土内から大木10式段階の土器が少量出土している。
 [帰属時期] 出土遺物、重複関係から大木10式段階の遺構と推定される。

SI18住居跡（第34図、写真図版18）

- [位置・検出状況] F区⑨IV層上面で検出した。当初はSK23北側で石囲炉を確認し、周囲に壁面を検出し住居跡と判断したものである。西側は調査区外に延び、一部のみの確認に留まる。
 [重複遺構] SI03・04、SK23と重複する。東側でSI03より新しく、北東側でSI04、南側でSK23に切られる。
 [平面形・規模] 残存部分から推定すると円形の可能性がある。規模は不明である。深さは最大19cm。
 [堆積状況] 暗褐色シルトを主体に堆積する。
 [床面・壁] 床面は概ね平坦。壁は緩やかに外傾して立ち上がる。
 [炉・付属施設] 石囲炉1基を検出した。亜角礫10個を楕円形状に設置する。規模は63×54cm。石囲炉内部の焼成面は見つからず、炭化物も観察できない。柱穴は6基検出したが不規則な配置を示す。
 [出土遺物] 大木9式段階の土器片少量が出土している。また、北側床面には剥片集中(SX03)があり、30×10cmの帯状の範囲内に、55点の頁岩素材剥片がまとめて出土した(不掲載)。剥片の大きさは全長6.4～1.4cmの範囲で平均値は4.1cm。全点が同一母岩かどうかは確定できないが、類似した外観を持つ。
 [帰属時期] 出土遺物、重複関係から大木9式段階の遺構と推定される。

SI20住居跡（第34図、写真図版18）

- [位置・検出状況] F区⑨・⑩IV層上面で検出した。弧状の壁面と周溝、柱穴を確認し住居跡と判断したものである。西側は調査区外に延び、一部のみの確認に留まる。
 [重複遺構] 南側でSI04・18より新しく、SK18より古い。
 [平面形・規模] 残存部分から推定すると円形と考えられる。規模は不明である。深さは最大39cm。
 [堆積状況] 暗褐色シルトを主体に堆積する。
 [床面・壁] 床面は概ね平坦。壁面は直立気味に立ち上がる。
 [炉・付属施設] 炉は精査範囲内では確認されない。柱穴6基、周溝を検出している。
 [出土遺物] 堆積土の下部から大木9～10式段階の土器片が少量出土している。
 [帰属時期] 出土遺物、重複関係から大木9～10式段階の遺構と推定される。

SI21住居跡（第33図、写真図版18）

- [位置・検出状況] F区⑨IV層上面で検出。当初は石囲炉を検出し、炉跡周囲に炭化物を微量に含む暗褐色シルトの半円形のプランを確認したことから、竪穴住居跡と判断した。南西側は調査区外に延びる。
 [重複遺構] 東側はSI14住居跡と接する状態だが、新旧関係は不明である。
 [平面形・規模] 残存部分から推定して概ね円形のプランと考えられる。規模は推定径2m程度の小型住居跡で、深さは最大21cm。
 [堆積状況] 暗褐色シルトを主体に堆積し、焼土を少量含む。
 [床面・壁] 床面は概ね平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。
 [炉・付属施設] 床面中央部に石囲炉1基がある。亜角礫8個を楕円形に設置する。石囲炉内部の被熱は弱く焼土ブロックが散在する程度である。柱穴は検出していない。
 [出土遺物] 本住居跡出土遺物はごく少量で土器は図示に至らない。

〔帰属時期〕 出土遺物からは不明確だが、周辺の遺構と同様に大木9～10式段階の遺構と推定される。

SI23住居跡（第35図、写真図版19）

〔位置・検出状況〕 G区①、I区①IV層上面で検出。平成28年度調査時に南端のSK09・10と重複する部分を検出した段階では谷状の落ち込みと捉えたが、平成29年度調査において竪穴住居跡の全体を確認した。西側、北側は調査区外に延びる。また調査工程の制約により南半と北半、G区側とI区側をそれぞれ別個に精査している。

〔重複遺構〕 SI30、SK09・10・51・65・66・85・88・111、SQ06より古い。

〔平面形・規模〕 残存する東壁、南壁から推定して南北に長軸を持つ楕円形プランと推定される。全長は8mを超える規模と捉えられる。

〔堆積状況〕 黒褐色シルトを主体に堆積し、焼土粒、炭化物を含む。

〔床面・壁〕 床面は概ね平坦で、壁は緩やかに外傾して立ち上がる。

〔炉・付属施設〕 床面中央部に石囲炉1基がある。浅い掘り込みに沿って東側に小さめの直角礫を弧状に設置する。西側は礫が見られないが当初からの欠落かどうかは判断できない。石囲内部はSK66に切られる。残存部分では弱い焼成面が一部に観察される。柱穴は30基余りが不規則に分布する。Pit9・10・17・18・24・25・27等の深さが50cmを超えるものが主柱穴の一部を構成すると考えられる。また東壁と南壁の一部に沿って周溝が巡る。

〔出土遺物〕 堆積土中から大木10式～後期前葉に位置づけられる土器の出土がある。中央床面では大木10式のミニチュア壺形土器(a199)がある。また北側の床面では、頭部を欠く大型石棒(c260)が出土した。

〔帰属時期〕 出土遺物、重複関係から大木10式～門前式段階の遺構と推定される。

SI24住居跡（第36・37図、写真図版20）

〔位置・検出状況〕 G区①・②、I区①・②IV層上面で検出。住居跡プランは確定できず、炉を中心として弧状に並ぶ柱穴の配置からおおよそ円形のプランと捉えた。北側は調査区外に延びる。調査工程によりG区側、I区側を分割して精査している。

〔重複遺構〕 SK81・121より新しい。

〔平面形・規模〕 径6m余りの円形プランと推定される。

〔堆積状況〕 角礫を多く含む黒褐色シルトを主体に堆積する。

〔床面・壁〕 床面は凹凸があり平坦面は少ない。壁面の状況は不明。

〔炉・付属施設〕 中央部に埋設土器を伴う複式炉2基を検出した。西側の1号炉は南北に長軸を持ち、2基の石囲炉が連結、北側の石囲炉に接して斜位の埋設土器を伴う。全長は2m弱。焼成面は不規則に分布し被熱は弱い。炉の中央にPit1・2・9が開口し、堆積状況から本炉より新しいと捉えられる。東側に位置する2号炉は方形に組まれた小型の石囲炉内部に、開口部を西に向けた斜位の埋設土器が設置される。埋設土器は3個体の土器を組み合わせた状態。これに接して南側に石列が並ぶが、炉の一部かどうかは確定できない。柱穴は床面全体に散在する。中にはPit6等の深いものが含まれるが、主柱穴配置は不明。

〔出土遺物〕 1号炉埋設土器(a212)は隆線による波頭形のモチーフを繰り返す大木10式土器、2号炉埋設土器(a213～216)も大木10式に位置づけられる。

〔帰属時期〕 出土遺物から大木10式段階の遺構と推定される。

SI25住居跡（第37・38図、写真図版21・22）

〔位置・検出状況〕 G区⑩・⑪、I区⑩・⑪IV層上面で検出。当初は堆積土上部に広がるSQ09配石遺構を確認し、この精査過程で東壁際に弧状に並ぶ石列を検出、両者が一連の配石遺構として精査を進めた。その結果、東側の弧状石列は本住居跡壁際に立てかけた状態であることが判明したため、住居跡として登録した。遺構南側は調査区外に延びる。またG区側、I区側で分割して精査を行っている。

〔重複遺構〕 SK75・76・77、SQ09より古い。

〔平面形・規模〕 残存する東壁、北壁から推定して径6m超の円形プランと推定される。

〔堆積状況〕 礫を多く含む黒褐色シルトを主体に堆積する。

〔床面・壁〕 床面は概ね平坦。東～北壁は直立気味に立ち上がる。

〔炉・付属施設〕 精査範囲では炉は確認されない。遺構南側に設置されていた可能性がある。柱穴は不規則に分布し、主柱穴配置は不明瞭である。Pit 1、及びP382・399・400・401・402等が50cmを超える深さで中央部にまとまっており、これらが主柱穴の一部を構成すると考えられる。東～北壁際には扁平な礫を用いた石列が並ぶ。Pit 1直上にある礫は直立状態で検出した。堅気壁面の周溝上に立てかけた状態と判断したが、石列頭部のレベルは住居跡中央部上部に設置されたSQ09と同じ高さになり、これらが一体の配石遺構という可能性も想定される。

〔出土遺物〕 縄文中期末段階の土器片が少量出土しているが、図示に至らない。

〔帰属時期〕 出土遺物、遺構の形状から大木10式段階の遺構と推定される。

SI26住居跡（第39図、写真図版22・23）

〔位置・検出状況〕 G区⑬・⑭、I区⑬・⑭IV層上面で検出。北半の楕円形プランを検出し掘り下げたところ、西寄りに現地性焼土からなる地床炉2基を確認、北東壁の立ち上がりをつめたことにより住居跡と認識した。西側は明瞭な壁面は把握できず推定プランを図示している。南半は調査区外に延びる。調査工程上、G区側、I区側で分割して精査を行っている。

〔重複遺構〕 SI29、SK74・87、具層12より古い。

〔平面形・規模〕 残存する北東側のプランから推定し、径6m程の楕円形プランと推定される。

〔堆積状況〕 礫を多く含む黒色、黒褐色シルトを主体に堆積する。

〔床面・壁〕 床面は概ね平坦。西寄りでは2号炉上位に貼床が施される部分があり（平面図中の破線範囲）、床面のかさ上げが行われたと考えられる。東～北壁は緩く外傾して立ち上がる。

〔炉・付属施設〕 北西部に地床炉2基を確認した。1号炉、2号炉ともに強い被熱を受ける。規模は前者が77×30cm、後者が96×78cmで不整形に焼成面が広がる。石囲が設置された痕跡は確認できない。柱穴は壁際、及び貼床部分に集中し、主柱穴配置は不明瞭である。Pit 2内には長50cm大の扁平礫が複数埋め込まれた状態で出土している。

〔出土遺物〕 図示した土器(a217～219)を含め、床面、柱穴から出土した土器の主体は縄文後期初頭～前葉にかけてのもので、これ以外に中期末の土器が少量含まれる。試掘段階で出土した大型石棒(c262)は本住居跡の床面に相当する位置にある。

〔帰属時期〕 出土遺物から大木10式～門前式段階の遺構と推定される。

SI27住居跡（第39図、写真図版23・24）

〔位置・検出状況〕 G区⑥・⑦のII層下部で検出した。

〔重複遺構〕 SK55より新しい。

〔平面形・規模〕 北西～南東に長軸を持つ楕円形で、2.6×2.0mの楕円形プラン。深さは最大21cm、床面積は3.5㎡と小規模である。

〔堆積状況〕 角礫を含む黒褐色砂質シルトを主体に堆積する。中央部床面上位に弱い被熱の焼土ブロックが介在する。

〔床面・壁〕 床面は概ね平坦。壁面は緩く外傾して立ち上がる。

〔炉・付属施設〕 中央に石囲炉が設置される。垂角礫11個を円形に配し、中央に弱い被熱の焼成面がある。柱穴、周溝は確認されない。

〔出土遺物〕 堆積土中の土器では大洞C2式(a220・221)がある。

〔帰属時期〕 出土遺物から晩期中葉大洞C2式段階の遺構と推定される。なお、今回の調査で検出した竪穴住居跡では唯一の縄文晩期に帰属する住居跡と捉えている。

SI28住居跡（第40図、写真図版24・25）

〔位置・検出状況〕 G区⑫・⑬、I区⑫・⑬IV層上面で検出。SQ10配石遺構下位の精査で埋設土器を伴う炉を検出し、周囲に床面の可能性がある平坦面の広がりを見え住居跡と認識した。正確なプランは不明。調査工程上、G区側、I区側で分割して精査を行っている。

〔重複遺構〕 SK32・42・73・116・117・120、SQ10より古い。なお床面にSN19があり、本住居跡に伴う可能性があるが、壁際に寄る位置にあるため単独の遺構として取り扱っている。

〔平面形・規模〕 楕円形ないし円形プランと推定される。

〔堆積状況〕 堆積土の記録を欠き正確には把握していないが、概ね礫を多く含む黒褐色シルトが主体の堆積土である。

〔床面・壁〕 床面は平坦でやや硬化する。

〔炉・付属施設〕 中央やや北寄りに埋設土器2基と石囲炉からなる複式炉を確認した。中央に深鉢を正立状態で埋設したRP1、隣接して深鉢開口部を南東に向けた斜位埋設のRP2がある。両者とも土器下位に弱い被熱層があり、炉の機能時に開口していたものである。これらの周囲に弱い焼成面が散在し、北側に角礫複数で石囲を設置している。南側では礫は残存しないがRP2に接して礫抜き取り痕が観察されることから、当初は全体を囲んでいた可能性が高い。焼成面を取り囲むように褐色シルト土が貼り付けられた状態で見られる。貼床の一部と考えられる。柱穴は不規則な分布で19基を確認したが、主柱穴配置は判然としない。

〔出土遺物〕 炉埋設土器(a222・223)は縄文中期後葉～末に比定される。他に柱穴等からは大木9～10式段階の土器が出土している。

〔帰属時期〕 出土遺物から大木9～10式段階の遺構と推定される。

SI29住居跡（第39図、写真図版23）

〔位置・検出状況〕 I区⑬IV層上面で検出。重複するSI26の精査過程で新たに地床炉とそれを囲む弧状の周溝を検出、SI26を切る別の住居跡として認識した。東壁の一部以外は推定プランである。

〔重複遺構〕 SI26より新しい。

〔平面形・規模〕 円形と推定されるが正確な形状、規模は不明。

〔堆積状況〕 礫を多く含む黒褐色シルトを主体に堆積する。

〔床面・壁〕 床面は概ね平坦。全体にSI26と同一の床面と判断され、貼床の痕跡は確認できない。東壁は緩く外傾して立ち上がる。

〔炉・付属施設〕 中央北寄りに地床炉を確認した。焼成は弱く不整形に広がる。柱穴は全体に不規則に分布し支柱穴配置は不明。周溝は北西部、北東部に断続的に巡る。

〔出土遺物〕 床面出土土器は縄文中期末～後期初頭段階のものである。

〔帰属時期〕 出土遺物、重複関係からSI26とほぼ同時期の太木10式～門前式段階の遺構と推定される。

SI30住居跡（第35図、写真図版25）

〔位置・検出状況〕 I区①でSI23の南西部床面から一段下がるプランとして検出した。南西側は調査区外に延びる。

〔重複遺構〕 SK93より古くSI23より新しい。

〔平面形・規模〕 概ね径5m程の円形プランと推定される。

〔堆積状況〕 礫を多く含む黒褐色シルトを主体に堆積する。

〔床面・壁〕 床面はやや西側に下がる緩い傾斜がある。壁面は緩く外傾して立ち上がる。

〔炉・付属施設〕 北西壁際に石囲炉が設置される。礫2個とその間に弱い被熱の焼成面がある。南西側は調査区外にあり全体形は不明。この他に東壁際に小規模な焼成面が確認されたが、地床炉かどうかは判然としない。柱穴は炉の位置に2基確認した。

〔出土遺物〕 本住居跡出土と判断できる土器は少量で判然としない。

〔帰属時期〕 重複関係から、SI23とほぼ同時期の太木10式～門前式段階の遺構と推定される。

（2）炉跡・焼土遺構

石囲炉12基、焼土遺構3基の合計15基を確認した。このうち、埋設土器を伴う石囲炉等、構造的には住居跡の炉であった可能性が高いが、周辺の精査を繰り返しても住居跡の確認に至らず単独の炉跡として取り扱ったものが多く含まれる。なお、これ以外の焼土遺構についても本項で記載する。

SN01炉跡（第41図、写真図版26）

B区①II層下部で検出。斜位埋設土器を伴う石囲炉である。石囲は亜円礫9個を用いて方形気味に組まれ、このうち西側の礫下位に深鉢を縦に半載した状態の埋設土器が設置される。土器内堆積土には焼土粒が含まれるが、半分程埋まった状態の上面に焼成面が見られ、炉の機能時には開口してないと判断される。また土器上位の礫に接して、同一個体の破片複数枚を縦に埋め込んだ状態で仕切りが設けられる。規模は50×47cm、焼土厚は6cm。埋設土器（a229）から太木10式後半段階と推定される。

SN02焼土遺構（第41図、写真図版26）

C区④IV層上面の焼土遺構である。「コ」の字に近い不整形範囲が強く被熱を受ける。焼土上面は硬化が見られる。規模は99×54cm、焼土厚は5cm。時期は不明である。

SN03炉跡（第41図、写真図版26）

C区④II層下部で検出した埋設土器2基を伴う石囲炉である。SK05フラスコ状土坑の埋没後に土坑上面に設置される。亜円礫7個を用いて「C字形」に組まれた石囲中央に深鉢下半（RP1）をやや斜位の正立で埋設する。南東側では石囲の礫下位に壺型土器上半（RP2）の口縁部を外側に向けた横位で埋設する。両者の土器内充填土には焼土粒、炭化物が含まれることから、炉の機能時には開口し

ていたもので、後から石囲の礎が移動し土器上位に乗る状態になったと推測される。規模は60×58cm。明らかな焼土層は形成されていない。埋設土器RP2（a230）から大木10式後半段階と推定される。

SN04炉跡（第41図、写真図版26）

B区②aⅡ層下部で検出した埋設土器を伴う石囲炉である。亜角礫5～6個を用いて半円形に石囲が組まれ、石列と反対側に深鉢下半をやや斜位に埋設する。土器の外周を含め石囲内部に強く被熱を受けた焼成面が形成される。土器内は焼土粒を含む黒色土が堆積しており、炉の機能時には土器内部は開口していたと考えられる。規模は85×77cm、焼土厚は14cmに達する。埋設土器（a232）から中期末と推定される。

SN06炉跡（第41図、写真図版27）

B区②aⅡ層下部で検出した埋設土器を伴う石囲炉である。亜円礫4～5個を使用し円形に石囲が組まれる。北西側に深鉢下半を中央に開口部に向けた斜位に埋設する。土器の外側上部には黄橙色土を貼り付けた状態となっている。石囲内部の焼成面は被熱が弱い。土器内は炭化物和焼土粒を含む黒褐色土が堆積しており、炉の機能時には土器内部は開口していたと考えられる。規模は58×49cm、焼土厚は7cm。埋設土器（a234）から中期末と推定される。

SN07炉跡（第41図、写真図版27）

B区④aⅡ層下部で検出した石囲炉である。亜円礫5～6個を円形に組み、内部に比較的強い被熱の焼成面が形成される。規模は径52cmで焼土厚は3cm。周辺の炉跡と同様に中期後葉の遺構である可能性があるが明確な根拠はない。

SN08炉跡（第41図、写真図版27）

B区②aⅡ層下部で検出した埋設土器を伴う石囲炉である。SN04の北東側に隣接する位置にあり、同一面上に設置されていることから、両者が一連の複式炉であった可能性も考えられる。石囲は北西側1辺にのみ亜角礫2個で設けられた状態で、他方は開放している。土器は深鉢上半を正立で埋設し土器周囲に弱い焼成面が広がる。規模は60×40cm程度、焼土厚は10cm。埋設土器（a236）から中期末と推定される。

SN09炉跡（第41図、写真図版27）

B区③a・bⅡ層下部で検出した埋設土器を伴う石囲炉である。当初は亜角礫多数により「C字形」に組まれた石囲炉として精査を行い、北東側の石列下位に斜位埋設土器を検出しており、断面記録を欠く。埋設土器は深鉢上半（RP1）を開口部が中央を向くように設置され、その上位に石列が組まれる。また、RP1の下位にもう1個体の深鉢胴部破片（RP2）が重なる状態で置かれている。石囲内部には比較的強い被熱の焼成面が形成される。規模は67×59cm、焼土厚は7cm。埋設土器（a238）から中期後葉と推定される。

SN12炉跡（第42図、写真図版28）

B区⑨のB区北端遺構群内で検出した地床炉である。SI11-1号炉よりやや上位のレベルにあり、この一帯に広がる住居跡群のうち新时期段階の床面に設けられた可能性が高いが、特定できていない。

円形に強い被熱の焼成面が形成される。規模は径33cm、焼土厚は4cm。検出面の状態から中期後葉の遺構と推定される。

SN13炉跡（第42図、写真図版28）

B区②bⅣ層上面で検出した埋設土器を伴う複式炉である。Ⅱ層包含層の下位に設置される。南東側に石囲炉があり中央に小型深鉢下半を正立で埋設する。この北西側に隣接して前庭部と捉えられる楕円形の掘り込みがあり、東辺に石列が設けられる。前庭部の掘り込み底面にも弱い被熱の焼成面範囲が分布する。前庭部北西端にはP40が開口するが、断面観察から前庭部堆積土を切り込んでいる状態を確認しており、炉に伴う施設とは判断していない。全長は115cmで、石囲炉部分（第1室）は50×40cm、前庭部は75×43cm、焼土厚は4cm。埋設土器（a240）から大木8b式段階と推定される。

SN17炉跡（第42図、写真図版28）

F区③Ⅱ層下部で検出した石囲炉である。SI21住居跡と重複する位置にあるが新旧関係は把握していない。扁平な直角礫7個を用いて方形に組まれる。石囲内部には部分的に弱い被熱の焼成面が確認できる。規模は53cm四方、焼土厚は5cm程度。周囲の遺構群と同様に中期後葉～末の遺構と推定される。

SN18炉跡（第42図、写真図版28）

F区⑦Ⅲ層上面で検出した石囲炉である。貝層09の下位に位置する。扁平な亜円礫5個で方形の石囲が組まれ、内部に弱い被熱の焼成面が広がる。規模は64×54cm、焼土厚は5cm。重複関係から中期後葉と推定される。

SN19炉跡（第42図、写真図版28・29）

G区③のSI28床面で検出した。前述のように住居跡全体形から見ると壁際に寄る位置にあり、単独の炉跡と判断している。平行に置いた直角礫3個による石囲で、内部に強い被熱を受けた焼成面がある。規模は21×14cmと小型で、焼土厚は4cm。SI28と同時期の中期後葉～末の遺構と推定される。

SN20焼土遺構（第42図、写真図版29）

I区⑤Ⅱ層下部で検出した地床炉。楕円形の範囲に強い被熱を受けた焼成面が広がり、南西側は調査区外に延びる。規模は長軸110cm、焼土厚は15cm。時期は不明。

SN21焼土遺構（第42図、写真図版29）

I区⑤Ⅱ層下部で検出した地床炉。楕円形の範囲で弱い被熱を受けた焼成面がある。南西側の一部は調査区外に延びる。規模は長軸70cm、焼土厚は18cm。時期は不明。

(3) 土 坑

縄文時代の土坑として登録、精査を行ったものは合計104基を数える。これらの中には、柱痕跡が確認され掘立柱建物跡の柱穴とみられる49基、柱穴の可能性がやや低い不確実なものを含めると57基、これに加えて倒木痕と考えられる2基を含むが、便宜上本項で記載する。

SK01土坑 (第43図、写真図版30)

B区①Ⅲ層上面で検出した。断面形状は中位がくびれ下部が広がるフラスコ状土坑である。堆積土下半は崩落による黄褐色土が顕著で、上部は礫を多く含む黒褐色土が堆積する。規模は径1.2×1.1m、深さ112cm。縄文中期後葉の土器片が出土しており、遺構時期も中期後葉と推定される。

SK04土坑 (第43図、写真図版30)

C区①Ⅳ層上面で検出した。浅い皿状の土坑である。規模は径1.2×1.1m、深さ20cm。出土遺物はなく遺構時期は特定できない。

SK05土坑 (第41図、写真図版30)

C区③・④境界でSN03の直下に位置する。検出面はⅣ層上面である。下部が楕円形に広がるフラスコ状を呈する。崩落ないし埋め戻しによる黒褐色土ブロックからなる土層が複数レンズ状に堆積する。規模は径1.2×1.1m、深さ76cm。縄文中期後葉の土器片が少量出土する。SN03との重複関係から遺構時期は中期後葉と推定される。

SK09土坑 (第43図、写真図版30)

B区②の平成28・29年度調査区域に位置し、Ⅱ層下部で検出した。SK10と接しておりこれに切られる。またSI23より新しい。小型の円筒形に掘り込まれており、柱痕跡は確認していないが柱穴と推定される。規模は径0.8m、深さは83cm。遺構重複関係から後期初頭～前葉の遺構と推定される。

SK10土坑 (第43図、写真図版30)

B区②でSK09と接する位置で検出した。断面ではSK09を切っている状態を確認している。小型の円筒形土坑で柱穴の可能性が高い。規模は径0.5m、深さ53cm。重複関係から後期初頭～前葉の遺構と推定される。

SK11土坑 (第43図、写真図版30)

調査区南端のE区①にあり、Ⅳ層上面で検出した楕円形で皿状に窪む土坑である。堆積土中に扁平礫が多数含まれる。規模は3.2×2.6mと大型で深さは44cm。大木9式等、中期後葉の土器片が少量出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK12土坑 (第43図、写真図版31)

B区②Ⅱ層下部で検出した。平成28・29年度調査区域に位置し、北東側は調査区外に延びる。全体形は判然としないが、概ね楕円形の浅い土坑と捉えられる。規模は長径推定1.3m、深さは50cm。大木10式土器片が少量出土した。出土遺物から中期末の遺構と推定される。

SK13土坑 (第43図、写真図版31)

B区②の平成28・29年度調査区域、SI16床面で検出した楕円形の土坑である。SI16を切ると判断している。南西側は平成29年度に精査を行った。堆積土は小礫を多く含む暗褐色シルト主体で、壁面上部は一部ハンクしており、貯蔵穴の可能性が高い。規模は0.9×0.4m、深さは45cm。大木10式土器片が少量出土する。出土遺物、重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK14土坑（第43図、写真図版31）

E区③・④IV層上面で検出した円形の浅い土坑である。黒色シルト主体で堆積する。規模は1.3×1.1m、深さは38cm。大木7b式土器片が出土しており、該期の遺構と推定される。

SK15土坑（第10図）

D区北端で検出した土坑で、断面観察の結果、倒木痕と判断されることから精査記録を省略している。内部に落ち込んだ黒色土中から弥生前期の高坏脚部（a254）が出土した。

SK16土坑（第43図、写真図版31）

F区⑤のSI17床面で検出した土坑で、底部は極端に北側に向かい傾き込まれており、倒木痕の可能性が高いと判断される。開口部規模は1.4×1.1m、深さは94cm。中期末土器片の出土がある。

SK17土坑（第43図、写真図版31）

F区⑤のSI04-2号炉前庭部を掘り込んでいる円筒形の土坑。SI04より新しい。堆積土は礫を含む黒褐色シルト主体で、断面観察では柱痕跡を確認していないが掘立柱建物跡の柱穴の可能性が考えられる。規模は1.1×0.9m、深さは98cm。堆積土中から大木10式土器が比較的多量に出土する。出土遺物、重複関係から大木10式段階の遺構と推定される。

SK18土坑（第27図、写真図版32）

F区⑤の遺構群精査過程で検出した円筒形の土坑。SI20、SI10溝1より新しい。不手際により断面記録を欠く。規模は1.1×0.9m、深さ106cm。SK17同様に掘立柱建物跡柱穴の可能性が考えられる。大木9～10式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から大木10式段階の遺構と推定される。

SK19土坑（第44図、写真図版32）

F区①のSI09床面を掘り込む土坑で、西側は調査区外に延びる。SI09より新しい。土層記録を欠いており正確には記載不能だが、上半は黒色シルト、下半は焼土粒を含む黒褐色シルトの堆積土である。埋没後にⅡ層上部が覆う。規模は長径1.7m以上、深さ51cm。大木9～10式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から大木10式段階の遺構と推定される。

SK20土坑（第44図、写真図版32）

F区⑤のSI15床面で検出した楕円形の土坑。SI15より新しい。小判形に掘り込まれ、底面に小径の副穴（Pit 1）を伴う。堆積土の西側は人為的に埋め戻した可能性のある褐色粘土層が広がる。規模は1.4×0.8m、深さ60cm。大木10式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から大木10式段階の遺構と推定される。

SK21土坑（第44図、写真図版32）

SK21同様にF区⑤のSI15床面で検出した。SI15より新しい。平面形は不整形で中央に棒状重円礫が立石状態に設置される。この下位には円筒形の土坑が掘られているが精査手順の手違いにより断面記録を欠く。下部は掘立柱建物跡柱穴の可能性が高い。規模は1.3×0.9m、深さ85cm。大木10式土器片が出土しており、重複関係も考慮して大木10式段階の遺構と推定される。

SK22土坑 (第44図、写真図版32)

F区⑦Ⅲ層上面、貝層06の下位で検出した楕円形土坑。焼土粒を含む黒褐色シルトが堆積する。規模は1.3×0.9m、深さは29cm。出土遺物はない。検出面の層位から判断し、中期前葉～中葉の遺構と推定される。

SK23土坑 (第34図、写真図版33)

F区⑥Ⅳ層上面で半円形プランとして検出し、当初は小型の竪穴住居跡とみてSI22と登録したが、全体で径130cm程度と推定されるため土坑の一部と判断しSK23土坑へ登録変更した。南側でSI13、北東側でSI03と重複しこれより新しい。西側は調査区外に延びる。堆積土は暗褐色シルト主体で炭化物と焼土を少量含み、埋土上部をⅡ層が覆う。規模は推定1.3m以上、深さは32cm。大木9～10式土器が出土する。重複関係、出土遺物から大木10式段階の遺構と推定される。

SK25土坑 (第44図、写真図版33)

G区①Ⅳ層上面で検出した小型円形の土坑。西側はSI23に接する状態だが新旧関係は不明。傾斜地に位置し、斜面下方にあたる西側は一部壁面が消失する。規模は径1.0m、深さ28cm。中期後葉の土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK26土坑 (第44図、写真図版33)

G区⑥・⑦Ⅳ層上面で検出。SK50・58と接するが新旧関係は不明。円筒形の土坑で掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は93×80cm、深さ119cm。大木8b式段階の土器片が少量出土している。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK27土坑 (第44図、写真図版33)

G区④・⑤Ⅱ層下部で検出。一部の壁面がハンクしており、小型のフラスコ状土坑と捉えられる。SK31・52と接するが新旧関係は不明。規模は1.6×1.3m、深さ38cm。大木10式土器片が少量出土する。出土遺物から中期末の遺構と推定される。

SK28土坑 (第45図、写真図版33・34)

G区⑥・I区⑥Ⅳ層上面で検出。SK37・98より新しく、円筒形に深く掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は1.1×0.9m、深さは79cm。大木8b式土器片が少量出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK29土坑 (第45図、写真図版34)

G区④Ⅲ層上面で検出したフラスコ状土坑。北東側は調査区外に延びる。上半が狭い頸部となり中位から底面に向かって広がる。堆積土は縞状に黄褐色粘土層が介在し、壁面の崩落を繰り返したとみられる。規模は開口部径1m、深さ130cm。大木9～10式段階の土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK30土坑 (第45図、写真図版34)

G区⑧Ⅳ層上面で検出。SK33より古くSK34より新しい。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴

とみられる。規模は1.1×0.8m、深さ79cm。大木8b～10式段階の土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK31土坑 (第44図、写真図版34)

G区④・⑤IV層上面で検出。SK27と接するが新旧関係は不明。北側は調査区外に延びる。壁面の一部がハンクしておりプラスチック状を呈する。規模は径1.2m、深さ88cm。大木8b～9式段階の土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK32土坑 (第46図、写真図版34)

G区③でSI28住居跡精査段階で検出した。SI28より古く、SK42・120に切られる。円筒形に掘り込まれた小型の掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径0.7m、深さ93cm。大木8b～9式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK33土坑 (第45図、写真図版34)

G区⑥IV層上面で検出。SK30より新しい。SK54との新旧関係は不明。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径0.9m、深さ92cm。重複関係から中期後葉～末段階の遺構と推定される。

SK34土坑 (第45図、写真図版34・35)

G区⑧IV層上面で検出。SK30より古い。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面観察では中央に明瞭な柱痕跡が確認できる。柱痕の径は25cm程。柱穴規模は径0.9m、深さ95cm。重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK35土坑 (第46図、写真図版35)

G区⑤・⑥IV層上面で検出。SK36より古い。掘立柱建物跡柱穴の可能性はあるが不明瞭。規模は径0.9m、深さ53cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK36土坑 (第46図、写真図版35)

G区⑤・⑥IV層上面で検出。SK35より新しい。袋状に掘り込まれており貯蔵穴とみられるが掘立柱建物跡柱穴の可能性もある。規模は1.7×1.3m、深さ109cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK37土坑 (第45図、写真図版33)

G区⑥でSK28の北側に検出。SK28より古い。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は1.7×1.2m、深さ82cm。重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK38土坑 (第46図、写真図版35)

G区⑥IV層上面で検出。SK45・46より新しい。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面観察では中央に明瞭な柱痕跡が確認できる。柱痕の径は30～35cmに達する。柱穴規模は1.3×0.9m、深さ97cm。重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK39土坑 (第46図、写真図版35)

G区⑤・⑥IV層上面で検出。SK46より古いとみられるが明確ではない。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられ、断面観察では柱痕跡が確認できる。柱痕は崩れた状態であり本来の径を留めていないと考えられる。柱穴規模は1.6×1.2m、深さ63cm。大木9式土器片が少量出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK40土坑 (第45図、写真図版36)

G区⑦IV層上面で検出。SK44・47より新しい。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は1.3×1.2m、深さ84cm。大木10式土器片、ミニチュア土器(a273)が出土した。出土遺物、重複関係から中期後葉～末段階の遺構と推定される。

SK41土坑 (第46図、写真図版36)

G区⑦・⑧IV層上面で検出。SK43より古い。やや歪む楕円形で底面は平坦である。規模は長径1.4m以上短径1.2m、深さ70cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK42土坑 (第46図、写真図版34)

G区③のSI28床面で検出。SI28、SK32より新しい。SK120より古いとみられるが不確実。小規模な楕円形の土坑で、小型の掘立柱建物跡柱穴の可能性がある。規模は長径1.2m、深さ99cm。重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK43土坑 (第46図、写真図版36)

G区⑧IV層上面で検出。SK41・64より新しい。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径1.1m、深さ101cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK44土坑 (第45図、写真図版36)

G区⑦IV層上面で検出。SK40・54より古い。円筒形の土坑で掘立柱建物跡柱穴の可能性があるが判然としない。規模は径1.2m以上、深さ61cm。大木10式土器片の出土がある。出土遺物、重複関係から中期後葉～末段階の遺構と推定される。

SK45土坑 (第46図、写真図版35)

G区⑥IV層上面で検出。SK38に切られる。小規模な円筒形土坑で、小型の掘立柱建物跡柱穴の可能性はある。規模は径0.7m、深さ57cm。大木8b～9式土器片が少量出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK46土坑 (第46図、写真図版35)

G区⑥IV層上面で検出。SK38より古くSK39より新しいと判断したがやや不確実。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は1.6×1.0m、深さ99cm。大木8b～9式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK47土坑 (第45図、写真図版36)

G区⑦IV層上面で検出。SK40iに切られる。円筒形に掘り込まれ、柱痕跡は確認できないが掘立柱建物跡柱穴の可能性がある。規模は径0.8m、深さ72cm。大木8b～9式土器片の出土がある。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK48土坑 (第46図、写真図版36)

G区⑧・⑨IV層上面で検出。円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では柱痕跡が確認される。柱痕の径は30～40cm。土坑規模は径0.8m、深さ55cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK49土坑 (第46図、写真図版36・37)

G区⑧IV層上面で検出。円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では柱痕跡が確認される。柱痕の径は約40cm以上。土坑規模は径0.8m、深さ49cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK50土坑 (第44図、写真図版37)

G区⑦IV層上面で検出。SK26iに接するが新旧関係は不明。北側は調査区外に延びる。柱痕跡は確認できないが円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径1.0m、深さ75cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK51土坑 (第35図、写真図版37)

G区①のSQ06下位で検出。SI23床面から掘り込まれる楕円形の土坑。SI23、SK65より新しくSQ06より古い。手違いにより断面図記録を欠き正確ではないが、比較的均質な黒色シルト層の堆積土が観察される。SQ06の直下に位置することから配石の下部構造として掘られた可能性があるが、両者を関連づけた精査を行っていないため判断としない。規模は1.7×1.1m、深さ51cm。大木10式～後期初頭の土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK52土坑 (第44図、写真図版37)

G区④・⑤IV層上面で検出。SK61より新しい。SK27と接するが新旧関係は不明。土坑上部が開き、中位で一回り狭く円筒形に掘り込まれるフラスコ状土坑とみられるが、土坑中位は平坦面を持つことから、2基の土坑が重複した状態の可能性もある。規模は1.9×1.6m、深さ118cm。大木10式～後期初頭前式の土器片が堆積土下部から比較的多く出土した。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK53土坑 (第46図、写真図版37)

G区⑥IV層上面で検出。SK35の西側で重複し、これより新しいと捉えられるが確実ではない。小規模な円筒形に掘り込まれ掘立柱建物跡の小型柱穴とみられる。規模は径0.8m、深さ76cm。大木9式土器片が少量出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK54土坑 (第45図、写真図版37)

G区⑦・⑧IV層上面で検出。SK33・44に挟まれる位置にあり、これらより新しいと捉えられるが確実ではない。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は0.9×0.8m、深さ111cm。中期後葉土器片が少量出土する。また上面から長さ45cmの台石(不掲載)が出土した。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK55土坑 (第46図、写真図版37・38)

G区⑥のSI27床面で検出。SI27より古いと捉えられるが、上面の貼床等は確認できない。円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡柱穴とみられ、断面では柱痕跡が観察できる。柱痕の径は30cm前後。柱穴規模は0.9×0.8m、深さ126cm。大木8b~10式段階の土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK56土坑 (第18図、写真図版38)

G区⑨IV層上面で検出。不整形の平面形状となる小規模な土坑。手違いにより断面図記録を欠き不正確だが、小型の掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は0.9×0.7m、深さ44cm。摩滅した土器片少量の出土がある。時期は不明確だが周辺の遺構群と同様に中期後葉の可能性が高い。

SK57土坑 (第44図、写真図版38)

G区⑥IV層上面で検出。南西側でSK58を切る。北側は調査区外に延びる。円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では柱痕跡が明瞭に観察できる。柱痕の径は20cm前後。柱穴規模は径1.1m、深さ107cm。大木8b~9式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK58土坑 (第44図、写真図版38)

G区⑥IV層上面で検出。SK57より古い。SK26に接するが新旧関係は不明。手違いにより断面図記録を欠くが、円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は1.0×0.8m、深さ91cm。大木8b~10式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK59土坑 (第18図、写真図版38)

G区⑤IV層上面で検出。手違いにより断面図記録を欠き不正確だが、円筒形に掘り込まれる小型の掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径0.5m、深さ44cm。出土遺物はない。周辺の遺構と同様に、中期後葉の遺構と推定される。

SK60土坑 (第18図、写真図版38)

G区⑤IV層上面で検出。手違いにより断面図記録を欠き不正確だが、円筒形に掘り込まれる小型の掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は0.7×0.6m、深さ59cm。出土遺物はない。大木10式土器片が少量出土する。周辺の遺構と同様に、中期後葉の遺構と推定される。

SK61土坑 (第44図、写真図版38)

G区⑤IV層上面で検出。SK52より古い。楕円形に掘られた土坑で底面は平坦、壁面は直立する。

規模は長径1.1m以上、短径0.6m、深さ49cm。大木8b式土器片が少量出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK62土坑（第18図、写真図版38）

G区⑤IV層上面で検出。手違いにより断面図記録を欠き不正確だが、円筒形に掘り込まれる小型の掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径0.5m、深さ38cm。出土遺物はない。周辺の遺構と同様に、中期後葉の遺構と推定される。

SK63土坑（第47図、写真図版38・39）

G区⑥・⑦IV層上面で検出。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では西側壁面に寄る位置に柱痕跡が観察される。柱痕の径は30cm程度。柱穴規模は径1.1m、深さ86cm。出土遺物はない。周辺の遺構群と同様に中期後葉の遺構と推定される。

SK64土坑（第46図、写真図版39）

G区⑧IV層上面で検出。SK41・43より古い。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では柱痕跡が明瞭に観察される。柱痕の径は25cm程。柱穴規模は0.8×0.7m、深さ74cm。中期後葉土器片が少量出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK65土坑（第17図、写真図版39）

G区①のSI23床面で検出。SK51より古く、SI23より新しい。手違いにより断面図記録を欠くが、円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴の可能性が高い。規模は径1.1m、深さ52cm。大木9～10式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK66土坑（第17図、写真図版39）

G区①のSI23炉中央を掘り込んでいる円筒形の土坑。手違いにより断面図記録を欠くが、円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴の可能性が高い。規模は径0.8m、深さ45cm。大木9～10式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK67土坑（第47図、写真図版39）

G区④IV層上面で検出。北側は調査区外に延びる。円筒形に掘り込まれる掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では柱痕跡が観察される。柱痕の径は50cm以上。柱穴規模は径1.3m、深さ96cm。大木8b～10式段階の土器が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK68土坑（第47図、写真図版39）

G区④、I区④にまたがりIV層上面で検出。下半が広がるフラスコ状土坑である。規模は開口部径が1.4m、深さ194cmに達する。大木8b～9式段階の土器が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK73土坑（第47図、写真図版40）

G区③、I区③のSI28床面で検出した。SQ10より古くSI28より新しい。やや歪んだ楕円形で底面

が平坦になる。直上のSQ10配石遺構の広がりや土坑プランが重なることから、SQ10下部構造である可能性も考えられる。規模は2.5×1.5m、深さ46cm。大木10式土器が出土する。出土遺物、重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK74土坑（第47図、写真図版40）

G区③のSI26床面で検出したフラスコ状土坑。SI26より新しい。狭い開口部から底部が大きく広がる。土坑中位には扁平礫が多数密着する状態で埋没しており、土坑廃棄に伴い礫を使って埋め戻したものと考えられる。規模は開口部で径1.4m、深さ128cm。ごく少量の土器片が出土した。重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK75土坑（第47図、写真図版40）

G区④IV層上面で検出。SI25より新しいとみられるが確実ではない。他に柱穴状の小土坑群と重複するが個別には把握できていない。平面形は方形で平坦な底面を持つ。規模は長さ1.9m、深さ38cm。大木8b～10式、門前式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK76土坑（第48図、写真図版40）

G区⑤のSI25床面で検出。SI25より新しくSK77より古い。円形で浅い土坑である。底面に副穴Pit 1が掘り込まれる。規模は径1.2m、深さ33cm。大木10式土器片を出土する。出土遺物、重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK77土坑（第48図、写真図版40・41）

G区⑥SI25床面で検出。SI25、SK76より新しい。円形でやや深い土坑である。壁面は直立し底面は平坦。貯蔵穴の可能性がある。規模は径1.4m、深さ73cm。堆積土中から底面にかけて多量の土器片が出土した。概ね大木10式に相当する。出土遺物、重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK78土坑（第48図、写真図版41）

G区③IV層上面で検出。北東側は調査区外に延びる。下部に向かって広がるフラスコ状土坑である。東壁の一部が崩れ、開口部の形状は不規則に歪む。堆積土中位に焼土ブロックの集中が見られる。規模は開口部径1.6m、深さ110cm。大木10式～後期初頭段階の土器片が出土する。出土遺物から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK79土坑（第48図、写真図版41）

G区①・②IV層上面で検出。SI23との重複が推定されるが新旧関係は不明。平面形状楕円形で円筒形に掘り込まれる。底面は中央が深く窪む。堆積土は崩落を繰り返す痕跡が認められ貯蔵穴の可能性もある。規模は1.4×1.1m、深さ104cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物から中期後葉～末の遺構と推定される。

SK80土坑（第48図、写真図版41）

G区①・②IV層上面で検出。北東側は調査区外に延びる。断面観察では明瞭な柱痕跡は確認できないが、円筒形に深く掘り込まれた状態から掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径0.9m、深さ116cm。

大木8b～9式土器片が少量出土する。出土遺物から中期後葉～末の遺構と推定される。

SK81土坑（第36図）

G区①のSI24床面で検出。土坑上部に貼床を施してSI24-1号炉が設置されており、SI24より古い楕円形の小型土坑である。炉の下部構造であった可能性もある。規模は長径0.8m、深さ41cm。摩滅した土器片が少量出土した。重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK82土坑（第48図、写真図版41）

G区②・③IV層上面で検出。円筒形に深く掘り込まれ掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では中央に明瞭な柱痕跡が観察される。柱痕の径は30～40cmで、内部に礫が落ち込んだ状態で出土した。柱穴規模は径0.9m、深さ92cm。大木10式土器片が出土する。出土遺物から中期末の遺構と推定される。

SK83土坑（第17図、写真図版41）

G区②IV層上面で検出。上部にSQ13配石遺構があり、これより古い。底面に向かって広がるフラスコ状土坑である。手違いにより断面図記録を欠く。規模は開口部径1.4m、深さは162cmに達する。大木10式を主体に比較的多くの土器が出土した（a295他）。また、底面付近から脚付の石皿（c241）が出土した。3片に割れていたが、土坑内部で破損した状態とみられる。出土遺物から中期末の遺構と推定される。

SK84土坑（第48図、写真図版42）

G区②IV層上面で検出。北東側は調査区外に延びる。円筒形に掘り込まれており、断面に柱痕跡は観察できず不確実だが掘立柱建物跡柱穴の可能性もある。規模は径1.3m、深さ92cm。大木8b～9式土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK85土坑（第17図、写真図版42）

G区①IV層上面で検出。SI23と重複する位置にありSI23より新しいとみられるが確実ではない。底面にSI23Pit34がある。手違いにより断面図記録を欠く。楕円形の比較的浅い土坑で底面は平坦である。規模は1.2×0.8m、深さ23cm。大木10式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK87土坑（第48図、写真図版42）

I区④IV層上面で検出。上位に貝層12があり、これを掘り下げる過程で確認した。壁面がハンクし底面が広がる小型のフラスコ状土坑である。規模は径0.9m、深さ50cm。中期後葉土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK88土坑（第48図、写真図版42）

I区①SI23床面で検出した。SI23、SK111、P317より新しい。南側壁面下部が大きく抉れるフラスコ状土坑である。規模は1.1×0.9m、深さ70cm。大木8b～10式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK90土坑 (第49図、写真図版2)

I区①・②IV層上面で検出。南西側は調査区外に延びる。やや歪んだ楕円形に掘り込まれ、壁面は直立する。規模は長径1.4m以上、深さ66cm。大木10式土器片等が出土する。出土遺物から中期末の遺構と推定される。

SK91土坑 (第49図、写真図版3)

I区②IV層上面で検出。SK92より古い。南西側は調査区外に延びる。楕円形で深く掘り込まれた土坑で、掘立柱建物跡柱穴の可能性があるが確実ではない。規模は長径1.1m以上、深さ98cm。大木8b～9式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK92土坑 (第49図、写真図版3)

I区②IV層上面で検出。SK92・112より新しい。南西側は調査区外に延びる。円筒形に掘り込まれ断面では柱痕跡が確認されることから掘立柱建物跡柱穴とみられる。柱痕は径30～40cm。柱穴規模は径0.9m、深さ60cm。重複関係から中期後葉～中期末の遺構と推定される。

SK93土坑 (第35図、写真図版3)

I区①SI30床面で検出。SI30より新しい。手違いにより断面図記録を欠く。円筒形に掘り込まれており掘立柱建物跡柱穴の可能性がある。規模は径1.0m、深さ62cm。大木10式～後期初頭前式土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK94土坑 (第49図、写真図版43)

I区③IV層上面で検出。SK97より新しい。下部が大きく広がるフラスコ状土坑である。堆積土は壁際に崩落土ブロックを含み、中位から上部にかけてレンズ状に堆積する。底面に副穴(Pit1・2)を検出した。規模は開口部径が1.9×1.5m、深さ170cm。大木8b～10式、後期初頭を主体とした土器が比較的多量に出土する。上部には晩期前葉土器片が含まれる。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK96土坑 (第49図、写真図版43)

I区④IV層上面で検出。下部が広がる小型のフラスコ状である。堆積土中位には黄褐色土層と礫が多量に含まれ、人為的に埋め戻した痕跡と捉えられる。規模は径1.0m、深さ120cm。大木9式土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK97土坑 (第49図、写真図版43)

I区③IV層上面で検出。南東側でSK94に切られるフラスコ状土坑である。両者はほぼ同じレベルまで掘り下げられており、SK97からSK94への作り替えが想定される。規模は開口部径が1.2m、深さ185cmに達する。大木8b～10式土器が出土する。出土遺物、重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK98土坑 (第45図、写真図版43)

I区④IV層上面で検出。SK28より古い。小規模ながら円筒形に掘り込まれ、掘立柱建物跡柱穴の可能性があると判然としない。規模は径1.0m、深さ63cm。出土遺物はない。重複関係から中期後葉

の遺構と推定される。

SK99土坑（第45図、写真図版44）

I区⑥IV層上面で検出。SK119より新しい。円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡の柱穴とみられる。断面では中央に柱痕跡が確認できる。柱痕の径は20～30cm。柱穴規模は径0.8m、深さ119cm。摩滅した土器片が少量出土した。周囲の遺構群と同様に中期後葉の遺構と推定される。

SK100土坑（第50図、写真図版44）

I区⑥IV層上面で検出。SK115と接するが新旧関係は不明。南西側は調査区外に延びる。円形の土坑で平坦な底面から壁が外傾して立ち上がる。規模は径1.1m、深さ52cm。出土遺物はない。周辺の遺構群と同様に中期後葉の遺構と推定される。

SK102土坑（第50図、写真図版44）

I区⑦IV層上面で検出。南側で重複するSK108より新しい。小規模な円筒形に掘り込まれており、断面では柱痕跡を確認できないものの、掘立柱建物跡柱穴の可能性がある。規模は径0.8m、深さ87cm。大木8b～10式の土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK105土坑（第50図、写真図版44）

I区⑦IV層上面で検出。SK106・107より古い。下半が広がるフラスコ状土坑である。堆積土下部に焼土粒、焼骨が含まれる。規模は開口部径1.2m、深さ147cm。隣接するSK106・107と合わせて一括して取り上げた遺物では大木9～10式土器が見られる。出土遺物、重複関係から中期後葉～末の遺構と推定される。

SK106土坑（第50図、写真図版44・45）

I区⑦・⑧IV層上面で検出。SK105より新しくSK107より古い。円筒形に掘り込まれる土坑で平坦な底面から壁面が直立する。規模は1.2×1.1m、深さ107cm。SK105同様に中期後葉～末の遺構と推定される。

SK107土坑（第50図、写真図版45）

I区⑦・⑧IV層上面で検出。SK105・106より新しい。浅い小型の土坑である。規模は径1.0m、深さ58cm。SK105同様に中期後葉～末の遺構と推定される。

SK108土坑（第50図、写真図版44）

I区⑦IV層上面で検出。SK102より古い。南側は調査区外に延びる。小型の円筒形土坑で掘立柱建物跡柱穴の可能性がある。規模は径0.7m、深さ75cm。SK102と一括して取り上げた遺物では大木8b～10式の土器片が出土する。出土遺物から中期後葉の遺構と推定される。

SK109土坑（第50図、写真図版45）

I区⑪・⑫IV層上面で検出。南側は調査区外に延びる。小型の円筒形に掘り込まれており掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では中央に柱痕跡が観察される。柱痕の径は30～40cm程度。柱穴規模は径

2 縄文時代の遺構

0.9m、深さ74cm。摩滅した土器片少量の出土がある。周辺の遺構群同様に中期後葉の遺構と推定される。

SK110土坑（第50図、写真図版45）

I区②IV層上面で検出。円筒形に掘り込まれる小型の土坑で、掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では柱痕跡が確認される。柱痕の径は30cm前後。柱穴規模は径1.0m、深さ82cm。摩滅した土器片が少量出土した。周辺の遺構群同様に中期後葉の遺構と推定される。

SK111土坑（第48図、写真図版45）

I区①IV層上面で検出。SK88より古く浅い土坑である。楕円形で底面は平坦。規模は長径1.2m以上、深さは30cm。出土遺物はない。重複関係から中期後葉～末段階の遺構と推定される。

SK112土坑（第49図、写真図版43）

I区②V層上面で検出。SK92より古い。南西側は調査区外に延びる。浅い皿状の土坑である。規模は径0.9m以上、深さ35cm。出土遺物はない。重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK113土坑（第50図、写真図版45）

I区③IV層上面で検出。南側は調査区外に延びる。SK109に隣接する。円筒形に掘り込まれる小型の土坑で、掘立柱建物跡柱穴とみられる。断面では柱痕跡が観察される。柱痕の径は30～40cm程。柱穴規模は径0.8m、深さ104cm。摩滅した土器片が少量出土する。周辺の遺構群同様に中期後葉の遺構と推定される。

SK114土坑（第50図、写真図版45・46）

I区⑥IV層上面で検出。SK115より古く南側の一部は調査区外に延びる。開口部はやや楕円形を呈するが、下部は円筒形に掘り込まれ掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は0.9×0.7m、深さ50cm。摩滅した土器片少量が出土する。重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK115土坑（第50図、写真図版45・46）

I区⑥IV層上面で検出。SK114より新しい。円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径1.1m、深さ93cm。後期初頭の土器片が出土する。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK116土坑（第40図、写真図版46）

I区②SI28床面で検出。SI28より新しいと捉えられるが確実ではない。小規模な円筒形に掘り込まれており、小型の掘立柱建物跡柱穴の可能性が有る。規模は径0.8m、深さ78cm。摩滅した土器片少量が出土する。重複関係から中期末の遺構と推定される。

SK117土坑（第50図、写真図版46）

I区③IV層上面で検出。SI28より新しいと捉えられるが確実ではない。南側は調査区外に延びる。下半が広がるプラスチック状土坑である。堆積土には全体に炭化物、焼土粒が含まれ、下部は互層状の堆

積となっている。規模は開口部径が2.1m、深さ1.7cm。大木9～10式、後期初頭の土器が出土する。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK119土坑（第45図、写真図版46）

I区⑥・⑦IV層上面で検出。南側で重複するSK99より古い。円筒形に掘り込まれた掘立柱建物跡柱穴とみられる。規模は径0.9m、深さ94cm。出土遺物はない。重複関係から中期後葉の遺構と推定される。

SK120土坑（第46図、写真図版46）

I区③IV層上面で検出。北東側でSI28、SK32・42と一部重複しており、これらより新しいと捉えられる。楕円形を呈するが、壁面が一部ハンク気味に直立することからフラスコ状土坑の下部であった可能性が考えられる。規模は1.5×1.2m、深さ56cm。大木10式～後期初頭の土器が出土する。出土遺物、重複関係から中期末～後期初頭の遺構と推定される。

SK121土坑（第36図、写真図版46）

G区⑩SI24床面で検出。SI24との新旧関係は不確定だが、住居跡の付属施設ではなくSI24に切られる単独の遺構と判断している。北側は調査区外に延びる。なお、手違いにより断面図記録を欠く。規模は長さ1.2m以上、深さ58cm。重複関係から中期後葉～末の遺構と推定される。

SK122土坑（第18図）

I区⑧IV層上面で検出。北東側でSK64と接するが新旧関係は不明。手違いにより断面図記録を欠く。円筒形に掘り込まれており、掘立柱建物跡柱穴の可能性が考えられる。規模は径1.0m、深さ61cm。出土遺物はない。周辺の遺構群と同様に中期後葉～末の遺構と推定される。

（4）掘立柱建物跡

前項の（3）土坑で記載したように、明瞭な柱痕跡を持つ大型の柱穴群が多数検出されている。これらは土坑として登録、精査を行っており、個々の状態については前述のとおりである。野外調査段階では掘立柱建物跡の認定には至っていない。

柱痕跡の存在から掘立柱建物跡柱穴と断定できるものに加え、円筒形に掘られた形状の特徴から柱穴の可能性が高いものが複数認められる。また、土坑として登録精査した遺構の他に、小柱穴として記録したもののうちP231・359等、開口部径が小ぶりでも深さ80～90cmに達する遺構は、掘立柱建物跡柱穴になり得るものが含まれていると考えられ、これらを抽出して図示した（第51～53図）。

分布状況はF区⑬からG・I区⑬区にかけての約50m程度の範囲内にまとまる。特に、G・I区⑤～⑧の区域では40基近くの集中が見られると同時に、他種類の遺構が極端に少ないことから、掘立柱建物跡が集中していた区域と考えられる（第52図）。

現状では、調査区の制約等により確実な建物跡の抽出は果たせていない。長谷堂貝塚第10次調査成果に基づく分析では4本柱による正方形、長方形建物跡が把握されていることから（阿部2005）、今次調査区も同様の形態を取る可能性が高いと考えられるが、今のところやや歪んだ方形プラン複数を認識している状態である。方形以外に、五角形、六角形等のプランが存在した可能性も想定すべきか。

(5) 配石遺構

今回の調査区では、全体に崖錐性堆積物に由来すると推定される角礫、亜角礫が遺物包含層中に多量に含まれており、特に平成29年度調査区では顕著である。このため配石遺構の認定にあたっては第三章に記載しているように、一定程度の大きさとなる礫の集中、明らかな立石を含む礫の集中、意図的な礫の配置が想定されるものを抽出している。概ね5cm以上の礫は一旦残しながら掘り進め、集中状態を確認した。縄文時代の配石遺構としては以下の合計9基を数える。なお、配石遺構に使用した礫素材については、非常に遺憾ながら石材の確認に至っていない。

SQ01配石遺構（第54図、写真図版47）

B区②bⅡ層下部で検出。南北に延びる弧状の石列（長1.8m）と、その中間から東に突出する石列（長1.7m）の組み合わせからなる。西側縁辺には扁平礫が直列で並び、これに接して一回り小さい礫を並列させている。中央に平置きした礫から東に石列の突出を設けており、全体としては「T字形」もしくは「鉤形」を意識したと考えられる。礫の底面レベルはほぼ揃い、平坦面上に配置した状態。配石工部はトレンチにより下部構造の有無を確認したが検出されない。礫の間隔等から大木8a～9式段階の土器片が出土した。

SQ02配石遺構（第54図、写真図版47）

B区②bⅡ層下部で検出。SQ01の北西にあり、両者の間隔は40cm程度。平面的には1.4m四方の範囲内にランダムな礫の配置となっている。南端付近では長60cmのやや扁平な棒状礫が立石状態で出土した。構築時から立石として設置されていたものと考えられる。また、これと対向する位置の北端では長55cmの棒状礫が横位で出土しているが、これも立石として設置されていた可能性がある。両者が立石とすれば、南東側と北西側とで2単位に分かれて設置されたとも見受けられるが定かではない。本遺構下位も下部構造等は検出していない。礫隙間から大木10式段階の土器片が出土した。SQ01と出土土器に違いはあるが、遺構としての時期差はないものと推定される。

SQ03配石遺構（第54図、写真図版47）

B区③aⅡ層下部で検出。SQ02から北西側に1m余り離れる。平面的には1辺1m余りの方形の石囲炉に類似した状態に礫が配置されるが、断面図に示したように直立した礫が主体となる点、内側に焼成の痕跡が見られない点で炉と区別される。特に南端、北端には長50～60cmの棒状礫が直立状態で設置されている。下部構造は検出していない。礫隙間からは中期後葉の土器片が少量出土している。

SQ04配石遺構（第54図、写真図版47）

B区③aⅡ層下部で検出。SQ03から西に80cm程の間隔がある。本遺構はSQ01～03と異なり、10～20cm程度の小型の扁平亜角礫を、径35cm程の範囲内に集中させたものである。周囲のⅡ層中には礫出土がほぼ見られない。また礫は短辺を上下にして立てた状態で並立させており、人為的な集中と判断した。下部構造は見られない。

SQ05配石遺構（第54図、写真図版47）

B区①a、F区①にまたがり、SI09の堆積土上部で検出した。長20～30cm大の扁平亜円礫複数枚を

用い、やや斜めに立てかけるように並べている状態である。これも周囲の礫分布とは明らかに異なる特徴から、配石遺構と認識した。下部構造は検出していない。

SQ06配石遺構（第55図、巻頭カラー写真、写真図版48）

G区①のSI23堆積土下部で検出。掘り下げの過程で最初に大型の円形扁平礫を検出し、それに接続する礫群の確認に至った。西端でSI23石囲炉の一部を覆う関係となる。また、SK51・65より新しい。全体形状は西端に径50cm強の円形扁平礫を平坦に置き、これを頂点として東北東に向けて扁平棒状礫を並べ、幅の狭い扇形を呈する配置である。第55図右に示したように長30～40cmの大きめの礫を3列、等間隔で直列に配置して外郭線と中軸線を設け、この隙間を長10～20cm大の礫で充填している状態で、明らかに意図的な配置と捉えられる。北側外郭線東端の欠落は、設置後に移動した可能性がある。隙間の小礫は横断面(BB'・CC')に見るように短辺を縦に置いてほぼ密着するように充填される。礫底面レベルはほぼ揃う状態である。規模は全長185cm、東側の最大幅は約100cm。直下にSK51(第35図)を確認した。配石下部土坑の可能性がある。出土遺物は礫の隙間等から大木8b～10式、後期初頭段階の土器が出土する。特殊な遺物の出土は見ない。SI23、SK51の年代観が中期末～後期初頭と判断していることから、本遺構も同様の時期と推定される。

SQ09配石遺構（第38図、写真図版48）

G区⑨・⑩、I区⑨・⑩のSI25堆積土上部で検出。住居跡北西部上位の礫集中、住居跡中央上位の礫集中に2分割される状態となっている。北西側は長40～70cm大の扁平礫を多数、同一平面上に隙間無く並ぶように配置しており、全体としては2.5×1.5mの東西に長い長方形、ないし帯状の礫集中範囲を形成する。一方中央部は長50～70cm大の棒状扁平礫を用い、北西～南東の向きに揃えて並列させた状態で、更にその外周を短辺側で直立させた扁平礫によって弧状に囲む配置と捉えられる。住居跡中央床面にはこの外周礫を設置した溝状の痕跡が残る。礫の隙間からは大木8a式～10式、後期初頭、晩期前葉の土器片が出土するが、このうち大木10式～後期初頭段階の土器が主体であり遺構時期もこれに求められるかと推定される。

両者の礫集中はSI25のプランと関連が強いものと考えられ、SI25北東壁際の石列を加えた全体としては、北西側に張出部を持つ柄鏡形の住居に近い構造と捉えられよう。

SQ10配石遺構（第55図、写真図版49）

G区⑫・⑬、I区⑫・⑬のSK73上位で検出。SK73に切られるSI28よりも新しい。調査工程上、G区内の北半とI区内の南半を分割して精査している。全体では2.2×1.7mの長方形の範囲内に長40～60cm大の大型扁平礫を敷きつめた状態となっている。子細に見ると、中央の南北中軸線上には6個の礫扁平礫を並列させる。北半の両側は長70cm大の大型礫を内部を囲うように設置し、南半の両側は20～30cm大と一回り小型の礫で囲む状態となっている。全体的には意図的な礫配置がなされた可能性が高いと判断している。下位のSK73は本遺構の直下にあることから、配石の下部構造であった可能性が想定されるが、両者を関連づけた精査を行っていないため確証を得ない。

SQ13配石遺構（第56図、写真図版49）

G区⑫Ⅱ層下部～Ⅳ層上面で検出。SK83、P290・291の上面に設置される集石状の配石遺構である。20～30cm大の亜角礫が約110×90cm程の範囲に集中する。礫の配列には特に規則性は認められない。

本遺構直下にあるSK83、P290については、配石範囲とずれがあるため下部構造とは判断していない。

(6) 埋設土器

土坑内に埋設した痕跡が認められるものを3基確認している。

SR01埋設土器（第56図、写真図版49）

F区②・③境の掘り下げ中に底部が露出し、精査の結果、完形深鉢を倒立、やや南側に傾けた状態に埋設したものと判明した。断面の観察によれば、Ⅱ層下部上面から小規模な土坑がⅢ層下位まで掘り込まれ、土器が設置された状態と判断される。土器上部はⅡ層上部が覆い、掘り方の土坑内堆積土と同相であることから、埋設時には土器上半が地表上に突出した状態であったと考えられる。土器(a314)は一切破損がなく完全な状態を保っている。器面には二次被熱等は観察されない。長胴形の深鉢でL R縄文を縦位に施しており、中期末段階と推定される。

SR02埋設土器（第56図、写真図版49）

E区④東側調査区境で検出。Ⅱ層上部から径30cm弱の円形小土坑が掘り込まれ、この内部に小型の深鉢形土器(a315)が正立状態で埋設される。土器は口縁部を欠き、胴部中位から底部までの残存である。埋設時にはすでに口縁部を欠損していたと判断される。土器内部は均質な黒色シルトが充填され、焼土、炭化物等は確認できない。土器はR L縄文を縦位に施した中期末葉の深鉢である。

SR03埋設土器（第56図、写真図版49）

G区②で検出。当該土器破片が直立することから下部の精査を行った結果、径30cm程の円形小土坑を掘りこの内部に深鉢形土器胴部片(a316)を倒立状態で設置していることが判明した。土器内外含まれ雑物の少ない黒色シルト層が堆積する。土器直下に拳大の礫があるが埋設土器との関連は不明。土器はR L縄文を縦位に施した中期末段階の深鉢で、半周の残存である。

(7) 遺物包含層（第57・58図、写真図版50）

調査区は北端、南端を除き、およそ8割方に遺物包含層が形成されている状態となっている。第58図に遺物取り上げの単位とした区画ごとの土器重量を階層別に図化した。今回の調査で採用した取り上げ区画は、蛇行する調査区に合わせた任意のラインで構成しており、個々の区画面積は異なるため等面積での比較とはならないが、全体の遺物密度の傾向を示すことを目的とした場合には誤差の範囲に収まると判断している。

これによると、北端はH・J区①付近、南端はE区①付近の間に包含層範囲がほぼ限られており、これより外側の出土量は非常に少ない。包含層内では北側のG・I区⑭～⑳付近、南側のB・F区④～⑩付近に遺物包含密度の濃厚な一帯が認められる。双方のエリアは貝層分布と完全に重複しており、貝層が遺物包含層の一部を形成していることを示している。

一方、調査区中央部の遺構密度が大きい区域（B・F区⑬～G・I区⑬付近）では、遺構内堆積土から出土した遺物量が多く、遺物包含層出土として取り上げた土器量は少ない傾向がある。更に、遺構内外の合計値も前記の出土量が多い区域と比較して小さいものとなる。端的には、遺構が多く遺物が少ないエリアを中心に、その両側に遺構が少なく遺物が多いエリアが分布すると捉えられる。

遺物包含層の層序は一部の区画境界断面、調査区境断面で記録した。B区⑤⑥境界断面ではⅡ層上

部・中部は黒褐色シルト、下部はやや明色となり暗褐色シルトである。これに連続するF区⑤⑥境界断面ではⅡ層中部に焼土粒の含有が見られる。B区⑧⑨境界断面ではⅡ層上部・中部とも黒褐色シルトで、中部がやや明色、下部は比較的礫の混入が少なく焼土粒・炭化物の含有が目立つ暗褐色シルトで部分的に焼土ブロックが形成されている。この他、断面図記録は欠落するが、G区南東部側の包含層においてはⅡ層中に角礫が非常に多く含まれ、遺物量は比較的少ないのに対し、G区北西部ではB区と同様に黒色～黒褐色シルト層が卓越し、遺物密度が大きいという変化が認められる。

全体に共通して、混入物が多く人為的に形成された包含層的な層相が観察され、下位Ⅲ層が均質な黒色土で夾雑物を含まない状態とは対照的であり、Ⅱ・Ⅲ層界は明瞭である。ただし、Ⅱ層の分層についてはⅢ章に記載したように上部・中部・下部に3分しているが、地点によりその層相は異なる状態であり、全域に共通する分層は違わなかった。

なお、包含層中では焼土層の広がりをも2箇所で見出ししている。1箇所はB区⑩b・⑪bにまたがり、Ⅱ層中部相当の層相に広がる橙色に被熱した現地性の焼成面である(第11図遺構配置図)。規模は南北2.5m、東西1.5mの範囲に広がり焼土厚は最大約10cm。南西部は隣接するSI09に切られる状態を確認した。もう1箇所はG区⑯・⑰にまたがって分布し、Ⅱ層上部に広がる焼土層である(第14図遺構配置図)。焼成の状態は前者と同様に橙色を呈する現地性の焼成面と判断される。規模は南北3.7m、東西3.0mの範囲で、焼土厚は平均10cmである。北西部の一部は貝層10bの上位に位置する。

(8) 貝 層 (第59～61図、写真図版51～54)

貝層は南北の遺物包含層内から小範囲の貝層ブロックが点在する状態で確認された。貝殻の集中を検出した時点で確認順に貝層01～12の番号で登録し、貝殻の分布状態によって更にa・b・cへと細分して記録した。いずれの貝層もほぼ純貝層に近い状態であったこと、大半の貝殻集中ブロックが小規模であったこと等により、廃棄単位を捉えて取り上げることは断念し、貝層別の悉皆取り上げを行った。このうち規模の大きい貝層10・12については、それぞれ大別2層に分層が可能な状態であり、間層の混土貝層を目安として上下2層に分層した。

貝層の分布域は第59図に示したように南東部、北西部に分かれる。南東部貝層群は、第10次調査区(県埋文2004)の東側で大船渡市教育委員会の試掘調査によって把握された貝層に隣接する。同様に北西部貝層群は、西側に隣接して確認されていたA地点貝層(第1次調査検出:西村1959)が今回の調査区内に拡大して分布していたことを示す(第7図)。

このうち南東部の貝層群では貝層01～09を確認した。貝層04・05・06・07・09については分布が散乱する箇所があり、細分を行った。この中で平面的な規模の大きいものとしては貝層04が南北約3.5m、貝層09が南北約3mに達する。貝層05は散乱範囲が3.7m範囲に広がるが断続的であり実質的な規模は前二者より小さい。貝層の取り上げ総量で比較すると、貝層09が約230ℓ、貝層04が103ℓ、貝層05が72ℓと続く。これら以外では、貝層01は径約1.6mに広がるが、層厚が6cmと薄く取り上げ総量は9ℓ程である。貝層02・06・07・08は小規模であり、貝層08は精査ミスによりカウントしていない。

これらの南東部貝層群は南北約22mの範囲に分布する。層厚はいずれもⅡ層包含層の中位～下位での検出で、共存土器資料は木大9式段階が主体である。合わせて、貝層01と07の中間付近ではやや残存状況の不良な獣骨片がまとまる範囲を確認した。

北西部貝層群のうち、貝層10は今次調査で確認した貝層のうち最も規模が大きく、南北約6m、東西約5mの広がりを持つ。また、南東部では貝層の分布が途切れる部分にイヌを主体とした獣骨の集中区があり、更に外側に貝層10bとした小規模なまとまりを確認した。貝層10は十字に設定したベル

ト断面で貝層内層序の確認を行ったところ、層厚5～10cm前後の混貝土層を境として上層の混土貝層、下層の純貝層と上下に2分割できる状態であることが判明した。上層の一部には褐色シルトブロックが含まれ、断面を記録した地点では全体の6～7割が貝、残りが土壌という状態である。中間混貝土層は全体に分布し上下層を区分している。下層はアサリを主とした純貝層で10～20cm前後の層厚があり、下面は波打つ状態となっている。ベルトも含めて最終的に全ての貝を回収した結果、取り上げ総量は1,356ℓ、1,146kgを計量している。

貝層10の南東部では、イヌ骨を主とした獣骨類の集中を検出した。正確には貝層分布範囲から外れた部分で、破砕貝が散漫に分布する土壌を掘り下げて確認したものである。集中は径約1.2mの範囲に広がる。検出状況を第60図に示した。イヌ骨の各部位は一見散乱状態と見られたが、大腿骨や脛骨等の四肢骨左右、下顎骨左右が接している部分が多いことから、解剖学的な原位置を留めた状態から現地で小規模な移動が累積したものと推測している。イヌ個体数は、歯牙から最小個体数を算定した結果、9個体と判断した(第44表)。

イヌ骨以外ではニホンジカ、イノシシがある他、ほぼ完存のヒト上腕骨、ヒト頭骨、舟状骨、頸椎、大白歯が出土している。上腕骨以外はイヌ骨集中からやや北側に外れた貝層10上層内で検出した(第60図)。これらが同一個体由来するかどうかは不明で、仮に埋葬を想定した場合にも、埋葬姿勢の確認は不能である。また、骨以外としては骨集中南西部の同一面から、ニホンジカ節節骨を用いた垂飾品、同中足骨製刺突具、大型の石棒が出土した。

貝層12は貝層10の南側に位置し、北西-南東に細長く伸びる。貝層下位ではⅡ層下部面に溝貝分布と重なる溝を確認したことから、貝廃棄場所として予め溝状の掘り込みを用意した可能性が考えられる。分布範囲は長軸4m超に達し、232ℓ、186kgの貝層を回収している。断面観察により上層のマガキが目立つ混土貝層、下層の巻貝が少ない混土貝層に区分した。

上記、貝層の時期は内部に含まれる土器片、及び上下の遺物包含層の年代観を踏まえ、いずれも大木9式～同10式前半の時間幅内に収まるものと捉えている。理化学的な年代測定は実施していない。

(9) 小柱穴

調査区全域において径30～60cm程度、深さ20～60cm程の柱穴とみられる小規模な土坑を検出している。名称として妥当とは言いがたいが小柱穴として登録、精査を行った。分布はB・F区北半以北に偏在し、合計345基を数える。この中にはB区北端遺構群付近で密集する堅穴住居跡等に伴う柱穴をカウントしている他に、G・I区において縄文時代の掘立柱建物跡を構成する柱穴、H・J区で集中する近世建物構成する柱穴が含まれる。第10表には、特定の堅穴住居跡付属柱穴である可能性が高いと考えられる場合に、埴屋遺構名を記載した。南端のA・D・E区に散在する小柱穴には単独で存在するものが含まれ、その性格は判然としにくい。

なお、木根や動物巣穴等の人為的な遺構以外の誤認、また近代以降の耕作や道路敷設工事による擾乱等が含まれている恐れは多分にあるが、個々の検討が不十分であり明確な区別はできていない。

第2表 竪穴住居跡一覧

遺構名	図	写真	区域	規模	深 (cm)	炉	時期	特記事項
SI01	20	4	A区④～⑥	径7.3m	35	石囲炉1	大木7b～8a	
SI02	21	5	B区③b	径2.5m程	32	石囲炉1	大木9	堆積土中に貝層06
SI03	21	6	B区③	-	25	石囲炉4	大木9	
SI04	22・23	7・8	B・F区⑥～⑧	径5.7m	54	石囲炉1・複式炉1	大木9	剥片集中伴う
SI05	23	9	B区③	径2.5m程	17	複式炉1	大木9～10	
SI06	24	9	B区③	-	-	石囲炉1	大木9	炉周辺のみ検出
SI08	24・25	9・10	B区③～⑤	径6m程	29	石囲炉1	大木8b～9	
SI09	26	11-12	B・F区⑩⑪	径7m程	79	石囲炉1	大木9	堆積土中炭化物多量
BI区北端遺構群	27～32	13～16	B・F区⑫～⑯	-	-	複式炉3・石囲炉4・ 地床炉1	大木9～10	8棟以上の重複
SI13	32	16-17	F区⑬～⑮	径4.3m	42	石囲炉1	大木9	
SI14	33	17	B区③	径3m程	34	石囲炉1	大木9	
SI15	33	17-18	B・F区⑱⑲	径7m程	-	石囲炉1	大木9～10	
SI16	27	18	B区⑳	-	-	-	大木9～10	一部分の検出
SI17	27		B区㉑㉒	径4m程	32	-	大木10	一部分の検出
SI18	34	18	F区⑯	-	19	石囲炉1	大木9	剥片集中伴う 一部分の検出
SI20	34	18	F区㉓㉔	-	39	-	大木9～10	一部分の検出
SI21	33	18	F区⑬	径2m程	21	石囲炉1	大木9～10	一部分の検出
SI23	35	19	G・I区①	径8m程	-	石囲炉1	大木10～門前	堆積土中にSQ06
SI24	36・37	20	G・I区①②	径6m程	-	複式炉2	大木10	
SI25	37・38	21・22	G・I区③④	径6m程	-	-	大木10	堆積土中にSQ09
SI26	39	22-23	G・I区⑤⑥	径6m程	-	地床炉2	大木10～門前	
SI27	39	23-24	G区⑦	2.6×2.0m	21	石囲炉1	大洞C2	
SI28	40	24-25	G・I区⑥⑦	-	-	複式炉1	大木9～10	
SI29	39	23	I区⑧	-	8	地床炉1	大木10～門前	
SI30	35	25	I区①	径5m程	31	石囲炉1	大木10～門前	

第3表 竪穴住居跡付属炉跡一覧

()残存値

遺構名	図	写真	形態	全長(cm)	規模(cm)	焼土厚(cm)	特徴
SI01炉	20	4	石囲炉	64	62×48	4	
SI02炉	21	5	石囲炉	-	-	-	
SI03-1号炉	21	6	石囲炉	56	56×48	-	
SI03-2号炉	21	6	石囲炉	66	66×53	-	
SI03-3号炉	21	6	石囲炉	48	48×30	-	
SI03-4号炉	21	6	石囲炉	48	48×40	-	
SI04-1号炉	22-23	8	石囲炉	54	54×51	3	
SI04-2号炉	22-23	8	複式炉	215	75×54	5	石囲炉+前底部掘り込み
SI05炉	23	9	複式炉	146	63×49	-	石囲炉+前底部掘り込み
SI06炉	24	9	石囲炉	54	54×(24)	-	
SI08炉	24-25	10	石囲炉	(106)	(106)×86	10	焼成面上面硬化
SI09炉	26	12	石囲炉	(63)	(63)×94	4	
SI10-1号炉	29	14	複式炉	135	第1室：49×40 第2室：62×52 第3室：70×60	第1室：6 第2室：7 第3室：4	第1室と第2・3室で分割の可能性あり 第2室に斜位埋設土器伴う
SI10-2号炉	29	14	地床炉	76	76×55	3	
SI11-1号炉	29	15	複式炉	147	第1室：89×(31) 第2室：71×(72)	第1室：2 第2室：2	
SI11-2号炉	29	15	石囲炉	35	35×31	2	
SI12-1号炉	29	15	石囲炉	56	56×(49)	-	
SI12-2号炉	29	15	石囲炉	54	54×31	-	
SN11	29	15	土器埋設石囲炉	69	69×60	6	
SN14	29	15-16	複式炉	73	73×54	6	
SI13炉	32	16-17	石囲炉	55	(55)×(50)	-	石囲外側に焼成面
SI14炉	33	17	石囲炉	69	69×50	-	
SI15炉	33	17-18	複式炉	(175)	(175)×100	7	石囲炉+前底部掘り込みか
SI18炉	34	18	石囲炉	63	63×54	-	
SI21炉	33	18	石囲炉	45	47×43	-	
SI23炉	35	19	石囲炉	110	110×(45)	-	
SI24炉-1号炉	36-37	20	複式炉	190	第1室：120×100 第2室：80×75	-	石囲炉+石囲炉 第1室に斜位埋設土器伴う
SI24炉-2号炉	36-37	20	土器埋設炉	45	46×35	4	石囲炉内に斜位埋設土器
SI26-1号炉	39	23	地床炉	77	77×30	-	
SI26-2号炉	39	23	地床炉	96	96×78	-	
SI27炉	39	23	石囲炉	58	58×57	-	
SI28炉	40	25	土器埋設炉	105	105×90	-	埋設土器2個体
SI30炉	35	25	石囲炉	100	100×(50)	-	

第4表 炉跡・焼土遺構一覧

()残存値

遺構名	図	写真	区域	形態	全長	規模(cm)	焼土厚(cm)	特徴
SN01	41	26	B区①	土器埋設石囲炉	50	50×47	6	
SN02	41	26	C区④	地床炉	99	99×54	5	
SN03	41	26	C区④	土器埋設石囲炉	(60)	(60)×58	-	埋設土器2個体
SN04	41	26	B区②a	土器埋設石囲炉	(85)	(85)×(77)	14	
SN06	41	27	B区②a	土器埋設石囲炉	(58)	(58)×49	7	
SN07	41	27	B区④a	石囲炉	52	52×52	3	
SN08	41	27	B区②a	土器埋設石囲炉	(60)	(60)×(40)	10	
SN09	41	27	B区③a b 境	土器埋設石囲炉	67	67×59	7	
SN12	42	28	B区②b	地床炉	33	33×33	4	
SN13	42	28	B区②b	複式炉	115	第1室：50×40 第2室：(75)×(43)	4	土器埋設石囲炉+前底部
SN17	42	28	F区③	石囲炉	(53)	53×(53)	5	
SN18	42	28	F区⑦	石囲炉	64	64×54	5	
SN19	42	28-29	G区③	石囲炉	21	21×14	4	
SN20	42	29	I区③b	地床炉	110	110×(40)	15	
SN21	42	29	I区③b	地床炉	70	70×(43)	18	

第5表 土坑一覧

単位: cm () 残存値

遺構名	図	写真	区域	タイプ	長径	短径	深さ	備考
SK01	43	30	B区①	フラスコ	124	115	112	
SK04	43	30	C区①		123	116	20	
SK05	41	30	C区③④	フラスコ	116	111	76	SN03より古
SK09	43	30	B区⑩	小柱穴	(86)	(32)	83	SK10より古
SK10	43	30	B区⑩	小柱穴	53	(23)	53	SK09より新
SK11	43	30	E区①		320	258	44	攪乱か
SK12	43	31	B区⑩		(130)	(34)	50	
SK13	43	31	B区⑩	フラスコ	(97)	(40)	45	
SK14	43	31	E区③④		131	113	38	
SK15	10	-	D区	鋼木痕	259	(90)	76	
SK16	43	31	F区⑬	鋼木痕	137	117	94	
SK17	43	31	F区⑬	柱穴	109	88	98	SI04より新
SK18	27	32	F区⑭	柱穴	113	97	106	SI20より新
SK19	44	32	F区⑬		(172)	(70)	51	SI09より新
SK20	44	32	F区⑭		142	82	60	SI15より新
SK21	44	32	F区⑭	柱穴	127	87	85	SI15より新
SK22	44	32	F区⑰		132	89	29	
SK23	34	33	F区⑱		(130)	(63)	32	SI13-18より新
SK25	44	33	G区①		(101)	(98)	(28)	
SK26	44	33	G区⑥⑦	柱穴	93	80	119	
SK27	44	33	G区①③	フラスコ	158	134	38	
SK28	45	33-34	G・I区⑥	柱穴	116	96	79	SK37・98より新
SK29	45	34	G区⑩	フラスコ	99	56	130	
SK30	45	34	G区⑩	柱穴	112	85	79	SK33より古
SK31	44	34	G区①⑤	フラスコ	121	15	88	
SK32	46	34	G区⑬	柱穴	(73)	(73)	93	SK42・120より古
SK33	45	34	G区⑩	柱穴	(85)	(83)	92	SK30より新
SK34	45	34-35	G区⑩	柱穴	90	60	95	SK30より古
SK35	46	35	G区⑤⑥	柱穴か	(88)	(74)	53	SK36より古
SK36	46	35	G区⑤⑥	柱穴か	177	135	109	SK35より新
SK37	45	33	G区⑥	柱穴	171	127	82	SK28より古
SK38	46	35	G区⑥	柱穴	130	97	97	SK45・46より新
SK39	46	35	G区⑤⑥	柱穴	160	121	63	SK46より新
SK40	45	36	G区⑦	柱穴	133	123	84	ミニチュア土器出土
SK41	46	36	G区⑦⑧		137	118	70	SK43より古
SK42	46	34	G区⑬	柱穴か	(127)	(55)	99	SK12より古 SK32より新?
SK43	46	36	G区⑩	柱穴	110	106	101	SK41より新
SK44	45	36	G区⑦	柱穴か	(124)	(100)	61	SK40より古
SK45	46	35	G区⑥	柱穴か	72	68	57	SK38より古
SK46	46	35	G区⑥	柱穴	160	108	99	SK38より古 SK39より古?
SK47	45	36	G区⑦	柱穴か	84	55	72	SK40より古
SK48	46	36	G区⑧⑨	柱穴	78	75	55	
SK49	46	36-37	G区⑩	柱穴	84	74	49	
SK50	44	37	G区⑦	柱穴	99	73	75	
SK51	35	37	G区①		169	105	51	SQ06より古
SK52	44	37	G・I区①③	フラスコ	189	158	118	SK61より新
SK53	46	37	G区⑥	柱穴	86	80	76	SK35より古
SK54	45	37	G区⑦⑧	柱穴	93	83	111	SK44より古 SK33より古?
SK55	46	37-38	G区⑥	柱穴	92	82	126	SI27より古 柱痕あり
SK56	18	38	G区⑨	柱穴	91	74	44	
SK57	44	38	G区⑥	柱穴	106	(40)	107	
SK58	44	38	G区⑥	柱穴	106	79	91	SK57より古?
SK59	18	38	G区⑤	柱穴	48	44	44	

2 縄文時代の遺構

単位：cm ()残存値

遺構名	図	写真	区域	タイプ	長径	短径	深さ	備考
SK60	18	38	G区⑤	柱穴	75	60	59	
SK61	44	38	G区⑤		108	62	49	SK52より古
SK62	18	38	G区⑤	柱穴	57	47	38	
SK63	47	38-39	G・I区⑥⑦	柱穴	113	90	86	
SK64	46	39	G区⑧	柱穴	82	69	74	SK41・43より古?
SK65	17	39	G区①	柱穴	105	86	52	SK51より古
SK66	17	39	G区①	柱穴	85	72	45	SI23より新
SK67	47	39	G区④	柱穴	132	116	96	
SK68	47	39	G・I区④	フラスコ	143	140	194	
SK73	47	40	G区③		249	157	46	
SK74	47	40	G区③	フラスコ	144	116	128	SI26より新
SK75	47	40	G区③		(189)	(76)	38	SI25より新
SK76	48	40	G区⑨		122	105	33	SK77より古 付属Pitあり
SK77	48	40-41	G区⑨⑩	フラスコ	138	132	73	SK76より新
SK78	48	41	G区③	フラスコ	163	82	110	
SK79	48	41	G区①②	フラスコ	141	106	104	
SK80	48	41	G区①②	柱穴	86	(44)	116	
SK81	36		G区④		87	(59)	41	SI24より新
SK82	48	41	G区②③	柱穴	92	90	92	柱痕あり
SK83	17	41	G区②	フラスコ	139	133	162	
SK84	48	42	G区②	柱穴か	128	70	92	P292より新
SK85	17	42	G区①		116	85	23	SI23より新
SK87	48	42	I区③	フラスコ	93	85	50	貝層12より古
SK88	48	42	I区①	フラスコ	112	94	70	SI23-SK111より新
SK90	49	42	I区①②		139	81	66	
SK91	49	43	I区②	柱穴か	112	49	98	SK92より古
SK92	49	43	I区②	柱穴	(94)	(59)	60	SK91・112より新
SK93	35	43	I区①	柱穴	100	78	62	SI30より新
SK94	49	43	I区③	フラスコ	193	150	170	SK97より新 付属Pitあり
SK96	49	43	I区④	フラスコ	104	93	120	
SK97	49	43	I区③	フラスコ	123	108	185	SK94より古
SK98	45	43	I区⑥	柱穴か	99	54	63	SK28より古
SK99	45	44	I区⑥	柱穴	83	75	119	SK119より新 柱痕あり
SK100	50	44	I区⑥		110	57	52	
SK102	50	44	I区⑦	柱穴	80	59	87	SK108より新
SK105	50	44	I区⑦	フラスコ	(122)	(61)	147	SK106・107より古
SK106	50	44-45	I区⑦⑧		128	112	107	SK105より新 SK107より古
SK107	50	45	I区⑦⑧		101	91	58	SK105・106より新
SK108	50	44	I区⑦	柱穴	77	(64)	75	SK102より古
SK109	50	45	I区⑩⑪	柱穴	87	(36)	74	
SK110	50	45	I区⑩	柱穴	96	84	82	柱痕あり
SK111	48	45	I区①		122	(40)	30	SK88より古
SK112	49	43	I区②		94	(49)	35	SK92より古
SK113	50	45	I区③	柱穴	81	47	104	柱痕あり
SK114	50	45-46	I区⑥	柱穴	97	69	50	SK115より古
SK115	50	45-46	I区⑥	柱穴	107	97	93	SK114より新
SK116	40	46	I区⑩	柱穴	78	57	78	SI28より新?
SK117	50	46	I区⑩	フラスコ	212	177	117	
SK119	45	46	I区⑥⑦	柱穴	95	83	94	SK99より古
SK120	46	46	I区⑩	フラスコ	154	118	56	SK32・42より新
SK121	36	46	G区⑨		(121)	(25)	58	
SK122	18		I区⑧	柱穴	105	90	61	

第6表 配石遺構一覧

遺構名	図	写真	区域	規模(cm)	特徴	備考
SQ01	54	47	B区②b	170×162	弧状石列内に石敷き 錠形か	
SQ02	54	47	B区②b	132×78	立石伴う	
SQ03	54	47	B区③a	100×80	石囲状 立石伴う	
SQ04	54	47	B区③a	34×26	扁平小礫を並べ立てた状態	
SQ05	54	47	B区③a	86×36	扁平礫を並べた状態	
SQ06	55	48	G区①	185×100	幅狭の扇形配置	SK51：下部土坑か
SQ09	38	48	G・I区⑨⑩	250×150	扁平礫の集中2箇所 柄杓形か	SI25堆積土中
SQ10	55	49	G・I区⑯⑰	220×170	扁平礫の集中	SK73：下部土坑か
SQ13	56	49	G区②	106×84	直角礫の集中	

第7表 区画別土器重量集計

区画名	土器重量 (g)	区画名	土器重量 (g)	区画名	土器重量 (g)	区画名	土器重量 (g)
A区①	1,821	B区⑭	35,774	F区⑧	23,849	G区⑨	36,150
A区②	2,517	B区⑮	42,207	F区⑨	5,913	H区①	4,199
A区③	3,639	B区⑯	19,066	F区⑩	3,623	H区②	496
A区④	27,013	B区⑰	23,568	F区⑪	5,772	H区③	202
A区⑤	42,633	B区⑱	15,654	F区⑫	504	H区④	108
A区⑥	24,393	C区①	17,375	F区⑬	778	H区⑤	114
B区①	15,410	C区②	12,988	F区⑭	556	H区⑥	114
B区②a	18,716	C区③	7,040	F区⑮	1,123	H区⑦	157
B区②b	20,545	C区④	13,750	F区⑯	1,987	I区①	20,656
B区③a	29,783	D区②	335	F区⑰	6,794	I区②	5,220
B区③b	18,312	D区④	331	F区⑱	1,868	I区③	12,089
B区④a	69,942	D区⑤	28	F区⑲	805	I区④	4,537
B区④b	36,351	D区⑥	123	F区⑳	28,360	I区⑤	2,514
B区⑤a	70,534	D区⑦	567	G区①	39,962	I区⑥	3,809
B区⑤b	50,176	E区①	538	G区②	28,425	I区⑦	6,005
B区⑥a	86,965	E区②	460	G区③	6,105	I区⑧	4,025
B区⑥b	49,965	E区③	514	G区④	10,198	I区⑨	1,809
B区⑦a	83,664	E区④	1,361	G区⑤	10,215	I区⑩	5,426
B区⑦b	65,493	E区⑤	1,824	G区⑥	24,810	I区⑪	5,136
B区⑧a	72,834	E区⑥	2,924	G区⑦	25,767	I区⑫	5,057
B区⑧b	63,824	E区⑦	826	G区⑧	14,499	I区⑬	16,061
B区⑨a	88,719	E区⑧	2,860	G区⑨	13,014	I区⑭	15,095
B区⑨b	91,883	E区⑨	20,696	G区⑩	18,322	I区⑮	27,058
B区⑩a	53,580	E区⑩	25,163	G区⑪	26,553	I区⑯	1,114
B区⑩b	41,510	E区⑪	6,639	G区⑫	13,145	I区⑰	533
B区⑪a	56,370	F区①	8,317	G区⑬	29,194	I区⑱	525
B区⑪b	30,911	F区②	9,173	G区⑭	36,220	I区⑲	239
B区⑫a	11,252	F区③	23,846	G区⑮	39,876	I区⑳	515
B区⑫b	58,602	F区④	43,167	G区⑯	103,027	J区①	258
B区⑬	34,622	F区⑤	29,843	G区⑰	129,525	J区②	65
B区⑭	63,303	F区⑥	33,153	G区⑱	74,426	J区③	20
B区⑮	54,806	F区⑦	25,039	G区⑲	69,133	J区④	66

第8表 貝層一覧

名称	区域	写真	規模 (cm)	最大層厚 (cm)	貝層試料取り上げ総量		二次選別対象 (g)	選別割合 (%)	備考
					容量 (ℓ)	重量 (g)			
貝層01	B区⑤ a	51	163×125	6	9	1,363.6	1,363.6	100	
貝層02	B区⑤ a		24×15	1	4	50.9	50.9	100	SI②内の堆積
貝層03			-	-	-	-	-	-	登録抹消
貝層04	B区⑨ b ⑩ b	51	348×150	16	103	93,780.7	77,715.3	83	a～fに細分
貝層05	B区⑦ b ⑧ b	51-52	374×96	16	72	54,430.2	15,654.6	29	a～cに細分
貝層06	B区⑬ b	52	83×52	9	10	2,739.4	2,739.4	100	a～cに細分
貝層07	B区④ a ④ b	52	70×22	5	7	1,251.2	1,251.2	100	a～bに細分
貝層08	B区⑪ a	52	100×36	2	0	-	-	-	取り上げ試料なし
貝層09	F区⑥⑦	52	301×69	16	230	151,830.7	74,113.7	49	a～cに細分
貝層10	G区⑱⑳	53-54	749×287	30	1356	1,146,232.4	59,372.3	5	a～bに細分、人骨・イヌ骨出土
貝層11	I区㉑㉒		測定不能	測定不能	3	1,469.2	1,469.2	100	かなり薄い
貝層12	I区㉓㉔	54	404×82	26	232	186,631.4	29,196.8	16	溝状掘り込み内の堆積
その他					21	8,460.2	0.0	0	掘削出土物
合計					2047	1,648,239.9	262,927.0	16	

第9表 貝層試料集計

出土地点	枚数合計	重量合計(g)	二次選別対象枚数	二次選別対象重量(g)	選別割合 (%)
貝層01	9	1,363.6	9	1,363.6	100
貝層02	4	50.9	4	50.9	100
貝層04合計	103	93,780.7	49	77,715.3	82.9
貝層04一括	32	16,065.4	0	0.0	0
貝層04a	9	7,684.5	9	7,684.5	100
貝層04b	10	10,112.4	10	10,112.4	100
貝層04c	38	50,138.6	16	50,138.6	100
貝層04d	1	950.3	1	950.3	100
貝層04e	4	3,410.7	4	3,410.7	100
貝層04f	9	5,418.8	9	5,418.8	100
貝層05合計	72	54,430.2	27	15,654.6	28.8
貝層05a	69	53,405.3	24	14,629.7	27.4
貝層05c	3	1,024.9	3	1,024.9	100
貝層06	10	2,739.4	10	2,739.4	100
貝層07	7	1,251.2	7	1,251.2	100
貝層08	0	0.0	0	0.0	-
貝層09	230	151,830.7	113	74,113.7	48.8
貝層10合計	1356	1,146,232.4	60	59,372.3	5.2
貝層10QS	197	188,658.8	60	59,372.3	31.5
貝層10QN	238	170,085.3	0	0.0	0
貝層10QW	279	233,745.5	0	0.0	0
貝層10QN	525	461,961.2	0	0.0	0
貝層10その他	117	91,771.6	0	0.0	0
貝層11	3	1,469.2	3	1,469.2	100
貝層12	232	186,631.4	40	29,196.8	15.6
その他	21	8,460.2	0	0.0	0
合計	3578	1,648,239.9	322	262,927.0	16

第10表 小柱穴計測表

() 残存値

No.	検出	所属遺構	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
P1	A区①		35	23	23	30.71	
P2	A区①		17	15	18	30.73	
P3	A区①		28	20	27	30.62	a317(後期初頭)出土
P4	A区①		23	20	18	30.66	
P5	A区①		26	21	19	30.64	
P6	A区①		25	24	18	30.62	
P7	C区④		65	56	27	31.47	
P8	C区⑧		26	21	43	31.30	
P12	C区①		32	31	21	30.69	
P13	C区①		29	26	10	30.84	
P14	C区①		34	25	46	30.51	
P15	C区①		31	27	18	30.98	
P16	C区①		23	20	30	30.84	
P17	C区①		30	29	17	30.94	
P18	C区①		40	33	14	30.98	
P19	C区①		30	24	54	30.55	
P40	B区②b		45	37	46	30.33	
P41	B区②b		50	45	20	30.58	a318-319(大木8a)出土
P42	B区⑧		24	17	42	30.97	
P43	B区⑧		41	29	13	31.01	
P44	B区⑧		56	47	52	30.66	a320-321(大木8b)出土
P45	B区⑧		56	37	42	30.68	
P46	B区⑧		49	42	60	30.47	a322-323(大木9)出土
P47	B区⑧		47	29	20	30.90	
P48	B区⑧		46	29	40	30.64	
P49	B区⑧		39	33	43	30.60	a324-325(大木8b)出土
P50	B区⑧		31	24	50	30.50	
P52	B区⑨		35	25	31	30.55	
P53	B区⑨		43	37	43	30.57	
P54	B区⑨		54	38	55	30.43	
P55	B区⑨		48	36	50	30.56	
P57	B区⑨		60	49	49	30.56	
P58	B区⑨		53	39	35	30.72	
P59	B区⑨		44	35	42	30.32	
P60	B区⑨		50	43	44	30.29	
P61	B区⑨		48	26	51	30.62	
P62	B区⑨		35	28	19	30.77	
P63	B区⑧		(43)	37	55	30.43	
P64	B区⑨		23	19	26	30.72	
P65	B区⑨		31	19	27	30.74	
P66	B区⑨		36	31	36	30.65	
P67	B区⑨		45	35	37	30.68	
P68	B区⑨		(36)	27	44	30.59	
P69	B区⑨		31	25	36	30.53	
P70	B区⑨		52	38	36	30.67	
P71	B区⑧		36	35	43	30.63	
P72	B区⑧		34	23	48	30.47	
P73	B区⑧		(37)	(30)	38	30.53	
P74	B区⑨		52	49	49	30.60	
P75	B区⑨		33	23	36	30.74	
P76	B区⑨		34	30	31	30.53	
P77	B区⑨		(22)	(18)	21	30.68	
P78	B区⑨		36	32	46	30.60	
P79	B区⑧		35	29	37	30.64	
P80	B区⑧		37	32	40	30.59	
P81	B区⑨		38	28	27	30.85	
P82	B区⑨		33	24	43	30.51	
P83	B区⑨		69	48	65	30.31	
P84	B区⑨		54	40	38	30.44	

2 縄文時代の遺構

() 残存値

No.	検出	帰属遺構	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
P85	B区②		(59)	43	43	30.36	
P86	B区③		67	49	21	30.72	
P87	B区④		57	43	51	30.39	
P88	B区⑤		(21)	(16)	30	30.59	
P91	B区⑥		40	27	36	30.55	
P92	B区⑦		51	45	67	30.32	
P93	B区⑧		42	37	40	30.47	
P94	B区⑨		31	22	39	30.56	
P95	B区⑩		25	17	42	30.45	
P96	B区⑪		47	35	47	30.41	
P97	B区⑫		49	28	36	30.65	
P98	E区⑬		50	37	33	30.65	
P99	E区⑭		41	36	19	30.75	
P100	E区⑮		38	34	11	30.78	
P101	E区⑯		62	53	31	30.74	
P102	E区⑰		34	31	19	30.60	
P103	E区⑱		(43)	(14)	13	30.68	
P112	F区㉒		35	31	25	30.63	
P113	F区㉓		39	(36)	12	30.68	
P114	F区㉔		28	27	26	30.79	
P115	F区㉕		40	34	12	30.53	
P116	F区㉖		59	47	36	30.64	
P118	F区㉘		31	30	47	30.54	
P120	F区㉚		(51)	(35)	22	30.52	
P121	F区㉛		(40)	29	18	30.56	
P123	F区㉝		(29)	(22)	28	30.71	
P127	F区㉟		59	46	63	29.79	
P128	F区㊱		36	34	40	30.31	
P129	F区㊲		25	23	18	30.63	
P131	F区①		(90)	(82)	36	30.36	
P132	F区②		(41)	25	36	30.39	
P135	F区⑤	SI15	69	47	39	30.08	
P137	F区⑥	SI15	40	37	56	29.96	
P138	F区⑦	SI15	22	17	64	29.84	
P140	G区②		68	61	51	30.02	電柱移設箇所
P141	H区⑦		39	(10)	19	27.33	
P142	H区⑦		43	39	48	26.98	
P143	H区⑦		47	44	22	27.30	
P144	H区⑦		68	51	75	27.05	
P145	H区⑦		63	(20)	30	27.17	
P146	H区⑦		(46)	(28)	25	27.20	
P147	H区⑦		43	35	19	27.26	柱痕あり
P148	H区⑥⑦		55	46	55	27.01	
P149	H区⑥		51	34	24	27.34	
P150	H区⑥		(41)	(15)	11	27.55	
P151	H区⑥		29	25	19	27.48	
P152	H区⑥		42	40	83	26.94	
P153	H区⑥		51	39	21	27.44	
P154	H・J区③		40	35	55	27.81	
P155	H区③		79	72	82	27.62	
P156	H区③		73	59	45	27.62	
P157	H区③		72	51	43	27.53	
P158	H・J区④		77	61	39	27.82	
P159	H区⑤		70	60	47	27.59	
P160	H区⑥		47	37	41	27.31	
P161	H区⑥		48	39	27	27.52	
P162	H区⑥		45	37	26	27.30	柱痕あり
P163	H区⑤⑥		48	37	33	27.58	
P164	H区⑥		41	32	33	27.65	

() 残存値

No.	検出	帰属遺構	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
P165	H区⑤		(37)	(20)	30	27.85	
P166	H区④		36	34	56	27.66	
P167	J・H区④		58	44	36	27.60	
P168	H区④		20	17	測定不能	27.73	
P169	H区④		55	45	42	27.88	
P170	H区⑤		(49)	(42)	31	27.88	
P171	H区⑤⑥		39	32	30	27.68	
P172	H区⑥		33	30	31	27.63	
P173	H区⑥		48	45	18	27.57	
P174	J・H区⑤		39	22	67	27.42	
P175	H区③		33	26	30	28.05	
P176	H区③		(31)	(18)	38	28.04	
P177	H区⑤		50	41	38	27.63	
P178	H区⑤		(50)	(46)	51	27.52	
P179	H区③		60	58	74	27.73	
P180	H区③		(44)	(37)	61	27.83	
P181	H区④		90	89	56	27.42	柱痕あり
P182	H区④		37	32	19	28.13	
P183	H区④		(37)	(28)	37	27.62	柱痕あり
P184	H区⑤		67	56	49	27.48	柱痕あり
P185	H区⑥		(34)	(24)	25	27.65	
P186	H区⑤		47	39	37	27.61	
P187	H区②		33	31	30	28.40	
P188	H区①②		38	35	30	28.46	
P189	H区①		34	24	15	28.60	
P190	H区①		32	31	32	28.46	
P191	H区⑤		83	56	30	27.34	柱痕あり
P194	H区①		32	28	23	28.56	
P195	H区①		31	29	28	28.55	
P196	H区⑤		53	36	33	27.46	
P197	H区①		57	54	41	28.21	柱痕あり
P198	H区②		39	35	53	28.13	
P199	H区②		38	35	22	28.39	
P200	H区⑤		65	59	42	27.50	柱痕あり
P201	H区④		55	53	32	27.91	柱痕あり
P202	H区④		41	37	32	27.93	
P203	H区④		51	42	56	27.70	
P204	H区②		43	36	26	28.35	
P205	H区⑤		(58)	(48)	39	27.57	
P206	H区②		53	42	57	28.06	
P207	H区②		(50)	(42)	64	27.99	
P208	H区③		38	31	26	28.04	
P209	H区③		(35)	(29)	63	27.89	
P210	H区③		39	33	47	28.01	
P211	H区②		43	28	44	28.20	
P212	G区①		38	30	21	30.89	
P213	G区⑦		35	27	16	29.26	
P214	G区⑦		40	31	26	29.16	
P215	G区⑧		(41)	(14)	16	29.19	
P216	G区⑧		35	30	16	29.26	
P217	G区⑧		39	32	14	29.24	
P218	G区⑧		34	31	18	29.13	
P219	G区⑧		52	33	28	29.02	
P220	G区⑧		47	31	14	29.18	
P221	G区⑦⑧		42	40	14	29.22	
P222	G区⑧		30	24	11	29.25	
P223	G区⑧		38	36	23	29.06	
P224	G・I区⑧		49	43	16	29.08	
P225	G区⑧		48	39	20	29.14	

2 縄文時代の遺構

() 残存値

No.	出土	所属遺構	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
P226	G・I区19		63	42	26	28.86	
P227	G区19		40	28	17	29.15	
P228	G区19		31	26	27	29.27	
P229	G区19		32	29	10	29.24	
P230	G区19		30	25	13	29.36	
P231	G区(7)		60	52	66	29.37	
P232	G区(7)		55	46	46	29.51	SK47より古
P233	J区(7)		26	23	7	27.30	
P234	J区(7)		38	36	52	26.86	
P235	J区(6)		31	27	33	27.10	柱痕あり
P236	J区(6)		38	34	20	27.27	
P237	J区(6)		42	38	43	27.17	
P238	J区(6)		(31)	(25)	13	27.47	
P239	J区(6)		41	32	27	27.50	
P240	J区(6)		45	44	30	27.45	
P241	J区(5)		68	57	14	27.16	柱痕あり
P242	J区(5)		66	61	47	27.45	
P243	J区(5)		58	45	32	27.52	
P244	J区(5)(6)		59	50	62	27.17	柱痕あり
P245	J区(5)		100	76	66	27.39	
P246	J区(4)		58	52	71	27.39	柱痕あり
P247	J区(4)		44	40	36	27.67	
P248	J区(4)		44	41	42	27.80	柱痕あり
P249	H区(3)		38	32	33	28.04	
P250	H・J区(3)		52	42	40	27.88	
P251	J区(2)		50	45	27	28.21	
P252	J区(3)		29	(14)	15	27.89	
P253	J区(3)		37	31	29	27.89	
P254	J区(4)		35	32	44	27.75	
P255	I区(2)		48	45	28	28.40	
P256	J区(3)		(39)	(22)	21	27.98	
P257	J区(3)		39	35	27	27.83	
P258	J区(4)(5)		48	39	43	27.63	
P259	G区(9)	SI25	(52)	(26)	77	29.52	
P260	G区(9)1	SI24 ?	63	53	72	28.89	
P262	G区(9)	SI25	(90)	(72)	48	29.28	
P263	G・I区(9)	SI25	65	44	74	28.92	
P264	G区(9)	SI25	(90)	(72)	50	29.26	
P265	G区(9)	SI25	(80)	(19)	35	29.29	
P266	G区(9)	SI25	37	31	35	29.37	
P267	G区(9)	SI25	(61)	(37)	49	29.23	
P268	J区(3)		42	35	35	27.64	
P269	G区(9)	SI25	41	36	54	29.37	
P271	J区(3)		56	47	29	27.69	
P272	J区(3)		55	42	69	27.54	
P273	J区(4)		32	26	46	27.73	
P274	J区(3)		96	77	79	27.26	
P275	G区(1)		(62)	(39)	29	30.57	SI23より新
P276	G区(1)		30	17	22	30.74	SI23より新
P277	G区(9)		(93)	(78)	40	29.26	SK75と重複(新旧不明)
P278	G区(9)	SI24 ?	61	48	46	29.25	
P279	G区(9)	SI24 ?	(63)	(54)	36	29.42	
P280	G区(9)	SI25	81	67	59	29.09	
P282	G区(4)	SI26・28	58	47	59	29.17	
P283	G区(4)	SI26・28	48	39	38	29.36	
P284	G区(4)	SI26・28	53	39	24	29.48	
P285	G区(9)	SI25	44	35	35	29.31	SK75より新
P286	G区(9)	SI25	(35)	(29)	41	29.40	SK75より新
P287	G区(9)	SI25	(72)	(54)	47	29.28	

() 残存値

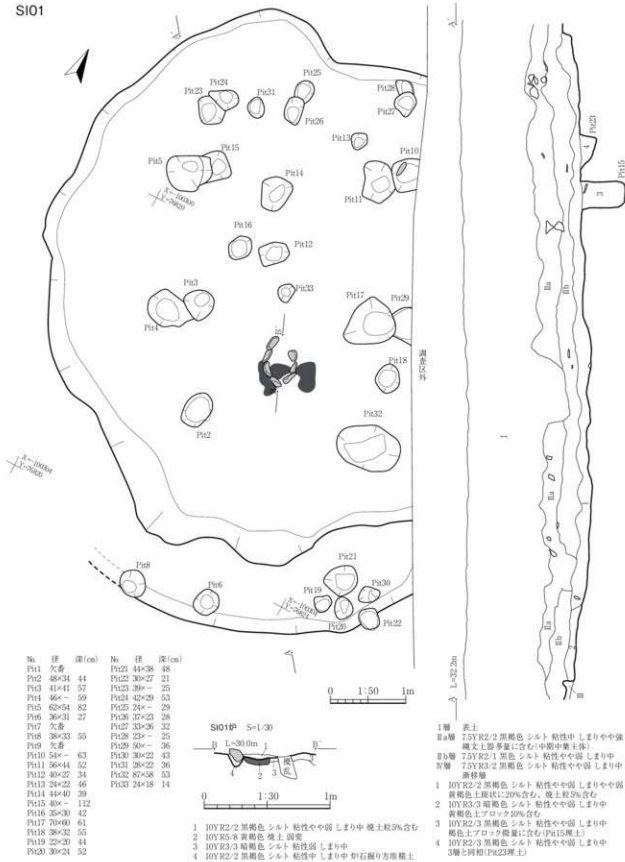
No.	検出	層号遺構	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
P288	G区③	SI26・28	52	41	55	29.11	
P289	G区③④	SI26・28	49	34	46	29.29	
P290	G区②		40	33	61	29.97	
P291	G区②		60	34	26	29.84	
P292	G区②		(57)	(51)	32	29.74	SK84より古
P295	G・I区⑩	SI24・25	60	48	48	29.04	
P296	G区⑩	SI24・25	(68)	(61)	46	測定不能	
P297	G区⑩		37	32	36	29.40	
P298	G区⑩		48	31	26	29.41	
P299	G区⑩⑪		33	25	32	29.38	
P300	G区⑨		42	37	42	29.33	
P301	G区⑨		(32)	(15)	37	29.90	SI25外
P302	G区⑨		28	25	26	29.96	SI25外
P303	G区⑨		(32)	(9)	35	29.92	SI25外
P304	G区⑨		51	50	43	29.84	SI25外
P305	G区⑨		25	21	46	29.81	SI25外
P306	G区⑨		25	22	34	29.91	SI25外
P307	G区⑨		35	24	21	30.07	SI25外
P308	G区⑨		40	34	56	29.78	SI25外
P309	I区①	SI23	44	38	39	30.06	
P310	I区①	SI23?	(56)	(50)	26	30.17	
P311	I区①	SI23?	(57)	(44)	21	30.18	
P312	I区①	SI23?	67	52	24	30.17	
P313	I区⑨	SI25	43	37	47	29.44	
P314	I区⑨	SI25	52	42	49	29.39	
P315	I区⑧		31	28	(23)	29.73	
P316	I区⑨	SI25	38	36	31	29.76	
P317	I区①		(80)	(77)	55	29.96	SK88より古
P318	I区①		44	37	42	29.97	
P319	I区①		70	55	46	29.69	
P320	I区①		(41)	(34)	37	29.93	
P321	I区①		33	32	36	30.05	
P322	I区①		(38)	(28)	27	30.03	
P323	I区①		49	42	67	29.80	
P324	I区①		29	23	32	30.13	
P325	I区①		(40)	(22)	33	30.02	
P326	B区②		(64)	(58)	30	30.48	
P327	I区①		65	55	75	29.75	
P328	I区⑤		29	27	19	29.38	
P329	I区⑤⑥		51	41	17	29.31	
P330	I区⑥		37	34	23	29.25	
P331	I区③		44	42	54	29.55	
P333	I区④		25	22	14	30.06	
P334	I区⑤		(66)	(30)	78	29.33	
P335	I区⑤		(26)	(24)	38	29.80	
P336	I区⑤		31	29	51	29.64	
P337	I区⑤		37	25	57	28.59	
P338	I区⑤		(32)	(22)	36	29.79	
P339	I区⑤⑥		43	33	15	29.91	
P340	G・I区①		43	41	21	30.00	
P341	I区⑥		48	38	24	29.61	
P343	I区⑦		30	23	52	29.42	
P347	I区⑧		21	19	11	29.86	
P348	I区⑧		32	27	22	29.86	
P349	I区⑧		20	18	15	29.83	
P350	I区⑦		25	22	28	29.52	
P351	I区⑥		(31)	(13)	39	29.50	
P352	I区⑧		32	27	55	29.59	
P353	I区⑤⑥		46	35	39	29.71	

2 縄文時代の遺構

() 残存値

No.	出土	埴輪遺構	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	備考
P354	I区⑤		(23)	(22)	43	29.77	
P355	I区⑤		(39)	(24)	26	29.92	
P356	I区⑥		(33)	(15)	49	29.43	
P357	I区⑥		(49)	(27)	38	29.71	
P358	I区⑧		(84)	(61)	28	29.86	
P359	I区⑦		54	42	94	28.76	SK105より新
P360	I区⑦		48	33	51	29.42	
P361	I区⑪	SI24	(69)	(31)	39	29.08	
P363	I区⑪	SI24	60	52	101	28.27	
P365	I区⑪	SI24 ?	(43)	(38)	15	29.32	
P366	I区⑩	SI25	27	16	43	29.18	
P367	I区⑩	SI25	25	20	31	29.24	
P368	I区⑩	SI25	(54)	(19)	33	29.20	
P369	I区⑪	SI25	(54)	(41)	32	29.26	
P370	I区⑪	SI24 ?	(38)	(19)	19	29.32	
P371	I区⑩	SI25	(41)	(33)	29	29.28	
P372	I区⑪	SI24 ?	43	29	14	29.39	
P373	I区⑥		31	26	59	29.31	
P374	I区⑦⑧		40	31	94	28.83	SK104から登録変更
P375	I区⑩	SI25	(70)	(41)	47	29.10	
P376	I区③		42	33	74	29.22	
P377	I区③		(31)	(25)	34	29.42	SK94より古
P378	I区⑦		(50)	(13)	35	29.76	
P379	I区⑥		(37)	(20)	58	29.58	SK100・115より新
P380	I区⑦		64	(55)	64	29.22	II<⑥>部分はP403へ登録変更
P381	I区⑬		43	29	測定不能	測定不能	SK117より新
P382	I区⑨		73	55	93	28.92	石離出土
P384	I区⑩		(50)	(33)	45	29.10	
P385	I区⑩⑪	SI25	82	69	75	28.74	
P386	I区⑩⑪	SI25	(73)	(68)	99	28.51	
P387	I区⑪	SI24	47	29	29	29.21	
P388	I区⑥		(35)	(13)	33	29.43	SK100より古
P390	I区⑩	SI25	(55)	(39)	73	28.82	
P391	I区⑩⑪		62	39	31	29.48	
P392	I区⑩		50	45	44	29.10	
P393	I区⑬	SI28 ?	(56)	測定不能	41	29.00	SK120より古
P394	I区⑬	SI28 ?	(73)	(67)	34	29.20	
P395	I区⑬		測定不能	測定不能	23	29.08	
P396	I区⑬⑭		85	60	53	28.85	
P397	I区⑬		48	35	66	28.70	
P398	I区⑬⑭	SI26	46	38	51	28.97	
P399	I区⑩		(69)	測定不能	78	28.92	
P400	I区⑩	SI25	63	36	66	29.00	
P401	I区⑩	SI25	42	31	117	28.48	
P402	I区⑩		(53)	(22)	83	29.03	
P403	I区⑥		26	21	38	29.59	P380から登録変更
P404	G区⑩		(93)	78	41	29.26	P277から登録変更
P405	A区③・E区⑨		88	67	66	30.09	SI01Pt1から登録変更
P406	E区⑨		115	88	40	30.31	SI01Pt2から登録変更
P407	E区⑨		55	(45)	33	30.34	SI01Pt3から登録変更

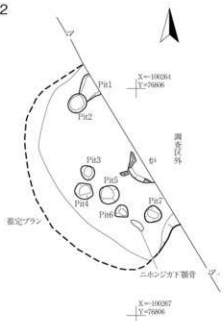
SI01



第20図 SI01住居跡

2 縄文時代の遺構

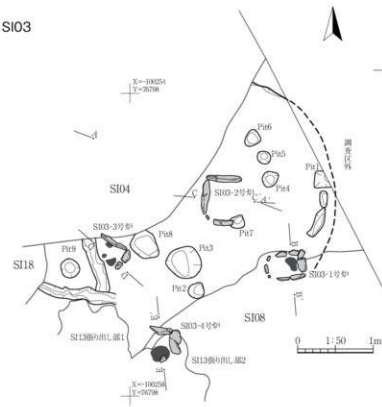
SI02



- Ia層 縄文中期-後期初頭遺物を含む層 土砂多量出土
 Ib層 縄文中期中-後期遺物を含む層 土層より上部出土少ない
 1 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 灰-黒土 10%含む
 2 10YR3-2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや強 しまり中 黄褐色土(径2-5mm)3%・
 焼土粒5%含む
 3 10YR3-2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 黄褐色土(径5-10mm)10%含む
 1-3層序に貝アロックス存在
 4 10YR3-3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 2層土の層序に灰-焼土が帯状に産積
 5 10YR4-3 に近い暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 (SI02B層上)
 断面に薄く焼成面あり

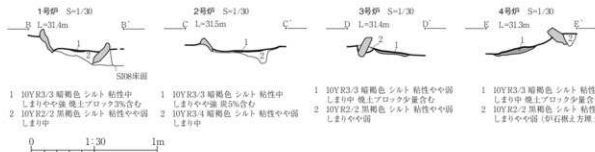
No	径	深(cm)
Pit1	20×	29
Pit2	36×23	25
Pit3	30×17	22
Pit4	25×21	33
Pit5	27×25	16
Pit6	19×18	13
Pit7	23×22	25

SI03



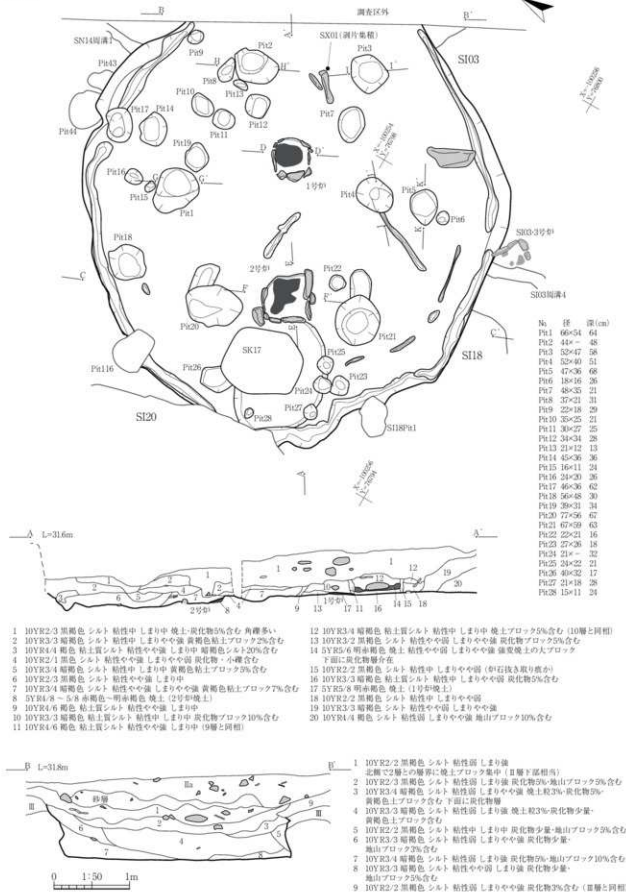
- 1 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強
 炭化物(径5-10mm)3%含む (SI03層上)
 2 7.5YR4-4 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中
 焼土少量含む (SI03-2号層上)
 3 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
 灰層アロックス多量含む (SI04層上)
 4 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強
 灰層アロックス5%含む (SI04層上)
 5 10YR4-4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
 灰層アロックス10%-炭化物1%含む (SI04層上)
 6 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性強 しまりやや強
 炭化物・灰層アロックス5%含む (SI04層上)
 7 10YR3-2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
 8 10YR4-3 に近い暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中
 灰層アロックス10%-炭1%含む (SI04層上)

No	径	深(cm)
Pit1	22×	38
Pit2	22×21	19
Pit3	47×43	47
Pit4	23×30	13
Pit5	19×17	8
Pit6	24×18	7
Pit7	20×18	34
Pit8	44×34	30
Pit9	36×25	11



第21図 SI02住居跡・SI03住居跡

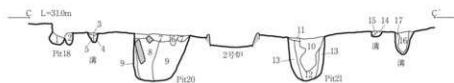
SI04



第22図 SI04住居跡(1)

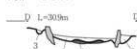
2 縄文時代の遺構

SI04

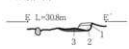


- | | |
|--|---|
| 1 10YR4.4 褐色 粘土質シルト、粘性強、しまりやや強(内周壁溝埋土) | 10 10YR4.4-3.1 褐色-暗褐色 シルト、粘性やや強、しまり中(柱直跡) |
| 2 10YR3.3 暗褐色 シルト、粘性中、しまり中(小房溝土) | 11 10YR3.4 暗褐色 シルト、粘性やや強、しまりやや強(溝の底土) |
| 3 10YR4.4 褐色 シルト、粘性やや強、しまり中(内周壁溝埋土) | 12 10YR3.3-3.4 暗褐色-褐色 シルト質粘土、粘性やや強、しまりやや強 |
| 4 10YR3.6 黄褐色 粘土、粘性強、しまりやや強、暗褐色シルト10%含む(内周壁溝埋土) | 13 10YR4.3 に近い黄褐色 粘土質シルト、粘性やや強、しまりやや強 |
| 5 10YR3.8 黄褐色 粘土、粘性強、しまりやや強(暗褐色シルト2%含む)(内周壁溝埋土) | 14 10YR4.4 褐色 シルト、粘性やや強、しまりやや強(内周壁溝埋土) |
| 6 10YR2.2 黒褐色 シルト、粘性やや強、しまり中 | 15 10YR3.8 黄褐色 粘土、粘性やや強、しまりやや強(内周壁溝埋土) |
| 7 10YR3.4 暗褐色 シルト、粘性やや強、しまりやや強(埋め戻し層) | 16 10YR4.6 褐色 シルト質粘土、粘性やや強、しまりやや強 |
| 8 10YR4.6 褐色 シルト質粘土、粘性やや強、しまり中、黄褐色粘土ブロック20%含む(柱直跡) | 17 10YR3.8 黄褐色 粘土、粘性やや強、しまりやや強、暗褐色シルト3%含む |
| 9 10YR4.6 褐色 粘土、粘性強、しまりやや強、暗褐色シルト5%含む | |

1号炉 S=L30



2号炉 (1)



2号炉 (2)



- | | |
|--|--|
| 1 10YR3.3 暗褐色 シルト、粘性やや強、しまりやや強、焼土ブロック混3%含む | 1 10YR6.6 黄褐色 粘土質シルト、粘性中、しまりやや強 (SI04結束) |
| 2 5YR4.6 赤褐色 粘土、強実 | 2 10YR3.3 暗褐色 シルト、粘性中、しまり中、炭化物(径2-5mm)3%含む |
| 3 10YR3.2 黒褐色 シルト、粘性中、しまりやや強 (砂石混じり層) | 3 5YR4.8 赤褐色 焼土、強実 |

Pit1



Pit2-Pit8



Pit3



Pit4

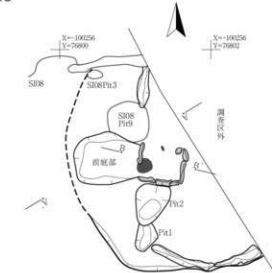


Pit5

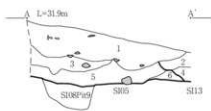


- | | | | | |
|--|---------------------------------------|--|--------------------------------------|-------------------------------|
| 1 10YR3.3 暗褐色 シルト、粘性強、しまり中、炭化物3%含む | 1 10YR3.4 暗褐色 粘土質シルト、粘性やや強、しまり中、炭5%含む | 1 10YR3.3 暗褐色 粘土質シルト、粘性中、しまり中、黄褐色土ブロック5%含む | 1 10YR3.3 暗褐色 粘土質シルト、粘性中、しまり中 | 1 10YR3.3 暗褐色 粘土質シルト、粘性中、しまり中 |
| 2 10YR3.3 暗褐色 シルト、粘性中、しまりやや強、黄褐色土ブロック多量に含む | 2 10YR4.6 褐色 粘土質シルト、粘性中、しまり中 | 2 10YR4.6 褐色 粘土質シルト、粘性やや強、しまり中、炭少量含む | 2 10YR4.6 褐色 粘土質シルト、粘性やや強、しまり中、炭少量含む | 2 10YR4.6 褐色 シルト、粘性中、しまり中 |
| 3 10YR6.4 に近い黄褐色 シルト、粘性やや強、しまり中、暗褐色土ブロック含む | | | | 3 10YR3.4 暗褐色 粘土質シルト、粘性中、しまり中 |

SI05



No.	径 (cm)	深 (cm)
Pit1	40×25	31
Pit2	61×45	19

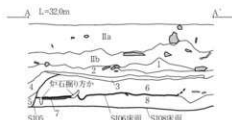
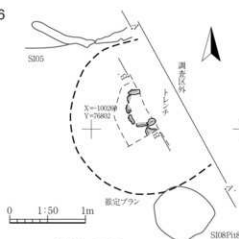


- 10YR2.1 黒色 シルト、粘性中、しまり中、焼土ブロック(径2-5mm)5%-7%含む
- 10YR2.2 黒褐色 シルト、粘性やや強、しまり中、焼土ブロック3%含む
- 10YR3.3 暗褐色 粘土質シルト、粘性中、しまりやや強、焼土10%-炭化物5%含む
- 10YR3.3 暗褐色 シルト、粘性中、しまりやや強、焼土ブロック30%-炭化物3%含む (SI13埋土)
- 10YR2.3 黄褐色 粘土質シルト、粘性やや強、しまり中、炭化物5%-焼土少量含む
- 10YR2.2 黒褐色 シルト、粘性中、しまりやや強、焼土ブロック5%-炭化物少量含む



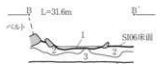
第23図 SI04住居跡(2)・SI05住居跡

SI06



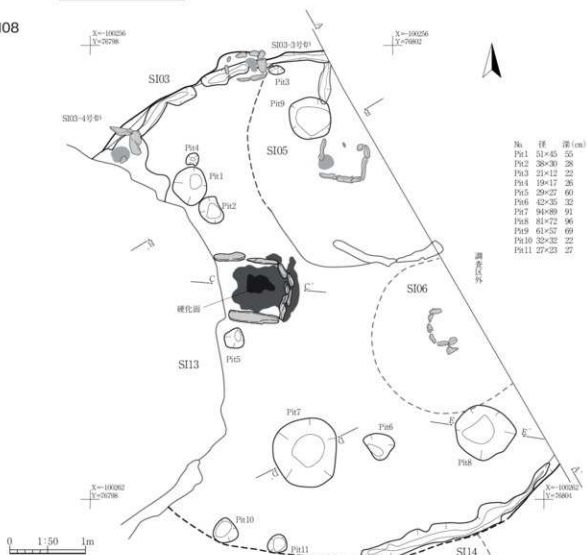
- 1 10YR3-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土10%含む(土層下部相)
- 2 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 焼土粒3%・礫2%含む(土層下部)
- 3 10YR3-4 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり強 黄褐色土ブロック9%
- 4 10YR3-2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 地山ブロック9%
- 5 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 黄褐色土ブロック・焼土粒少量含む(SI05様上)
- 6 10YR3-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 地山ブロック9%含む(SI06様上)
- 7 5YR4-1 赤・赤褐色 焼土 弱粘(SI06中・焼土)
- 8 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 地山ブロック10%含む(SI05様上)

SI06P S=1:30



- 1 7.5YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒少量含む
- 2 10YR4-6 褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまりやや強 互層状(SI06Pの一部)
- 3 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土ブロック10%含む

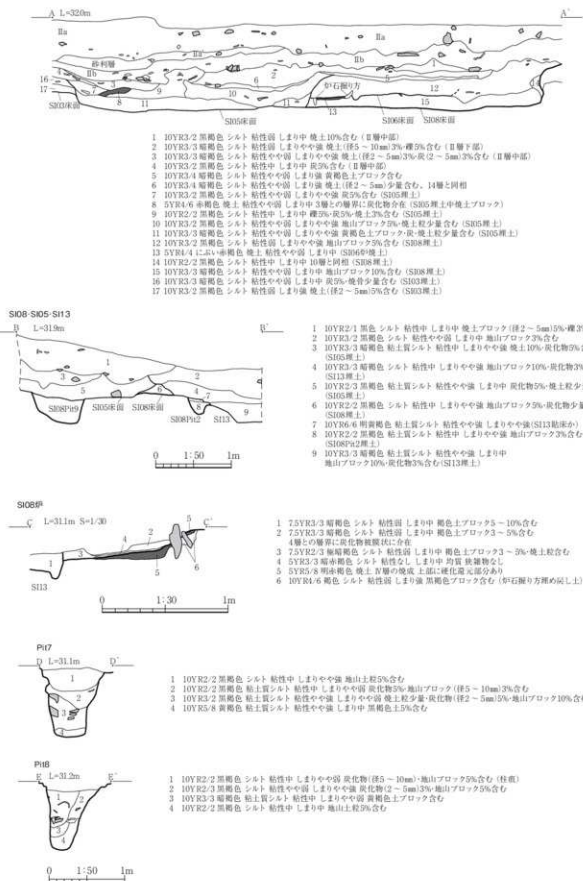
SI08



No.	径 (cm)	深 (cm)
Pit1	33-45	55
Pit2	20-30	28
Pit3	21-12	22
Pit4	19-17	26
Pit5	20-27	60
Pit6	42-35	32
Pit7	94-89	91
Pit8	31-72	96
Pit9	61-57	69
Pit10	32-32	22
Pit11	27-23	27

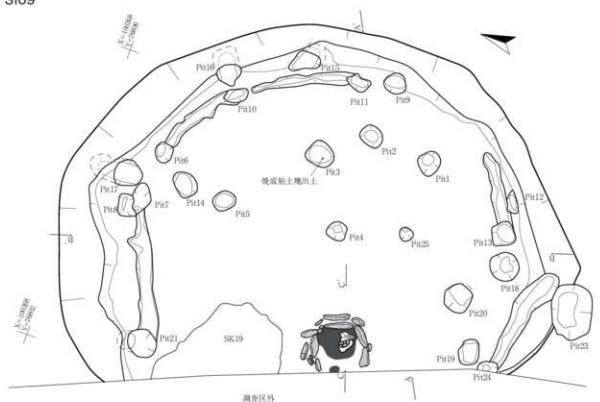
第24図 SI06住居跡・SI08住居跡(1)

S108



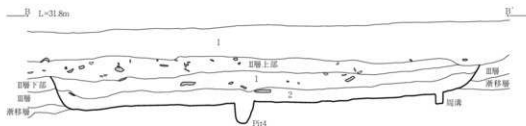
第25図 S108住居跡(2)

SI09



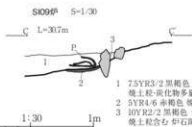
- 1 75YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒・炭化物含む 糠土部片多量出土
- 2 5YR4/6 赤褐色シルト 粘性弱 しまり中 二次用焼土層
- 3 75YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒・炭化物含む
- 4 75YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒集中
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭化物・焼土粒多い
- 6 75YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 均質 炭化物少ない
- 7 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 黒色がゾラ層状に存在

No.	径 (cm)	No.	径 (cm)	
Pit1	34×30	33	Pit15	56×32
Pit2	23×28	33	Pit16	53×35
Pit3	38×34	49	Pit17	72×36
Pit4	28×26	28	Pit18	40×38
Pit5	31×26	49	Pit19	36×29
Pit6	28×24	35	Pit20	39×37
Pit7	-	30	Pit21	42×35
Pit8	31×26	35	Pit22	28×28
Pit9	31×28	21	Pit23	74×54
Pit10	34×18	36	Pit24	27×-
Pit11	33×21	23	Pit25	19×18
Pit12	31×15	14		
Pit13	36×25	16		
Pit14	32×29	22		



- II層上部 75YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 糠土多量出土
- I 75YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒・小粒含む
- 2 75YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒・炭化物含む

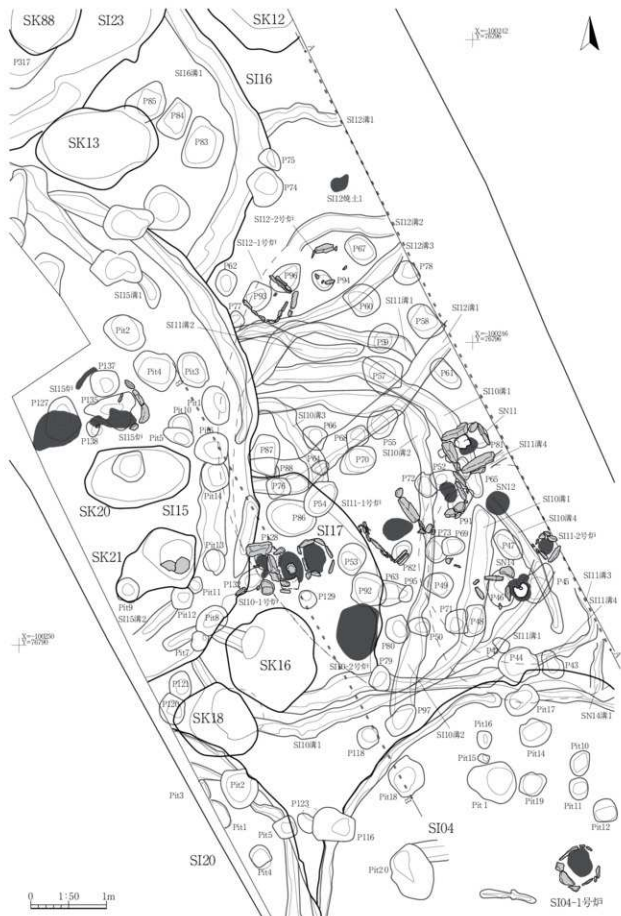
0 1:50 1m



- 1 75YR3/2 黒褐色シルト 粘性中 しまり弱 焼土粒・炭化物多量に含む
- 2 5YR4/6 赤褐色焼土
- 3 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む 石取面の植生土

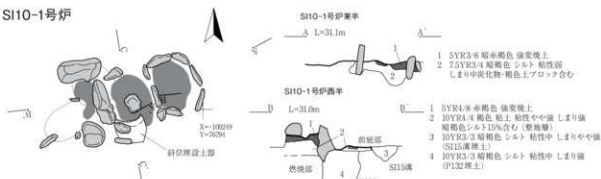
0 1:30 1m

第26図 SI09住居跡



第27図 B区北端遺構群全体図

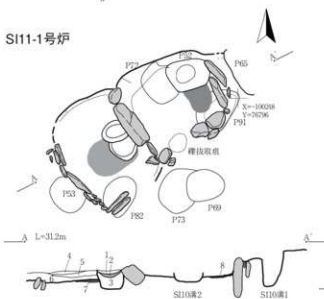
SI10-1号炉



SI10-1号炉西半横断面



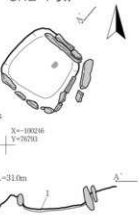
SI11-1号炉



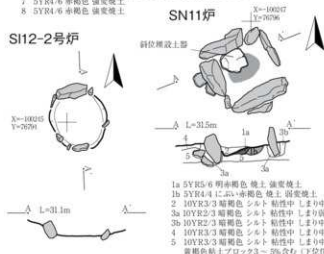
SI11-2号炉



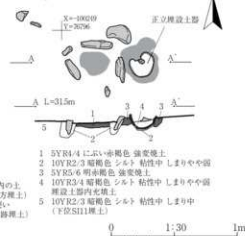
SI12-1号炉



SN11号炉



SN14号炉



第29図 B区北端遺構群 関係炉跡

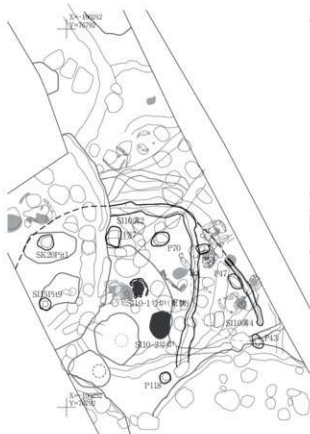
SI10-プランA



SI10-プランB



SI10-プランC



SI11-プランA



第30図 B区北端遺構群分解図(1)

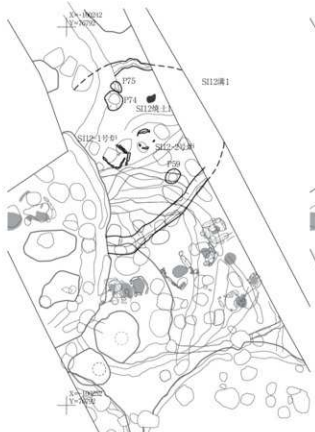
SI11-プランB



SI11-プランC



SI12-プランA



SI14-プランA

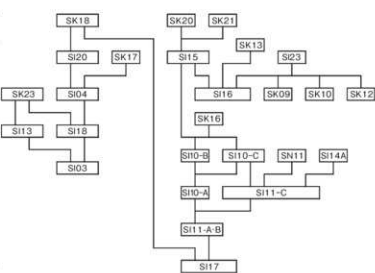


0 1:100 2m

第31図 B区北端遺構群分解図(2)

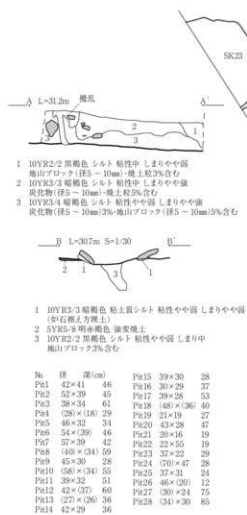
B区北端遺構群重複関係

新
↑
古



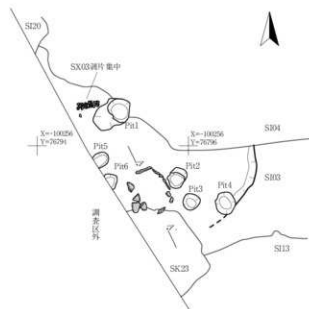
No	径 (cm)	No	径 (cm)
P12	24×17 42	P80	37×32 40
P43	41×29 13	P81	38×28 27
P44	56×47 52	P82	33×24 31
P46	56×57 42	P83	69×48 62
P46	49×42 60	P84	54×40 38
P47	47×29 20	P85	-×13 43
P48	46×29 40	P86	67×49 21
P49	39×33 43	P87	57×43 51
P50	31×24 50	P88	-× - 30
P52	35×35 31	P91	40×27 36
P53	43×37 43	P92	51×45 67
P54	54×38 55	P93	42×37 40
P55	48×36 50	P94	31×22 28
P57	60×49 49	P95	25×17 42
P58	53×39 35	P96	47×35 47
P59	44×35 42	P97	49×28 36
P60	63×43 44	P112	35×31 35
P61	48×36 51	P113	39× - 12
P62	35×28 19	P114	28×27 36
P63	-×57 55	P115	49×34 12
P64	23×19 26	P116	59×47 36
P65	31×19 27	P118	31×30 47
P66	36×31 36	P128	-× - 22
P67	45×35 37	P121	-×29 18
P68	-×27 44	P123	-× - 28
P69	31×25 36	P127	39×46 63
P70	52×38 36	P128	36×34 40
P71	36×35 43	P129	25×23 18
P72	34×23 48	P132	-×25 36
P73	-× - 38	P133	69×47 39
P74	52×49 49	P137	40×37 56
P75	33×23 36	P138	22×17 64
P76	34×30 31		
P77	-× - 21		
P78	36×32 46		
P79	33×29 37		

SI13



第32図 B区北端遺構群重複関係図・SI13住居跡

SI18

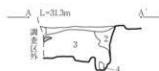
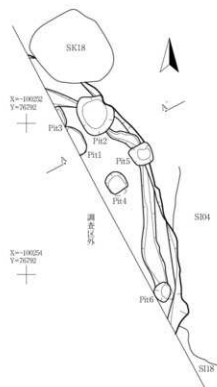


- 1 10YR3.3 暗褐色 シルト 粘液中 しまりやや弱 炭化物(径2-3mm)塊上(1-2mm)3%含む
- 2 10YR2.2 黒褐色 シルト 粘液中やや強 しまりやや弱 炭化物3%含む(赤石塚土層上)
- 3 10YR5.6 黄褐色 シルト 粘液中 しまりやや弱 黒褐色土3%含む(SI18底)

No. 径 深(cm)

Pit1	14×17	45
Pit2	28×21	28
Pit3	23×22	16
Pit4	30×26	16
Pit5	30×-	18
Pit6	22×-	16

SI20



- 1 10YR2.2 黒褐色 シルト 粘性やや強 しまりやや弱 炭化物3%-小礫2%含む
- 2 10YR3.4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 黄褐色粘土30%含む(断面崩落プロット)
- 3 10YR3.4 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり中
- 4 10YR5.6 黄褐色 粘土 粘性やや強 しまり中

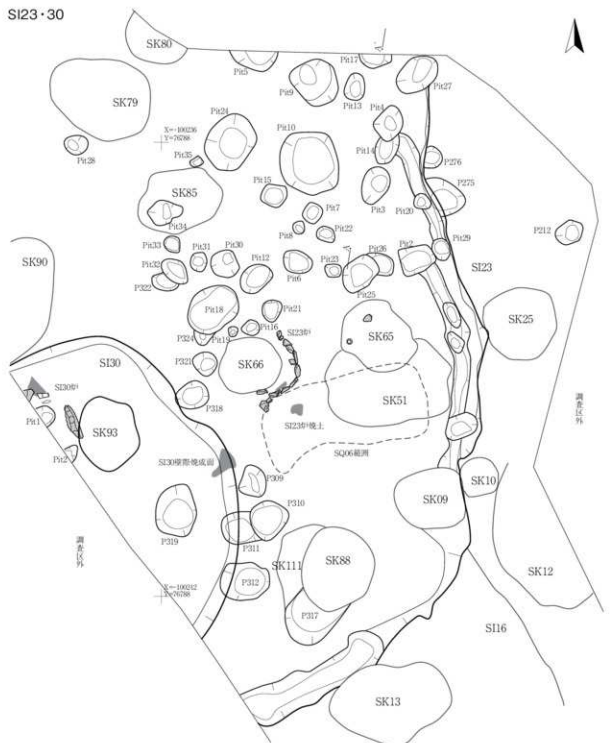
No. 径 深(cm)

Pit1	-×-	30
Pit2	55×46	33
Pit3	-×-	22
Pit4	30×29	50
Pit5	33×32	35
Pit6	26×22	43



第34図 SI18住居跡・SI20住居跡

SI23・30



SI23柱穴

No.	径 (cm)	深 (cm)
P1	欠番	
P2	51×41	27
P3	51×33	39
P4	48×36	31
P5	- × -	48
P6	49×30	20
P7	29×27	21
P8	18×16	26
P9	67×59	101
P10	91×82	84
P11	欠番	
P12	46×33	42
P13	30×27	28
P14	- × -	33
P15	37×33	39
P16	24×21	41
P17	- × -	79
P18	73×56	66
P19	14×13	17
P20	23×21	16
P21	29×25	22
P22	39×30	14
P23	23×19	19
P24	78×61	63
P25	54×40	59
P26	- × -	15
P27	61×42	76
P28	32×26	36
P29	30×24	19
P30	39×37	35
P31	26×21	29
P32	42×28	16
P33	25×21	16
P34	47×33	31
P35	18×14	18

SI30柱穴

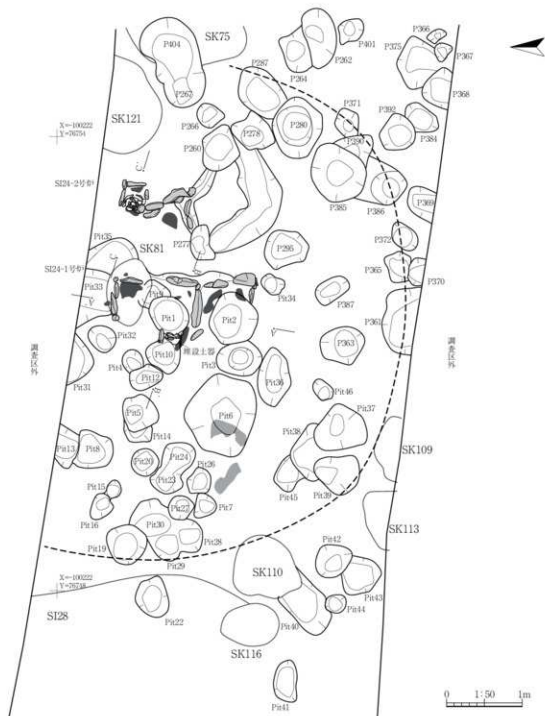
No.	径 (cm)
P1	28× -
P2	23× -



- 1 10Y E3-1 黒褐色 シルト 粘性や中弱 しまり中 機土ブロック3%含む (P19機土含む)
- 2 10Y E3-2 黒褐色 シルト 粘性や中弱 しまりや中強 機土ブロック 微粉砂少量含む
- 3 10Y E3-3 黒褐色 シルト 粘性や中弱 しまり中 褐色土ブロック5%含む
- 4 10Y E3-2 黒褐色 シルト 粘性や中弱 しまりや中強
- 5 10Y E3-2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 褐色土ブロック多量に含む

第35図 SI23住居跡・SI30住居跡

SI24

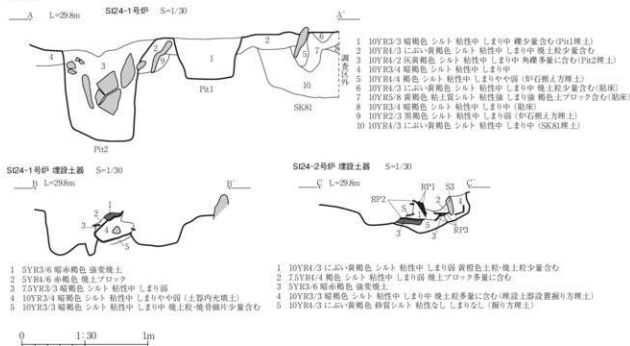


No.	種	深(cm)				
P1	32×49	31	P117	欠番	P133	-x- 34
P2	20×62	59	P118	欠番	P134	32×25 21
P3	61×47	70	P119	54×53 79	P135	-x- 29
P4	29× 30		P120	37×36 37	P136	78×44 30
P5	50×47	83	P121	欠番	P137	71×61 59
P6	111×97	106	P122	55×44 33	P138	-x- 35
P7	34×31	29	P123	-x- 54	P139	61×56 53
P8	56×50	34	P124	-x- 53	P140	-x- 26
P9	-x- 25		P125	欠番	P141	56×31 40
P10	49×46	40	P126	37×31 26	P142	52×44 47
P11	欠番		P127	30×32 21	P143	55× 22
P12	45×30	39	P128	-x- 17	P144	29×25 45
P13	56× 37		P129	-x- 21	P145	-x- 43
P14	-x- 37		P130	-x- 36	P146	35×22 33
P15	24×21	29	P131	-x- 38		
P16	35×27	44	P132	38×32 27		

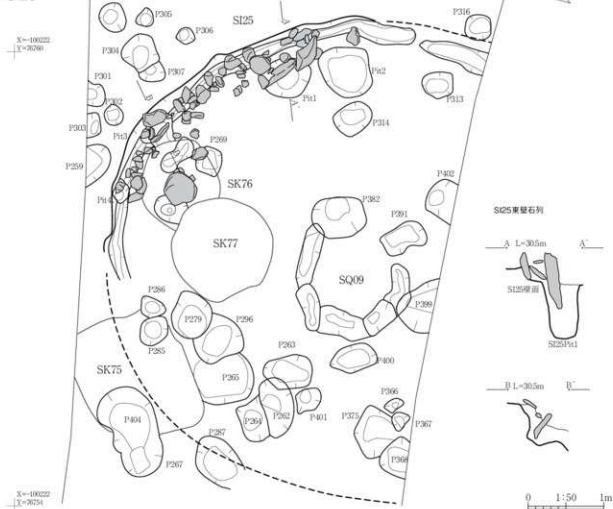
第36図 SI24住居跡(1)

2 縄文時代の遺構

SI24

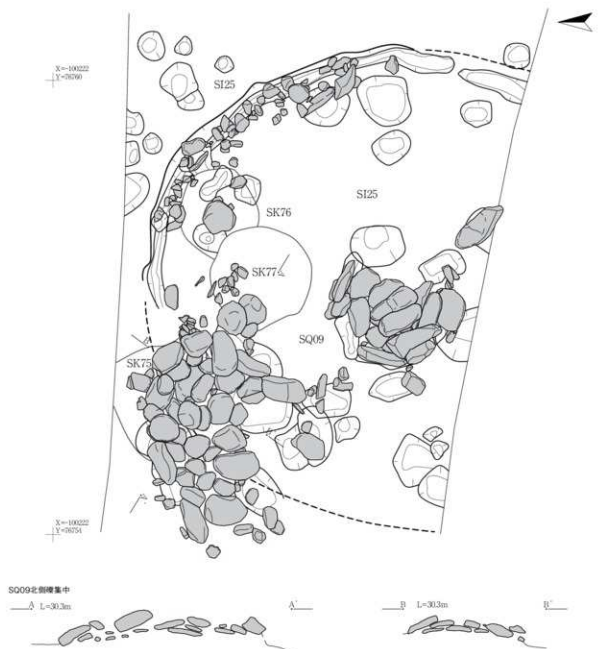


SI25



第37図 SI24住居跡(2)・SI25住居跡(1)

SI25-SQ09



SQ09北側壁断面中

— A L=30.3m

— B L=30.3m

— B L=30.3m

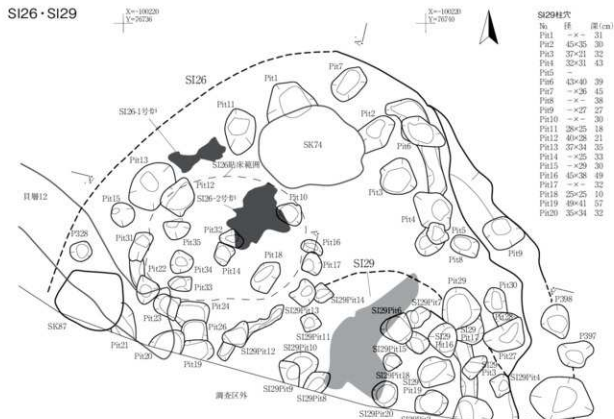
SI25柱穴

No.	径	深(cm)	No.	径	深(cm)	No.	径	深(cm)
P11	69×53	73	P258	— × —	77	P302	38×25	26
P12	78×69	31	P260	63×53	72	P303	32× —	35
P13	50× —	11	P262	90×72	68	P304	51×50	43
P14	27×22	28	P264	54× —	50	P305	25×21	46
			P265	80× —	35	P306	25×22	34
			P266	32×31	35	P307	35×21	21
			P267	— × —	49	P308	40×31	56
			P269	41×36	54	P313	43×57	47
			P277	— × —	40	P314	52×42	49
			P278	61×48	46	P316	38×36	31
			P279	63×51	36	P366	27×16	43
			P280	81×67	59	P367	25×30	31
			P283	44×26	35	P368	54× —	33
			P286	33×29	41	P371	— × —	29
			P287	72×54	47	P375	70× —	47
			P296	68× —	46	P382	73×55	93
			P300	62×32	42	P384	— × —	45
			P301	32× —	37	P390	— × —	73
						P391	62×59	31
						P392	50×45	44
						P399	49× —	78
						P400	63×56	66
						P401	42×31	117
						P402	53× —	83
						P401	93×78	41

0 1:50 1m

第38図 SI25住居跡(2)・SQ09配石遺構

SI26・SI29



SI29柱穴	No.	径	深(cm)
Pn1	-	×	31
Pn2	-	×	30
Pn3	37	×	32
Pn4	32	×	31
Pn5	-	-	-
Pn6	43	×	39
Pn7	-	×	26
Pn8	-	-	38
Pn9	-	×	27
Pn10	-	-	30
Pn11	26	×	18
Pn12	40	×	21
Pn13	37	×	34
Pn14	-	×	25
Pn15	-	×	30
Pn16	45	×	38
Pn17	-	-	32
Pn18	25	×	25
Pn19	49	×	41
Pn20	35	×	34

SI26(G区)断壁NW-SE断面

L=30.8m

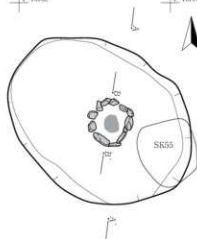


- I 砂質シルト 表土
- II 30YR2/2 黒褐色 シルト
- 1 10YR1/7 白色 粘土シルト 粘性中 しまりやや弱 礫5%含む
- 2 10YR5/4 濃い青褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 (SI26新設階段)
- 3 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 径(長)2~5mm%地山土プロック9%含む(SI26Pn13埋土)
- 4 10YR3/3 暗褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 上面に地山土プロック9%、焼土プロック1%含む(SI26Pn12埋土)
- 5 10YR4/8 赤褐色 焼土 粘性中 しまり弱 (SI26-2号砂埴成面)
- 6 10YR2/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 地山土プロック5%含む
- 7 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 (SI26Pn埋土)
- 8 10YR3/2 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 弱 しまり中 焼土・灰5%・地山土プロック5%含む

SI29柱穴	No.	径	深(cm)
Pn1	-	×	60
Pn2	-	×	39
Pn3	52	×	65
Pn4	63	×	48
Pn5	32	×	31
Pn6	44	×	35
Pn7	51	×	49
Pn8	39	×	29
Pn9	56	×	67
Pn10	36	×	29
Pn11	61	×	62
Pn12	52	×	43
Pn13	71	-	75
Pn14	32	×	18
Pn15	33	×	43
Pn16	30	×	28
Pn17	32	×	24
Pn18	47	×	40
Pn19	-	-	47
Pn20	-	-	54
Pn21	-	-	46
Pn22	38	×	30
Pn23	39	×	31
Pn24	-	-	33
Pn25	-	-	-
Pn26	-	-	40
Pn27	57	×	75
Pn28	-	-	50
Pn29	-	×	37
Pn30	-	×	28
Pn31	44	×	50
Pn32	33	×	22
Pn33	32	×	26
Pn34	32	×	30
Pn35	36	×	21

SI27

X=10026 Y=2678 X=10028 Y=2679



L=30.6m

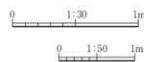
- 1 7.5YR2/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 大小角礫5~10%含む 均質
- 2 7.5YR4/4 褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 尚焼土プロック 床面との間に薄く焼土土層在
- 3 10YR4/4 褐色 砂質シルト 粘性 しまり 地山土・灰層

SI27P S=1/30

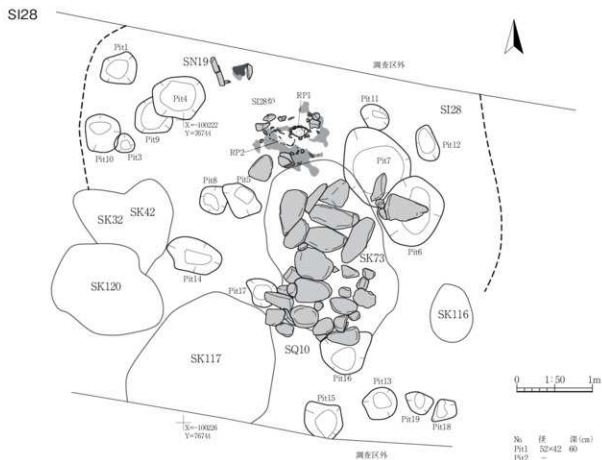
L=30.2m



- 1 7.5YR4/4 褐色 尚焼土



第39図 SI26住居跡・SI27住居跡・SI29住居跡



0 1:50 1m

No.	径 (cm)	深 (cm)
Pit1	52×42	60
Pit2	-	-
Pit3	27×25	21
Pit4	71×57	40
Pit5	59×40	68
Pit6	90×85	94
Pit7	-	89
Pit8	41×35	64
Pit9	52×39	21
Pit10	53×52	71
Pit11	-	×
Pit12	48×29	35
Pit13	46×43	73
Pit14	79×45	63
Pit15	-	×
Pit16	72×58	49
Pit17	45×37	28
Pit18	39×29	72
Pit19	38×28	46

SI28P S=1/30

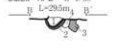


SI28P-RP1 S=1/30



- 1 75YR4/6 褐色 弱炭焼土
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 焼土存在
- 3 75YR2/3 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 弱炭焼土

SI28P-RP2 S=1/30



- 1 75YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 弱炭焼土 (土器内炭塊)
- 2 75YR4/6 褐色 弱炭焼土
- 3 75YR4/4 褐色 シルト 焼土ブロックの集中
- 4 10YR2/2 黒褐色 シルト (砂石抜き取り痕)

SI28P-RP2 S=1/30

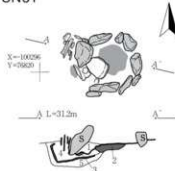


- 1 10YR4/6 褐色 シルト 粘性なし しまり弱 均質 (炭塊上部内の軽炭)
- 2 75YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 弱炭焼土
- 3 75YR4/6 褐色 弱炭焼土

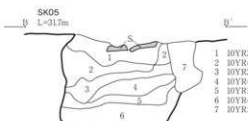
第40図 SI28住居跡

2 縄文時代の遺構

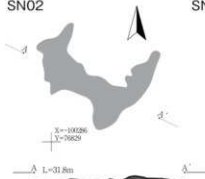
SN01



- 1 75YR2-1 黒色 シルト 粘性弱 しまり面 焼土粒含む
- 2 5YR4-6 赤褐色 焼土 痕状 上部が軽熱強く、焼成面境上と穿えらる
- 3 5YR5-6 赤褐色 焼土 粘性 しまり 焼土プロック
- 4 75YR3-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり面 焼土粒含む (構造上部内充填)
- 5 75YR2-2 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土プロック20%含む

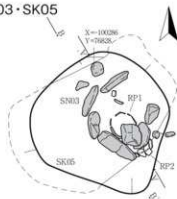


SN02



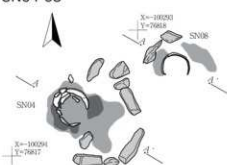
- 1 5YR5-6 赤褐色 シルト 粘性 しまり 黄褐色土 上面やや傾北

SN03・SK05



- 1 75YR3-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり面 焼土粒、炭化物含む (構造上部R2内充填)
- 2 75YR3-2 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む
- 3 75YR2-2 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり面 焼土粒含む (構造上部R1内充填)
- 4 75YR3-2 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む 2層土間

SN04-08

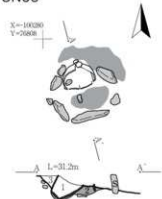


- 1 75YR2-2 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり面 焼土粒含む
- 2 5YR4-6 赤褐色 焼土
- 3 75YR2-2 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土粒含む



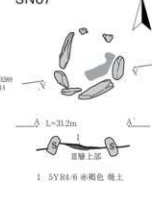
- 1 75YR2-2 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり面 焼土粒含む
- 2 5YR3-6 暗赤褐色 黄褐色土
- 3 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (縦方向層上)

SN06



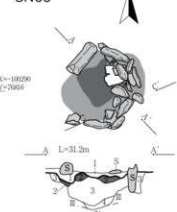
- 1 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり面 炭化物、焼土粒含む
- 2 5YR3-4 暗赤褐色 黄褐色土
- 3 10YR3-4 黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 土層埋没後に陥凹に陥り付けた土層

SN07

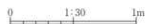


- 1 5YR4-6 赤褐色 焼土

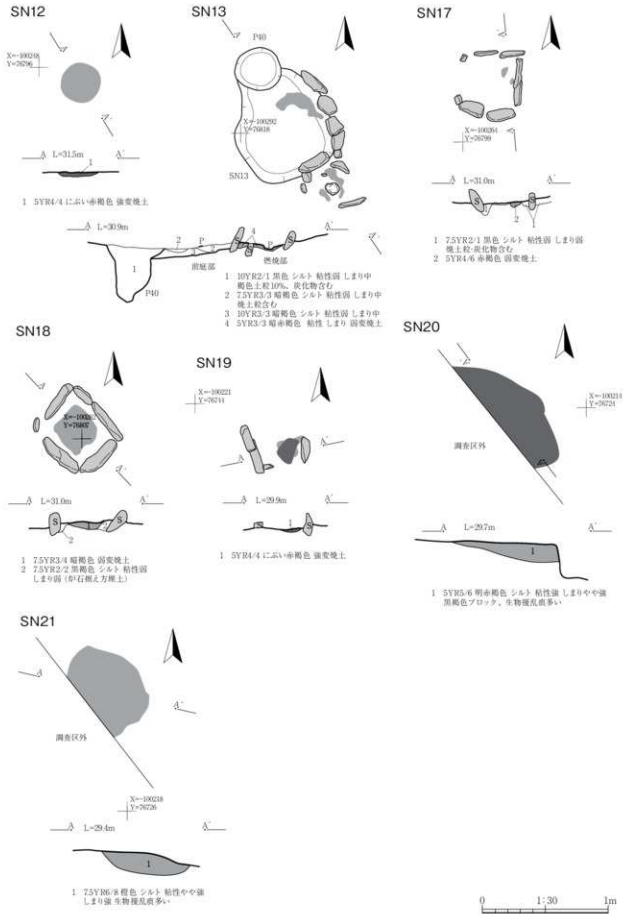
SN09



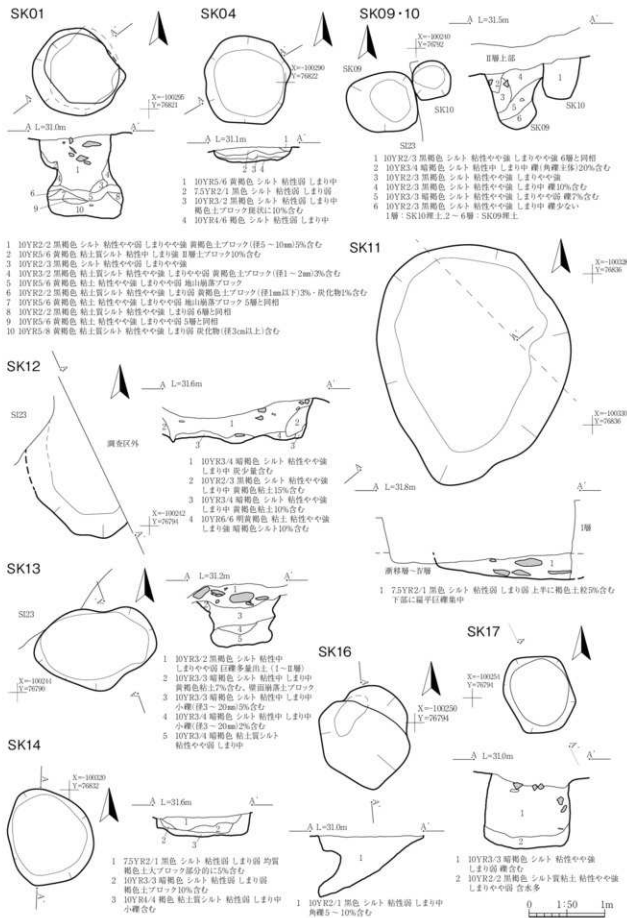
- 1 75YR2-2 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり面 焼土粒含む
- 2 5YR4-6 赤褐色 黄褐色土
- 3 75YR3-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 焼土プロック5%含む
- 4 10YR4-6 暗褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり中 下部の掘り方層土の一部



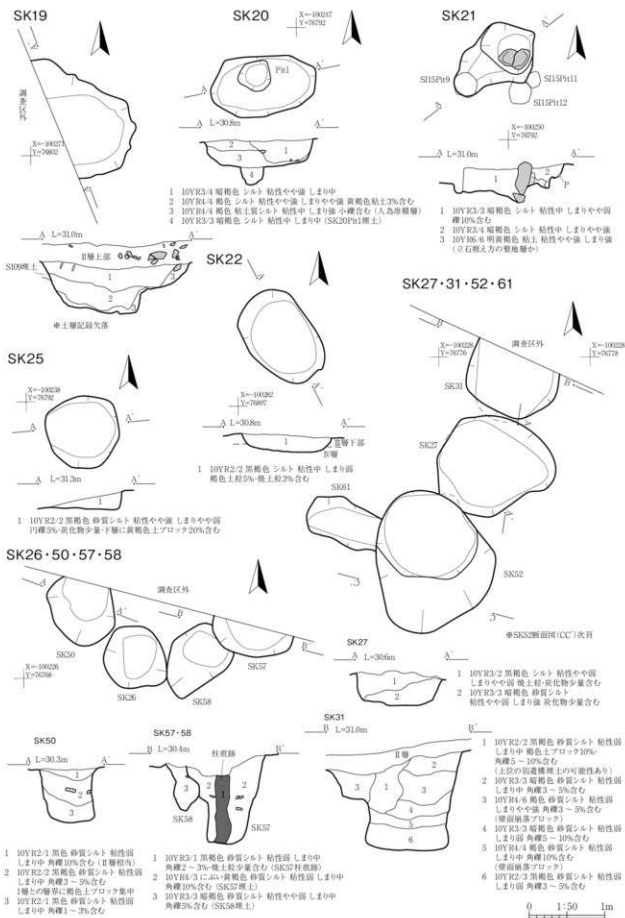
第41図 炉跡・焼土遺構 (1)



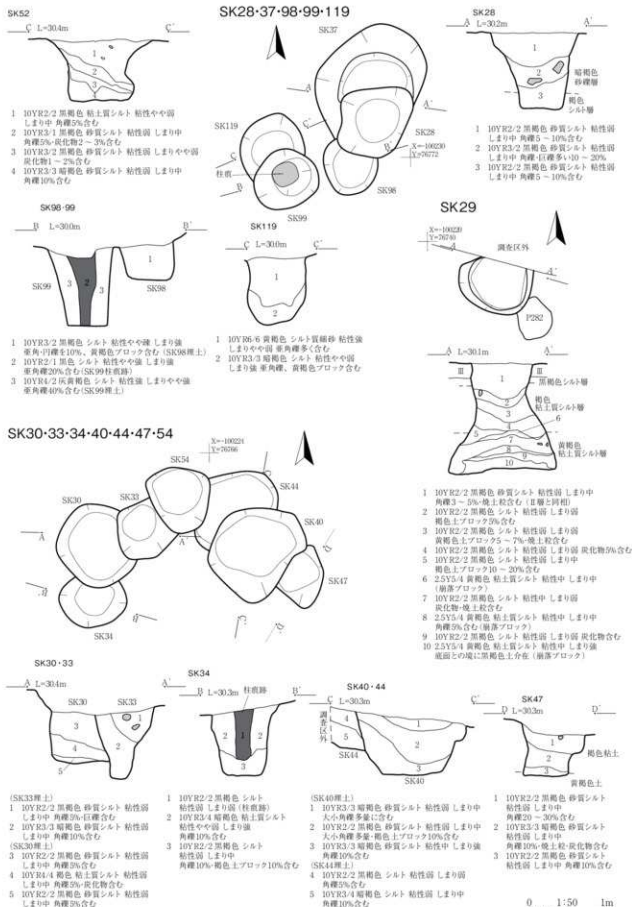
第42図 炉跡・焼土遺構 (2)



第43図 土坑(1)

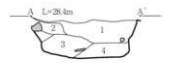
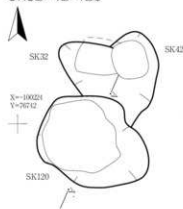


第44図 土坑 (2)



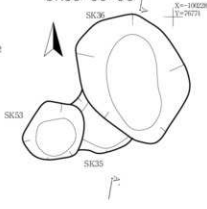
第45図 土坑 (3)

SK32・42・120



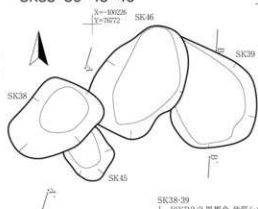
- 1 10YR2/1 黒褐色 シルト 粘性中 しまりやや弱 礫・炭化物微量を含む
- 2 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物・焼土粒微量を含む
- 3 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物微量を含む
- 4 10YR2/1 黒色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 焼土アロク多量を含む

SK35・36・53



- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱 角礫(径2~5mm)5%含む (SK36埋土)
- 2 10YR2/3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱 角礫多量を含む (SK36埋土)
- 3 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 焼土少量含む (SK36埋土)
- 4 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 焼土アロク多量を含む (SK36埋土)

SK38・39・45・46

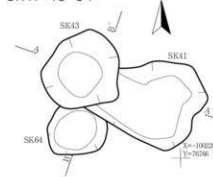


- 1 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 大小角礫5%含む (柱状跡)
- 2 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 褐色土アロク10%・角礫10%含む

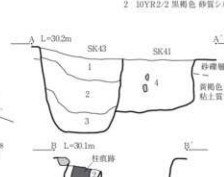


- 1 10YR2/3 黒褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強 角礫3%含む (SK43埋土)
- 2 10YR2/4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり強 角礫10%含む (SK43埋土)
- 3 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (SK43埋土)
- 4 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱 角礫5%・焼土粒少量含む (SK41埋土)

SK41・43・64

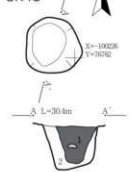


- 1 10YR2/1 黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物1~3%含む (柱状跡)
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 角礫1~3%含む



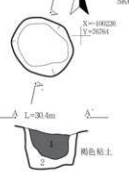
- 1 10YR2/1 黒褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物1~3%含む (柱状跡)
- 2 10YR4/3 に近い黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 角礫1~3%含む

SK48



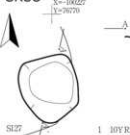
- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや弱 角礫1~3%含む (柱状跡)
- 2 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 角礫5~10%含む

SK49



- 1 10YR2/2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 角礫3~5%含む (柱状跡)
- 2 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 角礫5~10%含む

SK55

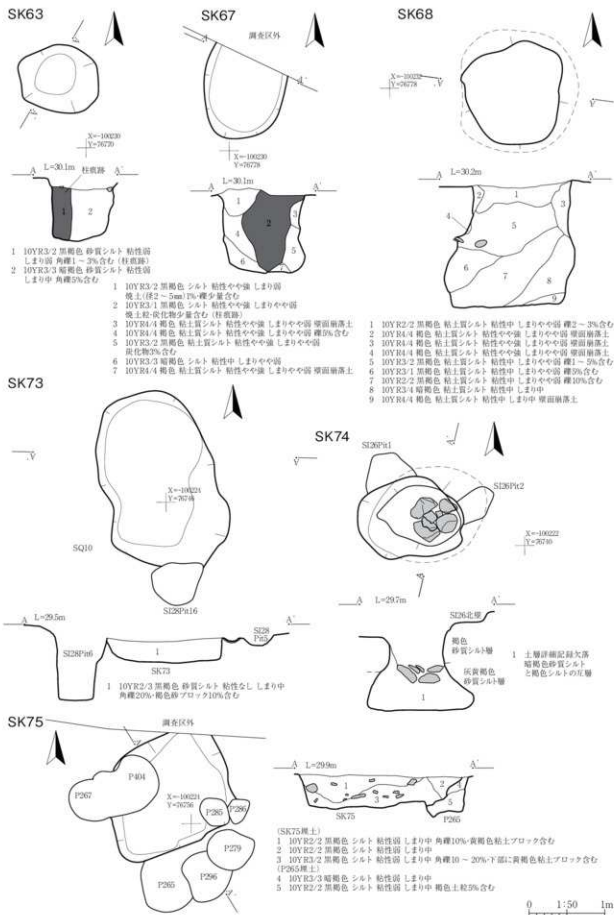


- 1 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 角礫3~5%含む (柱状跡)
- 2 10YR2/4 褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 角礫20~30%含む

第46図 土坑 (4)

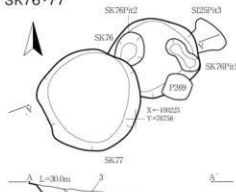
0 1:50 1m

2 縄文時代の遺構



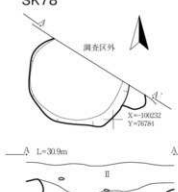
第47図 土坑 (5)

SK76-77



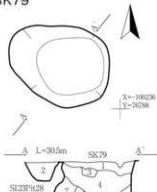
- 1 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 燐土粒含む (SK77層上)
- 2 10YR3-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 内稜5-10%含む 1層との境界に褐色土アロックス層 (SK77層上)
- 3 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 (SK76層上)
- 4 10YR3-2 黒褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり弱 内稜土粒含む (SK76層上)
- 5 10YR3-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 (SK76P1層上)
- 6 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 (SK77層上)
- 7 10YR5-4 (L)黄褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 内稜多量を含む (SK77層上)

SK78



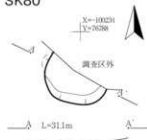
- 1 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土アロックス3-5%含む
- 2 10YR5-6 黄褐色 粘土質シルト 粘性弱 しまり弱 燐土アロックス
- 3 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 黄褐色土アロックス10%燐土粒・炭化物含む
- 4 10YR2-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 燐土アロックスの量中、黄褐色土アロックス3%含む
- 5 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物含む
- 6 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 炭化物含む
- 7 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 黄褐色土アロックス10%炭化物含む

SK79



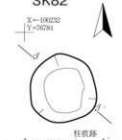
- 1 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 燐土粒少量含む
- 2 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり中 (SZ23P28層上)
- 3 10YR4-4 褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 燐土アロックス含む
- 4 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 燐土アロックス2-5%含む
- 5 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまりやや強 内稜5%含む
- 6 10YR5-6 黄褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 燐土粒少量アロックス含む
- 7 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 内稜2-5%含む
- 8 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 7層と同層
- 9 10YR2-2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中

SK80



- 1 10YR4-2 灰黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 内稜20%炭化物含む
- 2 10YR4-3 (L)黄褐色 シルト 黄砂 粘性やや弱 しまり中 内稜30%炭化物含む
- 3 10YR4-3 (L)黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 内稜30%含む
- 4 10YR5-4 (L)黄褐色 砂質シルト 粘性やや弱 しまり弱 内稜20%含む
- 5 10YR4-3 (L)黄褐色 シルト 粘性中 しまり弱 内稜30%含む
- 6 10YR5-4 (L)黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 内稜40%含む
- 7 10YR5-8 黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり中 内稜50%含む
- 8 10YR4-3 (L)黄褐色 砂質シルト 粘性弱 しまり弱 内稜30%含む
- 9 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり弱 黄褐色土アロックス3%含む

SK82



- 1 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱
- 2 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性弱 しまり弱 燐土粒・炭化物含む (柱礎跡)
- 3 10YR2-3 暗褐色 シルト 粘性弱 しまり中 内稜3%含む

SK84



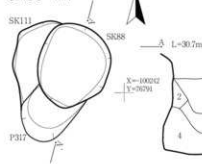
- 1 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性弱 しまりやや強 内稜3%含む
- 2 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 燐土アロックス(層5-10cm) 褐色土アロックス2%含む
- 3 10YR2-2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまり中 褐色土アロックス3%含む
- 4 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 炭化物2-3%含む
- 5 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性やや弱 しまり中 褐色土アロックス少量を含む
- 6 10YR4-6 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまり中 内稜2-3%含む

SK87



- 1 10YR2-2 黒褐色 粘土質シルト 粘性やや弱 しまりやや強 炭化物・燐土アロックスを含む
- 2 10YR4-4 褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱
- 3 10YR3-3 暗褐色 粘土質シルト 粘性中 しまりやや弱 燐土アロックス10%含む

SK88-111



SKI11



PK11

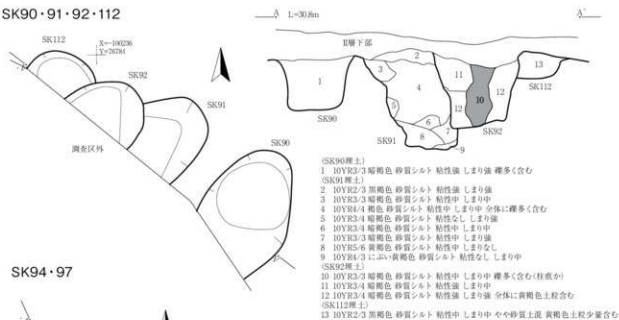


- 1 10YR2-3 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 燐多
- 2 10YR4-4 褐色 砂質 粘性弱 しまり弱
- 3 10YR4-3 (L)黄褐色 シルト 粘性中 しまり中 燐多
- 4 10YR3-3 暗褐色 シルト 粘性やや強 しまり中 燐少量
- 5 10YR2-2 黒褐色 シルト 粘性中 しまり中 (PK11層上)

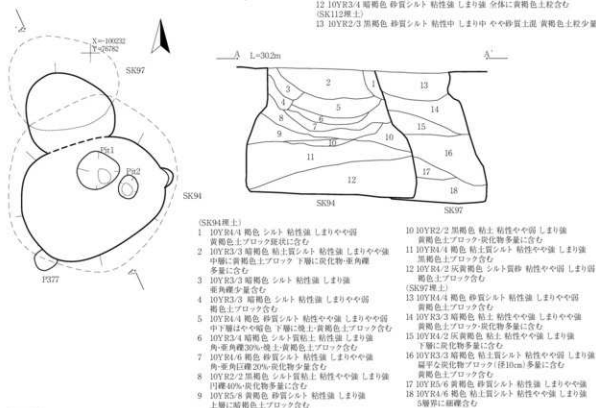
0 1:50 1m

第48図 土坑 (6)

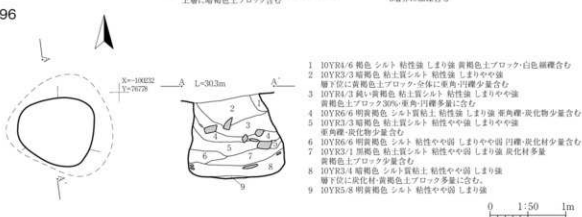
SK90・91・92・112



SK94・97



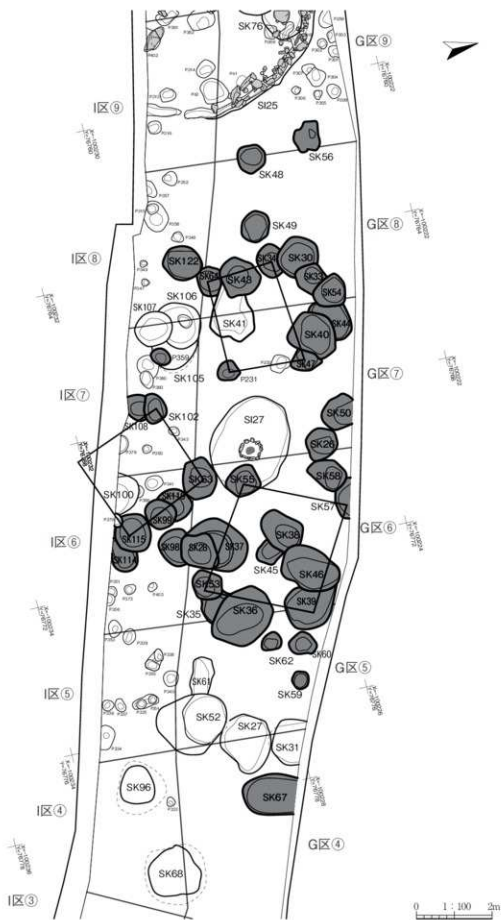
SK96



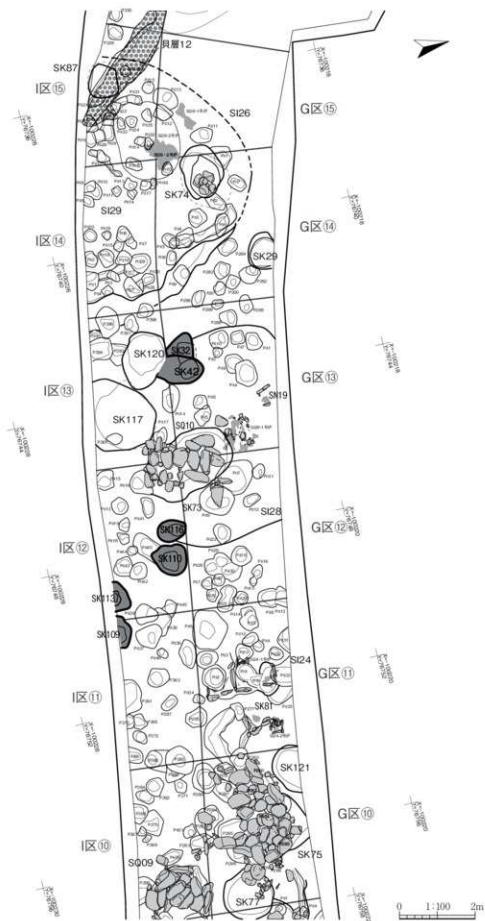
第49図 土坑 (7)



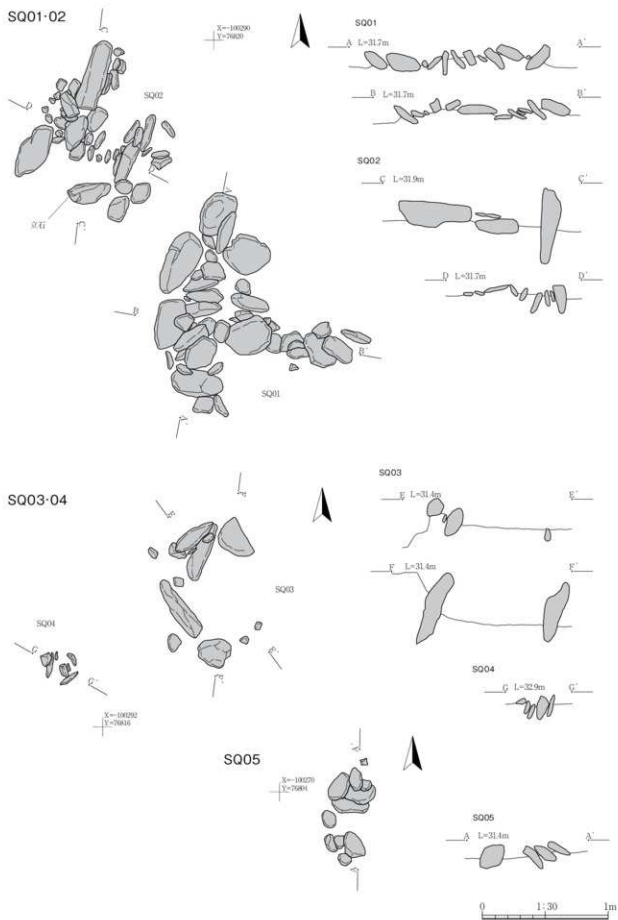
第50図 土坑 (8)



第52図 掘立柱建物跡柱穴分布(2)

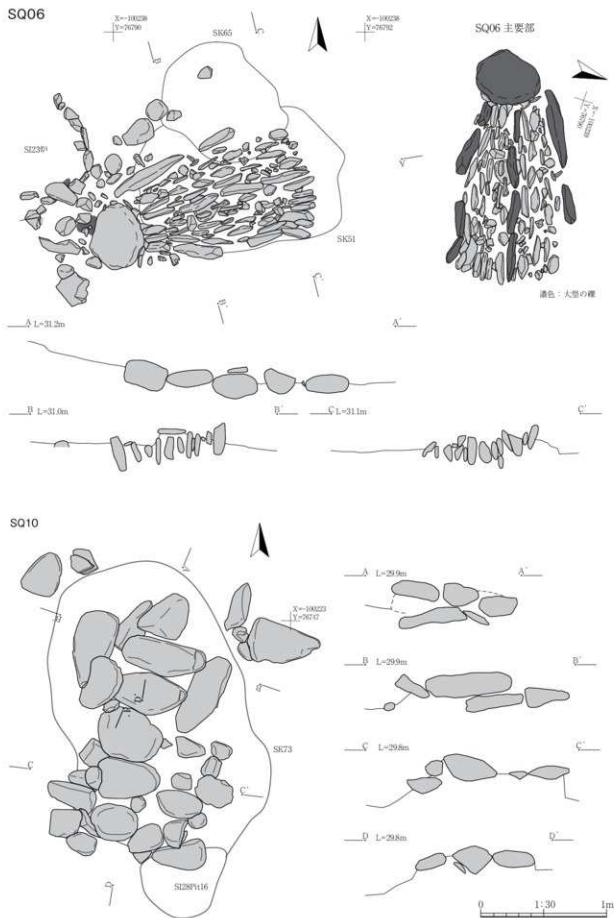


第53図 掘立柱建物跡柱穴分布 (3)



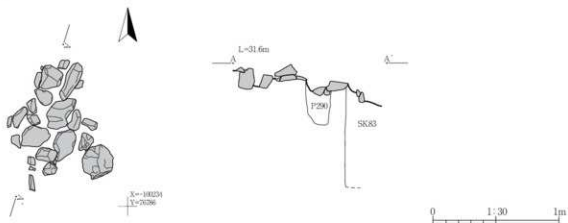
第54図 配石遺構 (1)

2 縄文時代の遺構

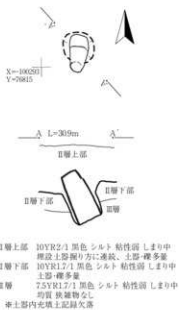


第55図 配石遺構 (2)

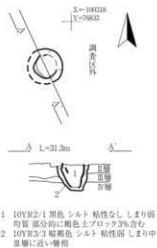
SQ13



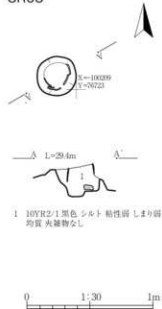
SR01



SR02



SR03



2 縄文時代の遺構

遺物包含層断面

B区①②境

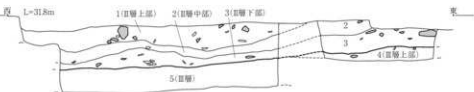
図 L=31.6m



- Ⅱ層 75YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
 粘土少量・砂粒少量含む 礫少量
 分層不顕(上部:縄文後期初遺物、下部:同中期中葉遺物出土)
 Ⅱ層上部 75YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中
 均質 炭化物5% 部分的に粘土を含む
 Ⅱ層下部 75YR3/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中
 褐色土ブロック下部に炭化土を含む 炭移層

B区⑤⑥境

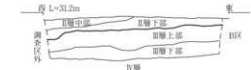
図 L=31.8m



- 1 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 大小礫(10～15%)含む 上部出土多量(Ⅱ層上部)
- 2 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 大小礫(5～10%)含む 上部出土多量(Ⅱ層中部)
- 3 10YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 大小礫(5～10%)含む 上部出土多量 下部に炭化物(5～10%)含む(Ⅱ層下部)
- 4 75YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 大小礫(3～5%)含む 上部出土多量 炭土ブロック・炭化物・褐色土ブロック含む(Ⅱ層下部)
- 5 10YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 均質 炭化物極小(Ⅱ層)

F区⑤⑥境

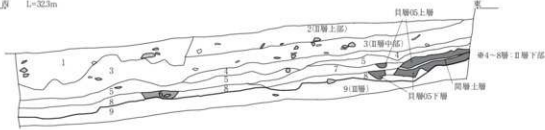
図 L=31.2m



- Ⅲ層中部 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 小礫少量・粘土粒含む
 Ⅲ層下部 75YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 小礫含む
 Ⅲ層上部 75YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 均質 炭化物5%
 Ⅳ層上部 75YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 暗褐色土ブロック含む 炭移層

B区⑧⑨境

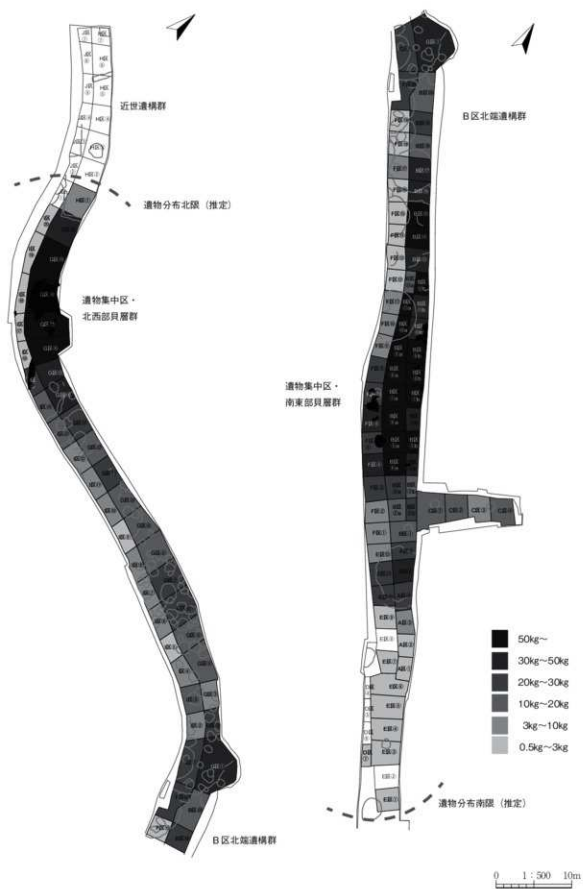
図 L=32.3m



- 1 75YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 礫少量・土部少量・高礫小礫含む
- 2 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 礫少量・土部少量に含む(Ⅱ層上部)
- 3 10YR2/3 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 礫少量・土部少量に含む(Ⅱ層中部)
- 4 75YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 礫少量・土部少量・炭土粒・炭化物含む(Ⅱ層下部)
- 5 10YR2/2 黒褐色シルト 粘性弱 しまり中 礫少量・土部少量・粘土粒含む(Ⅱ層下部)
- 6 5YR3/4 暗赤褐色シルト 粘性弱 しまり中 炭土ブロック(Ⅱ層下部)
- 7 75YR3/3 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 礫少量・土部少量・褐色土ブロック層状に含む 炭化物含む(Ⅱ層下部)
- 8 75YR3/2 暗褐色シルト 粘性弱 しまり中 礫少量・土部少量・炭化物含む(Ⅱ層下部)
- 9 75YR2/1 黒色シルト 粘性弱 しまり中 均質 炭化物少ない(Ⅱ層)



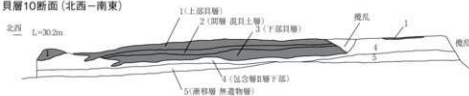
第57図 遺物包含層断面



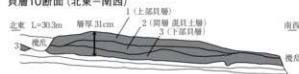
第58図 土器重量分布

2 縄文時代の遺構

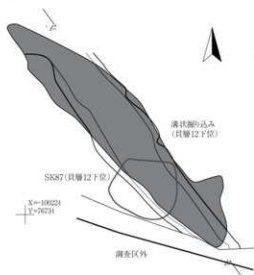
貝層10断面(北西-南東)



貝層10断面(北東-南西)



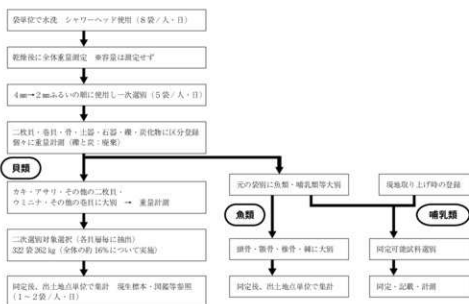
貝層12



- 1 10YR2.2 黒褐色 黄土貝層 粘液中 しまり層
アサリ・ナメコ・織貝多量 ヲミノ等の巻貝点在(貝層12上層)取り上げ
- 2 10YR2.2 黒褐色 黄土貝層 粘液中 しまり層
アサリ・織貝多量 巻貝少量含む(貝層12下層)取り上げ
- 3層 10YR2.2 黒褐色 シルト 炭化物・焼土少量含む アカシ(径10cm)出土

0 1:50 1m

貝層取り上げ資料の整理工程



第61図 貝層12・貝層試料整理手順

3 近世の遺構（第62・63図、写真図版55・56）

H区、J区では掘立柱建物跡を構成する柱穴群、方形の堅穴状遺構（SKI01）、L字状の溝（SD01）、溝と平行する石列（SQ07・08）等の遺構群が検出された。この一帯では縄文時代の遺物はほとんど出土せず、近世後半から近代にかけての陶磁器類が散発的に出土していることにより、これらの遺構群は近世後半以降の民家を構成した遺構と判断している。

柱穴群は当該エリアに約100個を確認した。柱穴の規模は直径30～60cm程度、深さ30～40cm程のものが多い。配列は、調査区である道路と等しい北西-南東の方向に並ぶ柱列が複数認められる。調査区幅の制約により建物全体像を把握できたものはないが、桁行4～7間規模の建物が複数棟、軸方位を揃えた状態とみられる（第62図上段）。また南東部、中央部、北西部の大きく3棟があり、個々の位置で建て替えられている状況が推定される。

建物群の南西部にSKI01堅穴状遺構がある。北東、南東壁の一部分を検出したのみだが、方形に掘り込まれた状態である。北東壁の北側は水道管理設備所のため精査不能であり、規模は不明である。また壁面の一部を柱穴複数が切っており、一部の建物より古い遺構とみられるが、堅穴北東壁の軸方位は柱列の並びに完全に平行しており、両者の時期差は大きくないと判断される。

堅穴内部では壁面に沿った位置にSQ12とした石列がある。30～50cm大の扁平礫を用いて、北東壁側は1列、南東壁側は上下に重なるように配置しており、堅穴と一体となった何らかの施設痕跡と捉えられ、壁立ち建物の基礎等が想定される。

柱穴群の南東端にはL字状に屈曲する溝（SD01）がある。先端から屈曲部まで約3m、方向を変え北東に向かい調査区外に伸びる。幅は30～50cm程で、底面には一定間隔で一段下がる掘り込みがあり、欄間に類似したものの可能性が高い。北側の建物群を囲う施設と考えられる。

SD01から1m程の間隔を開け、SQ07・08とした石列がある。これは黒色土中に角礫を石垣状に積み上げた状態で残存しており、本来は両者が一連であったものが後世の攪乱で分断された可能性があると考えられる。石列全体は、この南東側にあった民家敷地、もしくは農地を造成した際に土留めとして設けた石垣の一部と考えられる。

またSD01の南西側調査区境では土坑3基（SK69～71）、土坑内の配石（SQ11）が1列に連なる。重複部には切り合いがあり、楕円形基調に掘り込まれた土坑が位置を変えて重複している状態である。

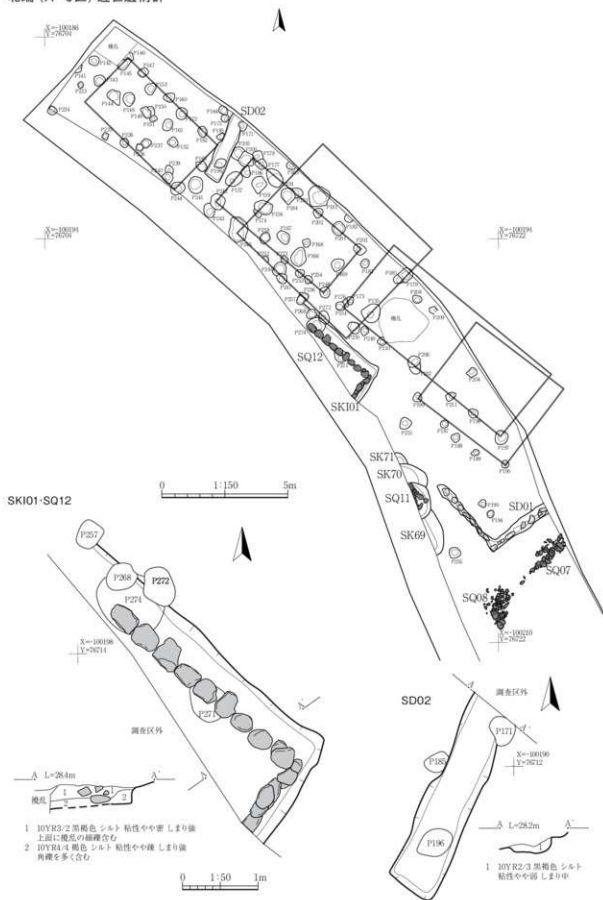
柱穴群の中央部では柱穴を切って南北に伸びるSD02溝がある。幅80cm程度の浅い掘り込みで、末端は調査区中央部で途切れている。溝の走向は周囲の建物群軸方位と異なっており、時期差が大きいものと考えられる。

第11表 北端近世遺構一覧

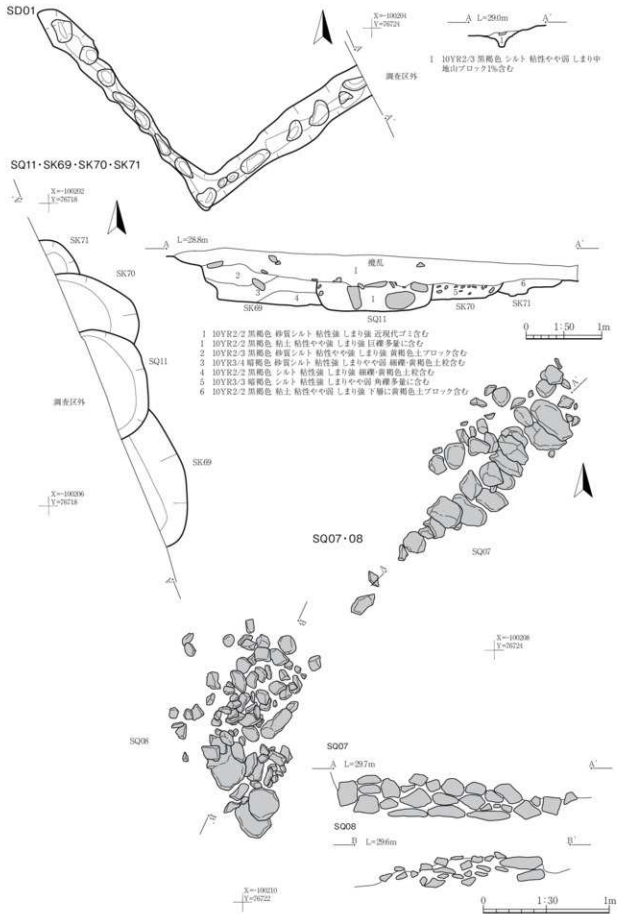
名称	区域	図	写真	規模	特徴
SK101	J区③	62	55	長径44cm以上 深さ13cm	方形の堅穴 北東側掘立柱建物跡群と軸方位同一 壁面にSQ12石列あり
SK69	J区①	63	56	長径155cm以上 深さ48cm	楕円形の土坑 南西側調査区外 SQ11より古
SK70	J区①	63	56	長径82cm以上 深さ46cm	楕円形の土坑 南西側調査区外 堆積土中礫多量 SQ11より古 SK71より新
SK71	J区②	63	56	長径48cm以上 深さ17cm	楕円形の土坑 南西側調査区外 底面凹凸顯著 SK70より古
SQ07	G区②	63	55・56	246×69cm	直線的に巨礫が組まれた石垣状列石 垂角礫使用
SQ08	G区②	63	55・56	172×101cm	SQ07の延長線上にやや幅広の列石状 SQ07より小型の垂角礫使用
SQ11	J区①	63	56	長径150cm以上	楕円形の土坑内に巨礫を配置した配石 円形に組まれているか SK69・70より新
SQ12	J区③④	62		延長32m	SK101北東・南東壁に沿って底面に並ぶ石列 L字状に検出
SD01	G区②H区①	63		長5.7m幅53cm深さ16cm	L字状溝跡 北東側調査区外 底面に枕列跡検出 堀跡か
SD02	H区⑤⑥	62		長2.6m幅95cm深さ10cm	直線的な溝跡 北東側調査区外 掘立柱建物跡柱穴群より新

3 近世の遺構

北端(H・J区)近世遺構群



第62図 北端近世遺構群(1)



第63図 北端近世遺構群(2)

4 縄文時代の遺物

(1) 土 器

縄文土器は重量にして総計3,320kg、40リットルコンテナ換算で202箱の出土がある。第三章に記載したように遺構内外の出土地点を区別して、時期を明示できる個体を中心に743点を図示している。年代は縄文前期後葉大木4式(a501)から晩期後葉大洞A式(a24・633・651・655・726)までの幅があり、加えて弥生時代前期青木畑式に相当する高坏脚部(a254)も出土している。全体としては縄文中期後葉大木9式から後期初頭門前式を主体とする。

以下、土器の図示配列は遺構内、遺構外に大別し、掲載遺構順、及び遺構外資料は取り上げの最小単位とした区域順に掲載しており、型式別、器種別の掲載とはしていないことから、同一分類のまとまりを図示していない点は了承いただきたい。個々の資料の説明は第18表土器観察表に示した。本項では特徴的な資料について記載する。また中期土器に関する型式名称とその内容は『総覧縄文土器』所収論文(小笠原2008、中野2008、森2008)に従う。

① 竪穴住居跡出土土器

SI01住居跡では大木7a・7b式に相当する土器群が床面～埋土下部に集中する(a1～12)。a2は口縁が大きく聞き内湾する器形で、橋状の突起は破損しており本来の形状は不明。a7は口縁の一部に低い突起を持つ(a7-b)。a16は台付土器の脚部で粘土帯接合面から剥落する(写真図版57)。a18は底面に2枚重ねの木葉痕が残る。突起頂部の欠損部は更に上方に伸びる可能性が高い。a22は花卉状刺突文を持つ大木10b式段階の胴部破片。a23は小型の無頸壺形土器で口縁直下に鈔状の隆帯が巡り、正面に焼成後の穿孔が2個開けられる。a24は大洞A式鉢形土器口縁部。器面の風化が進んでおり、二次的な移動を経た可能性が高い破片である。SI01に隣接するP406からも大木7b式土器がまとめて出土する(a335～337)。

SI02住居跡は大木9b式を主体とする。a27は1単位のみ逆U字状モチーフの上端が低く、口縁との間に蕨手状文様を加えられる。a30は地文上に細い沈線文を持つ。SI03・04・05・06・08住居跡出土土器も大木9b式が主体となる。a35の文様区画は1本ずつ引かれた平行沈線が用いられる。a39は刺突充填のH字状文の左右接点が隆線となり下部に縄文が施される。一方、SI04出土a52は同様のH字文が平行沈線で描かれ、区画外上部に刺突文が充填される。二段に内湾するa48は、上部に双頭過文を主としたモチーフが展開する。同じ図形はa58で隆線により表現される。a79はU字状と楕円形文様の繰り返しと推定されるが全体は判然としない。a84は調整された隆線による文様が口縁に二段で構成される。同様のモチーフはa97の口縁部や、a98の胴部に縦て加えられる要素に近い。a100は縦位の単位文様が3本で1組となり、4単位を繰り返す。

SI09住居跡出土土器の主体は大木9a式～9b式にかけての幅があり、a115・119・120のように隆線文様が施される9a式と、a116・117といった単純な沈線文を用いた9b式が混在する。この中では、単位文様間に蕨手状の沈線が付加されるもの(a122・124・126・127・129)、同モチーフを隆線で描くもの(a130・132)の両者がある。a120は口縁部以外の無文部分に赤彩を施す。B区北端遺構群では大木9a式～10a式段階の土器が混在しており、遺構群の年代を特定の段階に絞り込むことは難しい。

SI23床面出土a199は細い口縁がつく徳利形の下半であろう。施文は3単位で施される。a200～211は後期初頭～前葉に位置づけられる土器で、SI23の年代観は後期まで下る可能性が高いとみられる。

SI24-1号埴埋設土器a212は、地文を全面に施した上に調整された隆線文による波頭状モチーフが隣接単位と接するように展開する。2号埴埋設土器（a213～216）は太い沈線を用いた大木10b式土器で、同一段階の資料と見て差し支えないと考えられる。SI27出土a220は頸部の無文部上下を沈線で区画する、縄文晩期後半段階の資料である。SI28埴埋設土器（a222・223）は地文のみの資料で詳細は不明だが、中期末段階と推測される。

② 埴跡埋設土器

SN01埋設土器a229は胴部上半に刻目入り隆線で玉抱状のモチーフが描かれる大木10式後半段階の土器。二重口縁の突起を備えていた可能性が高い。SN03埋設土器RP2のa230は胴上半から口縁まで外反して長く伸びる壺形土器で、細い沈線によるJ字状無文帯の接点に鱗状の隆線が加えられる。SN06埋設土器a234の底面には3枚重ねの木葉痕が見られ、底面外側は木葉痕を消すナデ調整が加えられる。SN11埋設土器a239は直線的に外傾して開く深鉢形。縦回転の地文縄文や胎土の状況から中期後葉と判断されるが、該期では比較的少ない器形である。SN13埋設土器a240はやや細長い小型深鉢下半。縄文地文の上から2本組沈線文が施される。大木8a式と判断したがこれより後続するかもしれない。同じSN13埴跡前庭部からは大木7b式に位置づけられる口縁部片a241の出土がある。SN14埋設土器a242は太い隆線を用いた弧状モチーフが描かれる。

③ 土坑出土土器

例木痕と判断したSK15の黒色土部分出土a254は中位と下端に3本一組の沈線帯が巡る高坏脚部。弥生前期青木畑式段階の資料と判断される。SK17からは大木10b式段階の大破片が集中して出土した（a255～260）。このうちa258は円形基調の透かしを持つ器台もしくは台付鉢の台部片である。同様に土器出土が多い土坑としてSK52・77・83等がある。SK52では連鎖状隆線を持つ門前式大波状口縁深鉢（a277）等、後期初頭段階の土器片が集中する（a277～284）。SK77出土土器では大木10b式深鉢（a290）と地文のみの深鉢（a291～293）があり、出土状況から両者が共伴したと考えられる。SK83出土のa295は、細い沈線で描いたJ字状モチーフ内部に縄文を充填させ、縄文帯末端に刺突入り鱗状隆線が貼り付けられる。大木10b式でも新相の資料と捉えられる。

④ A区包含層出土土器

北半の④⑤に中期前葉～末段階の土器が集中する。中期前葉（a341・342・346～348・357）はⅡ層下部～最下部の出土が多いが、中期後葉、晩期土器との混在も見られる。a343の隆沈線区画内は縄文充填である。a344は波状口縁の大小突起が繰り返され、小突起下にU字状無文帯区画が加えられる。a345台付鉢の透かしは二段に入る。a355の無文部分は縄文部分に比べやや厚く盛り上げられる。

⑤ B区包含層出土土器

全体的な傾向として、南半のB区①～④にかけては中期初頭から晩期にかけての土器がⅡ層中に混在しており、主体となる時期が特定し難いものに対し、B区⑤以北は大木9～10式段階に集中する状態となっている。F区包含層出土土器でも同様の傾向が認められる。

a338は深鉢口縁部に注口部を持つ個体で、隆帯裾に刺突部を持つ大木10b式新相の土器。連鎖状隆線による方形区画文のa389、二重の橋状突起を持つa369・390・426・531、捻りを加えた環状突起や頸部隆帯に沿う刺突列、胴部無文帯の接点に加えられる鱗状隆線等が特徴のa362・377・448・449、

隆線に加えられる2個一對の刻目を特徴とするa377・464等も同一段階の土器と判断される。

大木10b式のa381はクランク状の無文部が横位に連続するが、隣接する単位が一部で接し無文部同士の切り合いが見られる。a404では波状口縁に平行して、頸部に斜位刺突を連続させた刺突列を2条巡らす。横位のS字状文が展開するa405は、口縁下の無文部接点に浅い円形の刺突が加えられる。

a446は胴部中位の括れ部を境に、楕円形区画とC字状貼付文の繰り返しを2段ずらして配置している。a452・453の区画内に施文される刺突文では下方から上方へ向けた刺突が用いられる。a463の橋状突起下刺突文も同様の手法による。a456は完形の小型深鉢で、出土時には内部への土壌の流入は微量で、小型のアサリ貝殻約30個が入っていた。採取した状態で土器に入れたまま残存した可能性、食料残渣の貝殻を入れた可能性の両者があり得るが、どちらも確定し難い。a466は網取Ⅱ式に相当する集合沈線文を持つ口縁部片。低い突起下に同心円文が配される。a510・513は隆線による渦文と楕円形区画の組み合わせを交互に繰り返した文様構成で共通する。a510は渦文に発した沈線が垂下し、部分的に3本平行沈線となる。

⑥ C区包含層出土土器

隣接するA区・B区南端包含層と同様に、中期前半の大木7a～8a式段階の土器が主体である（a533～546）。C区①・②のa536はキャリパー形を呈し口唇直下に縦位の縄文原体圧痕を並列させる。同様の特徴はC区①のa537・538にも共通する。a539は隆沈線文様が展開し連鎖状隆線が垂下する。大型の突起下にはC字状の隆線が伸び、入面を模したようにも見える。a540は頸部が屈曲する浅鉢形。口縁部の縦位隆線直下に三角形文が付属する。a542は口縁突起下に蛇行沈線が伸びる。a544は口縁部文様帯に断面三角形の隆線による剣菱形のモチーフを描く。

⑦ F区包含層出土土器

全体的な傾向はB区と類似する。南半のF区④Ⅱ層下部～Ⅲ層にかけて大木7b式土器のまもりがある（a569～572）。a566・568は同一個体で口縁部に斜位の沈線状刺突列を施した上にC字状貼付を加える。a567は交互刺突により蛇行する縦位隆線で口縁を区画する。

F区⑤以北は大木9～10式段階が多い。浅鉢形を呈するa576は低い隆線により縁取られた無文部が高く残り、無文部のみに赤彩が施されている。上半の状態は不明である。低い壺形のa579は強く張り出す頸部に紐通し状の突起を持ち、これから伸びる無文部が赤彩される。a587は小型で中位がくびれる器形。下半から底縁にかけて施文され上半が無文となる文様構成は他に見ない。a599は小型で赤彩された壺形胴部片。頸部隆帯に貫通孔が開けられており、有孔罎付土器の形態に類似する。a600は上半に向かって内湾して開く鉢形で、隆線文様が口縁部に集約される。大型の壺形に近いa607は口縁部に2個1対の円形透かしが推定4単位繰り返される。透かしの状態は器台に類似する。

F区北端部では後期初頭～前葉土器が顕著である（a611～619）。a614は平行沈線による縦の連鎖状モチーフと頸部に鋸歯文を施す。類例の少ない文様構成である。

⑧ G区包含層出土土器

東端のG区①②周辺はB区⑱⑳、F区㉑に隣接し後期初頭～前葉土器が主体となる。a622は1本の沈線による幾何学状文様で無文部と地文部を区画する。a626は胴部に横位の単輪絡条体を施し、頸部には同一原体の圧痕を巡らす。胎土、焼成の状態により中期後葉と推測している。G区東半から中央にかけては後期に加えて晩期土器の出土も比較的多い。これについては後述する。a704の胴部文様は

残存部分を見る限り単位によって基本となるモチーフが異なるようである。

㊦ 貝層出土土器

貝層10からは大木8a式深鉢上半 (a732)、大木9a式の隆線を用いた内湾する深鉢 (a733・734)、曲線的な区画文を施文する大木10a式 (a737・738) 等が出土する。貝層10上層では大木9a～9b式、下層では大木9a～10a式が含まれており、貝層10の形成年代は大木9b～10a式段階に求められる。

㊧ 中期大木式、後期初頭～前葉以外の土器

〔大木4式土器〕 B区①のa501が該当する。地文上に粘土紐による幾何学状の文様を加えられる。前期大木式はこの1点のみ確認した。

〔円筒上層式土器〕 B・F区南端に数個体が集中する。B区⑨bⅡ層上部出土のa468・469、F区①Ⅱ層下部出土のa556、F区②Ⅱ層出土のa558は、胴上半から口縁部に原体圧痕を加えた隆帯文様を展開させ、隙間にC字状の原体圧痕を充填する典型的な円筒上層b式土器とみられる。F区⑥Ⅱ層上部出土のa581は細い隆線の特徴から円筒上層c式と推定される。いずれも東北地方北部に分布するものと差異はなく、搬入品の可能性が高い。

〔縄文後期中葉～後葉土器〕 該期と特定される個体はほぼ図化掲載している。SI26埋土出土のa217は屈曲する注口土器口縁部。内外面とも丁寧に磨かれる。B区南端Ⅱ層上部のa371・391は刺突を沿わせた曲線的な沈線文が展開する。a491は内湾する口縁部下に列点を挟む平行沈線帯を持ち、下半は充填縄文手法による曲線的な文様構成を取る後期中葉の鉢形、もしくは深鉢形土器。a557は内面側が厚厚する無文の突起破片。a648は加曽利B1式に併行する大波状口縁深鉢である。後期後葉段階に属するものとしてはa363の後期末入組文を持つ破片、a641の瘤付土器破片を確認した。

〔縄文晩期土器〕 大洞BC式に該当するものとしてa372の注口、a635・642・715・722の羊歯状文を持つ鉢、a725の浅鉢、a650の壺胴部がある。G・I区東半～中央の包含層上部に偏在する傾向がある。大洞C1・C2式ではa644・647・716の浅鉢、a730・731の注口、a345の台付土器台部破片、a663の壺口縁部等がある。大洞A式ではSI01出土のa24鉢口縁部、工字文が描かれるa633鉢口縁部、a651・726浅鉢破片、a655壺胴部片がある。a645は脚付土器の脚部で細い沈線を伴う。晩期土器は全体にG・I区に偏在する。他にSK15からは前述のように弥生前期高坏が出土している。

㊨ 特殊な器種

〔器台〕 器台はa70・93・107・595がある。全て正面観が台形状を呈する阿部(2001)の器台A類に該当するタイプである。a70は無文で残存部に2箇所の円窓を確認した。円窓を持つa70・93・595は2個1対の透かしとなっている可能性が高い。a107は大木9式の文様構成を持ち、楕円形区画の替わりに縦長の透かしを持つ。受面器面の荒れが目立つ。この他に台付鉢・台付深鉢の脚部破片か、または器台破片か区別がつかないものとしてa33・91・92・106・258・512・529・620がある。いずれも円形、楕円形の透かしが確認される破片であり、大木9～10式段階のものと推定される。

〔切断蓋付土器〕 SK94出土a302は小型で赤彩痕を持つ切断壺形土器の蓋部破片。後期前葉と推測される。切断面は水平に切られており凹凸は見られない。

〔双口土器〕 a743は小型で細身の深鉢形を2個体接続させ仕切りを設けた形態を取る。全体像は不明だが中期後葉に出土事例がある双口土器の一部分と推測される。丸底になる可能性が高い。

(2) 土製品

縄文時代の土製品としては土偶、鐸形土製品、三角壱形土製品、匙形土製品、土製耳飾、キノコ形土製品、腕輪形土製品、土鍾、土玉、不明土製品、巨大焼成粘土塊、斧形土製品、土器片利用盤状土製品、円盤状土製品がある。第12表に個々の出土点数、図化掲載点数を示した。以下、器種別に説明を加える。

①土偶

合計10点を数えるが、うち3点は土偶腕、または脚の一部である可能性を持つ破損品で、向きや表裏も判断がつかない。これらを除き7点を図化掲載した。

b1は大木7a~7b式段階の東北地方南半に分布する立像土偶の脚部である。破損状態から判断すると両脚の先端は分かれているとみられる。腰の外側が明瞭に張り出し角部を形成しており、脚部の幅から見ると短脚気味だが、残存高7cmを超えており全高は20cm以上と推測される。丸い沈線が全面に施され、前面には縄文が施される。b2は十字型土偶腕とみられる。前面後面の区別は正確ではないが、中央に直線的な列点を伴う側が前面ではないかと推測している。b3は後期初頭土偶上半身で背面が大きく欠損する。頭部の突起には貫通孔が2穴開く、耳朶にも円形の貫通孔があり、耳飾りの装着状態を表現したものと考えられる。前面には稚拙な沈線による衣類表現のモチーフが施文される。b4は円形刺突列が施された後期前葉土偶の上半身。頭部上半は顔面の鼻表現の中間で断ち切られたように水平に割れている。b5・b6も同様の刺突で飾られた土偶破片と推定される。b5は脚表現が省略され下面は水平で安定する。中央に前後の貫通孔を持つ。b7は後期前葉に位置づけられる無文の脚部。胎土に多くの砂粒を含み表面にも現れており、粗雑な仕上がりととなっている。

②鐸形土製品

b8・9の2点がある。b8は細い沈線が縦横に施される。頂部は破損しており貫通孔の有無はわからない。b9は列点状の刺突と沈線文様を持つ丸い形で、頂部には貫通孔が開けられる。両者とも内面に特殊な付着物、使用痕は観察できない。

③三角壱形土製品

2点を確認した。b10・11両者共に丸みを帯びた頂部稜線付近の残存で、全体形状は不明である。b10は両面に円形刺突列が弧状に施されており、破損面には中央を貫く径5mm弱の貫通孔痕跡が確認できる。b11は横断面形状がb10と等しいが頂部稜線はやや直線的である。両面に1条の沈線が水平に巡り頂部を画する。

第12表 土製品集計

分類名称	土偶	鐸形土製品	三角壱形土製品	匙形土製品	土製耳飾	キノコ形土製品	腕輪形土製品	土鍾	土玉	不明土製品	巨大焼成粘土塊	斧形土製品	土器片利用盤状土製品	その他の土製品(陶器)	その他の土製品(土器)	円盤状土製品	焼成粘土塊
点数	10	2	2	1	5	1	2	3	6	3	1	10	6	1	2	521	54
掲載点数	7	2	2	1	4	1	2	2	4	1	1	10	0	0	2	28	0

④匙形土製品

b12の1点で、扁平で短い柄部を持つ楕円形の形状から匙形土製品と判断した。柄部に2個の小径貫通孔がある。

⑤土製耳飾

b13の滑車形耳飾、b14~16の鼓形耳飾がある。b13は両面に四重に巡る刺突列、側面の片側に一重の刺突列が施文される。試みに刺突の数をカウントすると、図の左面では中央から「5・10・19・25」、図の右面では中央から「7・12・21・31」個でそれぞれ1周する。最も外側の列を除き、左面の刺突数に2を加えると右面の刺突数になる状態だが、偶然なのか意図的なのかは判断がつかない。

b14・15は孔径1cm前後で高さ2cm程になる大型で、表面の仕上げはやや粗い。b15には部分的に赤彩の痕跡が観察され、本来は全面彩色されていた可能性がある。一方、b16は孔径2mmに満たない小型の耳飾で、凹面は丁寧にミガキ調整が加えられる。これらの他に鼓形耳飾の一部と考えられる破損品が1点出土している。

⑥キノコ形土製品

b17の1点がある。軸部と傘の一部を欠損する。外面の仕上げは雑で、製作時に粘土を継ぎ足した痕跡が残る。

⑦腕輪形土製品

b18・19の2点がある。両者とも分厚い環状を呈する腕輪形土製品の破損品と判断され、完存状態での径は不明である。b18は外面に縄文施文が痕跡的に観察される。

⑧土錘

b21・22、及び破損品1点がある。b20は十字に溝を刻んだ土錘で穿孔はなされない。b21は表面には手を加えず中央に貫通孔を持つ土錘である。

⑨土玉

貫通孔を持つものを一括しており、中には土錘を誤認したものが含まれているかもしれない。合計6点を数え、うち4点を図示掲載した。b22は楕円形で縦横に貫通孔があり中心部で交差する。横の貫通孔は穿孔後の変形でやや潰れており、ごく細い紐しか通らない状態である。b23は扁平な円盤状で貫通孔は一方、b24は球形の小玉に貫通孔が開けられる。b25は断面菱形の算盤玉状を呈し、ナデ調整を受けた表面は黒褐色に仕上げられる。

⑩不明土製品

b26は一端に平坦面を持ち反対側が若干細くなる棒状を呈し、横断面は楕円形と推定される土製品で、平坦面側に貫通孔が開けられる。表面は比較的丁寧に調整され黒褐色の色調に仕上げられる。脚部表現を省略した土偶の一部である可能性も考えられる。

⑪巨大焼成粘土塊

SI09の中央部床面から出土したやや歪んだ球形の焼成粘土塊である。直径14cm弱、重量は1,656g

に達し、手で持った場合の重量感は著しい。内部に径5～10mm程度の大きめの砂粒が多量に混入しているらしく、表面の各所に状状に突き出した砂粒が見える。乾燥収縮に伴い表面に現れたものと考えられる。全体には丁寧な仕上げで部分的に光沢も生じているが、ひび割れも多く観察される。住居内に置かれた状態で二次被熱を受けた可能性が高く、床面に接した側のみ白っぽい色調で、他は暗褐色を呈する。保管していた素材粘土の塊が焼成を受けたものと推測しているが、全く別の目的で球形の土製品として製作された可能性も否定はできない。

⑫斧形土製品

中期中葉～後葉の所産と考えられるもので合計10点を数える。全て破損しており完形品は含まれない。幅4cm前後になるものが多いが、b37は残存部の幅が2cm程度の小型品である。刃部側の平面形は丸みを帯びる。基部側が残存するb30・37では横方向に貫通孔があり、懸架用の紐を通したものと推定される。縄文以外に沈線等の施文は観察されず文様による時期判断の決め手を欠くが、複節縄文を用いているものが多いこと（b31・34・35・36）等から大木8b～9式段階が主体となるようである。

⑬その他の土製品

粘土紐が焼成を受けた状態の棒状を呈するもの、扁平に整形したもの等の合計6点があるが、図化掲載は見送っている。

⑭土器片利用盤状土製品

次項の円盤状土製品と同様に土器片を素材として、方形や三角形等に仕上げた2点があり、円盤状とは別分類とした。b38は五角形に外形を整え一端に貫通孔を設けたもので、垂飾品の一種とも捉えられる。縁辺はほぼ全周にわたり研磨調整を受ける。素材土器片は沈線3条が平行する大木8b式土器片が用いられる。b39は研磨調整によって三角形に仕上げたもので、素材は細い沈線文を持つ後期初頭の土器である。

⑮円盤状土製品

土器片縁辺を加工して円盤状に仕上げたもので、合計521点を数える。うち遺構内出土品、特徴的な施文を持つ個体を中心に28点を図化掲載している。図示は素材土器片の天地方向に合わせているが上下はこの限りではない。サイズは径2～5cmに集中し平均値は3.5cm。重量は7～20gが多く平均値は14.3g。側縁の状態は打ち欠きにより円形に仕上げるものと、更に研磨を加えるものがあり、後者の方がやや多い。

⑯焼成粘土塊

包含層や遺構内堆積土から合計54点の出土がある。土器、土製品素材として保管された粘土が焼成を受けた状態のものが大部分である。図、写真掲載は見送っている。大きさは平均径2cm余り、重量は平均13.5gである。

(3) 石器・石製品

石器は石鏃、小型尖頭器、石錐、石槍、石匙、両極剥片、不定形石器、使用痕ある剥片、石核、剥片、磨製石斧、敲磨器類、小型棒状磨石、礮器、砥石、石皿、台石、石棒類、石製円盤、軽石製品、その他の石製品に分類した。個々の出土数、及び図化掲載点数を第13表に示す。ここでは器種別に特徴を記載する。

①石鏃

合計434点の出土のうち41点を図化掲載した。出土は他器種、他種類遺物と同様に各遺構堆積土、遺物包含層からが多く、特殊な出土状況は確認していない。基部、茎部の形状で分類すると、凹基無茎石鏃が321点(74%)、平基無茎石鏃60点(13.8%)、凸基有茎石鏃10点(2.3%)という結果で、全体の3/4が凹基無茎で占められる。ただし同じ凹基無茎でも、c11・19のように側縁に浅い抉りがあり基部両翼が鋭く突出するタイプ、c5・10・29といった側縁が内湾するカーブとなるもの等のバリエーションが認められる。

石鏃のサイズは全長が1.1~7.1cmで平均値は2.1cm、重量は0.1~35.6gの変異があり平均値は1.8gである。このうち、c3は全長1.1cm、重量はわずかに0.1gという極小の石鏃で、他にも完作品にも関わらず重量0.1~0.2gと非常に軽量なものが複数含まれており、実際に矢尻として機能したのかどうか疑問がある。付着物では、アスファルトと推測できる黒色付着物の痕跡が観察されるものが15点(3.5%)と少量に留まる。c39のように基部の一部に付着するものが大部分だが、c31は両面の先端付近まで広く付着物で覆われる。

石鏃の使用石材は頁岩293点(67.5%)、赤色頁岩76点(17.5%)に珪質頁岩18点(4.1%)を加えた頁岩系が主体である。黒曜石製石鏃は24点(5.5%)を数え、メノウ9点(2.1%)、玉髓6点(1.4%)を上回る点が目立つ。黒曜石の産地同定分析は実施していないため正確な情報を示すことはできないが、小型の円礮を用いたものが多いと推測される。

②小型尖頭器

平面形状は石鏃に類似した左右対称形を基本とするが、厚く側縁の細部調整が石鏃に比較して粗いものを抽出している。合計37点を数え、うち9点を図化掲載した。いずれも石鏃未製品の可能性を有するが確定はできない。基部形状は平基25点(68%)、凹基9点(24%)で明確な茎部を持つものは平基有茎型が4点含まれる。基部に抉りを持つ凹基タイプはない。サイズは全長が1.1~4.2cm、平均値2.7cm、重量が0.4~8.6g、平均値3.9gとなる。石鏃と比較すると全長平均値の差は少ないのに対し、重量平均値では石鏃の2倍の数値となっており、石鏃より分厚いという特徴を反映している。

使用石材は頁岩24点(65%)、赤色頁岩5点(14%)が目立ち、石鏃とほぼ同一の傾向がある。ホ

第13表 石器・石製品集計

分類名称	石鏃	小型尖頭器	石鏃	石槍	石匙	両極剥片	不定形石器	使用痕ある剥片	石核	磨製石斧	打製石斧	敲磨器	小型棒状磨石	礮器	砥石	石皿	台石	石棒類	石製円盤	軽石製品	その他の石製品	合計
点数	434	37	44	5	27	20	445	136	12	81	3	628	59	130	23	52	135	35	6	7	6	2325
掲載点数	41	9	11	4	12	2	43	10	5	20	0	48	17	12	3	10	11	19	3	3	5	288

ルンフェルス、黒曜石、珪化木を用いたものが各1点含まれる。

③石錐

44点の出土があり11点を図化掲載した。摘みを持たない棒状石錐14点（32%）、円形、方形の摘み部を持つもの21点（48%）、剥片の一端を加工し錐部としたもの3点（7%）に細分される。いずれも錐部は細部の二次加工により棒状に仕上げられており、使用による顕著な摩滅は8点（18%）で観察される。平面形状が石鏃、小型尖頭器に類似するc54等も、先端は回転による摩滅痕を持つ。c61は全長1.6cmと非常に小型の石錐で、一端には摘み部が作り出される。

石錐の石材は頁岩34点（77%）、赤色頁岩6点（14%）で大多数を占めており、他に凝灰岩3点（7%）、珪質頁岩1点（2%）が含まれる。

④石槍

図示した4点の他に基部と先端を欠損した1点がある。c62はやや小型で片面に素材の礫面を残す。c63・64・65はいずれも全長10cmを越す大型の石槍で、先端側の幅が広く基部に向かって細身の形状を持つ点は共通するが、最大幅を持つ部分が先端に近い剣先形のc63・65と、両側縁がほぼ平行し柳葉形を呈するc64に区別される。

c64は先端両面が別離面稜線の観察ができない程度に粗く風化した状態となる。使用によるものか、または槍先としての使用と無関係に表面を人為的に敲打調整したものか判断がつかない。基部付近では両側面に装着用とみられる抉りが入る。c63・65は中央部に点状、飛沫状に黒色付着物が観察される。石材はいずれも頁岩を用いている。

⑤石匙

27点中、12点を図化掲載した。器体と摘み部の位置関係で細分すると縦型14点（52%）、斜位型8点（29%）、横型3点（11%）の割合を示す。縦型のうちc69は左側縁の腹面側に連続剥離を行いこれを打面として背面に稜線まで達する長い二次加工を加え、右側縁には急角度の二次加工を行う松原型石匙（秦1991）に該当する。c77も同様に腹面側に連続剥離が見られるが、これは剥離面の色調が異なる二重パティナと捉えられる。c71・72は側縁全周に両面の二次加工による刃部を持つ。c75は素材剥片末端側に突出する摘み部を形成する。摘み部のノッチ部分にアスファルト等の付着物が観察されるものは1点（不掲載）に留まる。使用石材は27点全てが北上山地産の頁岩を用いている。

⑥両極剥片

両極剥離痕を持つ剥片である。対向する2辺に複数回の加撃による潰れが生じる楔形石器を含むが、他の小型剥片石器素材との正確な区分ができないため一括している。合計20点を抽出し、うち黒曜石製の2点を図化掲載した。c78はほぼ不透明の素材で図の上方側縁に潰れが生じている。c79は透明度の高い素材で片面は素材礫面がそのまま残る。両極剥片石材は頁岩13点（65%）、黒曜石4点（20%）、赤色頁岩、珪質頁岩、凝灰岩が各1点で、いずれも小型の円礫が素材とみられる。

⑦不定形石器

前述までの所謂不定形石器に含まれない二次加工が施された剥片石器を一括した。合計445点を数える。うち43点を図化掲載した。素材剥片の形状、サイズ、二次加工の状態等における個体差が大きく、

分類による一定のまとまりの識別には検討が不足しており、ここでは細分を行わない。

二次加工の部位、及び加工が片面のみか、両面から加えられたものかを区別し集計すると、1 緑片面176点 (39%)、1 緑両面52点 (12%)、2 緑片面78点 (17%)、2 緑両面85点 (19%)、全周両面17点 (4%) 等といった結果が得られる。これらの他に少数だが全周片面二次加工のラウンドスクレイパー状の石器や3 緑に二次加工を持つもの等がある。全周二次加工の石器は石筥や尖頭器状の整った形状を持つものが含まれる (c85・110・113・120・122等)。

これらの他に大きく内湾する刃部もしくは半円形に挟れた刃部を持つノッチ状の石器が6点 (c81他)、側縁に連続する深い剥離によって鋸歯状の刃部が作出された所謂鋸歯緑石器が15点 (c87・94・115・119他) 等が認められる。このほか特徴的な資料としては、c90は両面に飛沫状に黒色付着物が観察される。c105は剥片の折面に二次加工を施す折断調整石器と判断される。

不定形石器全体では頁岩系が346点 (78%) で、赤色頁岩、珪質頁岩を含めると9割以上が頁岩系を素材としている点で他剥片石器類と同様である。

⑧使用痕ある剥片

剥片の側縁に、使用による刃こぼれと考えられる微細剥離痕が連続して見られるものを一括した。合計136点を数え、うち10点を図化掲載した。二次加工による剥離面と微細剥離痕の区別は微妙だが、概ね剥離面の大きさが3mm未満の場合に微細剥離痕とした。同時に、偶発的な側縁の破損と区別するために、剥離の大きさが一定程度に揃いかつ連続する点を重視している。剥片の1 緑 (1箇所) に微細剥離痕を持つもの94点 (69%)、2 緑に見られるものが36点 (27%) があり、側縁全周にわたり断続的、あるいは連続して微細剥離痕を持つものは5点 (4%) に留まる。c132は細身の剥片両側縁に微細剥離痕があり、基部側は挟りが加工されていることから縦型石匙の未製品である可能性がありうる。使用される石材は頁岩系が123点で90%を占めており、不定形石器と同様の傾向にある。

⑨石核

12点を確認しており、うち5点を図化掲載した。c133は透明度が低い黒曜石の大型円礫を半割した状態で、一部分に剥離面がある。素材の分割剥離面は風化が進んでおり、人為的な加工痕跡かどうか判断に迷う。c135は重量1kgを超す大型の残核で、2面の打面から短い剥片を集中的に剥離している。

⑩剥片

二次加工、使用痕が観察されない剥片類について、通常の剥片石器素材、または製作段階に発生した剥片と、砂岩や安山岩等の石材で石斧、礫器等の製作時に発生したと考えられる剥片 (以下、礫剥片と呼称) を区別し個々に出土地点別に集計した (第14・15表)。合計点数は前者が3444点、後者の礫剥片が232点である。両者の分布状況は土器の出土分布とほぼ同一の傾向にあり、B区・G区包含層において突出している。

礫剥片は打面、打点、主要剥離面のリングが観察されるものを抽出しており、偶発的な礫の割れ等によって生じた碎片と区別している。サイズは全長平均5cmを超え、重量では73gに達する。加えて、全長5mm未満の碎片をチップとして、2017年度調査の貝層全量悉皆取り上げによる選別過程で抽出集計した結果は貝層10のみで2724点に達しており (第16表)、通常の遺物包含層にも多量に含まれていることが推測される。目視取り上げのみでは微細資料に対応できないことを再確認した。

⑪磨製石斧

合計点数は81点を数え、うち20点を図化掲載した。稜線を持つ定角式が76点（94%）で大部分を占め、断面が丸みを帯びる乳棒形は1点（c138）のみ確認した。また全体の9割を超す75点が破損品であり、内訳は基部側の欠損36点（44%）、刃部側の欠損47点（58%）となる。擦切技法を用いたものは確認されない。c149は片面に自然面を残し、側縁が敲打調整段階、基部側面が研磨調整段階の未製品と判断される資料で、基部の欠損により破棄されたものと考えられる。

石材は細粒花崗閃緑岩20点（25%）が最も多く、砂岩13点（16%）、ホルンフェルス9点（11%）、細粒閃緑岩8点（10%）、頁岩7点（9%）、ヒン岩5点（6%）と比較的多様である。このうち北海道産アオトラ石の可能性を持つものが9点（11%）含まれる。濃緑色で薄い縞状の模様が入る良質な石材である。

⑫打製石斧

側縁が敲打剥離調整を受ける礫器のうち、破損品だが扁平撥形を呈する3点について打製石斧の可能性を持つと捉えた。図化掲載は見送っている。典型的な打製石斧形状となるものは出土していない。

⑬敲磨器類

礫素材で敲打痕、摩滅痕、凹痕等の使用痕を持つ石器を一括している。合計628点を確認、うち48点を図化掲載した。使用痕の種類で細分すると敲打痕を持つもの412点、凹部を持つもの335点、スリ面を持つもの136点がある。一方これらが複合して敲打痕+凹部：197点、敲打痕+スリ面：39点、凹部+スリ面：23点、敲打痕+凹部+スリ面：4点といったように、複数の使用痕が複合して観察されるものが多いことが特徴である。

石材は砂岩183点（29%）、デイサイト102点（16%）、流紋岩84点（13%）、ヒン岩58点（9%）、ホルンフェルス51点（8%）等が多く、使用石材のバリエーションに富む。

⑭小型棒状磨石

細粒閃緑岩、砂岩等で肌理の細かい石材の小型棒状円礫を素材として、端部に使用による敲打面、摩滅面が形成されているものについて、敲磨器類から独立させこの名称とした。使用痕は両頂端から側面にかけての部分に顕著に見られ、中央の平坦部にも敲打痕が散在するものが含まれる。合計59点を確認しており、うち17点を図化掲載した。サイズは長さ5～8cm程に集中し、径は2～4cmには収まる。重量は40～80gが多く平均値は約70gである。指先でつまむように保持し、対象物を加工した用法が推定される。

石材は砂岩20点（34%）、流紋岩8点（13%）、デイサイト7点（12%）等があり、その他の敲磨器類と同じ傾向を示すが、より細粒な石材を用いているようである。

⑮礫器

大形の剥片や自然礫を素材として、側縁に二次加工の剥離を施している石器を一括した。合計点数は130点。うち12点を図化掲載した。側縁の剥離加工は一部に留まるもの、全周に加工が行われるものがある。形状としては、c226・230・234のように扁平な円盤状の礫を利用し、側縁に両面から大きな剥離を繰り返すものが多い。サイズは全長10～15cm程度が主体で平均は11.1cm、重量では平均値が420g程である。使用される石材は砂岩78点（60%）が主体で、他に頁岩、デイサイト、ホルンフェルス等が目立つ。

⑯砥石

明瞭な砥溝を有するもの、平坦面の摩滅が著しいものについて砥石と判断している。23点を抽出し3点を図化掲載した。c235は砥溝が顕著な石皿破損品の転用品。同様に砥溝が深く残存するものは安産岩質溶岩を用いたものに類例がある。c236・237は平坦面が顕著に摩滅している。石材は流紋岩5点、安山岩質溶岩5点、砂岩6点等が多い。

⑰石皿

52点の出土、うち10点を図化掲載した。接合資料が複数含まれる。特にSI09では被熱して細片化した有縁石皿破片が多数出土している。縁の立ち上がりの有無により有縁石皿31点(60%)、無縁石皿6点(12%)に区分される。また、下面に脚部を持つものは11点を数える。脚部形状は低い円柱状となるもの(c239・242・246・247他)、長方形や帯状の脚部となるもの(c238・241・243・244他)がある。c241はSK83フラスコ状土坑の底面から3片に割れた状態で出土。一部破損はあるがほぼ完形の両端が上方に反る形状に復元された。c248は下面中央に凹部を持つ。破損後に別用途を目的として転用した可能性が考えられる。石皿の石材は安山岩質溶岩と凝灰質砂岩にほぼ限定される。

⑱台石

大型扁平礫の平坦面に使用による摩滅痕、敲打痕が観察されるものを台石とした。135点を確認しうち11点を図化掲載している。中央部の遺構密集区域において堅穴住居跡の床面に置かれていたもの、石囲炉の構成礫に利用されていたものが多い。サイズは全長10～40cm大が主体で最大66cm、重量の平均値は約4.5kgで、最大41.9kgの台石が含まれる。使用痕は片面もしくは両面に摩滅痕が見られるものが119点(88%)、敲打痕を持つものが36点(27%)で両者とも観察されるものが含まれる。石材は砂岩が最も多く31点(23%)、他にデイサイト16点(12%)、花崗閃緑岩15点(11%)、ホルンフェルス・凝灰質砂岩12点(9%)等があり、石材のバリエーションは石皿に比較して多い。

⑲石棒類

合計35点を確認しており、うち19点を図化掲載した。径5cm、全長15cmを超える大型石棒と、その他の小型石棒に2分できる。大型石棒は角柱状の礫を素材として稜線に敲打、研磨調整を加えたもの(c259・277)と、砂岩、デイサイト等の礫から円柱形の素材を準備し、頭部の加工を施したもの(c262・268・269)、並びにその破損品と考えられるもの(c260・263・264)がある。c269の頭部加工は中央に縦の彫り込みを加え魚頭状に仕上げられている。c277は加工途中の未製品と考えられる。頂端の節理面を利用し男性器を模した形状を意識して敲打調整を行った可能性が高い。

小型の石棒は粘板岩、ホルンフェルスを素材とし、全面研磨調整加工により断面紡錘形の石剣、石刀状に仕上げられたものが大部分である。c266は完形形で柄表現は持たず、一端に向かい次第に細くなる形状となっている。

⑳石製円盤

板状扁平礫の側縁を加工し円盤状に整形したもので、6点を数え、うち3点を図化掲載した。径4～7cm程、厚さは平均1.2cmで、側縁は敲打剥離による整形後に研磨調整を加えるものがある(c278・279)。石材はホルンフェルス、砂岩が用いられる。

第15表 出土地点別礫剥片集計

	出土地点	点数	重(g)		出土地点	点数	重(g)		
遺構内(住居跡)	SI01	6	212.7	遺物包含層B区	B区③	2	284.5		
	SI03	2	192.5		B区④	2	76.2		
	SI04	3	283.9		B区⑤	1	57.3		
	SI05-06-08	3	193.9		B区⑥	1	11.7		
	SI09	11	329.9		B区その他	7	280.1		
	B区北端遺構群	1	17.8		遺物包含層C区	C区①	1	71.4	
	SI27	1	248.0			C区③	1	8.4	
						C区④	1	132.7	
	遺構内(土坑)	SK05	4		151.7	遺物包含層D区	D区④	1	46.2
		SK32	1		181.2		遺物包含層E区	E区③	3
SK69-72		1	264.4	E区④	2			104.2	
SK73		1	138.5	E区⑤	1			115.7	
SK84		1	426.1	遺物包含層F区	F区③			5	446.5
SK97		1	154.6		F区④			1	32.4
			F区⑤		1	86.7			
遺構内(柱穴)	P45	1	29.0	遺物包含層A区	F区⑦	3	36.3		
	P280	1	176.3		F区⑧	2	146.1		
遺物包含層A区	A区③	1	77.0	遺物包含層B区	F区⑨	2	150.6		
	A区④	5	327.1		G区①	4	221.9		
	A区⑤	2	46.6		B区②	4	458.2		
	A区⑥	8	61.32		G区②	1	41.5		
遺物包含層B区	B区①	2	257.0	遺物包含層G区	G区③	2	131.2		
	B区②	2	187.3		G区④	1	44.2		
	B区②	1	52.2		G区⑤	1	175.1		
	B区③	2	74.2		G区⑥	1	58.9		
	B区④	2	89.0		G区⑦	1	81.5		
	B区④	4	424.5		G区⑧	4	708.2		
	B区⑤	6	178.8		G区⑨	6	1124.1		
	B区⑤	2	123.6		G区⑩	1	35.5		
	B区⑥	3	226.0		G区⑪	2	529.1		
	B区⑥	4	56.9		G区⑫	2	79.9		
	B区⑦	8	440.5		G区⑬	1	63.8		
	B区⑦	1	6.7		G区⑭	2	282.1		
	B区⑧	5	386.9		G区⑮	1	103.1		
	B区⑧	5	352.1		G区⑯	2	134.1		
	B区⑨	11	651.0		G区⑰	4	341.7		
	B区⑨	4	268.1		遺物包含層H区	H区その他	1	126.3	
	B区⑩	1	65.6			貝層	貝層10	5	551.5
	B区⑩	6	143.1		その他	その他	3	160.1	
	B区⑪	10	309.8			合計	232	17070.7	
	B区⑪	4	152.4						
	B区⑫	2	135.3						
	B区⑫	2	118.4						
	B区⑬	4	417.6						

第16表 貝層内チップ類集計

	出土地点	点数	重(g)
遺物包含層G区	G区⑭	10	0.40
	G区⑮	1	0.10
貝層	貝層09	109	4.70
	貝層10	2724	140.10
	貝層11	10	0.30
	貝層12	500	30.60
合計	3354	176.20	

④軽石製品

いずれも十和田火山噴出物の軽石を素材として加工したもので、合計7点を確認した。河谷沿いに太平洋に流出した噴出物が、海流に乗って南下漂着した軽石が利用されていると考えられる。c281・282はSI04の堆積土下部から出土した。c281は若干歪んだ楕円形に整形し、鼻を残して掘りくぼめ、眼、口を穿つことにより人面を表現している。両側面を結ぶ貫通孔があり、両眼に開いた盲孔の先端は貫通孔に接続する。c282は三角形気味に近い形状で、図示した置き方では上部に3個の盲孔を持つことから、これを眼、口の顔面表現と見立てた場合には下部の線刻は胴体、四肢、あるいは着衣を表現し

たものであろう。ただし、上下を逆に見て、c281の下部に位置する逆三角形の胴体という想定も成り立つかと考えられる。これらの他にc283の菱形に整形された垂飾品状の製品がある。

②その他の石製品

c284は扁平楕円形の礫個縁を研磨調整したもの。c285は凝灰岩素材で全面研磨調整を加えた後に貫通孔を開ける。全体形は半円状を呈すると推測される。c286は石冠破片の可能性が高い全面研磨調整された破片。稜線付近は丁寧に面取り加工が施される。c287は頁岩の棒状円礫で平坦面に無数の擦痕が観察される。c288は全体がX字状を呈するように三方から挟り加工を入れた扁平礫。片面中央に盲孔があり中軸線の線刻が加えられる。岩偶の一種とも考えられるが類例は検索できていない。

(4) 骨角器

骨角器は銚頭、釣針、釣針未製品、骨針、骨篋、刺突具、又状角器、垂飾品、管状垂飾品、不明骨角器、骨角器素材に分類した。合計63点の出土でうち45点を図示している。器種別の出土点数、及び固化解点数を第17表に示した。大部分が貝層取り上げ試料の選別中に抽出されたもので、現地での精査段階で確認できた資料は少ない。以下、器種別に説明を加える。

①銚頭

d1の1点がある。南境型離頭銚頭（渡辺1973）に該当する。茎と鍔の形状、長さに差が小さいことからどちらが基部になるかやや判断に迷う資料である。

②釣針

9点の出土があり全点図示した。d2・6の内鍔型、d9の外鍔型がある。全長が判明するものではd2が全長1.6cmの小型品、d3・5が4cm前後の中型品で、他の破片もどちらかに該当すると推測される。軸頂のチモト部はd2～5のいずれも径を増す加工がなされる。素材が確認できるものは鹿角裂である。

③釣針未製品

d11は小型の外鍔型釣針の未製品と判断される。中央の穿孔後に軸を作り出す過程で折損し廃棄されたものであろう。貫通前に鍔を作り出す工程は中沢浜貝塚資料（佐藤1996）と異なる。

④骨針

d12・13の2点がある。d12は縦割りした四肢骨の一端を尖らせ、基部に穿孔する。d13は側面も含めて全面がほぼ完全に研磨調整されており基部は丸みを持つ。他の貝層出土品とは仕上げの状態に顕著な差があり、近現代の製品を誤認している可能性があるが確定はできない。

第17表 骨角器集計

分類名称	銚頭	釣針	釣針未製品	骨針	骨篋	刺突具	又状角器	垂飾品	管状垂飾品か	不明骨角器	骨角器素材
点数	1	9	1	2	1	16	1	11	1	19	1
掲載点数	1	9	1	2	1	12	1	10	1	6	1

⑤骨筧

d14の1点を確認した。ニホンジカ中足骨近位端の縦割片を素材とし研磨調整を加えている。

⑥刺突具

先端を持つものを一括して刺突具としており、合計16点を数える。うち12点を図化掲載した。鹿角を素材としたもの(d18・21・23~26)、四肢骨を素材としたもの(d15~17・19・20)がある。前者のうちd18は鹿角尖突部を利用し、一部に横方向の研磨による平坦面を作り出している。d19はニホンジカ中足骨素材で残存長が17cmを越す。5~10mm程の間隔で横位の線刻状傷跡が観察される。

⑦又状角器

d27は鹿角第二尖を利用して分岐部を加工した製品。上下の切断面、図の左面平坦面は研磨整形され、基部側は丸く仕上げられる。先端部分は横位の擦痕が観察される。

⑧装身具

骨製の垂飾品(d28~31)、歯牙を利用した垂飾品、あるいは垂飾品の一部か未製品と推測されるもの(d32~36・38)、その他装身具の一部と考えられるもの(d37)がある。d28はニホンジカ基節骨、d29はニホンジカ中節骨に穿孔したもので、d30はツキノワグマ基節骨を利用し遠位端に横方向の穿孔を行う。d31はヒト第3中足骨の近位端に穿孔したもので、骨製垂飾品はいずれも穿孔以外の加工は見られない。d32はイノシシ下顎犬歯、d33はイノシシ下顎切歯に穿孔している。d34はイノシシ上顎切歯のエナメル質部分を研磨整形している。穿孔前の未製品の可能性が考えられる。d35はムササビ上顎切歯の歯根部に径1.5mmの穿孔を加えたもの。ムササビ歯牙利用の垂飾品は他に出土事例を確認できていない。d36はイノシシ下顎犬歯の先端破片で、エナメル質部分の研磨が施されており装身具素材の可能性が高い。d37は全体形状不明。扁平に整形し一端に穿孔される。黒色付着物の材質は確認していない。d38は外側に浅い溝を彫り込んだイノシシ犬歯破片で、装身具の一部と判断される。

⑨管状垂飾品か

d39の1点を確認した。四肢骨の栄養孔部分を輪切りにしたもので装飾は加えられない。

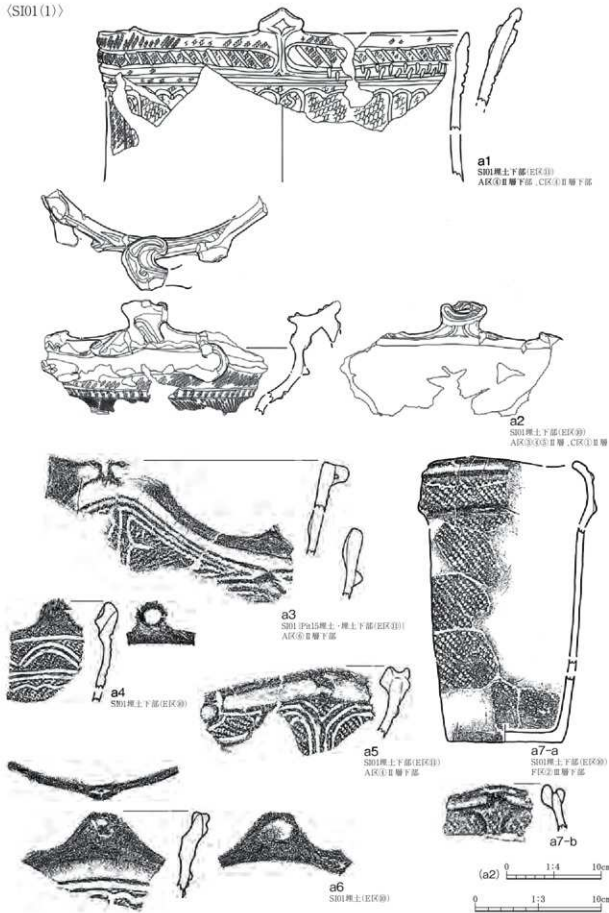
⑩不明骨角器

その他、整形痕を持つ骨角器破片で、器種の特定が難しいものを一括している。d40・41は穿孔を持つ細長い製品の基部。d42・43は全面研磨整形により断面長方形に仕上げられる。

⑪骨角器素材

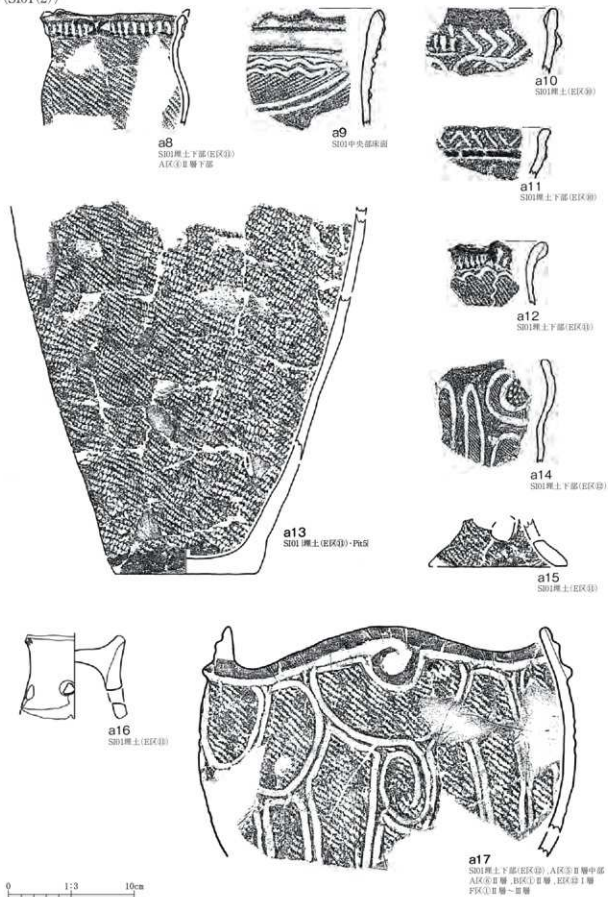
d46は鹿角分岐部の中央に縦割り用と推測される溝があり、加工途中で破損のため廃棄された可能性が考えられる。

〈SI01(1)〉



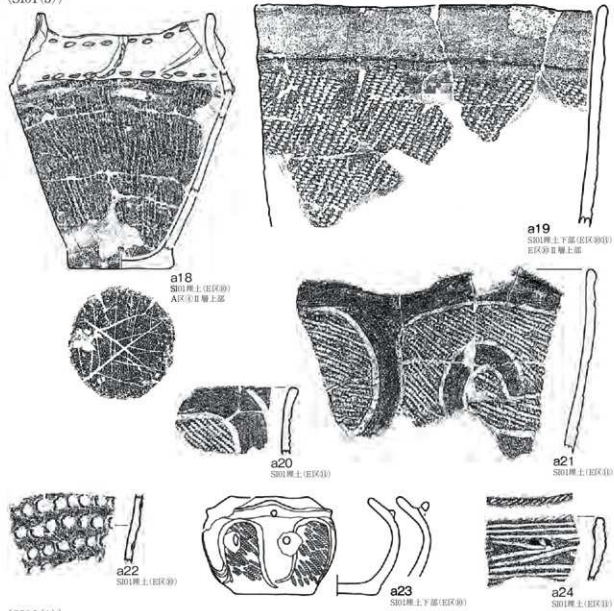
第64図 縄文土器(1)

〈SI01(2)〉

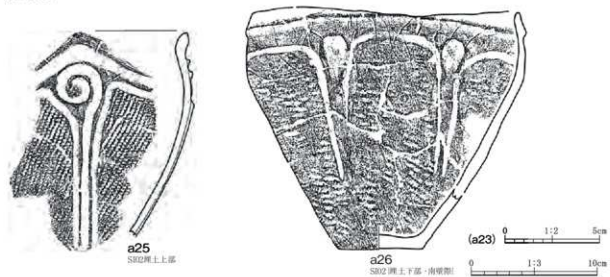


第65図 縄文土器(2)

〈SI01(3)〉

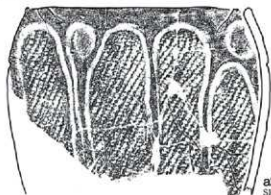
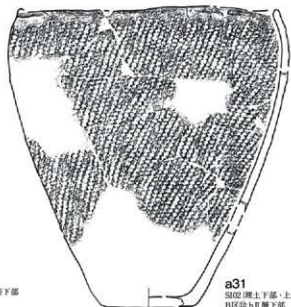


〈SI02(1)〉

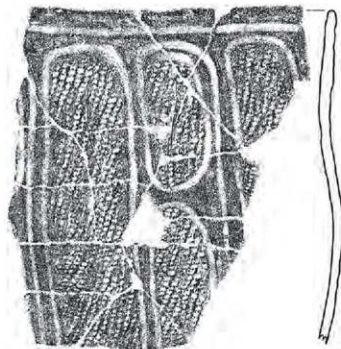
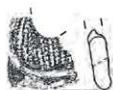


第66図 縄文土器 (3)

〈SI02(2)〉

a27
SI02埋上下部a28
SI02埋上下部
B区段bII層下部a29
SI02埋上下部
B区段bII層下部a31
SI02埋上下部・上部・南壁面
B区段bII層下部a30
SI02埋上
B区段bII層下部

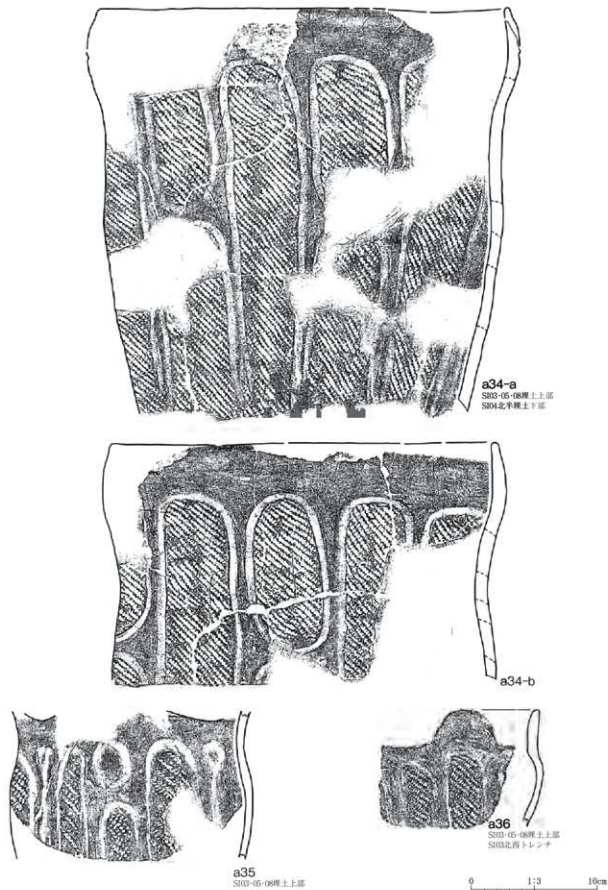
〈SI03〉

a32
SI03-4号中埋上
SI03埋上a33
SI03北西トレンチ

0 1:3 10cm

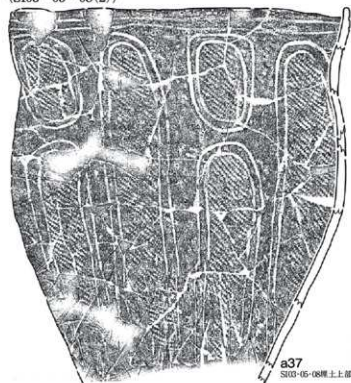
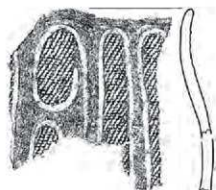
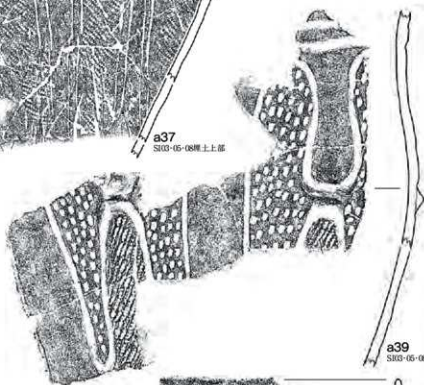
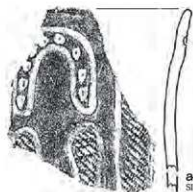
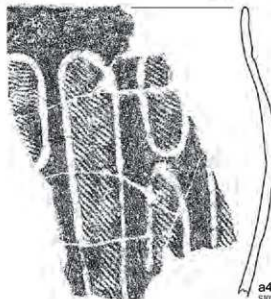
第67図 縄文土器(4)

〈SI03・05・08(1)〉



第68図 縄文土器 (5)

〈SI03・05・08(2)〉

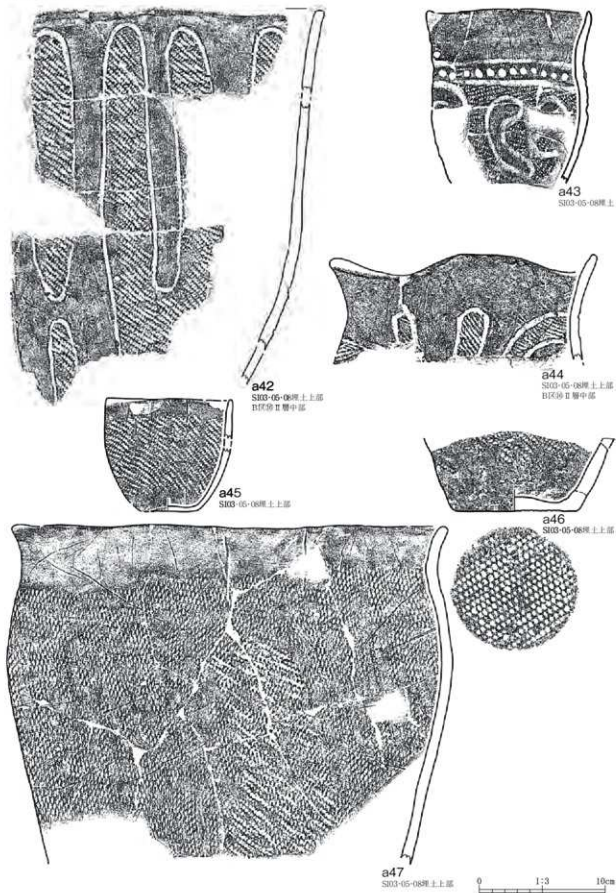
a37
SI03-05-08様土上器a38
SI03-05-08様土上器a39
SI03-05-08様土上器a40
SI03-05-08様土上器a41
SI03-05-08様土上器

0 1:4 10cm (a37)

0 1:3 10cm

第69図 縄文土器 (6)

(SI03・05・08(3))

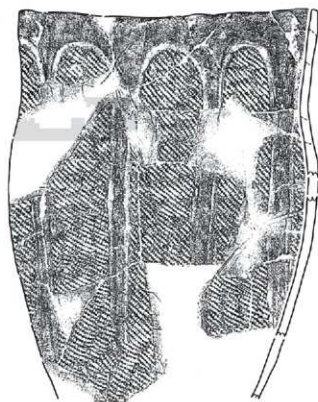


第70図 縄文土器 (7)

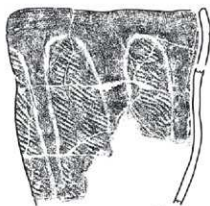
〈SI04(1)〉



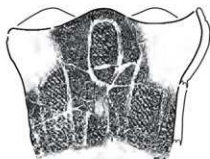
a48

SI04 残片・北半球上下部
B区跡互層下部

a49

SI04 2号中層上6層・19区2層上・
南半球底面・北W<6>床面・残上3層

a50

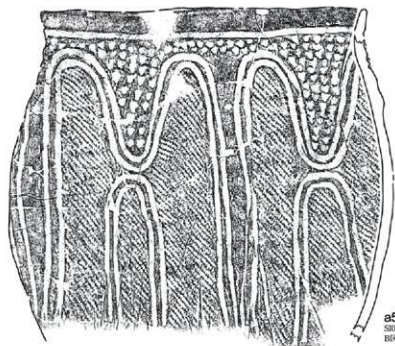
SI04 北W<6>床面・
南半球底面・残上上部

a51

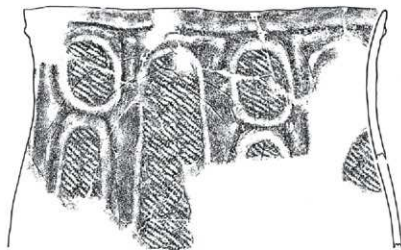
SI04 南半球底面
SI13 南半球上上部

第71図 縄文土器(8)

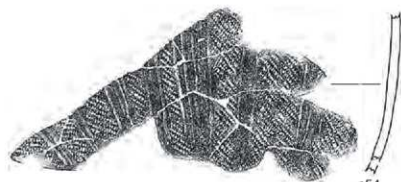
〈SI04(2)〉



a52
SI04EYパルト床面
縦刻の土器上部



a53
SI04 北西<6>ト床面・横土

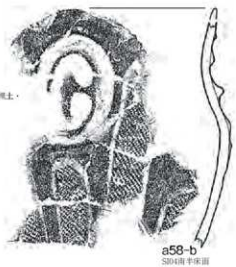
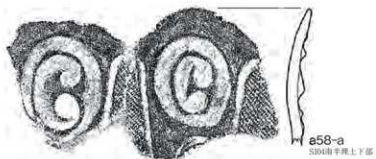
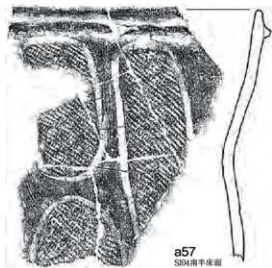
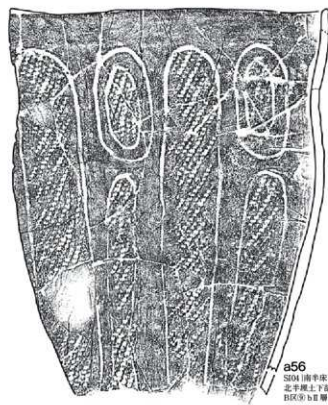
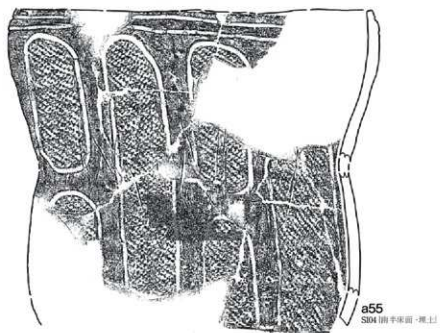


a54
SI04 I2 号印横土6番、横土3番

0 1:3 10cm

第72図 縄文土器 (9)

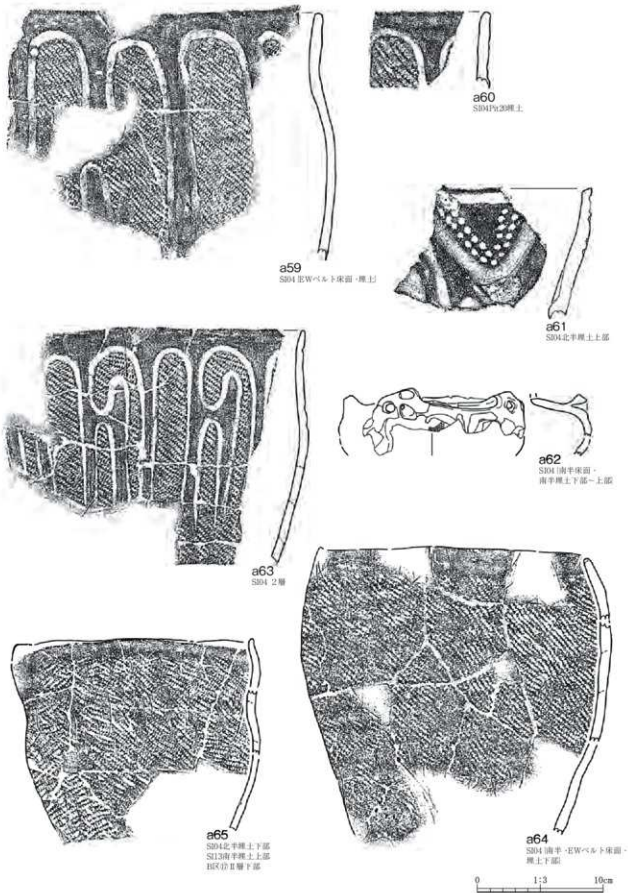
〈SI04(3)〉



0 1:3 10cm

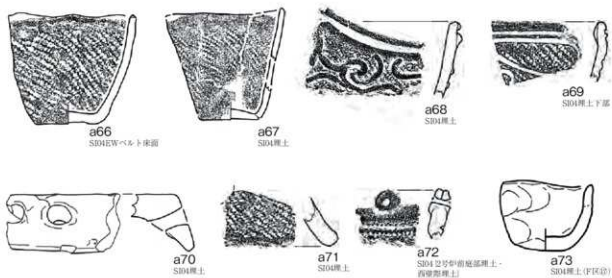
第73図 縄文土器 (10)

〈SI04(4)〉

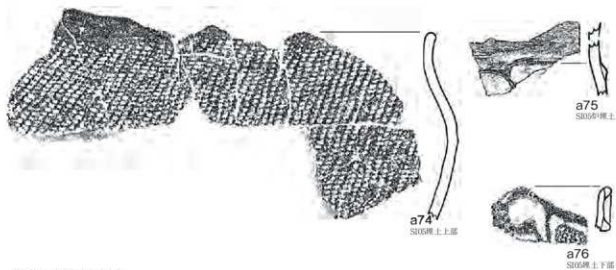


第74図 縄文土器 (11)

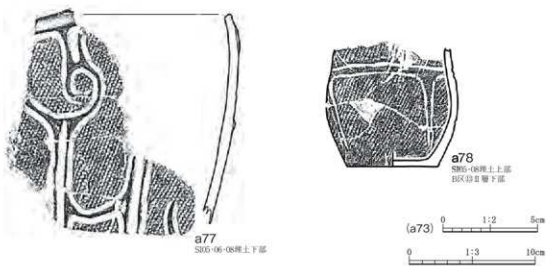
〈SI04(5)〉



〈SI05〉

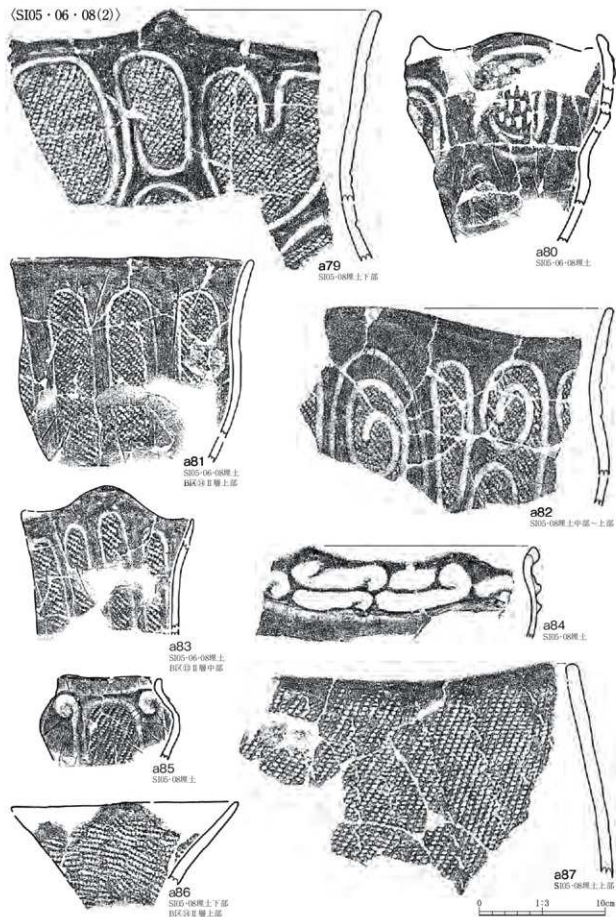


〈SI05・06・08(1)〉



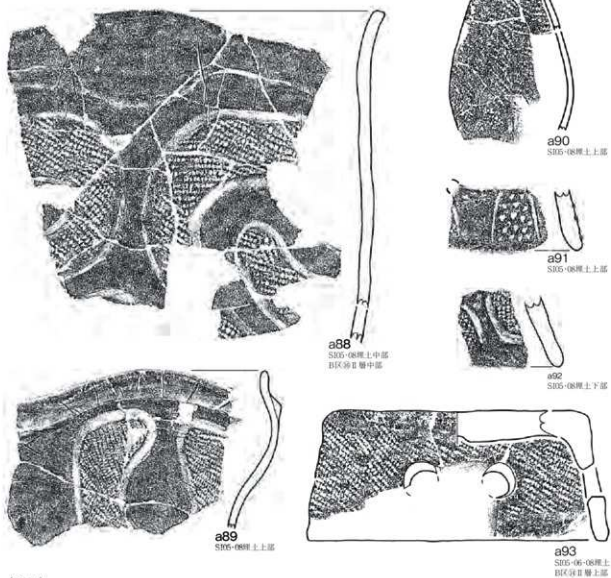
第75図 縄文土器 (12)

(SI05・06・08(2))



第76図 縄文土器 (13)

〈SI05・06・08(3)〉

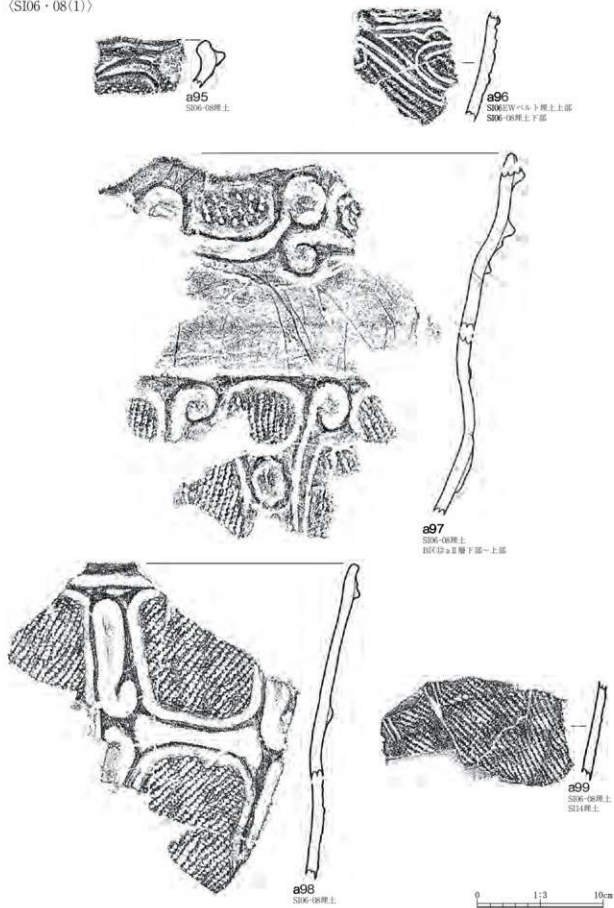


〈SI06〉



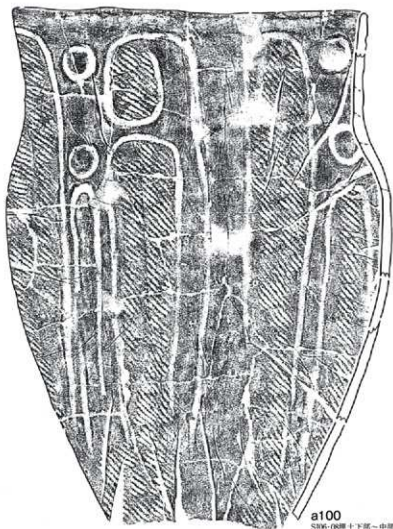
第77図 縄文土器 (14)

〈SI06・08(1)〉

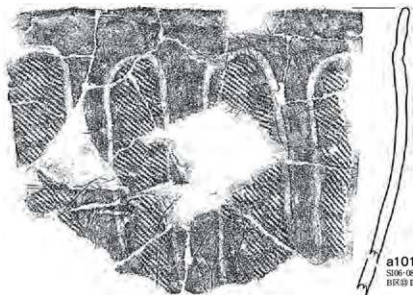


第78図 縄文土器 (15)

〈SI06・08(2)〉



a100
SI06・08層上下部-中部
B区跡Ⅱ層中部-①②区Ⅱ層上部

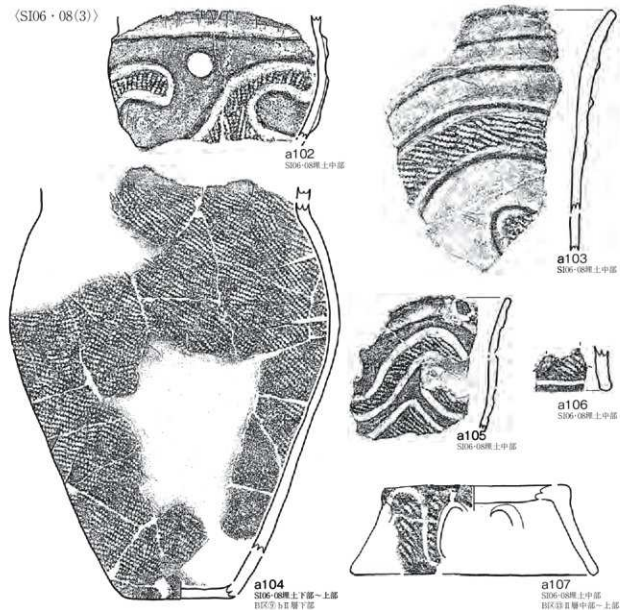


a101
SI06・08層上下部-中部
B区跡Ⅱ層中部-①②区Ⅱ層上部

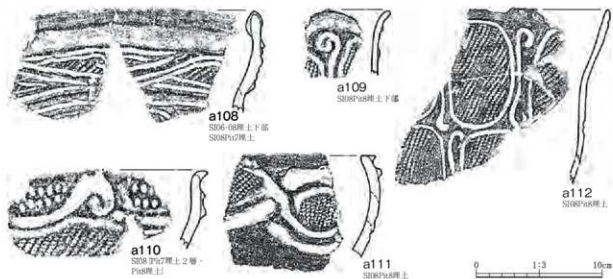
0 1:3 10cm

第79図 縄文土器 (16)

〈SI06・08(3)〉

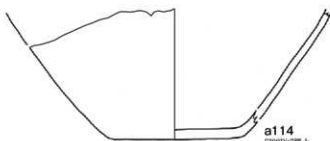


〈SI08(1)〉

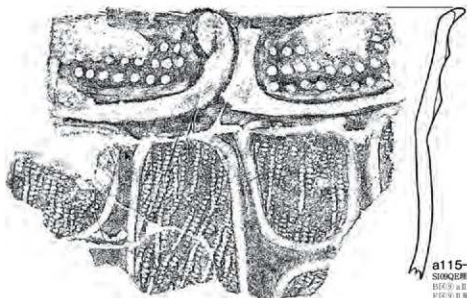
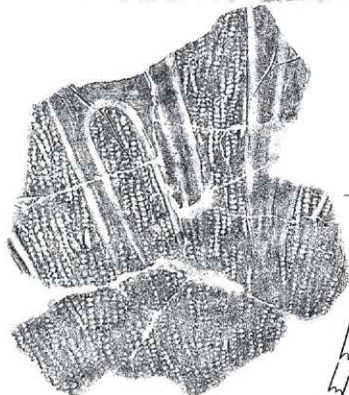


第80図 縄文土器 (17)

〈SI08(2)〉

a113
SI08(2)層上. 2層a114
SI08(2)層上.

〈SI09(1)〉

a115-a
SI09(1)層上上部
B区(2) a区層下部
F区(2)層上上部

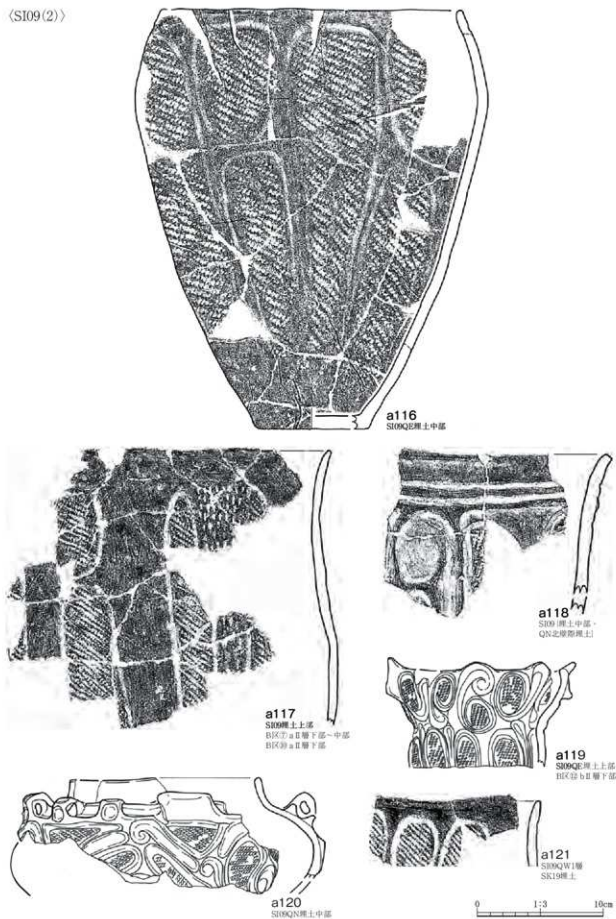
a115-b



0 1:3 10cm

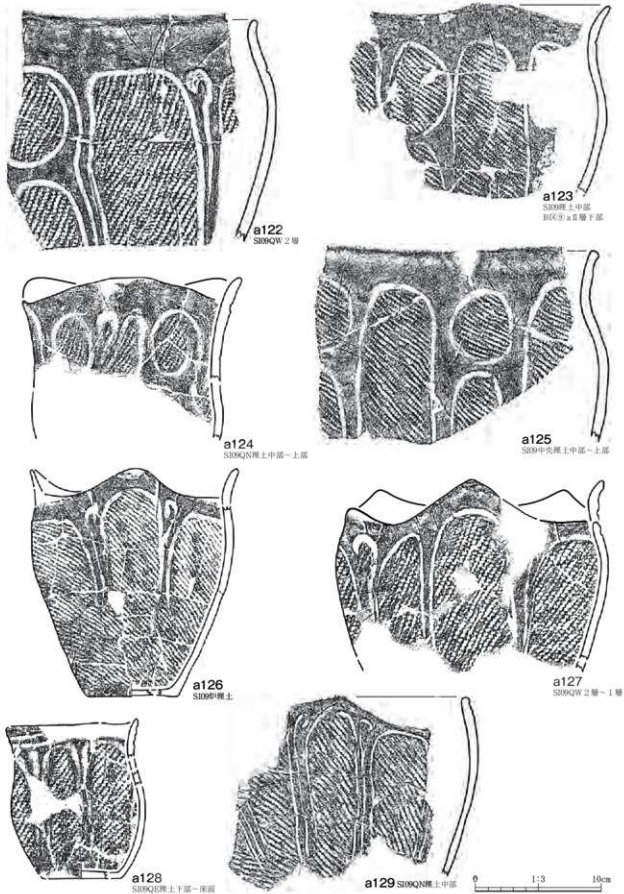
第81図 縄文土器 (18)

〈SI09(2)〉



第82図 縄文土器 (19)

〈SI09(3)〉



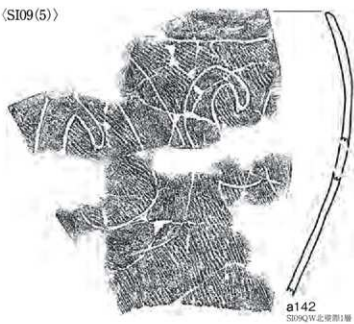
第83図 縄文土器 (20)

(SI09(4))

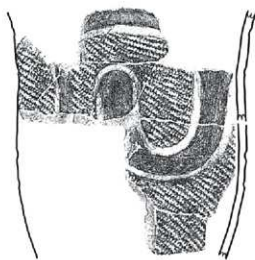


第84図 縄文土器 (21)

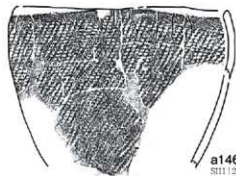
〈SI09(5)〉

a142
SD9QW北塚部1層a143
SI09層上1層部

〈SI10〉

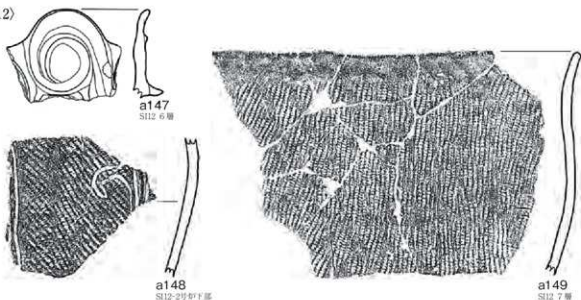
a144
SI10層 (SI11P 1 付近)a145
SI10-1号中埋設土部

〈SI11〉

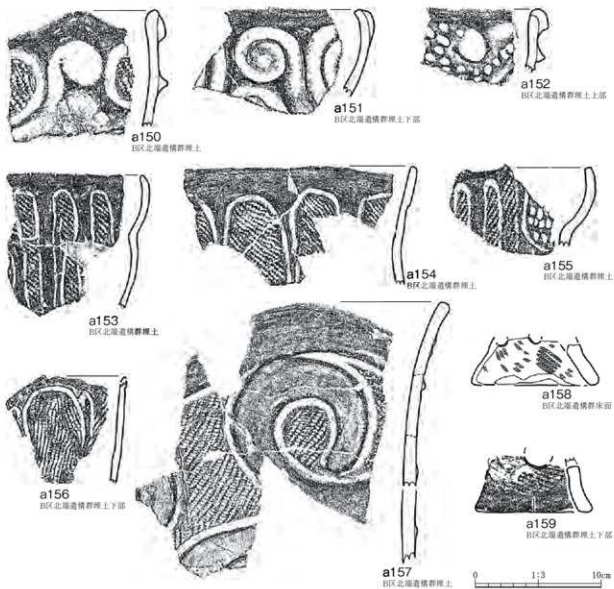
a146
SI11(2号中埋土・溝1埋土)
部(北塚遺構群層上下部)
P96原土

0 1:3 10cm

(SI12)

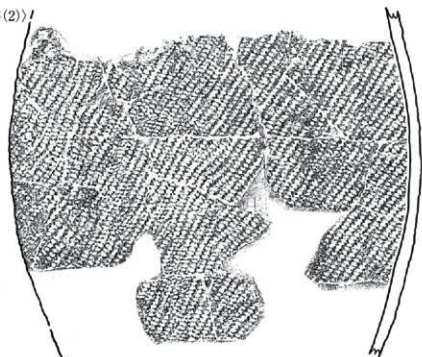


(B区北端遺構群(1))

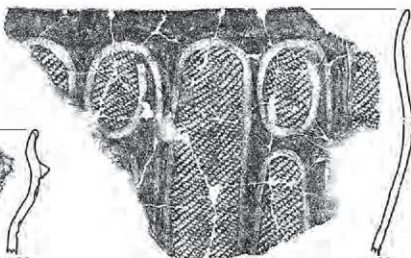
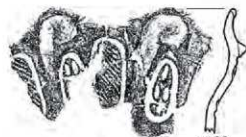
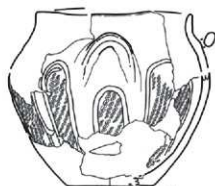


第86図 縄文土器 (23)

〈B区北端遺構群(2)〉

a160
B区北端遺構群表面

〈SH3(1)〉

a161
SH3南半壁上下部a163
SH3南半壁面a162
SH3南半壁上下部a165
SH3南半壁上下部a164
SH3南半壁面一様上下部a166
SH3南半壁上下部a167
SH3南19様上

0 1:3 10cm

第87図 縄文土器(24)

〈SI13(2)〉



a168
SI13Pa2陶土



a169
SI13Pa2陶土



a170
SI13Pa2陶土

〈SI14〉



a171
SI14陶土



a172
SI14陶土



a173
SI14陶土

〈SI15〉



a174
SI15南半環上上部



a175
SI15上・下部



a176
SI15Pa2陶土



a177
SI15Pa2陶土



a178
SI15Pa2陶土



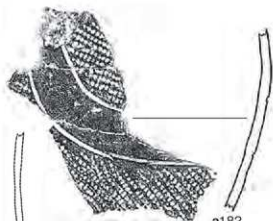
a179
SI15Pa2陶土



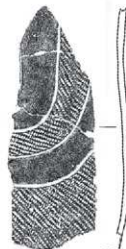
a180
SI15上上部



a181
SI15Pa1陶土



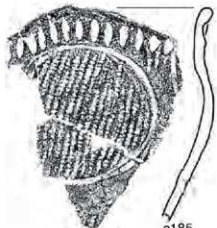
a182
SI15Pa1陶土



a183
SI15陶土・下部



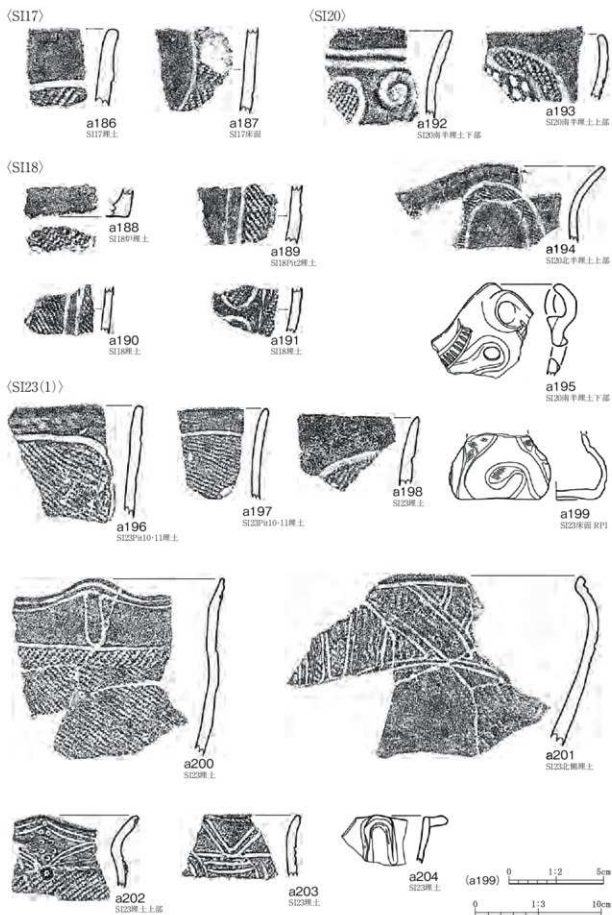
a184
SI15Pa2陶土



a185
SI15陶土・下部

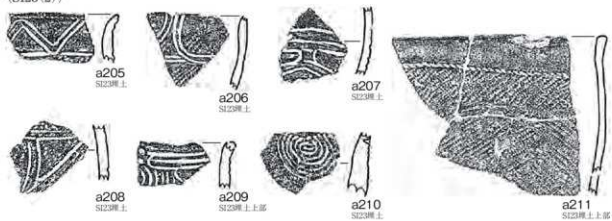


第88図 縄文土器 (25)

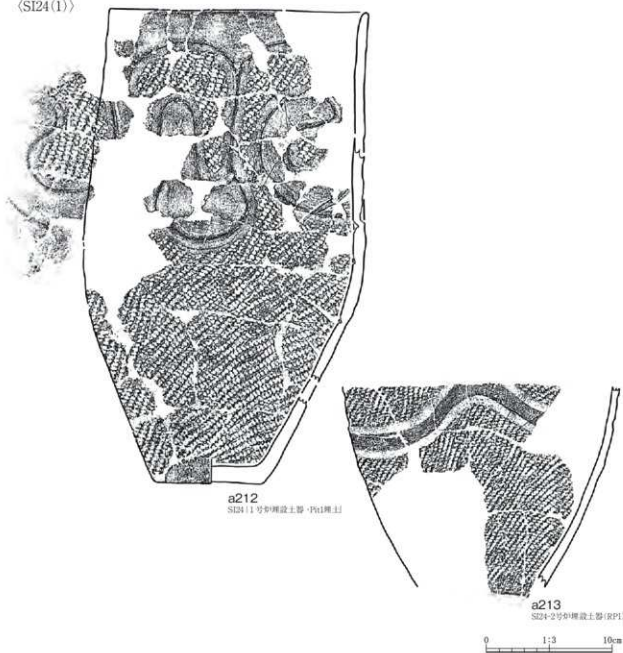


第89図 縄文土器 (26)

〈SI23(2)〉

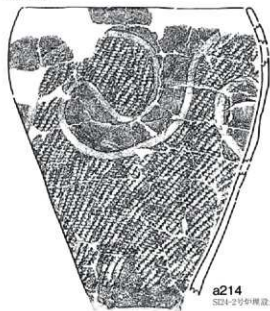
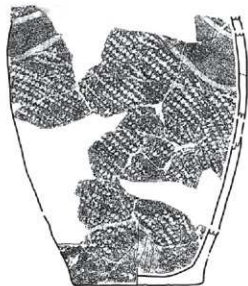
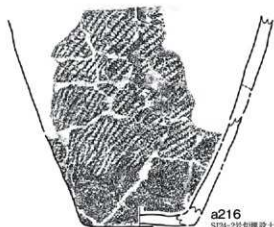


〈SI24(1)〉



第90図 縄文土器 (27)

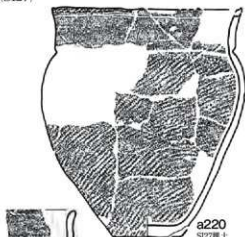
〈SI24(2)〉

a214
SI24-2号中腹段上部 (R2D)a215
SI24-2号中腹段上部 (R2D) 片断a216
SI24-2号中腹段上部 (R2D) 内側

〈SI26〉

a217
SI26腹上
G1K56号口縁上部a218
SI26口縁上a219
SI26腹上

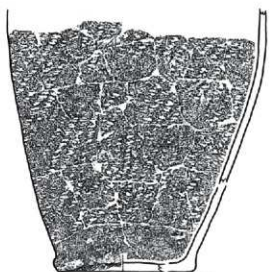
〈SI27〉

a220
SI27腹上
SK36腹上
G1K711号口縁
G1K716号口縁 (T16)a221
SI27腹上

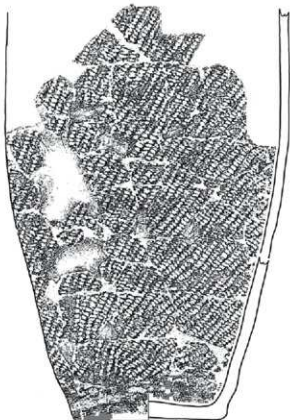
0 1:3 10cm

第91図 縄文土器 (28)

(SI28)



a222
SI28-1号中腹段上部(RP1)



a223
SI28-1号中腹段上部(RP2)



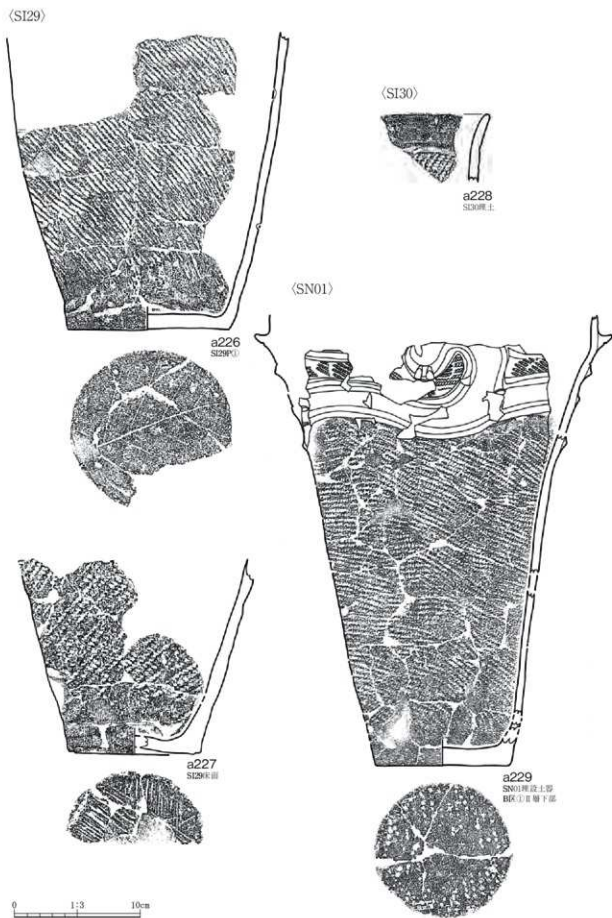
a224
SI28 腹上・Fp1 腹上
G区段直輪



a225
SI28 腹上
G区段直輪上部



第92図 縄文土器 (29)



第93図 縄文土器 (30)

〈SN03〉



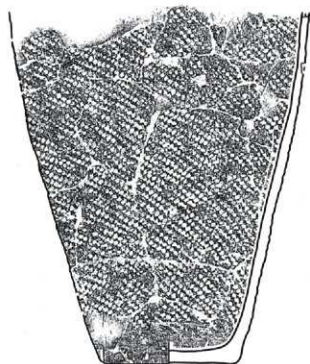
a230
SN03埴段上部 RP2



a231
SN03埴段上部 RP1-
溝尻部



〈SN04〉



a232
SN04埴段上部
B/C・aⅡ層上部

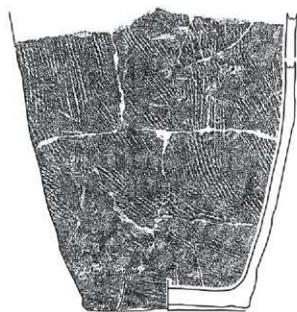
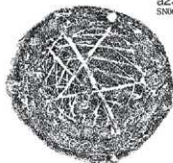


a233
SN04埴段部



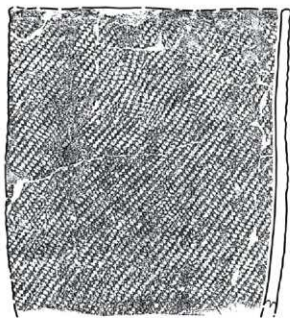
第94図 縄文土器 (31)

(SN06)

a234
SN06H段上部a235-a
SN06H段上部
B区(2) aI層中部

a235-b

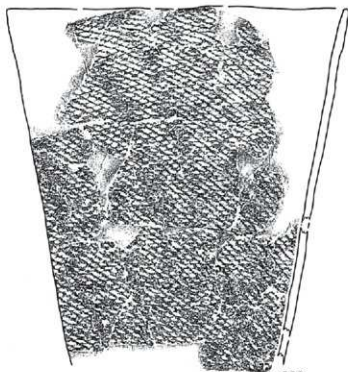
(SN08)

a236
SN08H段上部

(SN09(1))

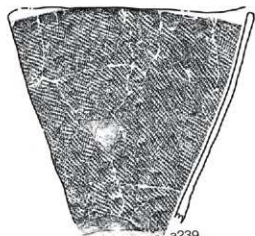
a237
SN09H段上部R12

〈SN09(2)〉



a238
SN09埴段上部 埴門
B区C1b区層中部

〈SN11〉



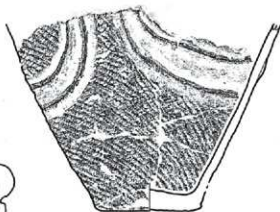
a239
SN11埴段上部
B区北端遺構群床面

〈SN13〉



a240
SN13埴段上部
B区C2b区層下部-直壁下部

〈SN14〉



a242
SN14埴段上部
B区北端遺構群床面



a241
SN13遺構壁残土



〈SN17〉



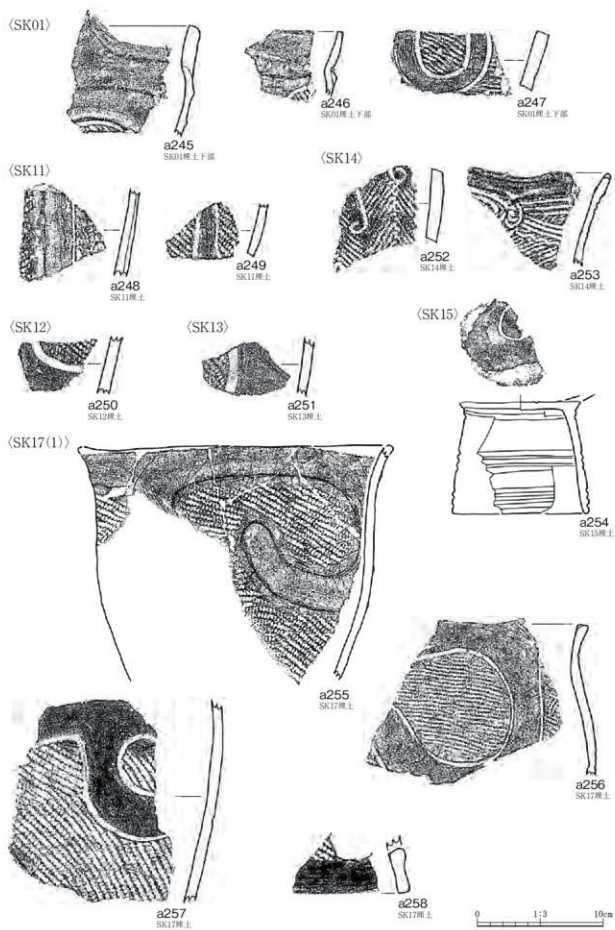
a243
SN17埴地底



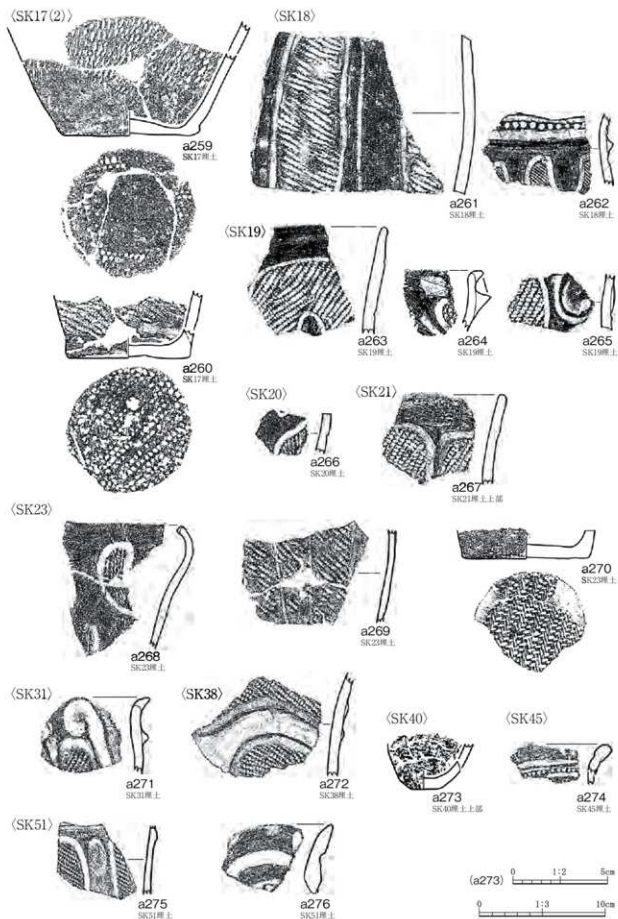
a244
SN17埴地底



第96図 縄文土器 (33)

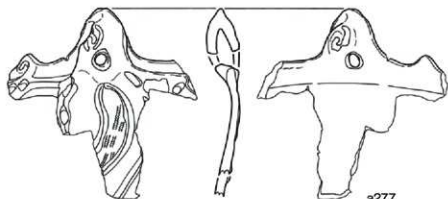
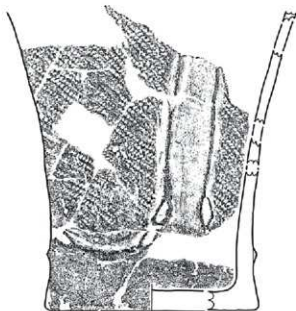


第97図 縄文土器 (34)



第98図 縄文土器 (35)

(SK52)

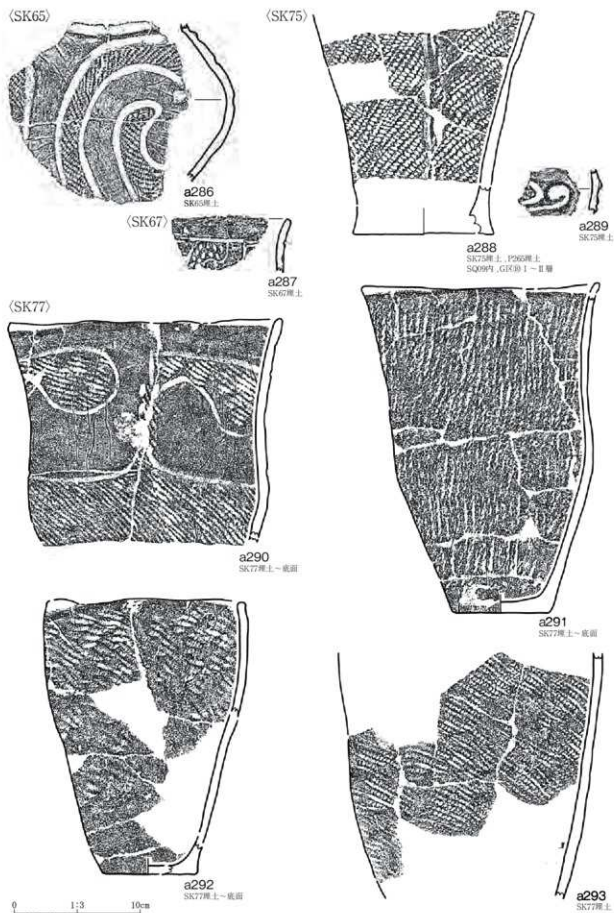
a277
SK52埋上a278
SK52埋上下部-断面a279
SK52埋上a280
SK52埋上a281
SK52埋上a282
SK52埋上下部-断面a283
SK52埋上下部-断面a284
SK52埋上下部-断面

(SK53)

a285
SK53埋上

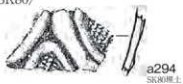
(a281) 0 1:2 5cm

0 1:3 10cm

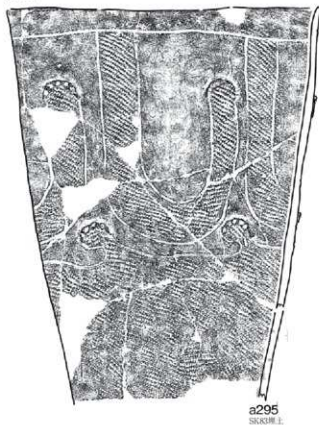


第100図 縄文土器 (37)

〈SK80〉



〈SK83〉



〈SK88〉



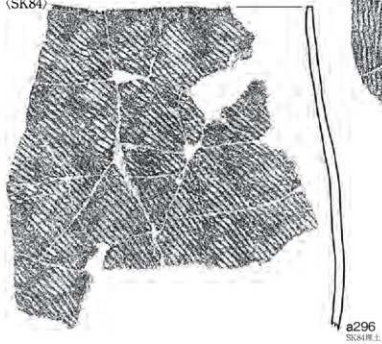
〈SK93〉



〈SK94〉



〈SK84〉



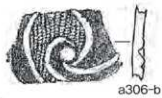
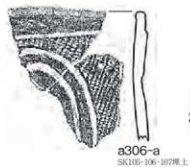
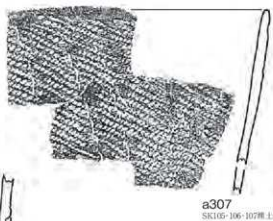
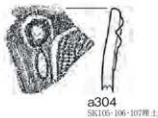
(a295) 0 1:4 10cm

0 1:3 10cm

(SK103)



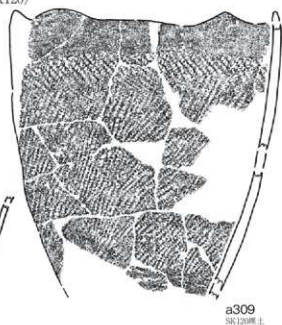
(SK105・106・107)



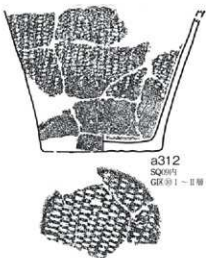
(SK115)



(SK120)

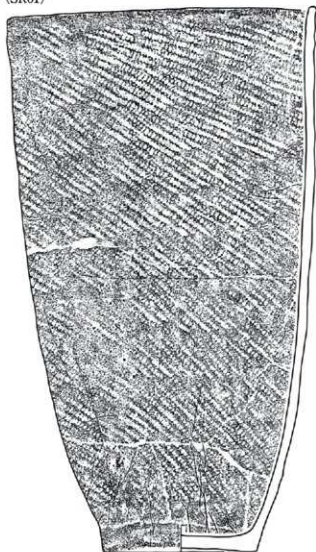


(SQ09)



第102図 縄文土器 (39)

〈SR01〉



a314

SR01

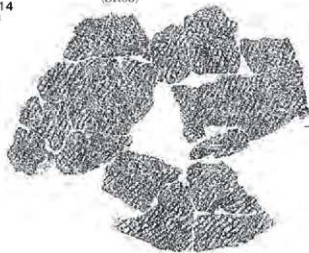
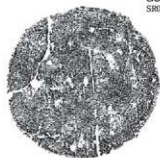
〈SR02〉



a315

SR02

〈SR03〉

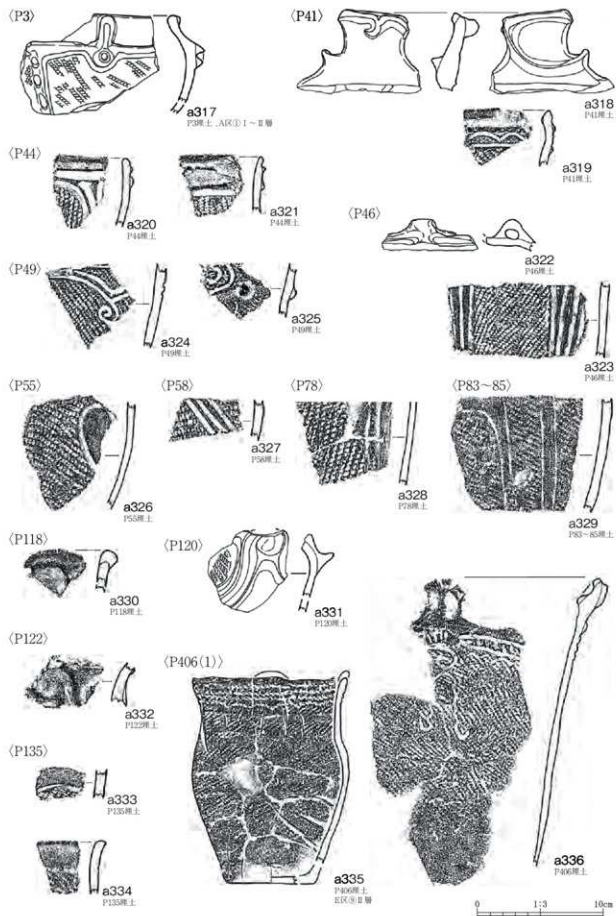


a316

SR03

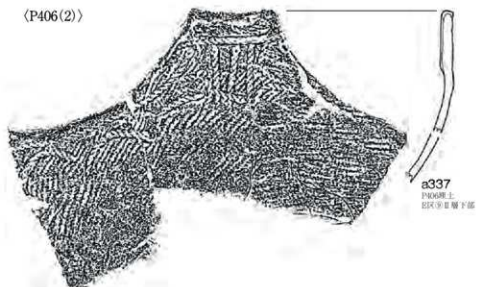


第103図 縄文土器 (40)

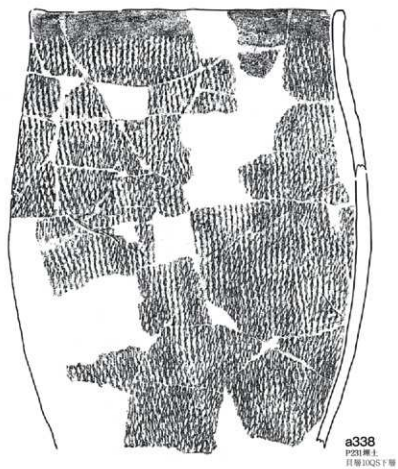


第104図 縄文土器 (41)

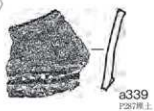
(P406(2))



(P231)



(P287)

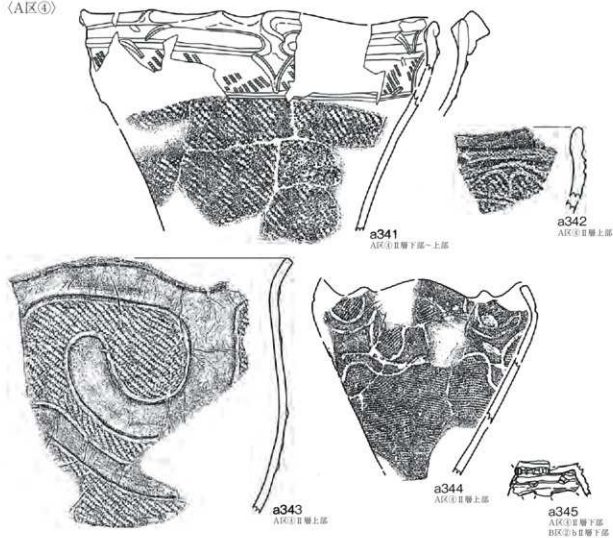


(P336)

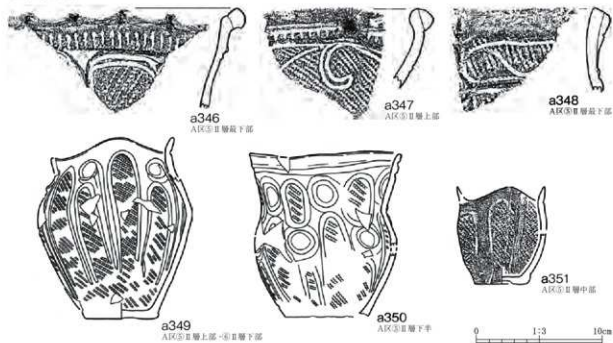


第105図 縄文土器 (42)

〈AK④〉

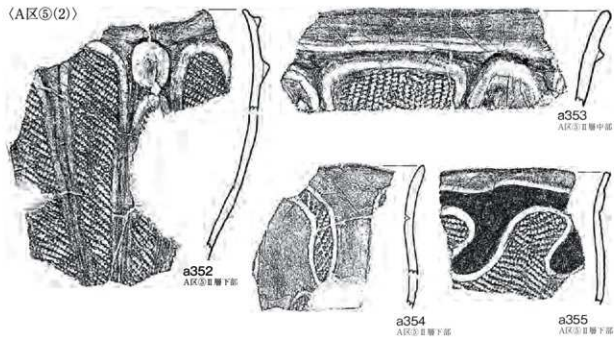


〈AK⑤(1)〉



第106図 縄文土器 (43)

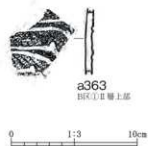
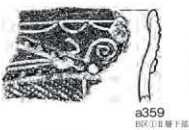
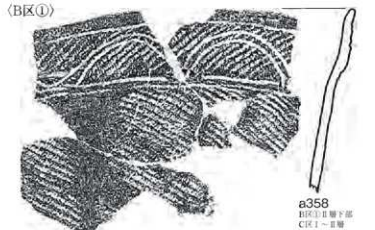
〈AR⑤(2)〉



〈AR⑥〉

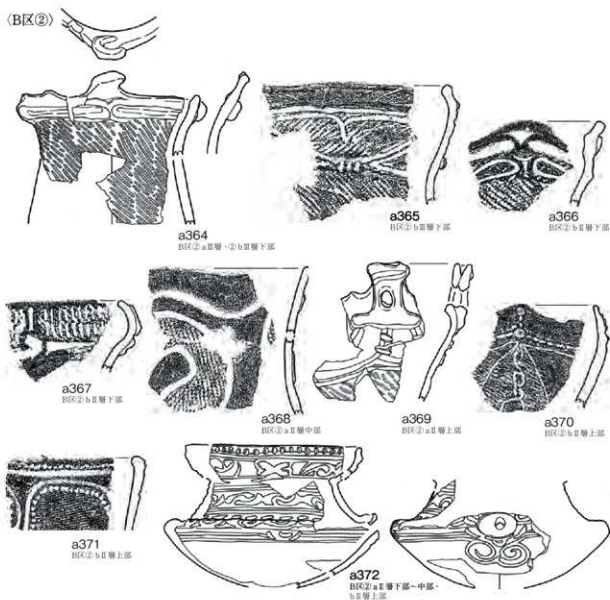


〈BR①〉

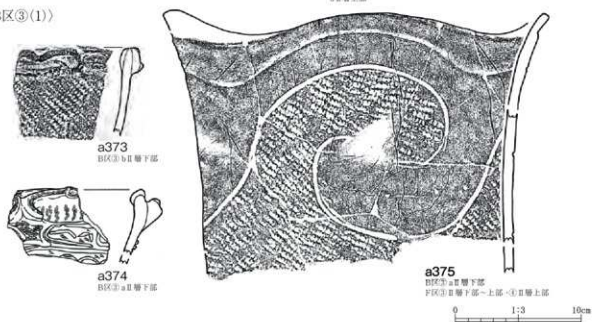


第107図 縄文土器 (44)

(B区②)

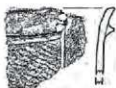


(B区③(1))

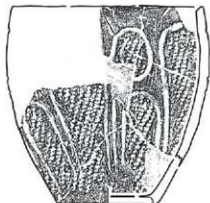
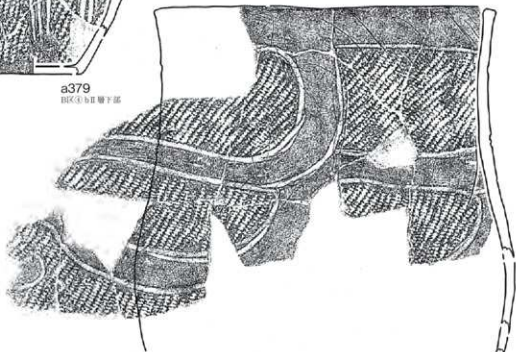
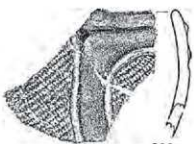
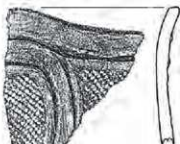
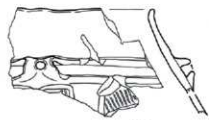


第108図 縄文土器 (45)

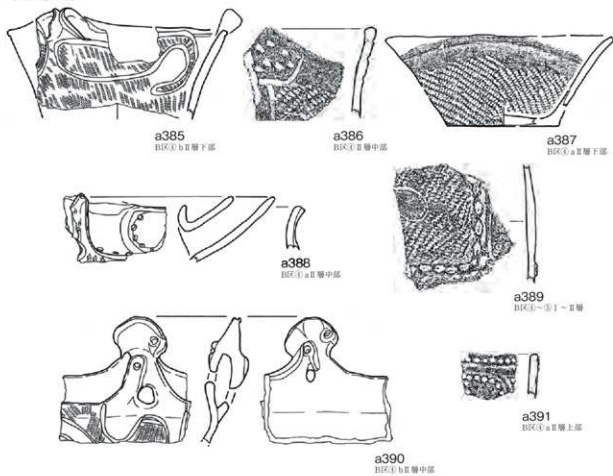
〈B区③(2)〉

a376
B区③a区層下部a377
B区③a区層中部a378
B区③b区層下部

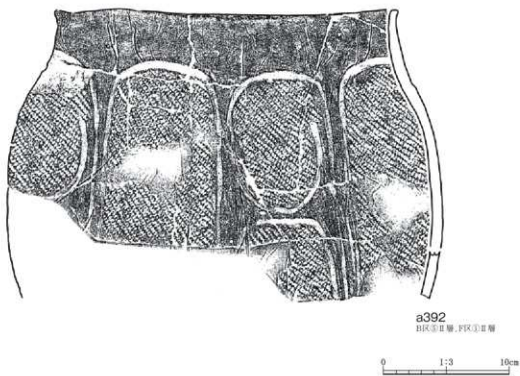
〈B区④(1)〉

a379
B区④b区層下部a380
B区④b区層下部a381
B区④-a区層a382
B区④a区層中部a383
B区④a区層中部a384
B区④a区層中部-上部

〈B区④(2)〉

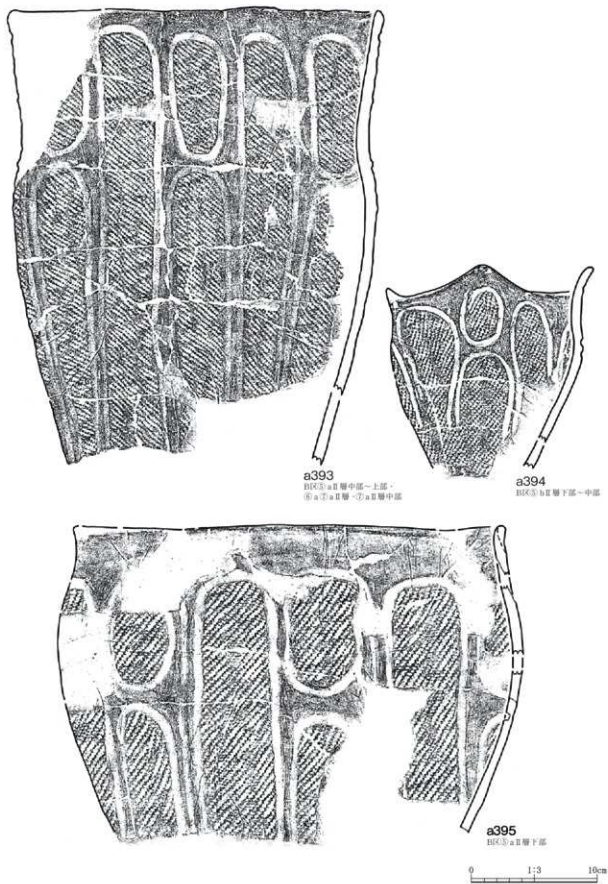


〈B区⑤(1)〉



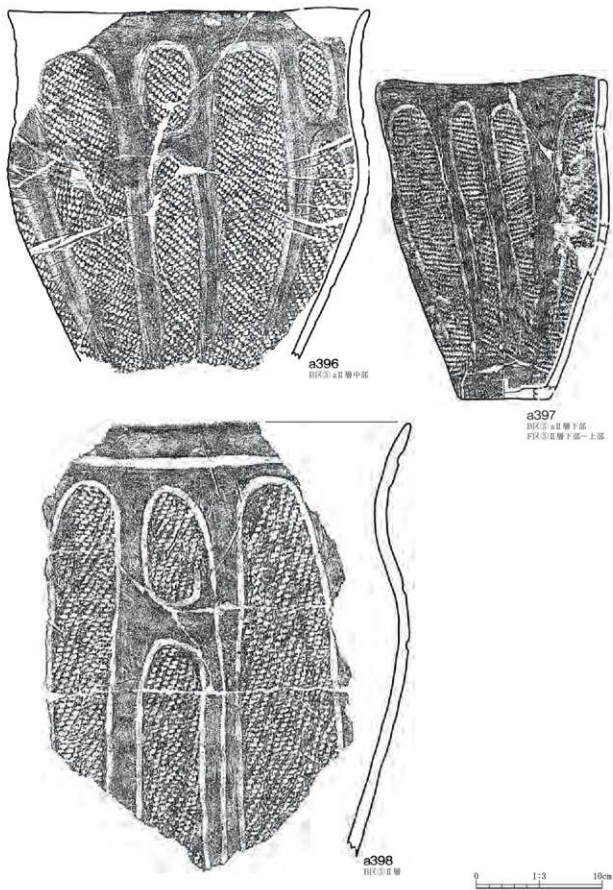
第110図 縄文土器 (47)

〈B区⑤(2)〉



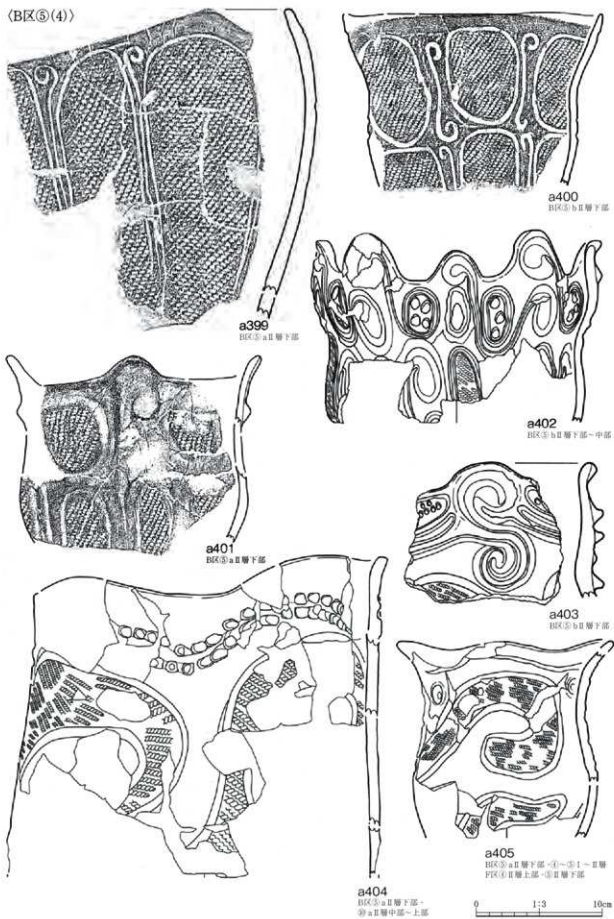
第111図 縄文土器 (48)

(B区⑤(3))



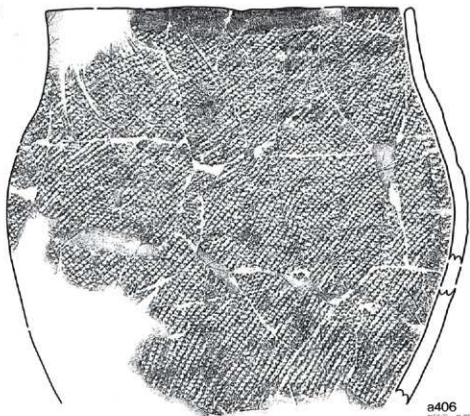
第112図 縄文土器 (49)

(B区⑤(4))

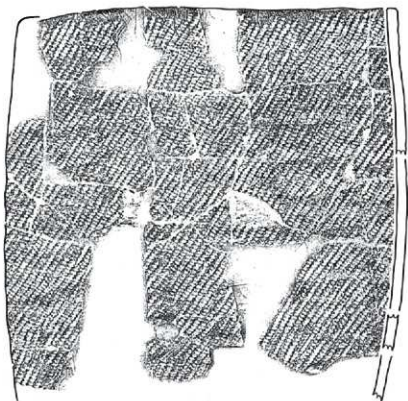


第113図 縄文土器 (50)

(B区⑤)(5)



a407
B区⑤a区下部・
⑦a区中部

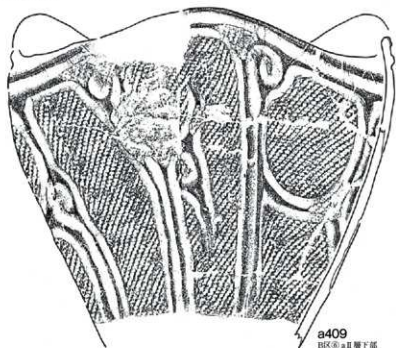


a408
B区⑤a区下部・
①-③1-区
F区⑤a区下部



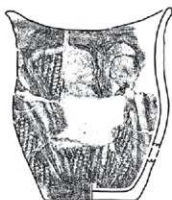
第114図 縄文土器 (51)

〈B区⑥(1)〉



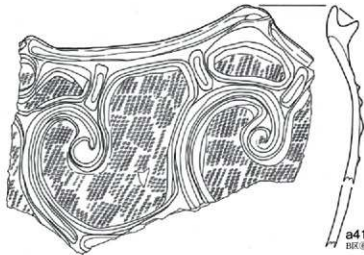
a409

B区⑥aII層下部



a412

B区⑥aII層中部



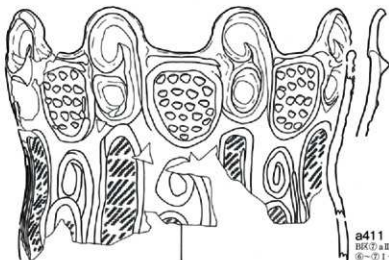
a410

B区⑥aII層下部-中部



a413

B区⑥aII層下部-中部



a411

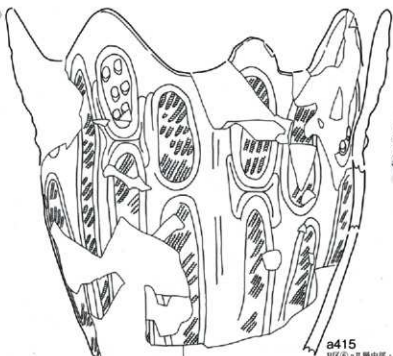
B区⑦aII層下部-上部・
⑥-⑦I-II層

a414

B区⑥aII層下部

0 1:3 10cm

(B区⑥(2))



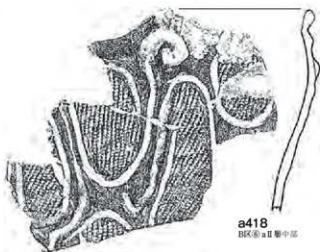
a415
B区全a区帯中部・
全a区帯下部



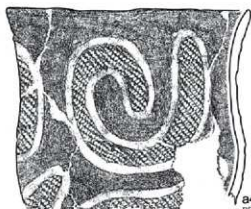
a417
B区全a区帯1-2部



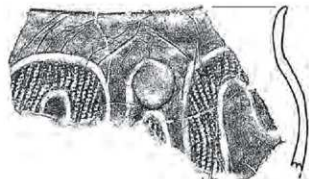
a416
B区全a区帯下部・
F区全a区帯上部



a418
B区全a区帯中部



a419
B区全a区帯上部・
全a区帯中部

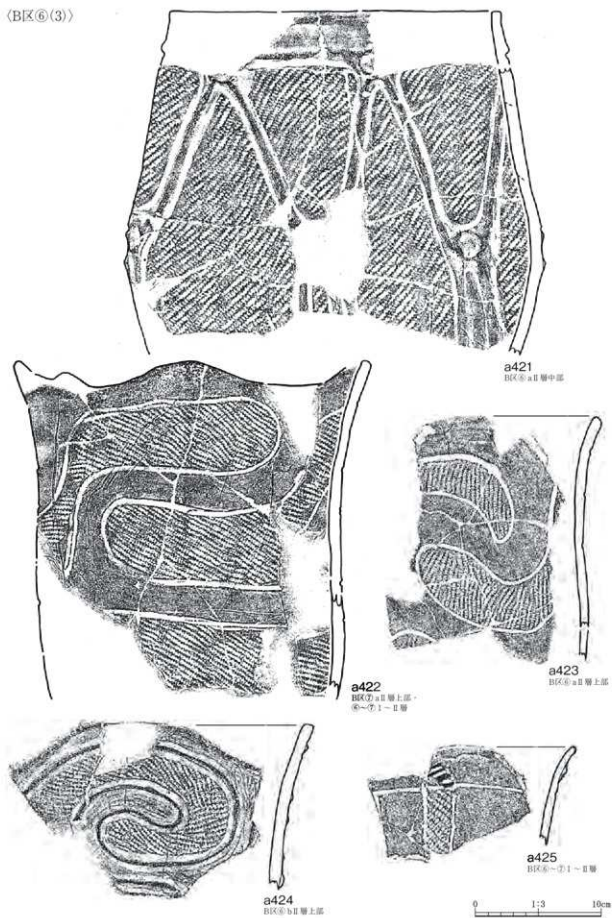


a420
B区全a区帯下部



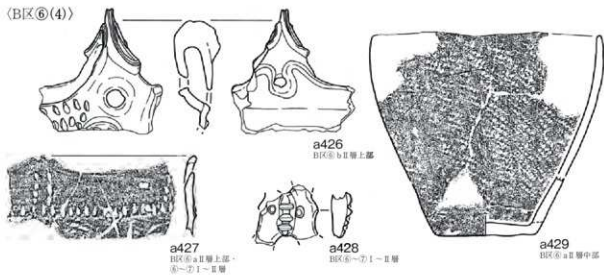
第116図 縄文土器 (53)

(B区⑥(3))

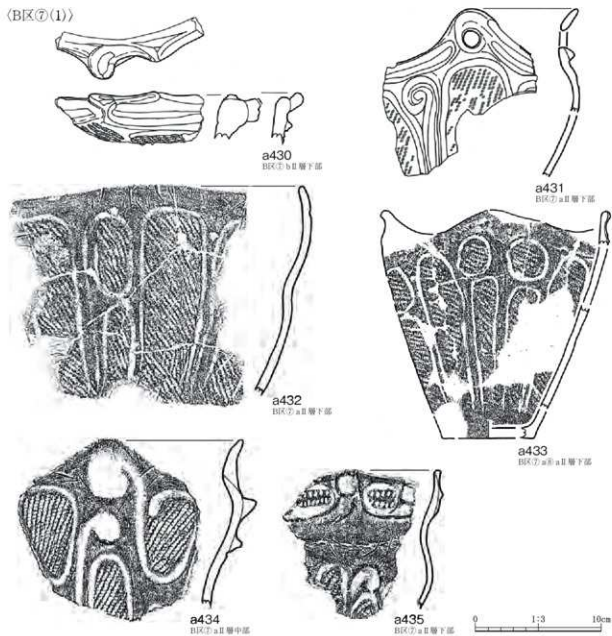


第117図 縄文土器 (54)

(B区⑥(4))

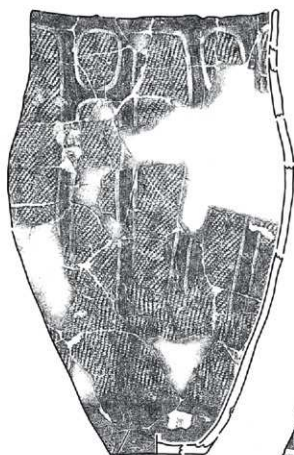


(B区⑦(1))

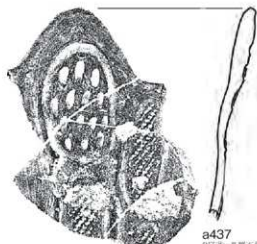


第118図 縄文土器 (55)

(B区⑦(2))



a436
B区⑦ a区層下部-中部
F区 a区層中部-上部



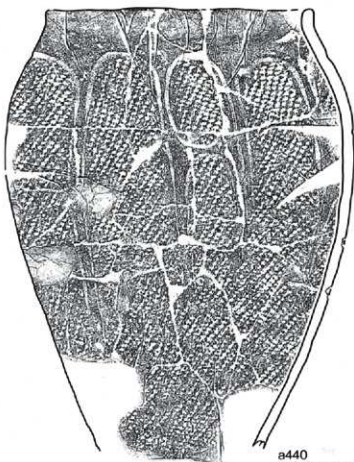
a437
B区⑦ a区層下部・
⑦ b区層下部-中部



a438
B区⑦ b区層上部



a439
B区⑦ a区層中部

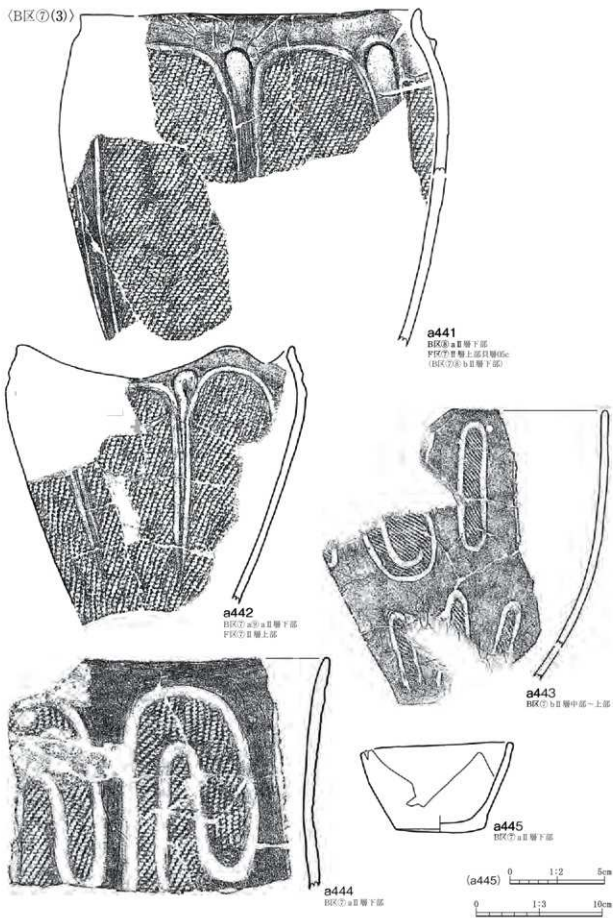


a440
B区⑦ a区層下部

0 1:4 10cm (a436)

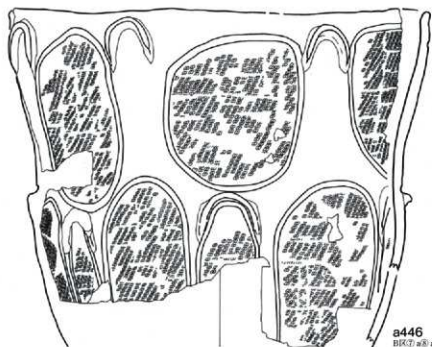
0 1:3 10cm

(B区⑦(3))



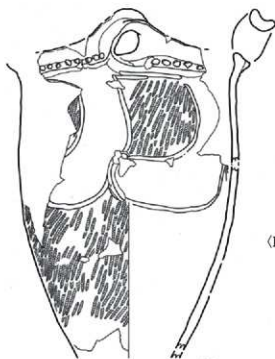
第120図 縄文土器 (57)

(BⅨ⑦(4))



a446

BⅨ⑦ aⅡ aⅢ aⅣ 下部



a447

BⅨ⑦ bⅡ 下部~中部



a449

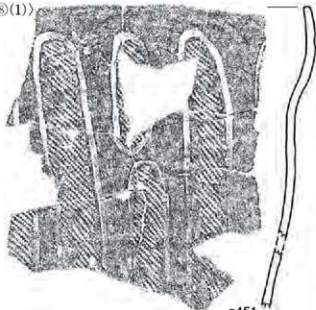
BⅨ⑦ bⅡ 上部



a450

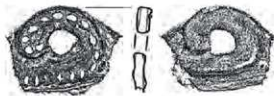
BⅨ⑦ aⅡ 上部
① bⅡ 下部

(BⅨ⑧(1))



a451

BⅨ⑧ bⅡ 下部~中部



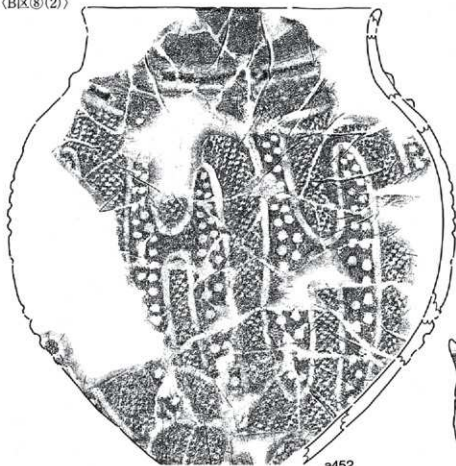
a448

BⅨ⑦ aⅡ 上部

0 1:3 10cm

第121図 縄文土器 (58)

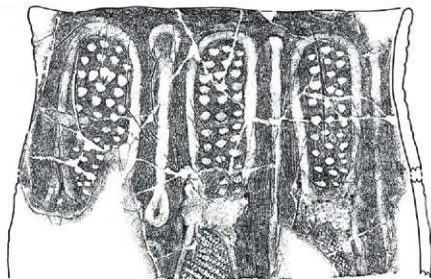
(B区⑧(2))



a452
B区全b区下部



a454
B区全b区下部



a453
B区全a区下部
全b区下部-中部



a455
B区全a区-上部

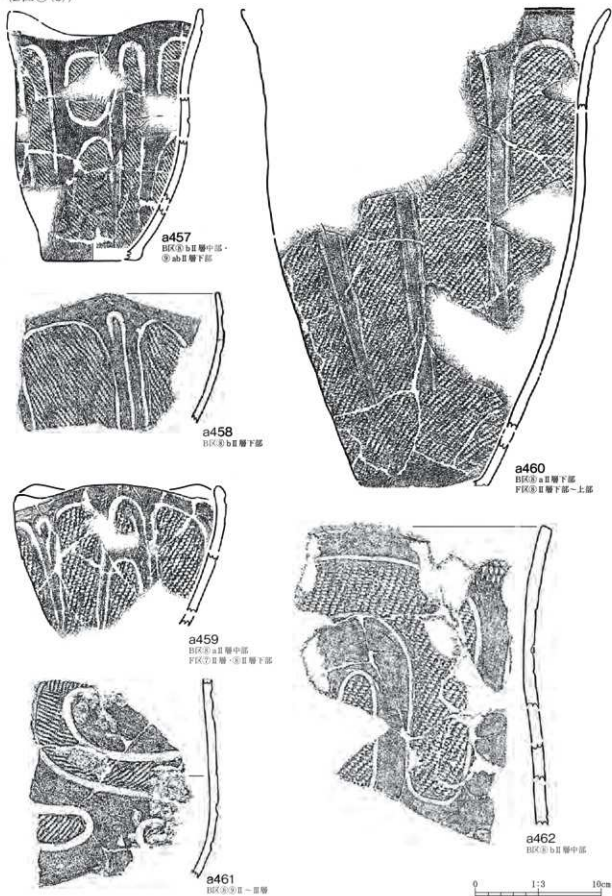


a456
B区全a区下部



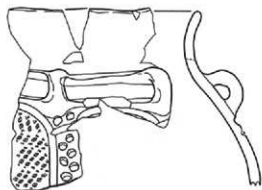
第122図 縄文土器 (59)

(B区⑧(3))

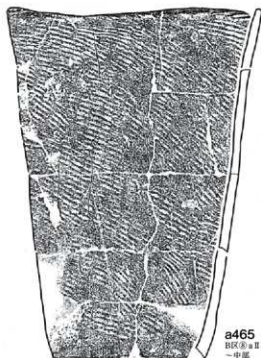


第123図 縄文土器 (60)

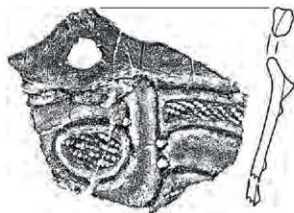
(B区⑧(4))



a463
B区⑧b区層下部



a465
B区⑧a区層下部
~中部

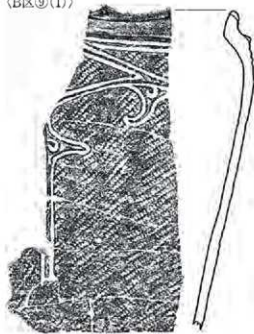


a464
B区⑧a区層上部



a466
B区⑧a区層上部・
部①1~2層

(B区⑨(1))



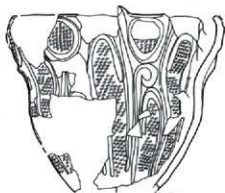
a467
B区⑨b区層下部



a468
B区⑨b区層上部



a469
B区⑨b区層上部

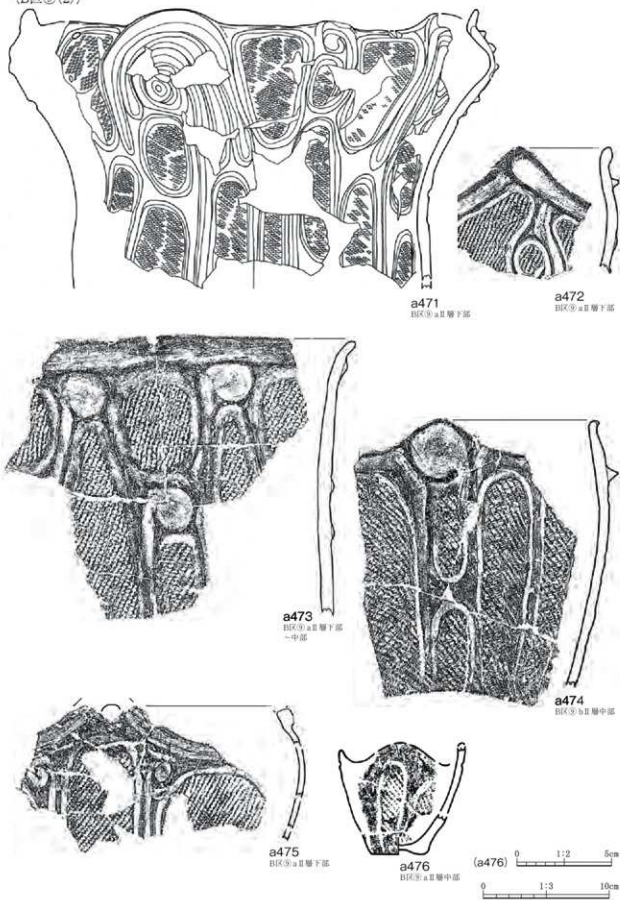


a470
B区⑨a区層下部



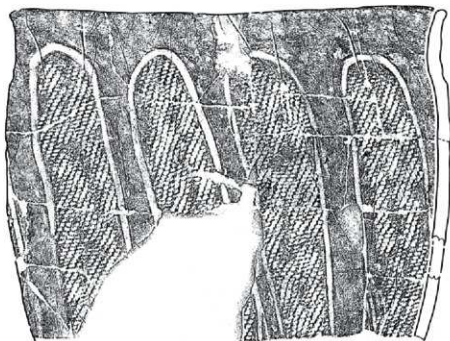
第124図 縄文土器 (61)

(BK9(2))



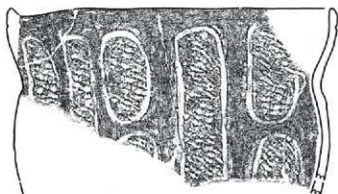
第125図 縄文土器 (62)

(B区⑨(3))



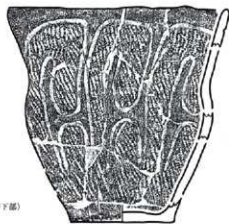
a477

B区⑨bⅡ層下部



a478

B区⑨bⅡ層下部
互層9a(B区⑨bⅡ層下部)



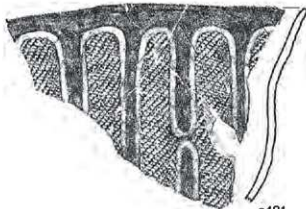
a480

B区⑨bⅡ層下部



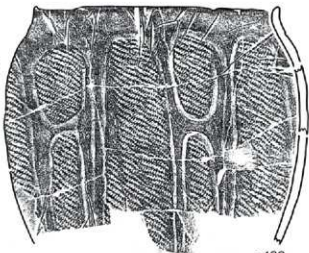
a479

B区⑨bⅡ層中部



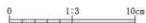
a481

B区⑨bⅡ層下部



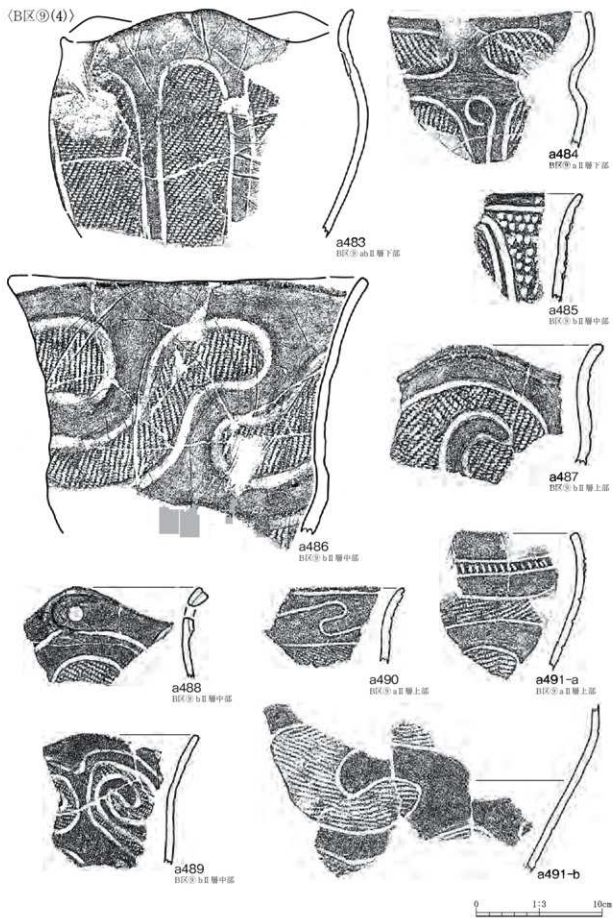
a482

B区⑨bⅡ層
下部-中部



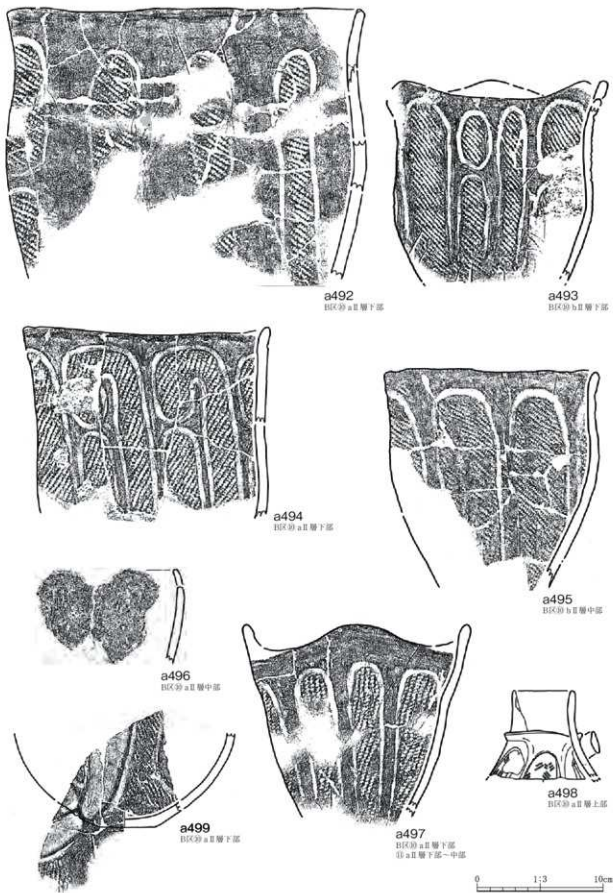
第126図 縄文土器 (63)

(B区④)



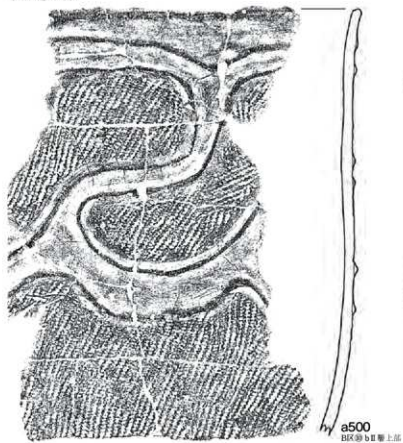
第127図 縄文土器 (64)

(B区画①)



第128図 縄文土器 (65)

(B区②)



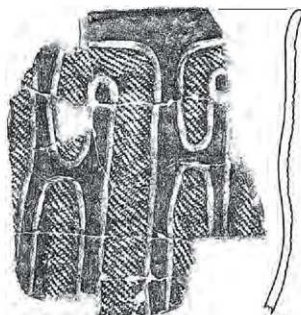
(B区①)



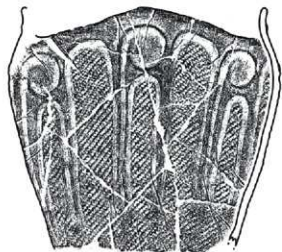
a501
B区①a区層上部



a502
B区①a区層中部



a503
B区①a区層中部



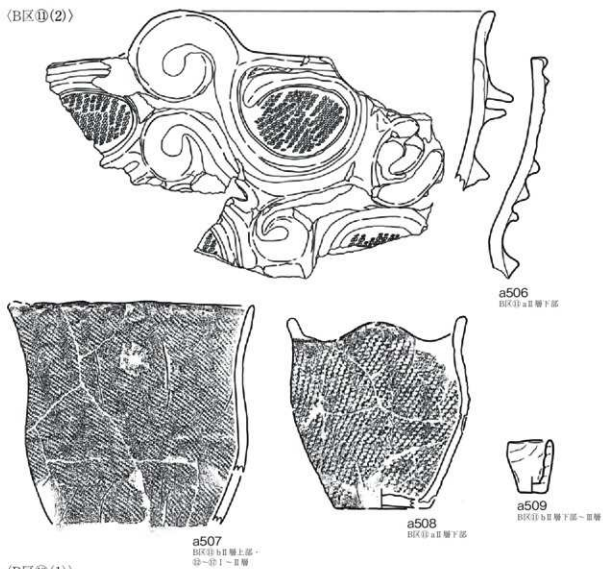
a504
B区①a区層中部-上部



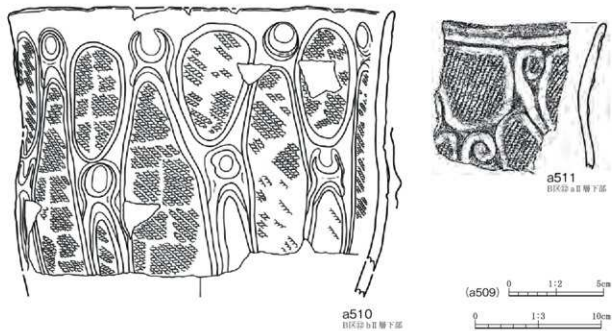
a505
B区①a区層下部



〈B区①(2)〉

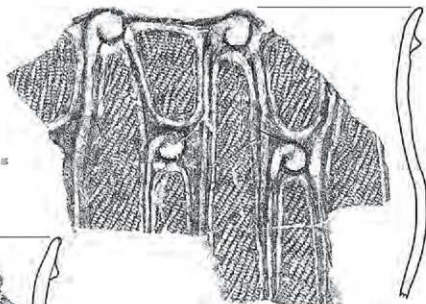
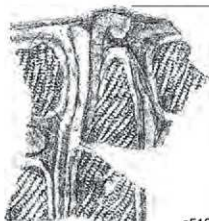


〈B区②(1)〉

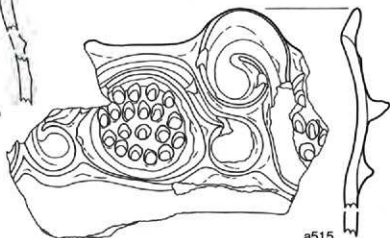


第130図 縄文土器 (67)

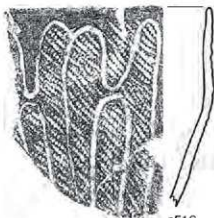
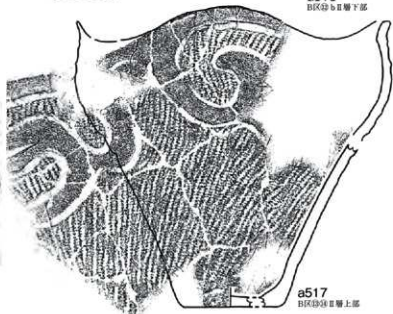
(B区②)

a512
B区②b区層下部a513-a
B区②b区層下部

a513-b

a514
B区②b区層中部a515
B区②b区層下部

(B区①)

a516
B区①a区層中部a517
B区①a区層上部

0 1:3 10cm

第131図 縄文土器 (68)

(B区⑬)(2)



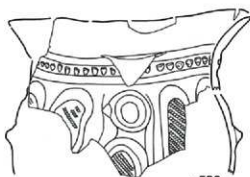
a518
B区⑬Ⅱ層中部

(B区⑭)

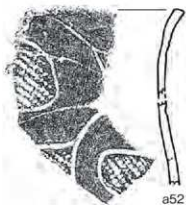


a519
B区⑬Ⅱ層上部

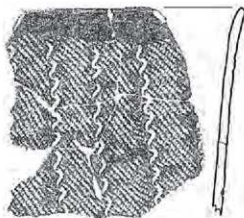
(B区⑯(1))



a520
B区⑬Ⅱ層中部



a521
B区⑬Ⅱ層中部



a523
B区⑬Ⅱ層中部

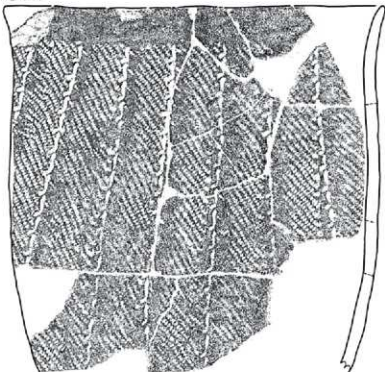


a522
B区⑬Ⅱ層中部-上部

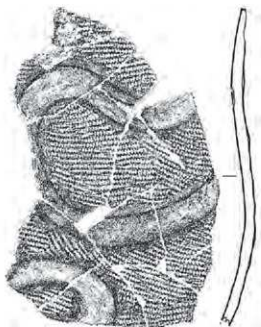


第132図 縄文土器 (69)

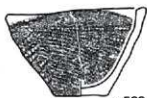
〈B区⑩(2)〉

a524
B区⑩Ⅱ層中部

〈B区⑪〉

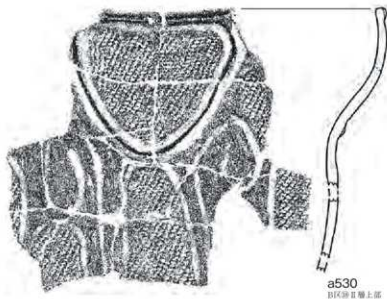
a525
B区⑪Ⅱ層中部a527
B区⑪Ⅱ層中部a526
B区⑪Ⅱ層中部

〈B区⑫(1)〉

a528
B区⑫Ⅰ—Ⅱ層a529
B区⑫Ⅱ層上部

0 1:3 10cm

〈B区②〉



a530
B区②土器上部

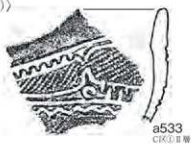
〈B区③〉



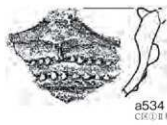
a531
B区③土器上部

a532
B区③土器上部

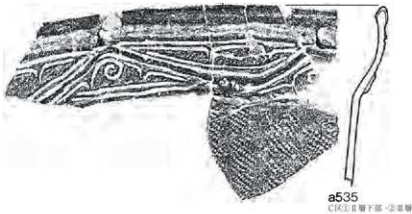
〈C区①(1)〉



a533
C区①土器



a534
C区①土器

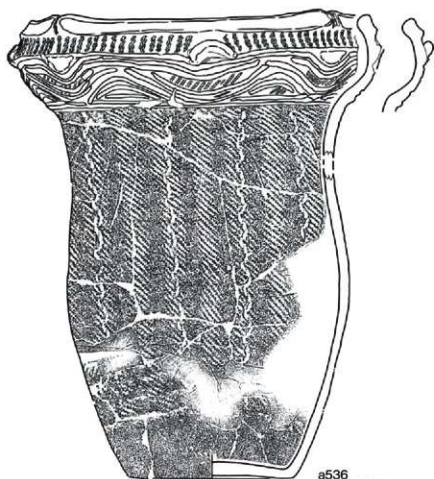


a535
C区①土器下部-②部

0 1:3 10cm

第134図 縄文土器 (71)

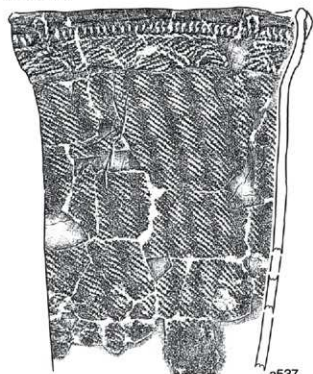
〈CK①(2)〉



a536

CK① 口縁・口縁部

〈CK②(1)〉



a537

CK② 口縁



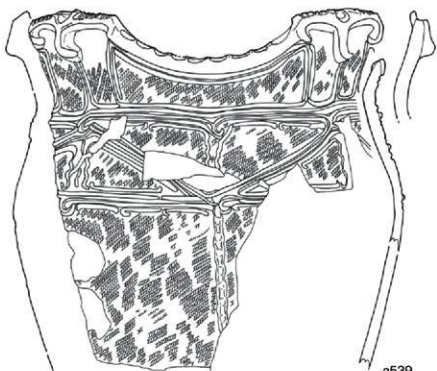
a538

CK② 口縁

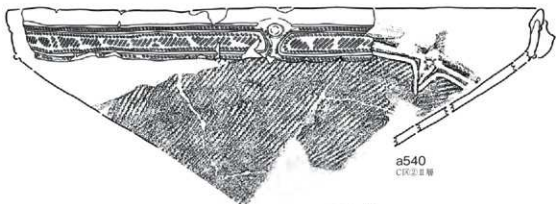


第135図 縄文土器 (72)

〈C区②(2)〉

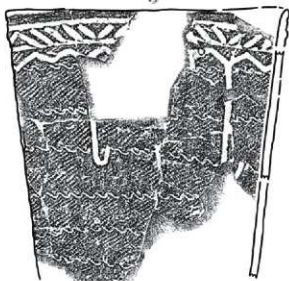


a539
C区②遺解-②B層

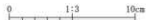


a540
C区②遺解

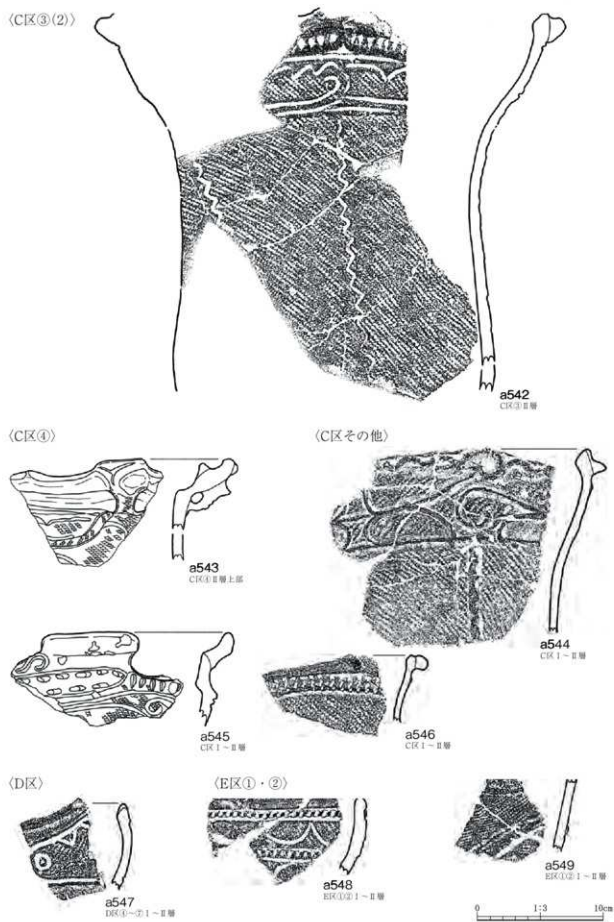
〈C区③(1)〉



a541
C区③遺解下部-③B層

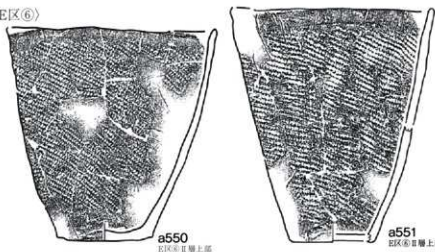


第136図 縄文土器 (73)

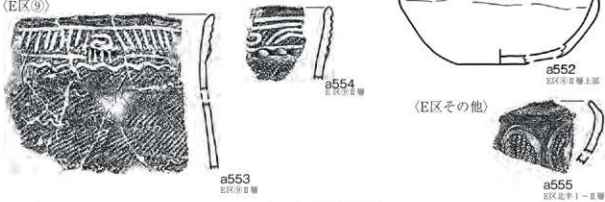


第137図 縄文土器 (74)

〈E区⑥〉



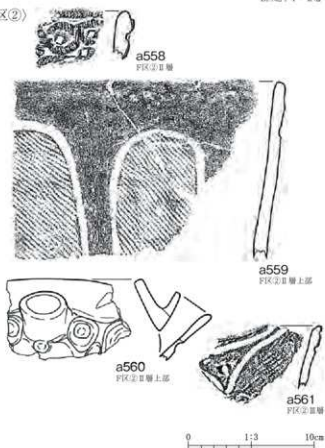
〈E区⑨〉



〈F区①〉



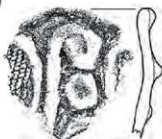
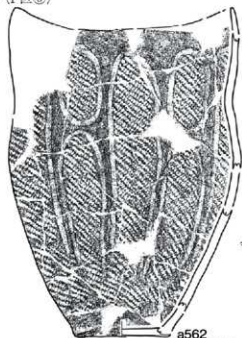
〈F区②〉



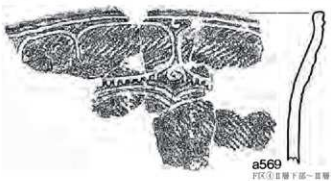
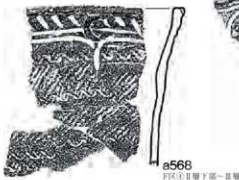
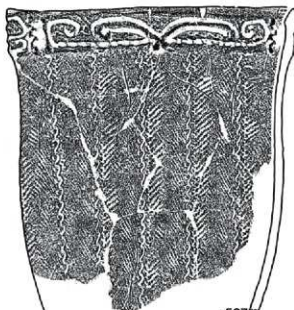
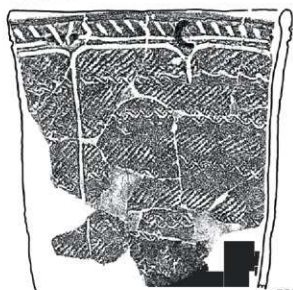
0 1:3 10cm

第138図 縄文土器 (75)

〈FIG③〉



〈FIG④(1)〉



0 1:3 10cm

第139回 縄文土器 (76)

(FK区④(2))



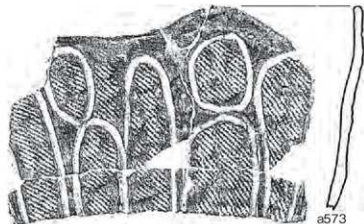
a570
FK区④層下部
一辺長



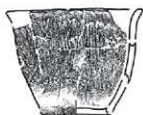
a571
FK区④層下部



a572
FK区④層下部

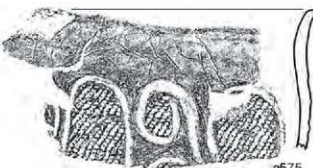


a573
FK区④層下部—上部

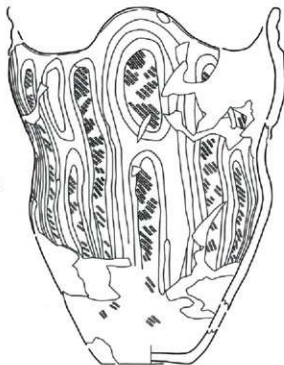


a574
FK区④層下部

(FK区⑤)



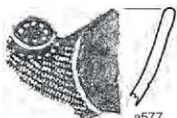
a575
FK区⑤層下部



a578
FK区⑤層下部



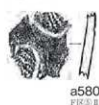
a576
FK区⑤層下部



a577
FK区⑤層上部



a579
FK区⑤層下部

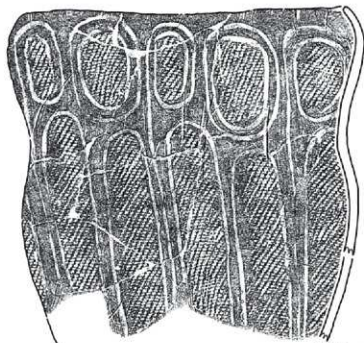
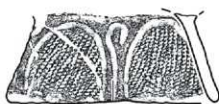


a580
FK区⑤層下部

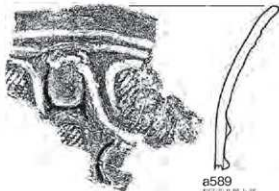
0 1:3 10cm

第140図 縄文土器 (77)

〈F区⑥〉

a581
F区⑥遺構上部a582
F区⑥遺構下部a583
F区⑥遺構上部a584
F区⑥遺構中部一上部a585
F区⑥遺構上部a586
F区⑥遺構上部a587
F区⑥遺構上部

〈F区⑦(1)〉

a588
F区⑦遺構一帯②遺構下部a589
F区⑦遺構上部

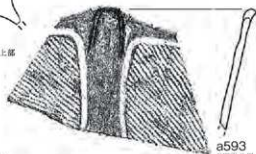
0 1:2 5cm

0 1:3 10cm

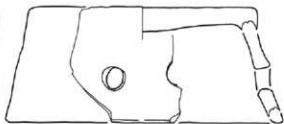
〈F区⑦(2)〉



a594
F区⑦壺上部



a593
F区⑦壺上部

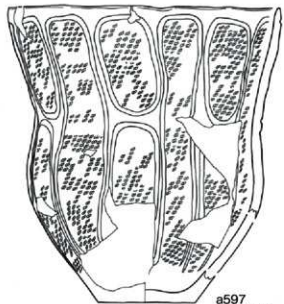


a595
F区⑦壺上部

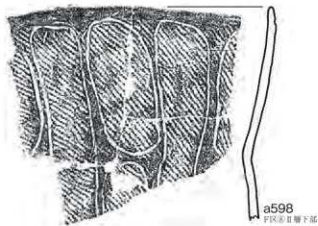
〈F区⑧(1)〉



a596
F区⑧壺下部~上部



a597
F区⑧壺下部

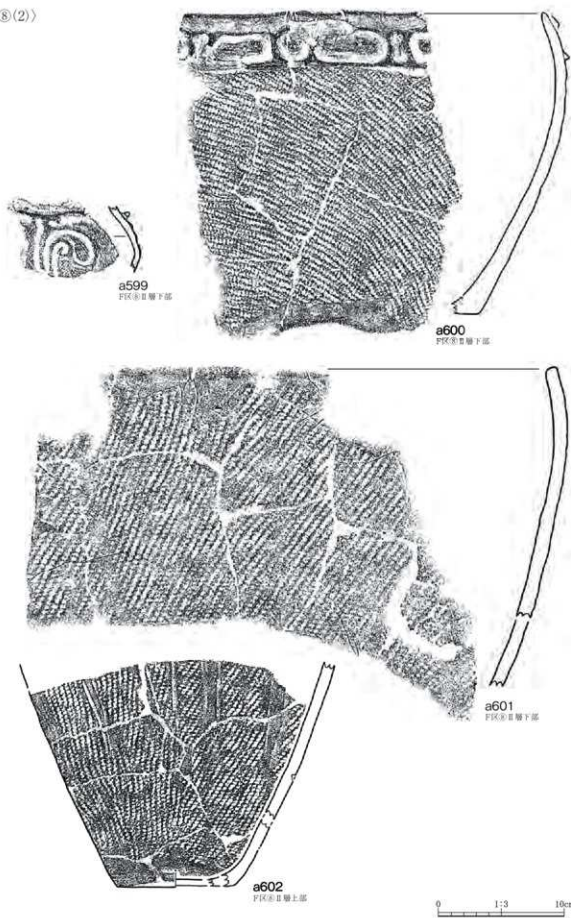


a598
F区⑧壺下部



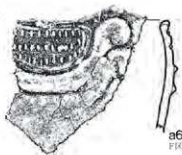
第142図 縄文土器 (79)

〈F区⑧(2)〉



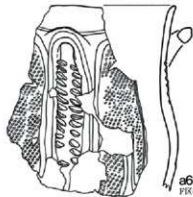
第143図 縄文土器 (80)

〈F区⑨〉

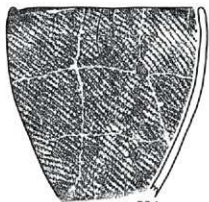


a603
F区⑨土器上部

〈F区⑩〉



a605
F区⑩土器上部

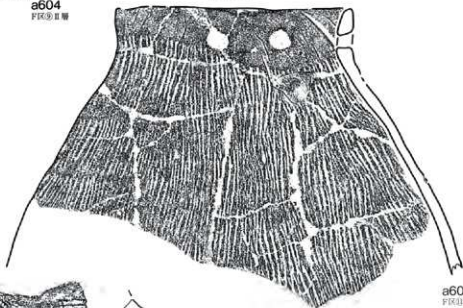


a604
F区⑨土器



a606
F区⑩土器上部

〈F区⑪〉



a607
F区⑪土器上部

〈F区⑭〉



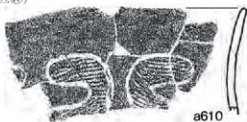
a608
F区⑭土器下部

〈F区⑯〉



a609
F区⑯土器上部

〈F区⑰〉

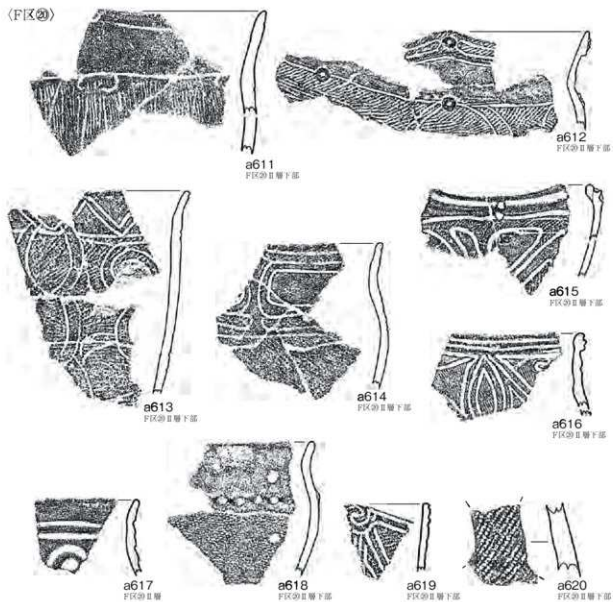


a610
F区⑰土器下部

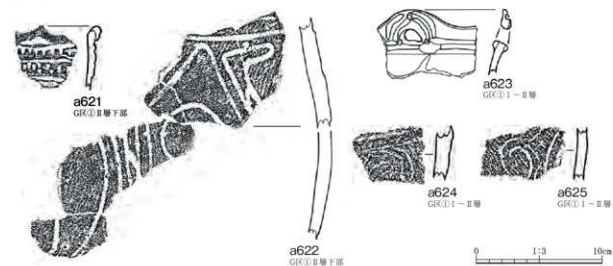
0 1:3 10cm

第144図 縄文土器 (B1)

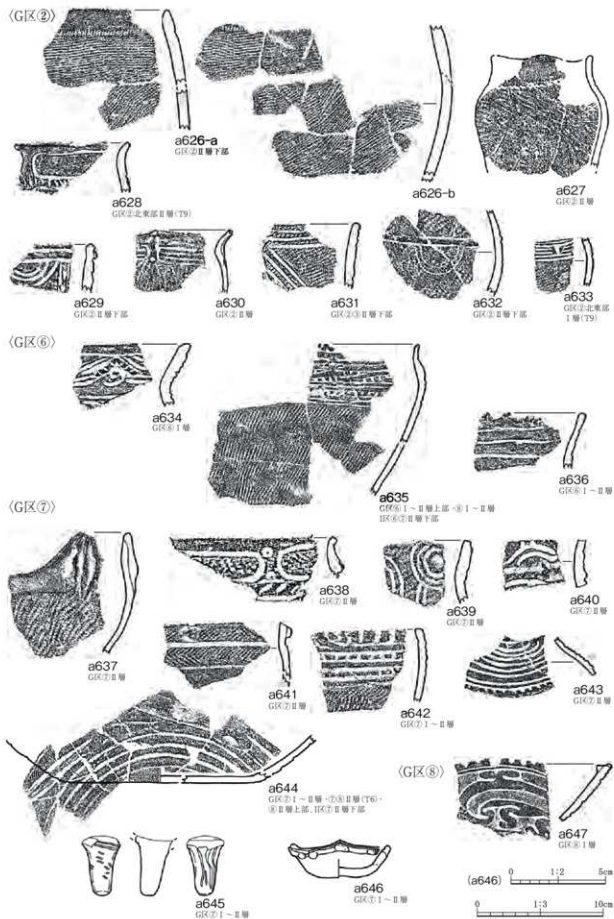
〈F区②〉



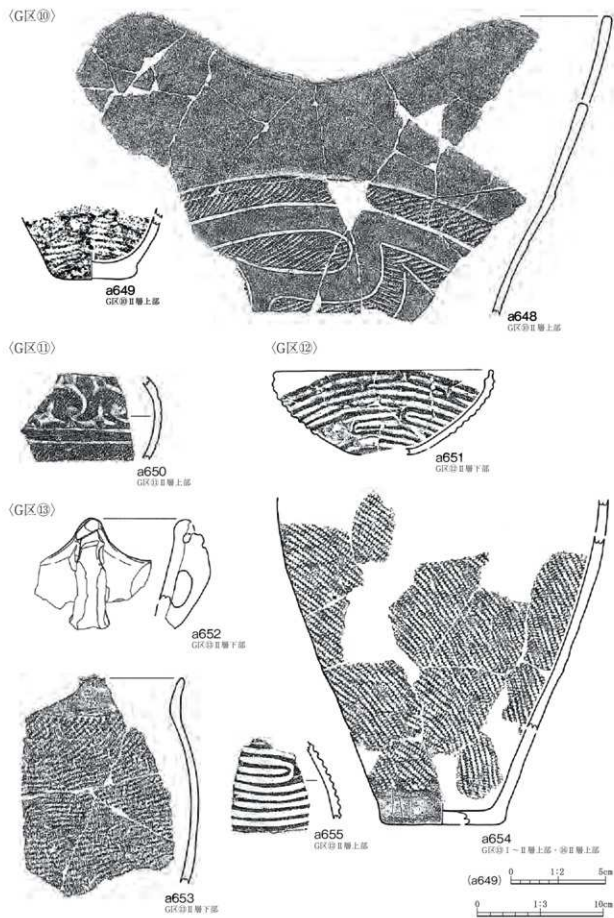
〈G区①〉



第145図 縄文土器 (82)

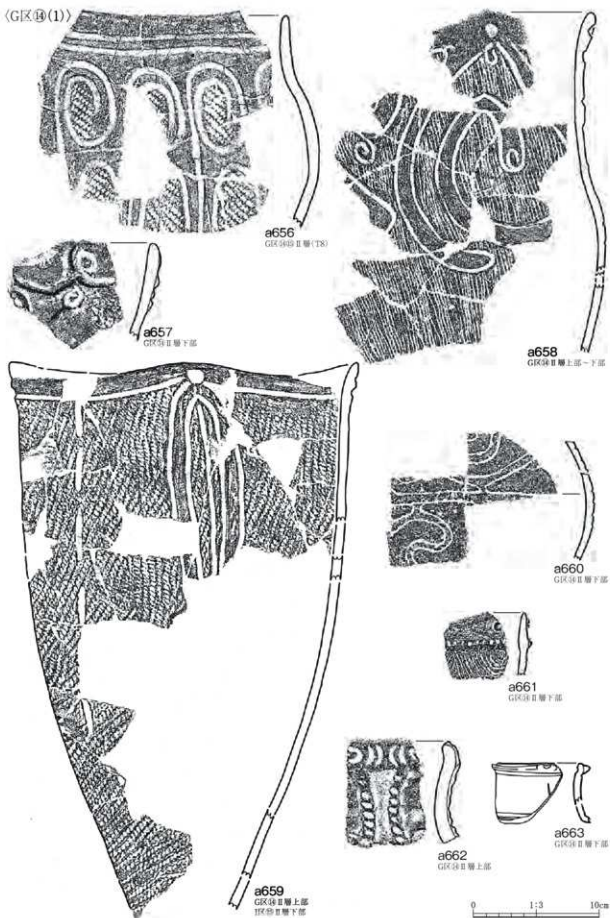


第146図 縄文土器 (83)

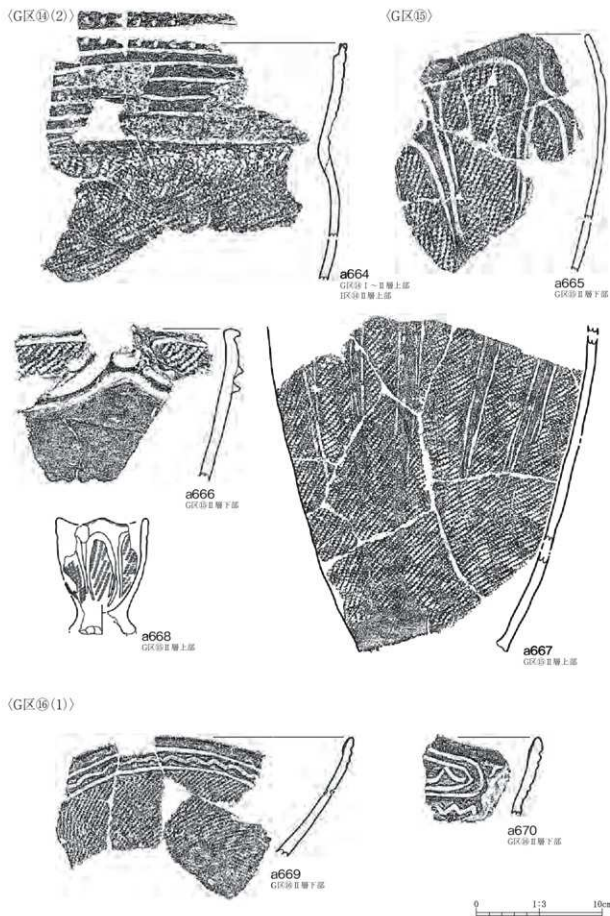


第147図 縄文土器 (B4)

〈G区図(1)〉

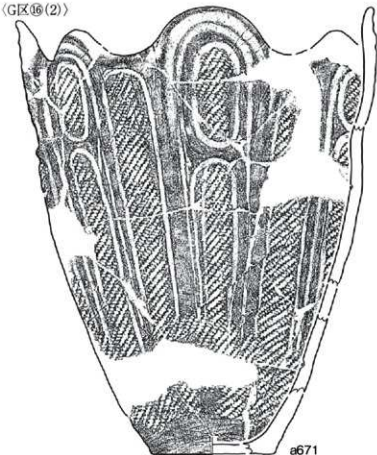


第148図 縄文土器 (85)



第149図 縄文土器 (86)

〈G区⑧(2)〉



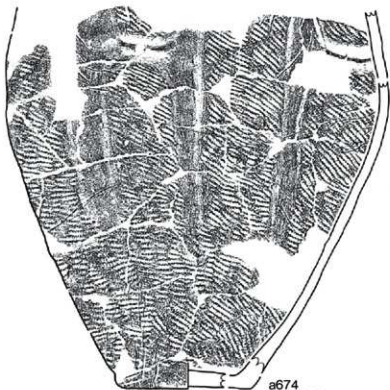
a671
G区⑧区上部-下部



a672
G区⑧区上部



a673
G区⑧区上部



a674
G区⑧区上部



a675
G区⑧区上部-下部

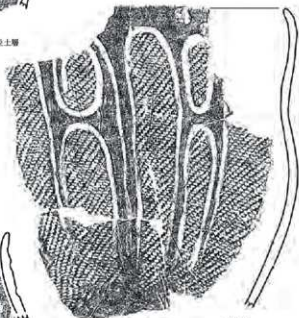


第150図 縄文土器 (87)

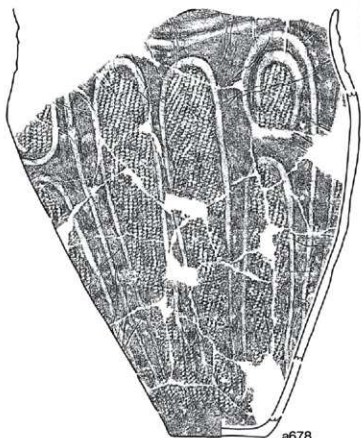
〈G区③〉



a676
G区Ⅱ層上部
弥生層上部-Ⅱ層中晩土層



a677
G区Ⅱ層上部

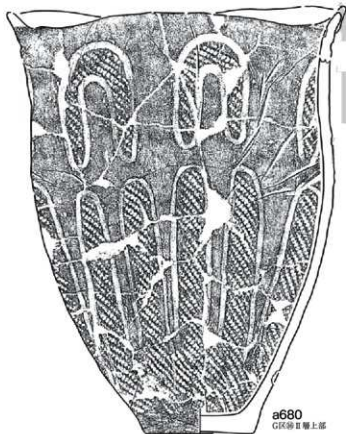
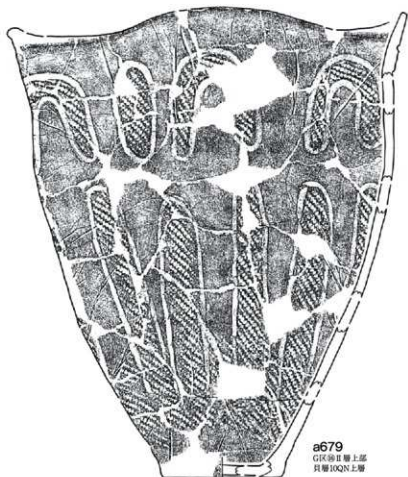


a678
G区Ⅱ層上部



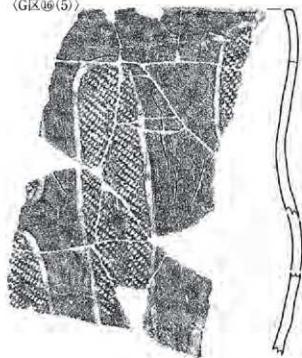
第151図 縄文土器 (88)

(G区跡(4))

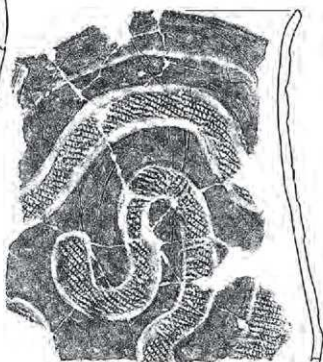


第152図 縄文土器 (89)

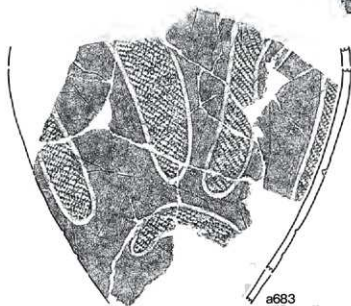
(G区⑤)



a681
G区⑤II層上部



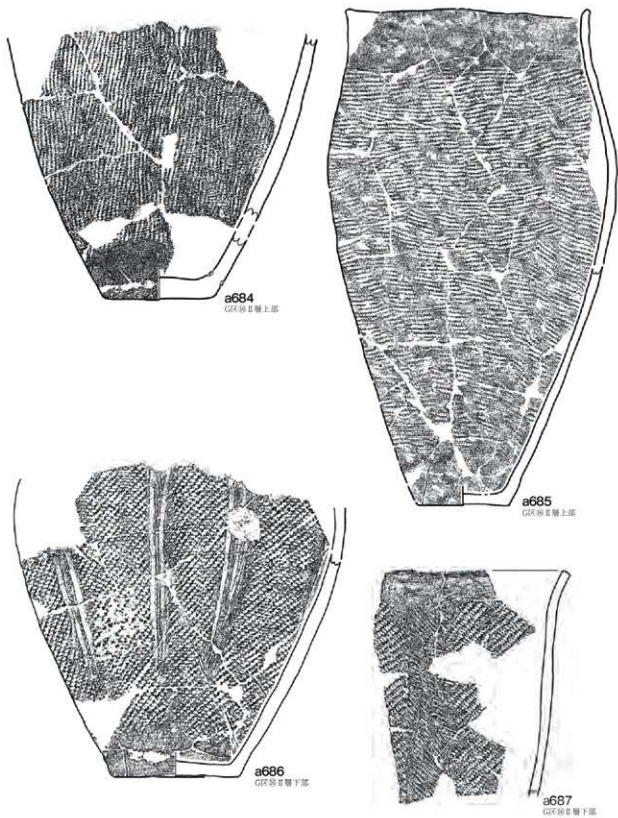
a682
G区⑤II層上部



a683
G区⑤I-III層

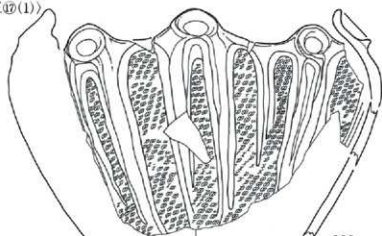
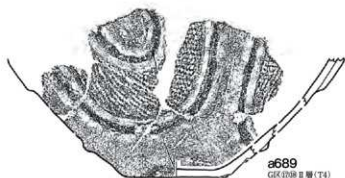
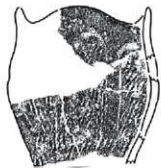
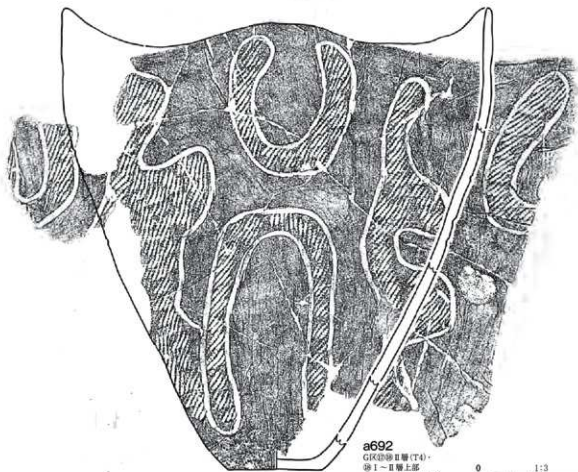


〈G区画(6)〉



第154図 縄文土器 (91)

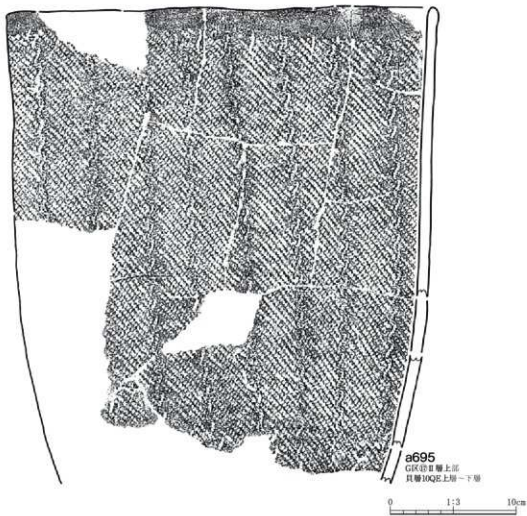
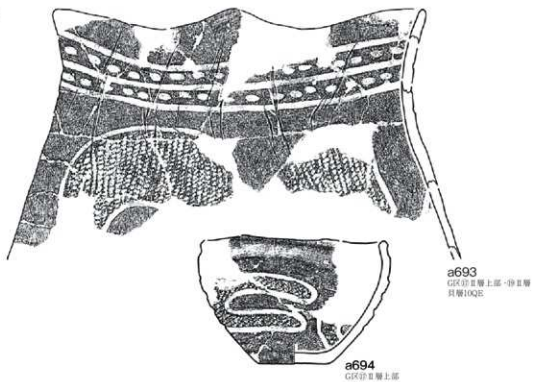
〈G区①〉

a688
G区①Ⅱ層下部a690
G区①Ⅱ層下部a689
G区①Ⅱ層(T4)a691
G区①Ⅱ層上部a692
G区①Ⅱ層(T4)・
ⅢⅠ-Ⅱ層上部
片層100%上層・100%

0 1:3 10cm

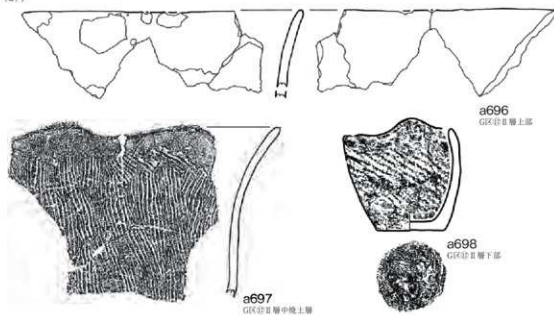
第155図 縄文土器 (92)

〈G区跡(2)〉

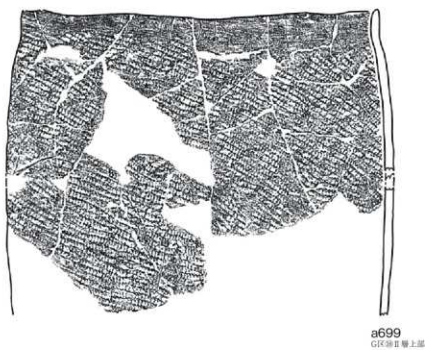


第156図 縄文土器 (93)

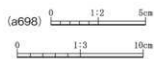
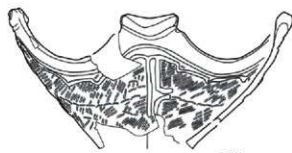
〈G区③〉



〈G区④〉

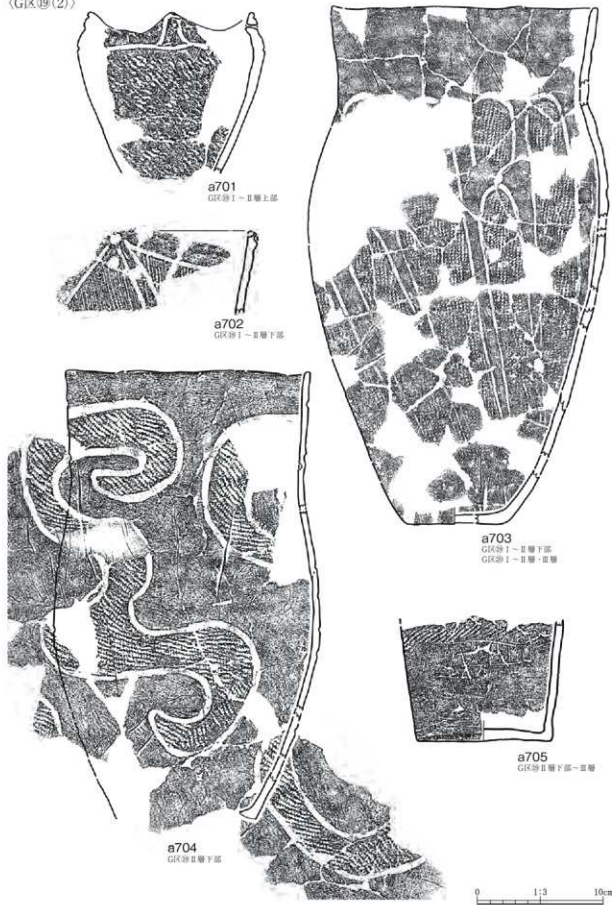


〈G区⑤(1)〉



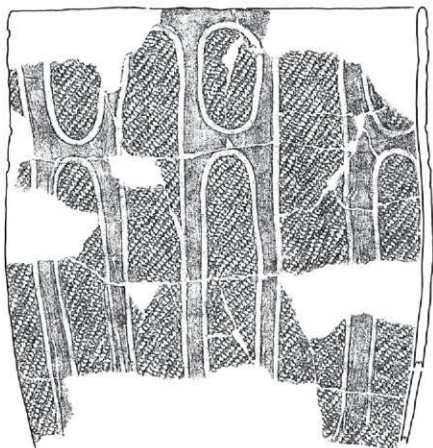
第157図 縄文土器 (94)

(G区②)



第158図 縄文土器 (95)

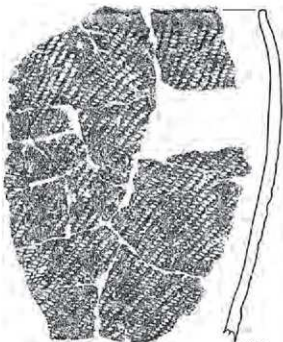
〈G区③(3)〉



a706
G区③層上部～下部



a707
G区③層1～2層

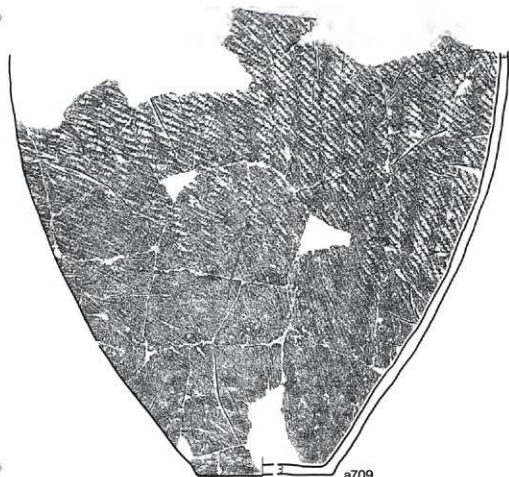


a708
G区③層下部

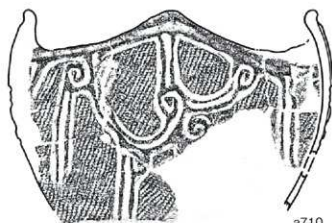


第159図 縄文土器 (96)

〈G区跡(4)〉



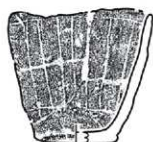
〈G区跡(1)〉



a710
G区跡目録上部



a711
G区跡1-目録上部

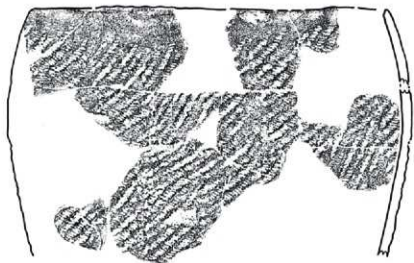


a712
G区跡1-目録上部
H区跡目録下部



第160図 縄文土器 (97)

(G区②)

a713
G区② 1-2層上部

(IK区②)



a714

IK区② 層下部

a716

IK区② 層下部

a715

IK区② 層下部

(IK区④)



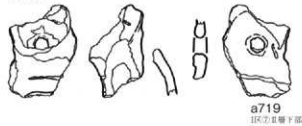
a717

IK区④ 層下部

a718

IK区④ 層下部

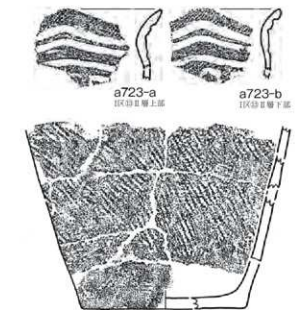
(IK区⑦)



a719

IK区⑦ 層下部

(IK区⑬)



a723-a

IK区⑬ 層上部

a723-b

IK区⑬ 層下部

(IK区⑨)



a720

IK区⑨ 層下部

a721

IK区⑨ 層下部

(IK区⑩)



a722

IK区⑩ 層下部



a724

IK区⑩ 層上部-下部

0 1:3 10cm

第161図 縄文土器 (98)

4 縄文時代の遺物

〈I区04〉



a725
I区04区層下部



a726
I区04区層下部

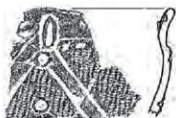
〈I区05〉



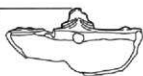
a727
I区05区層



a728
I区05区層下部



a729
I区05区層下部

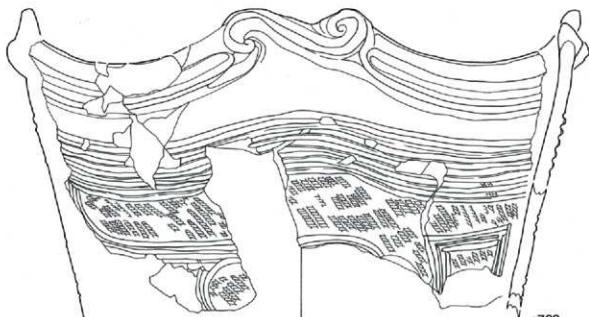


a730
I区05区層下部



a731
I区05区層下部

〈具層10(1)〉

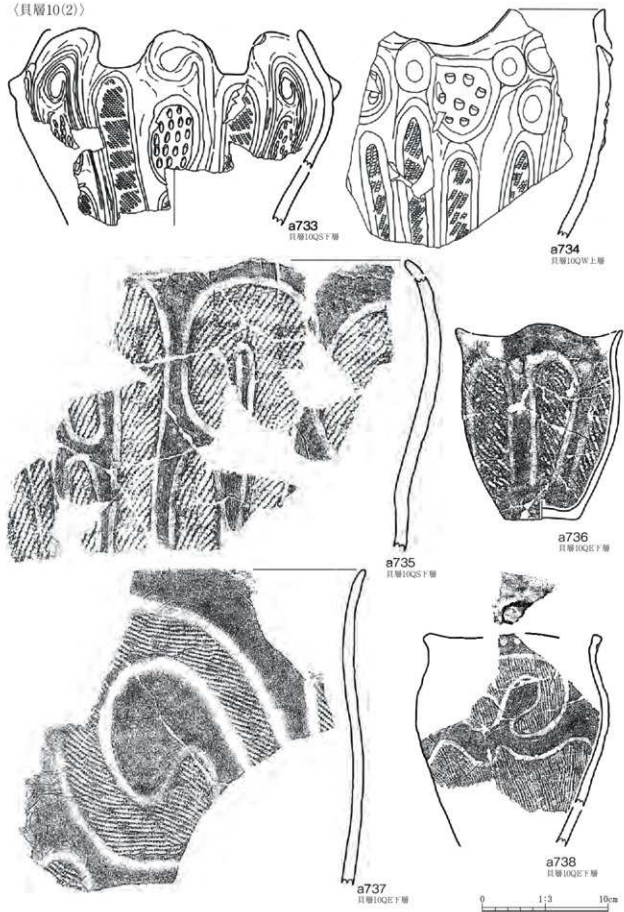


a732
具層10QW



第162図 縄文土器 (99)

〈貝層10(2)〉



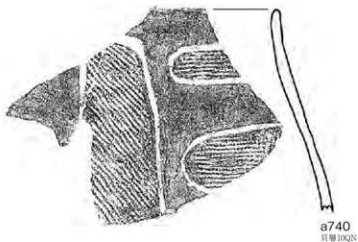
第163図 縄文土器 (100)

4 縄文時代の遺物

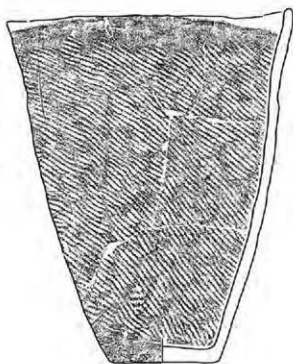
〈具層10(3)〉



a739
具層10QN



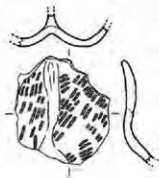
a740
具層10QN



a741
具層10QE上層~下層



a742
具層10QW



a743
具層10QE

(a742・743) 0 1:2 5cm

0 1:3 10cm

第18表 縄文土器観察表

() 測定値 < > 現在値 単位: cm

No.	出土地点(標高)	器種	部位	特徴	口径	底径	高さ	時期
1	S301理上下部(Ⅰ区①)、A区②Ⅱ層下部、C区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(菱形突起)、沈線/横内面+キザミ(斜)、小底区~垂下沈線、L線/内面ナシ	29.2	-	<13.2>	大木7b
2	S301理上下部(Ⅰ区①)、A区③Ⅱ層、A区④Ⅱ層、A区⑤Ⅱ層、C区③Ⅱ層	深鉢	口縁部	波状口縁(C字状突起)、C字状飾+小波状沈線(溝溝)、L線、垂線+L区⑤、L区、内面ナシ	-	-	-	大木8a
3	S301理内周土~埋土上部(Ⅰ区①)、A区④Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁幅式平頭ミギキ、X字状裝飾+L区⑤(3条)/内面ミギキ	-	-	-	大木7b
4	S301理上下部(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	波状口縁(凹円文)、水平~溝弧状~小波状沈線、L線/内面ナシ	-	-	-	大木7b
5	S301理上下部(Ⅰ区①)、A区④Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	口唇C字状裝飾、曲線文(沈線)、L区	-	-	-	大木8a
6	S301理上(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	波状口縁(C字状付)、隆沈線、小波状沈線/内面ナシ	-	-	-	大木7b
7	S301理上下部(Ⅰ区①)、F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底部	波状口縁(X字状付)、横内面(隆沈線)+L区、L区、内面ナシ	(11.0)	9.0	22.6	大木7b
8	S301理上下部(Ⅰ区①)、A区④Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、C字文(隆線)+L区⑤、L区/内面ミギキ	(11.4)	-	<9.3>	大木8a
9	S301中央部南面	深鉢	口縁部	波状口縁、隆沈線、小波状沈線、L線/内面ナシ	-	-	-	大木7b
10	S301理上(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	隆線+刺突(キザミ状)、C字状~曲線(L区)/内面ナシ	-	-	-	大木7b
11	S301理上下部(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	キザミ(斜)、隆線/内面ナシ	-	-	-	大木7b
12	S301理上下部(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	波状口縁(C字状飾)、L区⑤、小波状沈線、曲線文、L区/内面ナシ	-	-	-	大木7b
13	S301理上(Ⅰ区①)~内底	深鉢	胴~底部	L区/内面ナシ	-	11.1	<24.0>	中期
14	S301理上下部(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	波状口縁、溝巻文+白字文(L区)+刺突+L区/内面ナシ	-	-	-	大木9b
15	S301理上(Ⅰ区①)	台付鉢	台部	円形透かし、L区/内面ナシ	-	(11.0)	<3.8>	中期後葉
16	S301理上(Ⅰ区①)	台付鉢	台部	円形透かし	-	-	<6.7>	中期後葉
17	S301理上下部(Ⅰ区①)、A区④Ⅱ層中部、A区⑤Ⅱ層、B区⑤Ⅱ層、B区⑥Ⅱ層、B区⑦Ⅱ層、F区①Ⅱ層~Ⅲ層	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、溝巻文(隆沈線~沈線)、L区/内面ナシ、一部ミギキ	(25.6)	-	<18.2>	大木8b
18	S301理上(Ⅰ区①)、A区④Ⅱ層上部	深鉢	口縁~底部	波状口縁(C字状飾)、ノ字状隆線+刺突、単純條巻体+L区/内面ナシ+底部本葉	(14.4)	8.4	30.2	大木10b
19	S301理上下部(Ⅰ区①)、E区④Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	隆線(溝巻文)、L区/内面ナシ	(28.0)	-	<17.6>	中期後葉
20	S301理上(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	曲線文(沈線)+L区/内面ナシ	-	-	-	大木10b
21	S301理上(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	波状口縁、曲線文(沈線)+L区/内面ナシ	-	-	-	大木10a
22	S301理上(Ⅰ区①)	深鉢	胴部	縞ミ(刺突)/内面ナシ	-	-	-	中期末
23	S301理上下部(Ⅰ区①)	器	口縁	有段+突出部2単位(穿孔)、凹字文(沈線、溝溝)+L区、貫孔状突起/内面ナシ	4.2	4.3	5.2	大木10a
24	S301理上(Ⅰ区①)	深鉢	口縁部	口唇キザミ(横文直造)、平行沈線、玉状突起粘付/内面ナシ、沈線、溝付着	-	-	-	大木A
25	S302理上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、溝巻文(隆沈線)、L区/内面ナシ	-	-	-	大木8b
26	S302理上下部~南壁間	深鉢	口縁~底部	縞状+凹字文(沈線)、L区→一部隆線/内面ナシ、上部ニ工具痕	(21.0)	7.3	19.3	大木9b
27	S302理上下部	深鉢	口縁~胴部	縞状+凹字文(沈線)+L区/内面ナシ	(17.6)	-	<14.8>	大木9b
28	S302理上下部、B区④Ⅱ層下部	深鉢	胴部	波状口縁(本あり)、横内+凹字文(沈線)+L区/内面ナシ	12.2	6.2	12.4	大木9b
29	S302理上下部、B区④Ⅱ層下部	深鉢	胴部	半定形	-	5.4	<8.4>	大木9b
30	S302理上、B区④Ⅱ層下部	鉢	口縁~底部	円形+凹字文(沈線)、L区(溝減弱)、文飾隆線/内面ナシ	(10.3)	4.3	5.6	大木9b
31	S302理上下部、上部~南壁間、B区④Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底部	L区/内面ナシ	(30.0)	(7.0)	23.8	中期後葉
32	S303-4号埋土、S300埋土	深鉢	口縁~胴部	凹字~横内文(沈線)+L区/内面ナシ	-	-	-	大木9b
33	S303北西トレンチ	台付鉢+台付	台部	円形透かし、沈線(曲線)+L区/内面ナシ	-	-	-	大木10
34	S303-05-08埋土上部、S304北平根上下部	深鉢	口縁~胴部	横内+凹字文(沈線)+L区/内面ナシ	(32.2)	-	<31.9>	大木9b
35	S303-05-08埋土上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、縞状~横内+凹字文(沈線)+(L区+L区)台照/内面ナシ	-	-	<11.8>	大木9b
36	S303-05-08埋土上部、S303北西トレンチ	深鉢	口縁部	波状口縁、凹字文(沈線)+L区/内面ナシ、一部ミギキ	-	-	-	大木9b
37	S303-05-08埋土上部	深鉢	口縁~胴部	平行沈線、横内+凹字文(沈線)+L区/内面ナシ	(35.8)	-	<30.5>	大木9b
38	S303-05-08埋土上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、縞状~凹字文(沈線)+L区/内面ミギキ	-	-	-	大木9b
39	S303-05-08埋土上部	深鉢	胴部	H字状文(沈線)、一部隆沈線+刺突、凹字文(沈線)+L区/内面ナシ	-	-	-	大木9b
40	S303-05-08埋土上部	深鉢	口縁部	凹字文(沈線)+刺突+L区/内面ナシ	-	-	-	大木9b
41	S303-05-08埋土上部	深鉢	口縁~胴部	横内+凹字文(沈線)+0段多条L区/内面ナシ	-	-	-	大木9b
42	S303-05-08埋土上部、B区④Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	横内+凹字文(沈線)+L区/内面ナシ	-	-	-	大木9b

4 縄文時代の遺物

() 測定値 < > 残存数 単位: cm

No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口径	底径	器高	時期	
43	S3D-05-08埋土	深鉢	口縁~胴部	平行沈線・斜交羽(設置い)、アルファベットの文(沈線)、LR沈線/内面ナテ	127	-	<138>	大木9a	
44	S3D-05-08埋土上部、B区③B層中部	深鉢	口縁部	波状口縁、曲線文(沈線)+LR縦光焼/内面ナテ	21(6)	-	<88>	大木9a	
45	S3D-05-08埋土上部	鉢	半定形	LR縦/内面ナテ	100	4.8	90	中期後葉	
46	S3D-05-08埋土上部	深鉢	底部	LR縦/内面ナテ/底部刺刺文	-	96	<38>	中期後葉	
47	S3D-05-08埋土上部	深鉢	口縁~胴部	単軸条体1期LR縦(密)→一部LR縦	(34)0	-	<38>	中期後葉	
48	S3D4南半埋土下部・北半埋土下部、B区③B層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(3期厚1)、斜交・M字状+楕円(白字文(沈線2))+LR縦/内面ナテ	(29)7	-	<31.1>	大木9b	
49	S3D4(2号半埋土6層・P内2埋土・南半床面・E3Wベルト床面・埋土3層)	深鉢	口縁~胴部	白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	236	-	<30.7>	大木9b	
50	S3D4E3Wベルト床面・南半床面・埋土上部	深鉢	口縁~胴部	白字文(沈線)+LR縦光焼/内面ナテ	(15)4	-	<156>	大木9b	
51	S3D4南半床面、S13南半埋土上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(3期厚1)、楕円+白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	(166)	-	<30.9>	大木9b	
52	S3D4E3Wベルト床面、B区③B層上部	深鉢	口縁~胴部	沈線(水平)、斜交、M字状+楕円(白字文(沈線2))+LR縦/内面ナテ	(25)3	-	<36.4>	大木9b	
53	S3D4 S3D4E3Wベルト床面・埋土	深鉢	口縁~胴部	白字文/内文+白字文(沈沈線)+LR縦/内面ナテ	(28)6	-	<30.9>	大木9b	
54	S3D4(2号半埋土6層・埋土3層)	深鉢	胴部	沈線、LR縦	-	-	-	大木9b	
55	S3D4南半床面・埋土	深鉢	口縁~胴部	沈線(平行)、楕円(白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	(28)0	-	<24.9>	大木9b	
56	S3D4南半床面・E3Wベルト埋土・北半埋土上部、B区③B層下部	深鉢	口縁~底部	楕円文+白字文(沈線)+LR縦、区画外ミギキ/内面ナテ→並ミギキ	25.2	-	<30.4>	大木9b	
57	S3D4南半床面	深鉢	口縁~胴部	隆線、白字文(沈線)+LR縦/内面ミギキ(横)	-	-	-	大木9b	
58	S3D4南半床面・埋土下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、褐色文(隆沈線)、白字文(沈線)+LR縦/内面ミギキ	-	-	-	大木9b	
59	S3D4E3Wベルト床面・埋土	深鉢	口縁~胴部	白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b	
60	S3D4P3C埋土	深鉢	口縁部	白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b	
61	S3D4北半埋土上部	深鉢	口縁部	波状口縁、曲線文(隆沈線)、斜交/内面ナテ	-	-	-	大木9a	
62	S3D4南半床面・南半埋土上部~一部	皿	口縁部	横状曲線、曲線文(隆沈線)+LR縦、赤色一部布着/内面ナテ	(14)0	-	<5.3>	大木9a	
63	S3D4-2層	深鉢	口縁~胴部	楕円+白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b	
64	S3D4南半床面・E3Wベルト床面・埋土上部	深鉢	口縁~胴部	口縁凹線、並みあり、LR縦/内面ミコナテ工具痕あり	(21)4	-	<22.9>	中期後葉	
65	S3D4北半埋土下部、S13南半埋土上部、B区③B層下部	深鉢	口縁~胴部	LR縦、一部LR縦/内面ナテ	(19)2	-	<15.2>	中期後葉	
66	S3D4E3Wベルト床面	鉢	定形	LR縦/内面ナテ	10.1	4.6	8.8	中期後葉	
67	S3D4埋土	鉢	口縁~底部	LR縦/内面ナテ	(9)4	4.7	8.9	中期後葉	
68	S3D4埋土	深鉢	口縁部	波状口縁+沈線、褐色文(隆線)、丸縁/内面ミギキ	-	-	-	大木8a	
69	S3D4埋土下部	深鉢	口縁部	沈線(平行、曲線)、丸縁/内面ミギキ、横有り	-	-	-	大木8a	
70	S3D4埋土	胎台	胎部	円形透かし(外→内)、無文	-	-	-	4.7	中期後葉
71	S3D4埋土	台付鉢	胎部	円形透かし、LR縦/内面ナテ	-	-	-	中期後葉	
72	S3D4(2号半埋土6層・埋土3層)	深鉢	口縁部	円形透かし(貫通孔)、L字痕、斜交/内面ナテ	-	-	-	大木7b	
73	S3D4埋土(F区②)	ミニチュア焼	定形	無文、指線ナテ底/内面ナテ	4.7	2.7	3.75	中期	
74	S3D4埋土上部	深鉢	口縁~胴部	LR縦/内面ナテ	-	-	-	中期後葉	
75	S3D4埋土	深鉢	胴部	ミギキ、褐色文(隆線)/内面ナテ	-	-	-	大木8b	
76	S3D4埋土下部	深鉢	口縁部	波状口縁、褐色文(隆沈線)、R12R縦/内面ナテ	-	-	-	大木8b	
77	S3D5-06-08埋土下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、褐色文(隆沈線)、丸縁/内面ナテ	-	-	-	大木8b	
78	S3D5-08埋土上部、B区③B層下部	深鉢	胴~底部	白字文(沈線)、丸縁/内面ナテ	-	36	<94>	大木9	
79	S3D5-08埋土上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(突起状)、楕円+白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b	
80	S3D5-06-08埋土	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、楕円文(沈線)+斜交+LR縦、白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	(14)2	-	<35.5>	大木9b	
81	S3D5-06-08埋土、B区③B層上部	深鉢	口縁~胴部	白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	(18)9	-	<36.2>	大木9b	
82	S3D5-08埋土中部~一部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、斜交+楕円文(沈線)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b	
83	S3D5-06-08埋土、B区③B層中部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、白字文(沈線)+LR縦/内面ナテ	(13)8	-	<31.8>	大木9b	
84	S3D5-08埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、波線部に褐色文(隆線)/内面ナテ、一部ミギキ	-	-	-	大木8b	
85	S3D5-08埋土	鉢	口縁~胴部	横状文(隆沈線)、白字文(隆沈線)+LR縦/内面ナテ	(8)0	-	<11.2>	大木9a	
86	S3D5-08埋土下部、B区③B層上部	鉢	口縁部	LR縦~斜/内面ナテ	(18)0	-	<6.6>	中期後葉	
87	S3D5-08埋土上部	深鉢	口縁~胴部	LR縦/内面ナテ	-	-	-	中期後葉	
88	S3D5-08埋土中部、B区③B層中部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、褐色文(沈線)+LR縦光焼/内面ナテ	-	-	-	大木9a	

IV 検出された遺構と遺物

() 測定値 < > 残存積 単位: cm

No.	出土地点(修正)	層種	部位	特徴	口縁	底径	器高	時期
89	S306-08埋上上部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁、アルファベット文系(沈着)+LR縦光焼/内面ナテ	-	-	-	大木10a
90	S306-08埋上上部	煎	口縁~胴部	LR縦/内面ナテ	(5.2)	-	<11.2>	中期後葉
91	S306-08埋上上部	台付鉢or器台	台部	円形透かし、口字文(沈着)+刺突/内面ナテ	-	-	-	大木9b
92	S306-08埋上上部	台付鉢or器台	台部	曲線文(沈着)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b
93	S306-06-08埋上、B区aⅡ層上部	器台	台部	円形透かし、上面ミガキ、LR縦/内面ナテ、内面中央部彫刻四角	-	(234)	10.3	中期後葉
94	S306埋上上部	深鉢	口縁~胴部	口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ	(226)	-	<22.2>	大木9b
95	S306-08埋上上部	深鉢	口縁部	円四角突縁、曲線文(沈着)、LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木8a
96	S306QWベト埋上上部、S306-08埋上下部	深鉢	胴部	隆起線(沈着(斜行))、R1片着(刺突(斜行)/内面ナテ	-	-	-	大木7b
97	S306-08埋上、B区aⅡ層下部~上部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁、流着文(隆起)、横位連結+楕円文+刺突、無文字(ナテ)、刺突+楕円文(沈着)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9a
98	S306-08埋上上部	深鉢	口縁~胴部	刺突+楕円文(沈着)、LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9a
99	S306-08埋上、S11埋上	深鉢	胴部	沈着(垂下)2条組、LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木8b
100	S306-08埋上下部~中部、B区aⅡ層中部~上部、B区aⅢ層上部	深鉢	口縁~胴部	刺突+楕円文(沈着)+LR縦、円文(沈着)/内面ナテ	(280)	-	<40.4>	大木9b
101	S306-08埋上下部~中部、B区aⅢ層中部~上部、B区aⅣ層上部	深鉢	口縁~胴部	口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b
102	S306-08埋中部	深鉢	胴~胴部	円四角、丁字文(貼付)、隆起沈着、LR縦+斜光焼/内面ナテ	-	-	<10.4>	大木10a
103	S306-08埋中部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁、曲線文(隆起)、LR縦光焼/内面ナテ	-	-	-	大木10a
104	S306-08埋下部~上部、B区aⅢ層下部	深鉢	胴~胴部	LR縦/内面ナテ	-	90	<32.5>	中期後葉
105	S306-08埋上部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁、流着文(沈着)、LR縦光焼/内面ナテ	-	-	-	大木10a
106	S306-08埋中部	台付鉢or器台	台部	円形透かし、沈着、LR縦/内面ナテ	-	-	-	中期後葉
107	S306-08埋中部、B区aⅢ層中部~上部	器台	台部	楕円形透かし、口字文(沈着)、LR縦/内面ナテ	(149)	(197)	7.1	大木9b
108	S306-08埋上下部、S306P埋上	深鉢	口縁部	口筒肥厚、隆起線(沈着(斜行)、一部刺突)、0段多角?LR焼/内面ナテ	-	-	-	大木8a
109	S306P埋上下部	深鉢	口縁部	流注口縁、流着文(隆起)、LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木8b
110	S306P埋上2層~P108埋上	深鉢	口縁部	流注口縁、流着部から流着文+楕円文+刺突、LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木8b
111	S306P埋上	深鉢	口縁部	横位S字文(隆起沈着)+LR縦光焼/内面ミガキ	-	-	-	大木9a
112	S306P埋上	深鉢	口縁部	S字+楕円文(沈着)+LR縦/内面ミガキ	-	-	-	大木8b
113	S306P埋上2層	深鉢	胴~底部	口字文下部(沈着)+0段多角(沈着/内面ミガキ(黄色))	-	6.8	<9.8>	大木9
114	S306P埋上	鉢	胴~底部	無文(ナテ)/内面ミガキ	-	105	<10.3>	中期
115	S306Q埋上上部、B区aⅢ層下部、F区aⅡ層上部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁(流着文貼付)、刺突、楕円+口字文(沈着)+LR斜/内面ナテ	-	-	-	大木9a
116	S306Q埋中部	深鉢	口縁~底部	口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ	(238)	(90)	33.2	大木9b
117	S306埋上部、B区aⅢ層下部~中部、B区aⅣ層下部	深鉢	口縁~胴部	楕円+口字文(沈着)+LR縦、刺突、区画外ミガキ/内面ナテ	-	-	-	大木9a
118	S306埋中部-QN北壁埋上	深鉢	口縁~胴部	沈着(平行)、刺突文(隆起沈着)、口字文(沈着)+LR縦/内面ミガキ	-	-	-	大木9a
119	S306Q埋上上部、B区aⅢ層下部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁(流着文貼付)、流着文(隆起沈着)+楕円+口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ	(143)	-	<8.7>	大木9a
120	S306QN埋上部	煎	口縁~胴部	口縁ミガキ、流注口縁(大小ミガキ)、流着文(隆起沈着)、LR縦+斜光焼、赤色着色/内面ナテ	-	-	<9.2>	大木8b
121	S306QW1層、SK1埋上	深鉢	口縁部	口字文系(沈着)+LR縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b
122	S306QW2層	深鉢	口縁~胴部	口縁ミガキ、刺突+口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ、一部ミガキ	-	-	-	大木9b
123	S306埋中部、B区aⅢ層下部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁、楕円+口字文(沈着)+LR縦/内面ミガキ	-	-	-	大木9b
124	S306QN埋中部~上部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁、横位S字文+刺突文(沈着)+LR縦/内面ナテ	(173)	-	<12.8>	大木9b
125	S306中央埋中部~上部	深鉢	口縁~胴部	楕円+口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ、一部ミガキ	-	-	-	大木9b
126	S306P埋上	深鉢	口縁~底部	流注口縁、刺突文(沈着)、口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ、上部ミガキ	(166)	70	38.0	大木9b
127	S306QW2層~1層	深鉢	口縁~胴部	流注口縁、口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ	(206)	-	<15.1>	大木9b
128	S306Q埋下部~前面	深鉢	平底形	隆起口縁、横位S字文+刺突文(沈着)、口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ	10.6	(60)	12.6	大木9b
129	S306QN埋上部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁、刺突+口字文(沈着)+LR縦(光焼)/内面ナテ	-	-	-	大木9b
130	S306QN埋上上部、B区aⅢ層中部	深鉢	口縁~底部	刺突+口字文(沈着)+LR縦/内面ナテ、上部ミガキ	(178)	8.4	20.5	大木9b
131	S306QN埋上部~上部、B区aⅣ層中部	深鉢	口縁~胴部	流注口縁(流着文)、口字文(沈着)、LR縦/内面ナテ	(180)	-	<19.8>	大木9b

4 縄文時代の遺物

() 測定値 < > 残存数 単位: cm

No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口縁	底径	器高	時期
132	S109W中部	深鉢	口縁~胴部	流状口縁、黒文・隆状部、L.R線/内面ミダキ	-	-	大55a	
133	S109QW2層	深鉢	口縁部	流状口縁(S字状裝飾貼付)、刺突(爪状キザミ)/内面ナデ	-	-	大59a	
134	S109W中部	鉢	口縁部	口縁ミダキ、黄文刺突、白文(隆状部・沈線)+L.R線、赤色顔料塗布/内面ナデ	-	-	大59a	
135	S109Q2中央床面	深鉢	胴~底部	垂下隆状部+飾状裝飾貼付、方形文(沈線)+L.R線/内面ナデ	-	6.0	<78>	大59
136	S109Q2埋土上部、B区aⅡ層下部	鉢	半定形	垂みあり、白文(沈線)+L.R線/内面ナデ	1.60	5.0	6.5	大59b
137	S109Q2中央床面	ミニチュア鉢	ほぼ定形	L.R線/内面ヨコナテ調整痕跡	1.52	2.0	4.5	中期後葉
138	S109Q2上面	ミニチュア鉢	胴~底部	垂下沈線、凹形文(沈線)+L.R線/内面ナデ	-	4.3	<30>	大木10
139	S109中央床面	鉢	ほぼ定形	無文、ナデ/内面ナデ	1.70	4.7	4.9	中期後葉
140	S109Q2埋土上部、B区aⅡ層下部	深鉢	口縁部	連続状隆部、斜行垂下沈線、早期輪帯体1期し収/内面ナデ	-	-	-	後期前葉
141	S109QW北第1層	深鉢	口縁部	流状口縁(馬蹄状隆部、隆状部)、沈線、早期輪帯体1期及斜+ナデにより彫琢/内面ナデ	-	-	-	後期前葉
142	S109QW北第1層	深鉢	口縁~胴部	J字状文(沈線)、早期輪帯体1期直斜/内面ナデ	-	-	-	後期前葉
143	S109埋土上部	鉢	口縁~底部	L.R線/内面ナデ	0.97	3.2	9.4	中期後葉
144	S101船庫(S111中1付注)	深鉢	胴部	J字状沈線、L.R線/内面ナデ	-	-	<19>	大木10a
145	S110-1号中埋設土部	深鉢	ほぼ定形	口縁ミダキ、L.R線/内面ナデ	20.5	6.0	22.0	中期後葉
146	S111(2号中埋土)遺1埋土、B区北第遺構埋土下部、P46埋土	深鉢	口縁~胴部	L.R線/内面ナデ、一部ミダキ	(16.6)	-	<127>	中期後葉
147	S112 6層	深鉢	口縁部	流状口縁(赤文)/内面ナデ	-	-	-	大59a
148	S112-2号中下部	深鉢	胴部	隆状部、凹段多製L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b
149	S112 7層	深鉢	口縁~胴部	L.R斜/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
150	B区北第遺構葬土上	深鉢	口縁部	流状口縁、赤文(隆状部)、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59a
151	B区北第遺構葬土下部	深鉢	口縁部	赤文(隆状部)/内面赤色ミダキ	-	-	-	大59a
152	B区北第遺構葬土上部	深鉢	口縁部	赤文(隆状部)、刺突/内面ナデ	-	-	-	大59a
153	B区北第遺構葬土上	小型深鉢	口縁~胴部	刺突+白文(沈線)+L.R線、区画性ミダキ/内面ナデ	-	-	-	大59b
154	B区北第遺構葬土上	深鉢	口縁~胴部	口縁ミダキ、白文(沈線)+L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b
155	B区北第遺構葬土上	深鉢	口縁部	流状口縁、楕円(沈線)+刺突、白字下(沈線)、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b
156	B区北第遺構葬土下部	小型深鉢	口縁部	流状口縁、黒文(白文(沈線)、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b
157	B区北第遺構葬土上	深鉢	口縁~胴部	流状口縁、口縁ミダキ、赤文(隆状部)、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大木10b
158	B区北第遺構葬土床面	台付鉢	台部	円形透かし、L.R線/内面ナデ	-	10.0	<4.0>	中期後葉
159	B区北第遺構葬土下部	台付鉢	台部	円形透かし、L.R線/内面ナデ	-	9.3	<4.4>	中期後葉
160	B区北第遺構葬土床面	深鉢	胴部	L.R線/内面ナデ	-	-	<27.8>	中期後葉
161	S113南平理土下部	深鉢	口縁部	流状口縁、赤文(隆部)、刺突、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59a
162	S113南平理土上部	深鉢	口縁部	流状口縁、溝部部に黄状文(隆部)、楕円文(沈線)+刺突+L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59a
163	S113南平床面	深鉢	口縁~胴部	白字・黄状文(沈線)+L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b
164	S113南平床面~埋土下部	鉢	口縁~底部	白字文突起貼付(2単位、貫通孔あり)、白字文(沈線)+L.R線/内面ミダキ	12.0	(6.5)	<14.1>	大59b
165	S113南平理土下部	深鉢	口縁部	流状口縁、溝部部に赤文(沈線)、楕円文(沈線)+刺突+L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59a
166	S113南平理土下部	深鉢	口縁部	流状口縁、平行沈線、刺突、L.R線/内面ナデ	-	-	-	後期前葉
167	S113Pc埋土上	深鉢	口縁部	L.R線/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
168	S113Pc埋土上	深鉢	胴部	白字文(沈線)+L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59
169	S113Pc埋土上	深鉢	胴部	沈線、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59
170	S113Pc埋土上	深鉢	胴部	隆状部、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b~9
171	S114埋土上	深鉢	口縁部	楕円+黄状文(沈線)+L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59
172	S114埋土上	深鉢	胴部	沈線、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59
173	S114埋土床面	深鉢	底部	L.R線/内面ナデ	-	10.8	<4.1>	中期後葉
174	S115南平理土上部	深鉢	口縁部	白字文(沈線)、L.R線/内面ミダキ	-	-	-	大59
175	S115埋土下部	深鉢	胴部	黄状文(隆状部)、L.R線/内面ミダキ	-	-	-	大59
176	S115Pc埋土上	深鉢	胴部	楕円+白字文(沈線)+L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b
177	S115Pc埋土床面	深鉢	胴部	白字文(沈線)+L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b
178	S115Pc埋土上	深鉢	胴部	連続赤文(沈線)、L.R線/内面ナデ	-	-	-	大59b

IV 検出された遺構と遺物

() 測定値 < > 残存積単位: cm

No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口径	底径	器高	時期
179	S115Pa2埋土	深鉢	胴部	曲線文(段沈線)、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木10
180	S115埋土上部	深鉢	口縁部	波状口縁、褐色文(段沈線)/内面ナデ	-	-	-	大木8b
181	S115Pa埋土	深鉢	口縁-胴部	S字状クランク文(沈線)+LR線+斜光線、LR線/内面ナデ	(133)	-	<157>	大木10b
182	S115Pa埋土上	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木10
183	S115埋土下部	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木10
184	S115Pa2埋土	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木10
185	S115埋土下部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、斜突(キゼミ状)、円文(沈線)+LR線/内面ナデ	-	-	-	大木10a
186	S117埋土	深鉢	口縁部	沈線、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木10
187	S117埋土	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、RL光線/内面ナデ	-	-	-	大木10
188	S118埋土	深鉢	底部	内面ナデ/底部磨代痕	-	-	-	中期後葉
189	S118Pa埋土	深鉢	胴部	沈線、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木9
190	S118埋土	深鉢	胴部	沈線、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木9
191	S118埋土	深鉢	胴部	楕円?の文字? (沈線)+LR線/内面ナデ	-	-	-	大木9
192	S120南半埋土下部	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁同形状沈線、褐色文(段線)、沈線+LR線/内面ナデ	-	-	-	大木9a
193	S120南半埋土上部	深鉢	口縁部	波状口縁、沈線+LR線、斜突/内面ナデ	-	-	-	大木10a
194	S120北半埋土上部	深鉢	口縁部	波状口縁、曲線文(沈線)+LR線光線/内面ナデ	-	-	-	大木10a
195	S120南半埋土下部	深鉢	口縁部	波状口縁、波線帯起しE貫通孔、沈線+斜突/内面ナデ	-	-	-	後期初期
196	S123Pa10-11埋土	深鉢	口縁部	曲線文(沈線)、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木10
197	S123Pa10-11埋土	深鉢	口縁部	沈線、LR線/内面ナデ	-	-	-	大木10
198	S123埋土	深鉢	口縁部	曲線文(沈線)、LR線? (磨減著しい)/内面ナデ	-	-	-	大木10
199	S123埋土内P1	ミニチュア壺	胴-底部	入組状曲線文(沈線)、LR線光線/内面ナデ	4.8	6.3	5.2	大木10b
200	S123埋土	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、斜突+円字状沈線、ほこ磨文ナデ、上部のみ口段多量沈線、ほこ磨痕	-	-	-	後期初期
201	S123北側埋土	深鉢	口縁-胴部	斜行沈線(三角状)、LR線+斜光線?/内面ナデ	-	-	-	後期初期
202	S123埋土上部	深鉢	口縁部	波状口縁、沈線、斜突、円文(磨付)、LR線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
203	S123埋土	深鉢	口縁部	口縁上端LR段、龍泉状沈線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
204	S123埋土	深鉢	口縁部	円字状隆線、磨代痕?/内面ナデ	-	-	-	大木9
205	S123埋土	深鉢	口縁上部LR段、龍泉状沈線/内面ナデ	-	-	-	-	後期初期
206	S123埋土	深鉢	胴部	沈線、LR線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
207	S123埋土	深鉢	胴部	沈線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
208	S123埋土	深鉢	胴部	沈線、LR?/内面ナデ	-	-	-	後期初期
209	S123埋土上部	深鉢	口縁部	斜突、同心円状沈線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
210	S123埋土	深鉢	胴部	斜突、同心円状沈線、縄文不明/内面ナデ	-	-	-	後期初期
211	S123埋土上部	深鉢	口縁-胴部	LR段、口段多量LR痕(磨付?)/内面ナデ	-	-	-	後期初期
212	S124 (1号)埋土器-Pa1埋土	深鉢	平定形	S字状(段沈線)、LR線/内面ナデ	(205)	85	37.3	大木10b
213	S124-2号中埋土器(Pa1)	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、LR線/内面ナデ	-	-	<158>	大木10b
214	S124-2号中埋土器(Pa2)	深鉢	口縁-底部	J字状文(沈線)、LR線/内面ナデ	(180)	-	<227>	大木10b
215	S124-2号中埋土器(Pa2)外側	深鉢	胴-底部	曲線文(沈線)、ミガキ、LR線/内面ナデ	-	(102)	<21.4>	大木10
216	S124-2号中埋土器(Pa2)内側	深鉢	胴-底部	LR線/内面ナデ	-	(87)	<168>	中期後葉
217	S126埋土、G区第B層上部	口付	口縁部	C字状突起、全体ミガキ/内面ミガキ	8.6	-	<5.2>	後期中葉
218	S126QS埋土	深鉢	口縁部	円形孔、溝線状沈線、LR線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
219	S126埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、波線帯口縁に円形突起、褐色文(沈線)→LR線/内面ナデ	-	-	-	大木8a
220	S127埋土、SK6埋土、G区第1-B層、G区(7号)埋土(T6)	深鉢	口縁-底部	口縁沈線、無文ナデ、沈線、LR線/内面ナデ	(148)	(5.6)	18.2	晩期中葉
221	S127埋土	深鉢	口縁部	LR段+磨付ナデ、LR線	-	-	-	後期初期
222	S128-1号中埋土器(Pa1)	深鉢	胴-底部	LR線/内面ナデ/底部本葉痕	-	106	<308>	中期後葉
223	S128-1号中埋土器(Pa2)	深鉢	胴-底部	LR線/内面ナデ/底部本葉痕	-	125	<325>	中期後葉
224	S128埋土-Pa1埋土、G区第B層	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、溝線状沈線、LR線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
225	S128埋土、G区第B層上部	深鉢	口縁部	単輪縁条体5期L段/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
226	S129(1)	深鉢	胴-底部	L線/内面ナデ/底部本葉痕	-	126	<215>	中期後葉
227	S129(2)	深鉢	胴-底部	LR線/内面ナデ/底部本葉痕	-	(102)	<156>	中期後葉

4 縄文時代の遺物

() 測定値 < > 残存数 単位: cm

No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口径	底径	器高	時期
228	SK30埋土	深鉢	口縁部	沈線、凹状縁/内面ナテ	-	-	-	大木10
229	SN04埋設土器, B区①a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底部	曲線文(隆線、一部隆沈線)、キザミ、L形縦ノ斜/内面ミガキ	-	140	<47.6>	大木10b
230	SN04埋設土器RP2	甕	口縁~胴部	ミガキ、J字文(沈線、一部セリ状突起)+L形縦光焼/内面ミガキ	113	-	<19.3>	大木10b
231	SN04埋設土器RP1-熱焼部	深鉢	胴~底部	0段多糸L形縦/内面ナテ/底部調整痕	-	122	<15.0>	中期後葉
232	SN04埋設土器, B区①a Ⅱ層上部	深鉢	胴~底部	L形縦/内面ナテ	-	110	<28.5>	中期後葉
233	SN04熱焼部	深鉢	口縁部	凹字文(沈線)+凹状縁/内面ナテ	-	-	-	大木10
234	SN04埋設土器	深鉢	胴~底部	単純絡糸体1期X縦ノ斜/内面ナテ	-	129	<23.5>	中期後葉
235	SN06熱焼部, B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~底部	L形縦/内面ナテ	-	82	<8.7>	中期後葉
236	SN06埋設土器	深鉢	口縁~胴部	L形縦/内面ナテ	228	-	<24.5>	中期後葉
237	SN06埋設土器RP2	深鉢	胴部	L形縦/内面ナテ	-	-	<16.3>	中期後葉
238	SN06埋設土器RP1, B区①b Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	L形縦/内面ナテ	(278)	-	<20.0>	中期後葉
239	SN11埋設土器, B区北端遺構群前面	深鉢	口縁~胴部	L形縦/内面ナテ	(194)	-	<17.2>	中期後葉
240	SN13埋設土器, B区②b Ⅱ層下部~Ⅱ層下部	深鉢	胴~底部	弧状・垂下・U字状沈線、L形縦/内面ナテ	-	65	<11.9>	大木8a
241	SN13前室部埋土	深鉢	口縁部	渦巻状突起(横穴開閉)、L形沈線、L形横/内面ナテ	-	-	-	大木7b
242	SN13埋設土器, B区北端遺構群前面	深鉢	胴~底部	曲線文(隆線)、0段多糸L形縦/内面ナテ/底部本巻痕	-	88	<14.9>	大木10
243	SN17熱焼部	深鉢	胴部	L形縦/内面ナテ	-	-	-	中期後葉
244	SN17熱焼部	深鉢	胴部	垂下沈線、地文不明	-	-	-	大木9
245	SK01埋土下部	深鉢	口縁部	波状口縁、曲線文(隆沈線)/内面ナテ	-	-	-	大木10
246	SK01埋土下部	深鉢	口縁部	轉變、沈線、L形縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木10b
247	SK01埋土下部	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、0段多糸L形縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木10b
248	SK11埋土	深鉢	胴部	隆線、沈線、L形横/内面ナテ	-	-	-	大木9
249	SK11埋土	深鉢	胴部	沈線、L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木9
250	SK12埋土	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、L形縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木10
251	SK13埋土	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、L形縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木10
252	SK14埋土	深鉢	胴部	弧状(凹・凸部)、L形+L形結束凹沈線/内面ナテ	-	-	-	大木7b
253	SK14埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、隆線、平行・渦巻・小波状沈線、L形横ノ/内面ナテ	-	-	-	大木7b
254	SK15埋土	高坏	台部	沈線(平行、3条)、底部内面凹文/内面ミガキ	-	-	<9.4>	弥生前期
255	SK17埋土	深鉢	口縁~胴部	J字文(隆線)+ミガキ、L形縦ノ内面ミガキ	(258)	-	<18.6>	大木10b
256	SK17埋土	深鉢	口縁部	J字文(沈線)、L形縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木10b
257	SK17埋土	深鉢	胴部	J字文(沈線)、L形縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木10b
258	SK17埋土	台付鉢<器台	台部	凹形透かし、L形縦、ミガキ/内面ミガキ	-	-	-	中期後葉
259	SK17埋土	深鉢	底部	縦線?/内面ナテ/底部網代痕	-	102	<9.1>	中期後葉
260	SK17埋土	深鉢	底部	L形縦ノ/内面ナテ/底部網代痕?	-	99	<5.4>	中期後葉
261	SK18埋土	深鉢	胴部	沈線、L形縦光焼/内面ナテ	-	-	-	大木9
262	SK18埋土	深鉢	胴~底部	轉變列、隆線、凹字文(沈線)+L形縦、ミガキ/内面ナテ	-	-	-	大木10a
263	SK19埋土	深鉢	口縁部	曲線文(沈線)+L形縦光焼/内面ナテ	-	-	-	大木10b
264	SK19埋土	深鉢	口縁部	C字状文(隆沈線)、凹?/内面ナテ	-	-	-	大木8b
265	SK19埋土	深鉢	胴部	渦巻文系(隆沈線)+凹状縁/内面ナテ	-	-	-	大木8b
266	SK20埋土	深鉢	胴部	曲線文(沈線)+L形縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木10
267	SK21埋土上部	深鉢	口縁部	凹字文系(沈線)+L形縦ノ/内面ミガキ	-	-	-	大木9
268	SK23埋土	深鉢	口縁~胴部	凹字状文(沈線)+単純絡糸体1期X縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木10a
269	SK23埋土	深鉢	胴部	凹字文(沈線)+L形縦ノ/内面ナテ	-	-	-	大木9
270	SK23埋土	深鉢	底部	縄文不明跡/内面ナテ/底部網代痕	-	(98)	<2.3>	中期後葉
271	SK31埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、束状(凹字?文)隆線+L形縦、準減着しい/内面ナテ	-	-	-	大木9a
272	SK32埋土	深鉢	胴部	曲線文(隆線)、L形縦光焼/内面ナテ	-	-	-	大木10
273	SK40埋土上部	鉢	胴~底部	L形縦ノ斜、内外面に赤色顔料付着/内面ナテ	-	1.4	<2.4>	中期
274	SK45埋土	鉢	口縁部	凹形キザミ、平行沈線+轉變列/内面沈線、ナテ	-	-	-	晩期中華
275	SK51埋土	小型深鉢	胴部	沈線、凹字文(隆線-沈線)+L形縦、一部赤色顔料付着/内面ナテ	-	-	-	大木9
276	SK53埋土	深鉢	口縁部	波状口縁、曲線文(沈線)/内面ナテ	-	-	-	大木10

IV 検出された遺構と遺物

() 測定値 < > 残存量 単位: cm

No.	出土地点(修正)	層様	部位	特徴	口径	底径	器高	時期
277	SK22埋土	深鉢	口縁部	液状口縁、口縁突起部(把手状+褐色文(沈澱)+凹形孔、溝状沈澱、曲線文(沈澱)+L&R縦/内面ナデ	-	-	-	後期初期
278	SK22埋土下部～底面	深鉢	口縁部	液状口縁、凹文+刺突、溝状沈澱、L縦/内面ナデ	25.0	-	< 9.7	後期初期
279	SK22埋土	深鉢	口縁～胴部	沈澱+刺突例、幾何学文(沈澱)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	後期初期
280	SK22埋土	深鉢	口縁部	液状口縁、刺突、曲線文(沈澱)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	後期初期
281	SK22埋土	割～底面	隆縁	L&R縦/内面ナデ	-	4.8	< 4.5	後期初期
282	SK22埋土下部～底面	深鉢	胴部	豆粒状(つまみ起こし)/内面ナデ	-	-	-	中期末
283	SK22埋土下部～底面	深鉢	胴部	L&R縦?摩滅著しい/内面ナデ	-	-	< 10.4	中期後葉
284	SK22埋土下部～底面	深鉢	割～底面	隆縁、一部溝状沈澱、L&R縦/内面ナデ/底面網代直	-	16.0	< 22.9	後期初期
285	SK23埋土	深鉢	口縁部	隆縁、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木10b
286	SK66埋土	盆	胴部	褐色文、L&R沈澱/内面ナデ	-	-	-	大木10b
287	SK67埋土	深鉢	口縁部	沈澱、刺突、赤色顔料/内面ナデ	-	-	-	大木10b
288	SK75埋土、P20埋土、SQ99内、G区①1～①層	深鉢	口縁～底面	溝状沈澱(垂下)、L&R縦/内面ナデ	17.5	11.0	17.5	後期初期
289	SK75埋土	深鉢	口縁部	褐色文(隆縁)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木9a
290	SK77埋土～底面	深鉢	口縁～胴部	十字状文(沈澱)、刺突例、L&R縦/内面ナデ	21.5	-	< 17.7	大木10b
291	SK77埋土～底面	深鉢	平底形	華輪縁(本体)型L&R縦/内面ナデ	18.5	7.5	< 21.0	中期後葉
292	SK77埋土～底面	深鉢	口縁～底面	O段多糸L&R縦/内面ナデ	15.6	7.2	< 21.8	中期後葉
293	SK77埋土	深鉢	胴部	L&R縦/内面ナデ	-	-	< 14.4	中期後葉
294	SK80埋土	深鉢	胴部	褐色文(隆縁)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木8b
295	SK82埋土	深鉢	口縁～胴部	ナデ、平行沈澱、"L"字状文(沈澱、ヒレ状突起(刺突))+L&R縦～斜光型/内面ナデ	23.1	-	< 41.9	大木10b
296	SK84埋土	深鉢	口縁～胴部	L縦/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
297	SK88埋土	深鉢	口縁部	沈澱+刺突例、曲線文?(沈澱)/内面ナデ	-	-	-	大木10
298	SK88埋土	深鉢	口縁部	曲線文(沈澱)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木10
299	SK93埋土	深鉢	口縁部	隆縁、L&R縦/内面黄色ナデ	-	-	-	大木10b
300	SK93埋土	深鉢	胴部	褐色?(沈澱)、L&R縦?/内面ナデ	-	-	-	後期初期
301	SK94埋土	深鉢	胴部	隆縁+キザミ、O段多糸L&R縦/内面ナデ	-	-	-	後期初期
302	SK94埋土	深鉢	蓋部	凹状沈澱、赤色顔料塗布	-	-	-	後期前期
303	SK103埋土	深鉢	口縁部	液状口縁、隆縁、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木10b
304	SK105-106-107埋土	深鉢	口縁部	隆縁+刺突状凹文、曲線文(沈澱)+L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木10b
305	SK105-106-107埋土	盆	口縁部	輪状把手、隆縁+刺突例、斜行沈澱/内面ナデ	-	-	-	後期初期
306	SK105-106-107埋土	深鉢	口縁～胴部	曲線文(沈澱、沈澱間ミザキ)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	後期前期
307	SK105-106-107埋土	深鉢	口縁～胴部	L&R縦/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
308	SK115埋土	深鉢	口縁部	液状口縁、平行沈澱/内面ナデ	-	-	-	後期初期
309	SK120埋土	深鉢	口縁～胴部	液状口縁、凹縁無文ナデ、上部のみL&R縦、以下L&R縦/内面ナデ	20.6	-	< 22.7	後期
310	G区②B層下部(SQ99内)	深鉢	口縁部	液状口縁、溝状沈澱/内面ナデ	-	-	-	後期初期
311	SQ99内	深鉢	口縁部	刺突例、指面凹、沈澱/内面ナデ	-	-	-	大木10
312	SQ99内、G区①1～①層	深鉢	割～底面	L&R縦/内面ナデ/底面網代直	-	9.2	< 11.2	中期後葉
313	SQ99内	注口	口縁部	キザミ、沈澱、華威/内面ナデ	-	-	-	後期前期
314	S801	深鉢	底部	凹行や凸格内凹、L&R縦/内面ナデ	24.3	12.1	63.0	中期後葉
315	S802	深鉢	割～底面	L&R縦/内面ナデ	-	10.4	< 24.4	中期後葉
316	S803	深鉢	胴部	L&R縦/内面ミザキ縦	-	-	-	中期後葉
317	P2埋土、A区①1～①層	深鉢	口縁部	凹文、溝状沈澱沈澱、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	後期初期
318	P41埋土	深鉢	口縁部	液状口縁(C字状隆縁)、L&R縦/内面C字状隆縁	-	-	-	大木8a
319	P41埋土	深鉢	口縁部	隆縁、液状沈澱、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木7b
320	P44埋土	深鉢	口縁部	褐色文?(隆縁)、L&R縦/内面ミザキ	-	-	-	大木8b
321	P44埋土	深鉢	口縁部	隆縁、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木8b
322	P46埋土	深鉢	口縁部	輪状把手/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
323	P46埋土	深鉢	胴部	凹字文?(沈澱)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木9
324	P46埋土	深鉢	胴部	縦状文(沈澱)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木8b
325	P46埋土	深鉢	蓋部	転行垂下沈澱、ボタン状突起/内面ナデ	-	-	-	大木7b
326	P50埋土	深鉢	胴部	曲線文(沈澱)、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木10
327	P58埋土	深鉢	胴部	隆縁、L&R縦/内面ナデ	-	-	-	大木8b

4 縄文時代の遺物

() 測定値 < > 残存数 単位: cm

No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口径	底径	器高	時期
328	P78埋上	深鉢	胴部	隆沈線、R.L.縦/内面ナテ	-	-	-	大木8b
329	P83-85埋上	深鉢	胴部	凹字文(沈線)+L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	大木9
330	P118埋上	深鉢	口縁部	波状口縁(溝文)/内面ナテ	-	-	-	大木8b
331	P120埋上	深鉢	口縁部	波状口縁? (溝文)/内面ナテ	-	-	-	大木8b
332	P122埋上	深鉢	胴部	溝文(隆線)/内面ナテ	-	-	-	大木9a
333	P133埋上	深鉢	胴部	曲線文(沈線)、R.L.縦/内面ナテ	-	-	-	大木10
334	P135埋上	深鉢	口縁部	沈線、L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	中期後葉
335	906埋上、B区②bⅡ層	深鉢	口縁~底部	波状口縁(変形1)、L.R.直直線、R.L.縦/内面ナテ	12.4	6.8	16.8	大木7b
337	906埋上	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(C字突起)、沈線+刺突列(キザミ状)、波状沈線、溝文+垂下波状沈線、R.L.縦/内面ナテ	-	-	-	大木7b
337	906埋上、B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁(台形突起)、L.R.直直(口縁同形状、異状など)、R.L.縦/内面ミザキ	-	-	-	大木7b
338	P231埋上、貝類10Q2下層	深鉢	口縁~胴部	口縁ミザキ、単純結合体1類L.R.縦/内面ナテ	(24.5)	-	<34.6>	中期後葉
339	P287埋上	深鉢	口縁部	波状口縁、ミザキ、隆線+刺突列/内面ミザキ	-	-	-	大木7b
340	P293埋上	深鉢	口縁部	口唇部面ナテミ、単純結合体1類及針-縦/内面ナテ	-	-	-	中期後葉
341	A区②Ⅱ層下部+上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(C字状突起、小突起)、V・X・Y字状隆線、L.R.縦/内面ナテ	(28.6)	-	<17.6>	大木8a
342	A区②Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁、L.R.直(平行-弧状)/内面ナテ	-	-	-	大木7b
343	A区②Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、J字文(隆沈線)、L.R.直直線/内面ナテ	-	-	-	大木10a
344	A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(大突起-小突起=1:1)、U-凹字状文(沈線)+L.R.直直線、波状文(沈線)、L.R.縦/内面ナテ	(16.5)	-	<15.6>	大木10a
345	A区②Ⅱ層下部、B区②bⅡ層下部	台付鉢	台部	キザミ、沈線、透かし	-	(6.0)	<2.9>	大淵BC
346	A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁(三角突起)、L.R.直直線(キザミ状)、波状文(沈線、一部隆沈線)、R.L.縦/内面ナテ	-	-	-	大木7b
347	A区②Ⅱ層上部	浅鉢	口縁部	文字状突起部+刺突、溝文文(沈線)、L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	大木7b
348	A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	L.R.直直(指状)+R.L.縦/内面ナテ	-	-	-	大木7b
349	A区②Ⅱ層上部、A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底部	波状口縁、波状文(一部隆沈線)、凹字文(沈線)+L.R.縦/内面ナテ	(9.8)	5.9	14.4	大木9b
350	A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底部	凹文(隆線)、指付(凹字文(沈線)+L.R.縦/内面ナテ	12.1	-	<13.1>	大木9b
351	A区②Ⅱ層中部	鉢	平定形	波状口縁、凹字文(沈線)+L.R.縦/内面ナテ	(7.0)	4.0	7.7	大木9b
352	A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、指付文(隆線)、凹字文(沈線)+L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b
353	A区②Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	溝文(隆沈線)、R.L.斜/内面ミザキ	-	-	-	大木9a
354	A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	アルファベット文? (沈線)+R.L.直直線/内面ナテ	-	-	-	大木10a
355	A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波源状文(沈線)、L.R.直~横光線/内面ナテ	-	-	-	大木10a
356	A区②Ⅱ層上部	深鉢	口縁~底部	R.L.縦/内面ナテ	(9.8)	5.0	10.7	中期後葉
357	A区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	刺突、隆線(凹文-斜行)、沈線(前状)、R.L.縦?/内面ミザキ	-	-	-	大木7b
358	B区①Ⅱ層下部、C区1-Ⅱ層	深鉢	口縁部	0段多糸L.R.直~L.R.直直(平行-弧状)、0段多糸L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	大木7a
359	B区①Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	弧状-溝文(沈線)、隆線+キザミ、R.L.直直線/内面ナテ	-	-	-	大木7a
360	B区①Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	口唇部状隆線、L.R.直(キザミ状)、弧状沈線+垂下純行沈線、L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	大木7b
361	B区①Ⅰ-Ⅱ層、B区②aⅡ層下部、B区②bⅡ層上部	深鉢	口縁~胴部	波状文(隆沈線)、L.R.縦/内面ナテ	(12.4)	-	<8.7>	大木8a
362	B区①Ⅰ-Ⅱ層	深鉢	口縁~胴部	隆線+刺突列、単純結合体1類L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	大木10b
363	B区①Ⅱ層上部	深鉢	胴部	R.L.横下+沈線/内面ナテ	-	-	-	後期Ⅱ
364	B区②aⅡ層、B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(C字状突起部付)、横指凹区面(隆沈線)、L.R.縦/内面ナテ	13.5	-	<12.1>	大木8a
365	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁~胴部	沈線(低状-水平)+L.R.横、隆沈線+キザミ(縄文直前)、L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	大木8a
366	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁、文字状文(隆線)、横指凹区面(隆沈線)、L.R.縦/内面ナテ	-	-	-	大木7b
367	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁部	キザミ状刺突、溝文(隆線)/内面ミザキ	-	-	-	大木7b
368	B区②aⅡ層中部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、アルファベット文(隆沈線)+R.L.斜/内面ナテ	-	-	-	大木10a
369	B区②aⅡ層上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(輪状突起、内凹孔)、沈線、L.R.直/内面ナテ	-	-	-	大木10b
370	B区②bⅡ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁、隆線+凹文+刺突列、透線状沈線、L.R.直/内面ナテ	-	-	-	後期前葉

IV 検出された遺構と遺物

() 測定値 < > 残存量 単位: cm

No.	出土地点(修正)	層位	部位	特徴	口径	底径	器高	時期
371	B区②bⅡ層上部	深鉢	口縁部	口縁斜突出、曲線文(沈線+刺突列)+L形線/内面十字	-	-	-	後期中葉
372	B区②aⅡ層下部-中部, B区②bⅡ層上部	浅口	胴-底部	平行沈線、入眼文、何点状沈線/内面十字	-	-	< 8.9 >	大木8c
373	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁部	渦巻文+弧状隆線、L形線/内面十字	-	-	-	大木8a
374	B区②cⅡ層下部	深鉢	口縁部	X字状突起隆線+L形文、沈線(C字+刺突列+弧状)/内面十字	-	-	-	大木8a
375	B区②aⅡ層下部, F区②Ⅱ層下部-上部, F区②Ⅲ層上部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁(4単位)、渦巻文(沈線)、L形線光輝、L字キ/内面L字キ	30.3	-	< 20.7 >	大木10a
376	B区②Ⅱ層中部, B区②Ⅲ層Ⅰ-Ⅱ層	台付鉢	台部	平行沈線+L形線/内面十字	-	8.0	< 6.3 >	中期後葉
377	B区②aⅡ層中部	深鉢	口縁部	口縁突起(雉)+隆線+十字文、沈線、L形線/内面十字	-	-	-	大木10b
378	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁、貫通孔(横背面は貫通、正面は溝状セリ)、沈線、L形線/内面十字	-	-	-	後期初葉
379	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁-底部	縦状・八字文(沈線)+L形線/内面十字	(15.0)	(8.0)	< 15.7 >	大木9b
380	B区②aⅡ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁、横指印+渦巻文(隆沈線)、L形線/内面十字	-	-	-	大木7b
381	B区①-②Ⅰ-Ⅱ層	深鉢	口縁-胴部	十字状文(沈線)、L形線/内面十字	(27.0)	-	< 22.3 >	大木10b
382	B区②aⅡ層中部	深鉢	口縁-胴部	曲線文(隆沈線)、L形線/内面十字	-	-	-	大木10a
383	B区②aⅡ層中部	深鉢	口縁部	波状口縁、曲線文(隆線)、L形線/内面十字	-	-	-	大木10a
384	B区②aⅡ層中部-上部	盆	口縁部	横状把手+隆線、L形光輝/内面十字	-	-	-	大木10b
385	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁(口縁突起)、曲線文(沈線)、L形線光輝/内面十字	-	-	< 8.7 >	大木10b
386	B区②aⅡ層中部	深鉢	口縁部	刺突、沈線、L形線/内面十字	-	-	-	大木10b
387	B区②bⅡ層下部	鉢	口縁-底部	上下波状キ、L形線/内面L字キ/底部刺突?痕	(18.0)	8.8	< 7.3 >	中期後葉
388	B区②aⅡ層中部	浅口	口縁部	刺突列、隆線、L形線/内面十字	-	-	-	大木10a
389	B区①-②Ⅰ-Ⅱ層	深鉢	胴部	連続状隆線、沈線、L形線/内面十字	-	-	-	後期初葉
390	B区②bⅡ層中部	深鉢	口縁部	波状口縁、横状突起、凹形孔、沈線、O段多条L形光輝/内面十字	-	-	-	後期初葉
391	B区②aⅡ層上部	深鉢	口縁部	刺突列(水平+弧状)、沈線?任意?/内面十字	-	-	-	後期中葉
392	B区②Ⅱ層下部, F区②Ⅲ層	深鉢	口縁-胴部	渦巻状指印+八字文(沈線)+L形線/内面十字	(27.1)	-	< 22.8 >	大木9b
393	B区②aⅡ層中部-上部, B区②aⅡ層中部, B区②a②Ⅱ層	深鉢	口縁-胴部	指印+八字文(沈線)+L形線/内面十字	(29.0)	-	< 25.8 >	大木9b
394	B区②bⅡ層下部-中部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁(4単位)、指印+八字文(沈線)+L形線/内面十字、一部L字キ	(16.0)	-	< 16.1 >	大木9b
395	B区②aⅡ層下部	深鉢	口縁-胴部	指印+八字文(沈線)+L形線/内面十字	(24.1)	-	< 24.2 >	大木9b
396	B区②aⅡ層中部	深鉢	口縁-胴部	指印+八字文(沈線)+L形線/内面十字	(26.6)	-	< 27.6 >	大木9b
397	B区②aⅡ層下部, F区②Ⅱ層下部-上部	深鉢	半光形	八字文(沈線)+L形線+L形光輝、横状指印/内面上部L字キ、十字	(18.2)	(7.2)	25.7	大木9b
398	B区②Ⅱ層	深鉢	口縁-胴部	平行沈線、縦状・八字文(沈線)+L形線/内面十字	-	-	-	大木9b
399	B区②aⅡ層下部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、縦状文(沈線)、八字文(沈線)+L形線/内面十字、一部L字キ	-	-	-	大木9a
400	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁-胴部	互鎖渦巻文(沈線)、指印文(沈線)+L形線/内面十字、一部L字キ	(26.0)	-	< 13.7 >	大木9a
401	B区②aⅡ層下部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、波頭部に横状文(隆線)、指印+八字文(沈線)+L形線/内面十字	(19.8)	-	< 14.9 >	大木9a
402	B区②bⅡ層下部-中部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、波頭部に渦巻文(隆線)+指印文(沈線)+刺突、縦状文(隆線)、八字文(沈線)+L形線/内面十字	(22.0)	-	< 15.3 >	大木9a
403	B区②bⅡ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁、波頭部に渦巻文(隆沈線)、刺突、L形線/内面上部キ	-	-	-	大木9a
404	B区②aⅡ層下部, B区②aⅡ層中部-上部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、刺突列、曲線文(沈線)、L形多方向光輝/内面上部キ、上部L字キ	(27.9)	-	< 25.4 >	大木10a
405	B区②aⅡ層下部, B区①-②Ⅰ-Ⅱ層, F区②Ⅲ層上部, F区②Ⅲ層下部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁(4単位)、凹文、S字状文(沈線)、L形線+斜突起/内面十字	(17.1)	-	< 15.6 >	大木10a
406	B区②aⅡ層下部	深鉢	口縁-胴部	L形線/内面十字	29.1	-	< 31.6 >	中期後葉
407	B区②aⅡ層下部, B区②Ⅰ-Ⅱ層中部	小型深鉢	口縁-胴部	L形線/内面十字	(10.4)	-	< 10.1 >	中期後葉
408	B区②aⅡ層下部, B区①-②Ⅰ-Ⅱ層, F区②Ⅲ層下部	深鉢	口縁-胴部	O段多条L形線/内面十字	(29.9)	-	< 31.1 >	中期後葉
409	B区②aⅡ層下部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、縦状・指印+八字文(隆沈線)+L形線/内面十字、上部L字キ	(29.7)	-	< 36.8 >	大木9a
410	B区②aⅡ層下部-中部	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、波頭部に渦巻文、渦巻文(隆沈線)、L形線/内面十字	-	-	-	大木9a
411	B区②aⅡ層下部-上部, B区①-②Ⅰ-Ⅱ層	深鉢	口縁-胴部	波状口縁、波頭部に渦巻文(隆線)、指印文(沈線)+刺突、縦状・八字文(沈線)+L形線/内面十字	(26.3)	-	< 30.2 >	大木9a

4 縄文時代の遺物

() 測定値 < > 残存数 単位: cm

No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口径	底径	器高	時期
412	B区⑤a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~底部	液状口縁(2単位)、裏伏+凸文(隆状溝)+乳点縦/内面ナテ	133	(7.4)	15.3	大木9a
413	B区⑤a Ⅱ層下部~中部	鉢	口縁~胴部	液状口縁、0段多条L形縦+凸字文(沈縦)/内面ナテ	(11.2)	-	< 9.8>	大木9b
414	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底部	口縁沈線、楕円+凸字文(沈縦)+0段多条L形縦/内面ナテ	(11.2)	5.1	11.8	大木9b
415	B区⑤a Ⅱ層中部, B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	液状口縁、楕円+凸字文(沈縦、一部隆沈線)+刺突+L形縦/内面ナテ	(30.3)	-	< 27.3>	大木9b
416	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤Ⅱ層上部	深鉢	口縁~底部	液状口縁、楕円文(沈縦)+刺突、凸字文(沈縦)+L形縦/内面ナテ	(21.6)	-	< 16.3>	大木9b
417	B区⑤a ①1~Ⅱ層	深鉢	口縁部	横格口縁線)+L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木10
418	B区⑤a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	液状口縁、波頭部に溝巻文(隆状溝)、乳点縦/内面ナテ	-	-	-	大木9a
419	B区⑤a Ⅱ層上部, B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	溝巻文(沈縦、4単位)+L形縦光輝、区画外一部ミザキ/内面ミザキ、一部ミザキ	19.2	-	< 15.5>	大木10a
420	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	裏伏文(隆状溝)-横状文(沈縦)+乳点縦光輝/内面ナテ	-	-	-	大木9b
421	B区⑤a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	凹文+Y字状文(隆状溝)、乳点縦/内面ナテ	(26.2)	-	< 27.1>	大木9a
422	B区⑤a Ⅱ層上部, B区⑤a ①1~Ⅱ層	深鉢	口縁~胴部	液状口縁、S字状文(沈縦)、L形縦/内面一部ミザキ	(27.2)	-	< 21.8>	大木10b
423	B区⑤a Ⅱ層上部	深鉢	口縁~底部	曲線文(沈縦)、乳点縦光輝/内面ナテ	-	-	-	大木10a
424	B区⑤b Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	液状口縁、S字状文(隆状溝)+L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木10a
425	B区⑤a ①1~Ⅱ層	深鉢	口縁部	折返し口縁、低気隙線+ミザキ、沈線区画、L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木10b
426	B区⑤b Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	液状口縁、横状突起陪付+格子状隆線、円形孔、刺突、曲線文(隆状溝)/内面ナテ	-	-	-	大木10b
427	B区⑤a Ⅱ層上部, B区⑤a ①1~Ⅱ層	深鉢	口縁部	液状口縁、波頭部に凹ミザキ、刺突列(垂下+平行)、沈線、L形/内面ナテ	-	-	-	大木10b
428	B区⑤a ①1~Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁隆線、円形孔、刺突、隆線+ミザキ	-	-	-	大木7a
429	B区⑤a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~底部	L形縦/内面ナテ	(18.0)	7.8	36.1	中野後墓
430	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	液状口縁(溝巻状横状突起)、L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木8a
431	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	液状口縁、波頭部に溝巻文+円形孔、溝巻文(隆状溝)、乳点縦/内面ナテ	-	-	-	大木8b
432	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	裏伏+楕円+凸字文(沈縦)+L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木9a
433	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底部	液状口縁、円+楕円+凸字文(沈縦)+L形縦/内面ナテ	(17.4)	(7.2)	< 18.0>	大木9b
434	B区⑤a Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	液状口縁、波頭部から溝巻文(隆状溝)、溝巻楕円文(沈縦)+乳点縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b
435	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	溝巻文(隆線、隆沈線)+刺突、凸字文(沈縦)+乳点縦/内面ミザキ	-	-	-	大木9a
436	B区⑤a Ⅱ層下部~中部, B区⑤Ⅱ層中部~上部	深鉢	口縁~底部	楕円+凸字文(沈縦)+乳点縦/内面ナテ	(25.8)	9.9	47.1	大木9b
437	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	液状口縁、楕円文(沈縦)+刺突+乳点縦/内面ナテ	-	-	-	大木9a
438	B区⑤b Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	液状口縁(液状部は欠損)、溝巻文(隆状溝)、楕円+凸字文(沈縦)+乳点縦/内面ナテ	(14.0)	-	< 7.4>	大木9a
439	B区⑤a Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	口縁ナテ、円+楕円文(隆沈線+沈縦)+L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b
440	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	裏伏楕円+凸字文(沈縦)+乳点縦/内面ナテ	21.5	-	< 35.5>	大木9b
441	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤Ⅱ層上部, 貝塚D5c (B区⑤b Ⅱ層下部)	深鉢	口縁~胴部	凸字文(隆線、沈線)+乳点縦/内面ナテ	26.6	-	< 38.5>	大木9b
442	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	液状口縁、裏伏文(沈縦)、凸字文(沈縦)+乳点縦/内面ナテ	(21.6)	-	< 21.0>	大木9b
443	B区⑤a Ⅱ層中部~上部	深鉢	口縁~胴部	楕円+凸字文(沈縦)+L形縦/内面ナテ、貫通孔あり	-	-	-	大木9b
444	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	横状文(沈縦)+乳点縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b
445	B区⑤a Ⅱ層下部	二ツチュウ瓶	口縁~底部	無文/内面ナテ	8.9	4.8	4.8	中野
446	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	凸字文(ヒレ状隆線)、楕円+凸字文(沈縦)+乳点縦	(32.6)	-	< 36.8>	大木9b
447	B区⑤b Ⅱ層下部~中部	深鉢	口縁~胴部	液状口縁、波頭部円形孔、刺突、J字状文(沈縦、一部隆線)、乳点縦/内面ナテ	(17.0)	-	< 27.5>	大木10b
448	B区⑤a Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	液状口縁、円形孔、溝巻文(隆線)+刺突/内面溝巻文、ナテ	-	-	-	大木10b
449	B区⑤a Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	J字状文(隆線)+刺突、L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木10b
450	B区⑤a Ⅱ層上部, B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	格子状沈線、乳点縦/内面ナテ	-	-	-	後野前墓
451	B区⑤b Ⅱ層下部~中部	深鉢	口縁~胴部	楕円+凸字文(沈縦)+L形縦/内面ナテ	-	-	-	大木9b
452	B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	隆線、J字状文(沈縦)+刺突、乳点縦/内面ナテ	(25.6)	-	< 35.9>	大木9b

IV 検出された遺構と遺物

() 測定値 < > 残存量単位: cm

No.	出土施設(棟名)	遺構	部位	特徴	口縁	底径	器高	時期
433	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤b Ⅱ層下部-中部	深鉢	口縁~胴部	素灰文(沈線, 褐色部ないものもあり), 横引文(沈線)+刺突, 凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(30.3)	-	<33.3>	大89b
434	B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(3単位), 横引文(沈線), 凸字文(沈線)+L形線/内面十字ナギ, 調整痕あり	(12.3)	-	<8.9>	大89b
435	B区⑤b Ⅱ層中部	小型深鉢	口縁~底面	凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(10.8)	(5.1)	<10.4>	大89b
436	B区⑤a Ⅱ層下部	小型深鉢	底形	横引文(沈線)+刺突, 横内凸字文(沈線)+L形線/内面十字	7.1	4.6	11.0	大89b
437	B区⑤a Ⅱ層中部, B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底面	波状口縁(3単位), 横内凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(15.4)	(9.1)	20.0	大89b
438	B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁, 素灰文(沈線), 凸字文(沈線)+L形線/内面黒色ナギキ	-	-	-	大89b
439	B区⑤a Ⅱ層下部, F区⑤Ⅱ層, F区⑤Ⅲ層下部	深鉢	口縁~胴部	素灰凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(15.4)	-	<11.2>	大89b
440	B区⑤a Ⅱ層下部, F区⑤Ⅱ層下部-上部	深鉢	口縁~底面	凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(28.0)	-	<32.7>	大89b
441	B区⑤a Ⅱ層中部	深鉢	胴部	曲線文(沈線), L形多方向沈線/内面十字	-	-	-	大89a
442	B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁, S字状文(沈線), L形線光焼/内面十字	-	-	-	大89a
443	B区⑤b Ⅱ層下部	底	口縁~胴部	口縁無文字ナギ, 調整痕手, 刺突, 曲線文(沈線)+L形線+斜光焼/内面十字	-	-	-	大89b
444	B区⑤a Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁, 波頭部に円形孔, 曲線文(沈線), 一部波沈線ナギ, L形線/内面十字	-	-	-	大89b
445	B区⑤a Ⅱ層下部-中部	深鉢	口縁~底面	L形線/内面十字, 一部ナギキ	(30.2)	-	<27.8>	中期後半
446	B区⑤a Ⅱ層上部, B区⑤a Ⅰ~Ⅱ層	深鉢	口縁部	同心円-弧状-斜行(沈線)/内面十字	-	-	-	前期前半
447	B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁, 斜行沈線, 斜行渦巻文(沈線), L形線/内面十字	-	-	-	大89b
448	B区⑤b Ⅱ層上部	深鉢	胴部	隆線+L形線, 刺突/内面十字	-	-	-	円筒上層b
449	B区⑤b Ⅱ層上部	深鉢	胴部	隆線+0段多条L形線, 0段多条L形線/内面十字	-	-	-	円筒上層b
450	B区⑤a Ⅱ層下部	小型深鉢	口縁~胴部	波状口縁, 横引文(凸字文(隆沈線)+波状斜線)/内面十字, 一部ナギキ	(16.2)	-	<14.7>	大89a
451	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁, 波頭部凸字文(隆沈線)+波状斜線/内面十字(隆沈線)+L形線一部L形線/内面十字	(25.4)	-	<22.0>	大89a
452	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁, 褐色文(隆沈線), L形線/内面十字ナギ	-	-	-	大89a
453	B区⑤a Ⅱ層下部-中部	深鉢	口縁~胴部	素灰-横内凸字文(隆沈線)+L形線/内面十字	-	-	-	大89a
454	B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁, 波頭部に素灰文(隆沈線), 凸字文(沈線)+0段多条L形線/内面十字	-	-	-	大89a
455	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁, 波頭部に円形孔, 素灰+渦巻文(隆沈線), L形線/内面十字ナギ	-	-	-	大89a
456	B区⑤a Ⅱ層中部	ニニテアヲ鉢	口縁~底面	凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(6.5)	2.8	<5.8>	大89b
457	B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(34.5)	-	<36.4>	大89b
458	B区⑤b Ⅱ層下部, 貝層04c (B区⑤b Ⅱ層下部)	深鉢	口縁~胴部	横内凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(25.6)	-	<14.8>	大89b
459	B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	波状口縁, 横内凸字文(沈線)+L形線/内面十字	-	-	-	大89b
460	B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	C字状文(沈線)+L形線光焼/内面十字, 一部ナギキ	17.4	8.2	17.1	大89b
461	B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	凸字文(沈線)+L形線/内面十字	-	-	-	大89b
462	B区⑤b Ⅱ層下部-中部	深鉢	口縁~胴部	素灰凸字文(沈線)+L形線, 区画外ナギキ/内面十字ナギ	(19.0)	-	<18.8>	大89b
463	B区⑤a Ⅱ層下部, B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁, 凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(22.8)	-	<19.1>	大89b
464	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	横引文(沈線)+L形線, 素灰文(沈線), 横内凸字文(沈線)+L形線/内面十字	-	-	-	大89b
465	B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	曲線文(沈線), 刺突/内面十字	-	-	-	大89b
466	B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	S字状文(沈線), 0段多条L形斜光焼/内面十字	(27.8)	-	<26.6>	大89a
467	B区⑤b Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁, 曲線文(沈線), L形線+斜光焼/内面十字	-	-	-	大89a
468	B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	波状口縁, 波頭部にC字状突起付+貝湾孔, 曲線文(沈線), L形線/内面十字	-	-	-	大89b
469	B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	波状口縁, 褐色文(沈線)+L形線光焼/内面十字	-	-	-	大89b
470	B区⑤a Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	平行-波状入組沈線, L形線/内面十字	-	-	-	後期初盤
471	B区⑤a Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	平行沈線+刺突, S字状文(沈線), L形線+斜光焼/内面十字	-	-	-	後期中盤
472	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	横内凸字文(沈線)+L形線/内面十字	(28.4)	-	<21.4>	大89b
473	B区⑤b Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(3単位), 横内凸字文(沈線)+0段多条L形線/内面十字, 上部ナギキ	17.0	-	<16.2>	大89b
474	B区⑤a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	凸字文(沈線)+L形線/内面十字	19.6	-	<15.2>	大89b
475	B区⑤b Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	凸字文(沈線)+L形線/内面十字	16.8	-	<17.3>	大89b

4 縄文時代の遺物

() 測定値 < > 残存値 単位: cm

No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口縁	底径	器高	時期
496	B区①a Ⅱ層中部	鉢	口縁~胴部	波状口縁、無文/内面ナシ	-	-	-	中期後葉
497	B区①a Ⅱ層下部, B区①a Ⅱ層下部~中部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、凸文(波線)+L.R.波線、区縁外ミガキ/内面ナシ	(160)	-	<153>	大85b
498	B区①a Ⅱ層上部	皿	口縁~胴部	波状縁+横状把手、凸字ノ文(波線)+L.R.波線+横/内面ナシ	(50)	-	<73>	大85a
499	B区①a Ⅱ層下部	深鉢	胴~底部	曲線文(波線)、L.R.波線、横文全体ナシ/内面ナシ	-	4.5	<75>	大850a
500	B区①a Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	アルファベット文(波線)、L.R.波線/内面ナシ	-	-	-	大8510a
501	B区①a Ⅱ層上部	深鉢	胴部	L.R.波線+波線/内面ナシ	-	-	-	大84
502	B区①a Ⅱ層中部	小型深鉢	口縁~胴部	横凸ノ凸文(波線)+L.R.波線/内面ナシ	-	-	-	大85b
503	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	逆C字状(波線)+L.R.波線/内面ナシ、一部ミガキ	-	-	-	大85b
504	B区①a Ⅱ層中部~上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、横状文(波線)、凸字文(波線)+L.R.波線/内面ナシ	(194)	-	<192>	大85b
505	B区①a Ⅱ層下部	台付鉢	底~台部	底面ミガキ、円形通かし、横凸ノ凸文(波線)+L.R.波線	-	(134)	<69>	大85b
506	B区①a Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁、波線部から連絡大横文(波線)、L.R.波線/内面ナシ	-	-	-	大85a
507	B区①a Ⅱ層上部, B区①a-①1~Ⅱ層	深鉢	口縁~胴部	L.R.波線/内面ナシ	194	-	<176>	中期後葉
508	B区①a Ⅱ層下部	深鉢	平突形	波状口縁(4単位)、L.R.波線/内面ナシ	140	7.6	152	中期後葉
509	B区①a Ⅱ層下部~胴部	ミニチュア鉢	突形	無文、わずかに上部コナナシ下部タナナシ調整痕	24	1.5	28	中期
510	B区①a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	凸文(波線)、横凸ノ凸文(波線)+L.R.波線/内面ナシ	300	-	<229>	大85b
511	B区①a Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	平凸波線、横文(波線)、L.R.波線/内面ナシ、横状縁	-	-	-	大85b
512	B区①a Ⅱ層下部	台付鉢or器台	台部	円形通かし、L.R.波線/内面ナシ	-	-	-	中期後葉
513	B区①a Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、波線部に横文(波線)+横凸ノ凸文(波線)、L.R.波線/内面ミガキ、一部ナシ	-	-	-	大85a
514	B区①a Ⅱ層中部	鉢	口縁~胴部	縦筋/内面ナシ	(117)	6.0	114	中期後葉
515	B区①a Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁、波線部に横文(貼付)、内凸形(波線)+斜突/内面ナシ	-	-	-	大85a
516	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	Hノ凸文(波線)、L.R.波線/内面ナシ	-	-	-	大85b
517	B区①a Ⅱ層上部, B区①a Ⅱ層上部	深鉢	口縁~底部	波状口縁、S字状(波線)、L.R.波線/内面ナシ	(247)	(74)	237	大8510a
518	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	0段多刺波線/内面ナシ	(240)	-	<271>	中期後葉
519	B区①a Ⅱ層上部	深鉢	胴部	くの字状波線、L.R.波線+横文/内面ナシ	-	-	-	後期前葉
520	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、平凸波線+斜突形、円形ノ凸字(波線、一部除波線状)+L.R.波線/内面ナシ	(192)	-	<132>	大85a
521	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	曲線文(波線)、L.R.波線/内面ナシ	-	-	-	大8510a
522	B区①a Ⅱ層中部~上部	深鉢	口縁~胴部	曲線文(波線)、L.R.多方向波線、ミガキ/内面ナシ	-	-	-	大8510a
523	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁上部ミガキ、L.R.波線+波線文/内面ナシ	-	-	-	-	中期後葉
524	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁~胴部	L.R.波線+L.R.波線/内面ナシ	(302)	-	<289>	中期後葉
525	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	口縁部	波状口縁、口縁上部ナシ+波線、曲線文(波線)、L.R.波線+横文/内面ナシ	-	-	-	大8510a
526	B区①a Ⅱ層中部	深鉢	胴部	曲線文(波線)、L.R.波線+横文/内面ナシ	-	-	-	大8510a
527	B区①a Ⅱ層中部	台付鉢	台部	無文	-	6.2	<19>	中期
528	B区①a Ⅱ層	鉢	ほぼ突形	L.R.多方向、縦筋2本あり/内面ナシ	112	4.3	70	中期後葉
529	B区①a Ⅱ層上部	台付鉢or器台	台部	方形通かし、L.R.波線+斜/内面ナシ	-	-	-	中期後葉
530	B区①a Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	三角形ノ凸文(波線)+L.R.波線、横状文(波線)/内面ナシ	-	-	-	大85a
531	B区①a Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁、波線部横状突起+横面に横文文、円形孔、単純輪帯体1型波線/内面ナシ	-	-	-	後期前葉
532	B区①a Ⅱ層上部	ミニチュア鉢	口縁~胴部	単純輪帯体1型波線、貫通孔2箇所/内面ナシ	-	-	-	中期
533	C区①Ⅱ層	深鉢	口縁部	波状口縁、L.R.波線+縦筋+波状波線+交互斜突/内面ナシ	-	-	-	大857b
534	C区①Ⅱ層	深鉢	口縁部	波状口縁、L.R.波線(一部の凸縁存)→波線+キザミ/内面ナシ	-	-	-	大857b
535	C区①Ⅱ層下部, C区①Ⅲ層	深鉢	口縁~胴部	文字状突起、横文+三角形状文(波線、一部除波線)、L.R.波線/内面ナシ	-	-	-	大85a
536	C区①Ⅲ層, C区①Ⅳ層	深鉢	平突形	文字状突起(横縁部、4単位)+L.R.波線、横状文(波線)付(4単位)、L.R.波線(凸字ノ状)、波状+三角形状波線+L.R.波線、L.R.波線+L.R.波線文/内面ナシ	265	130	370	大85a
537	C区①Ⅳ層	深鉢	口縁~胴部	横状突起(付)4単位+凸字状(波線)+L.R.波線(キザミ状)短柱、L.R.波線+L.R.波線文/内面ナシ	(232)	-	<287>	大857b
538	C区①Ⅳ層	深鉢	口縁部	L.R.波線(キザミ状)、横凸ノ凸文(波線)、L.R.波線/内面ナシ	-	-	-	大857b

IV 検出された遺構と遺物

() 測定値 < > 残存積単位: cm

No.	出土地点(修正)	層様	部位	特徴	口縁	底径	器高	時期
530	C区②B層, C区③B層	深鉢	口縁~胴部	流状口縁, 口縁+ギザミ, フック上流状縁, 縦状流状縁, 蛇行垂下流状, 垂下隆縁+前縁圧痕(ギザミ状), L&R線/内面ナゲ	28(1)	-	<28>	大木8a
540	C区②B層	浅鉢	口縁~胴部	口縁上ギザミ状, 凹文+X字状突起+横溝付内面+L&R圧痕+L&R線, 平行+V字状流縁, L&R線/内面ナゲ	56(8)	-	<14.8>	大木7b
541	C区③B層下部, C区③B層	深鉢	口縁~胴部	斜行流状(ギザミ状), 縦溝状+垂下フック状流縁, O段多条L&R線→L線縁文/内面ナゲ	11(2)	-	<21.2>	大木7b
542	C区③B層	深鉢	口縁~胴部	流状口縁, X字状突起(横溝縁)+L&R圧痕, 流状+平行流縁+L&R線, L&R線+垂下蛇行流縁/内面ナゲ	34(0)	-	<30.2>	大木7b
543	C区③B層上部	深鉢	口縁部	流状口縁, 流面内外面にC字状隆縁付付, 縦状把手, 流状隆縁, L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木8a
544	C区1~II層	深鉢	口縁~胴部	C字状突起付付, 流色-流状隆縁+L&R線, 蛇行垂下隆縁+L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木8a
545	C区1~II層	深鉢	口縁部	流状口縁, C字状突起付付, S字状隆縁, 横溝+刺突, キギザミ, 流状+流色状隆縁, L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木8a
546	C区1~II層	深鉢	口縁部	突起付付, 刺突利+L&R圧痕+隆縁, L&R線/内面ミガキ, 縦状把手	-	-	-	大木7b
547	D区①~②I~II層	深鉢	口縁部	流縁(凹文+斜行), L&R結節縁, L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木7b
548	E区①②I~II層	深鉢	口縁部	流縁+刺突, 流色状流縁/内面ミガキ	-	-	-	大木7a
549	E区①②I~II層	深鉢	口縁部	流状口縁, 隆縁+L&R圧痕+流縁, L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木7b
550	E区③B層上部	深鉢	口縁~底部	L&R線/内面ナゲ	14(4)	(7.6)	16.9	中期後半
551	E区③B層上部	深鉢	口縁~底部	L&R線/内面ナゲ	15(6)	(6.4)	18.7	中期後半
552	E区③B層上部	浅鉢	半定形	無文, ミガキ/内面ナゲ	15.5	5.2	6.4	中期
553	E区③B層	深鉢	口縁~胴部	流縁(赤平+斜行+ギザミ状+流色状)→L&R線, 流縁(流状), L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木7a
554	E区③B層	深鉢	口縁部	流縁(赤平+弧状), L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木7a
555	E区③B層1~II層	鉢	口縁部	凹文(流縁)+L&R線+斜行/内面ナゲ	-	-	-	大木8a
556	F区①B層下部	深鉢	口縁~胴部	隆縁+L&R圧痕, 丸形L圧痕, 羽状溝文(L&R+O段多条L&R結節縁)/内面ナゲ	-	-	-	四層上層b
557	F区①B層	深鉢	口縁部	三角状口縁突起/内面ナゲ	-	-	-	後期中重
558	F区②B層	深鉢	口縁部	交差隆縁+単純結核体1層L隆縁, 刺突/内面ナゲ	-	-	-	四層上層b
559	F区②B層上部	深鉢	口縁~胴部	凹文(流縁)+L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木5b
560	F区②B層上部	注口	口縁部	凹形文(流縁+凹), 曲線文(流縁)/内面ナゲ	-	-	-	大木5a
561	F区②B層	深鉢	口縁部	流状口縁, 隆縁, 垂状突起+横文圧痕下, L&R線, 縦状把手/内面ナゲ	-	-	-	大木7b
562	F区②B層上部	深鉢	口縁~底部	横溝+凹文(流縁)+L&R線/内面ナゲ	17(2)	7.4	<26.0>	大木5b
563	F区②B層下部	深鉢	口縁部	横溝?凹文?文(流縁)+L&R線, 区内外ミガキ/内面ナゲ	-	-	-	大木5b
564	F区②B層上部	深鉢	口縁部	流状口縁, 流色?縦状?文(流縁), L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木5a
565	F区②B層上部	小型深鉢	口縁~胴部	流状口縁, 流面部に流色文, 横溝文(隆縁)+刺突, 凹形文(隆縁)+凹文?文(流縁)+O段多条L&R線/内面ナゲ	14(2)	-	<11.8>	大木5a
566	F区②B層	深鉢	口縁~胴部	斜行刺突, C字状隆縁, X字状流縁(横溝結), L&R結節縁/内面ナゲ	22.4	-	<22.1>	大木7b
567	F区②B層下部~B層	深鉢	口縁~胴部	流色+Y字状流縁(横溝結)+L&R線, 刺突利, 流色状流縁, L&R線/内面ミガキ	-	-	-	大木7b
570	F区②B層下部~B層	深鉢	口縁部	流状口縁, 平行+流状流縁, 隆縁+ギザミ, L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木7b
571	F区②B層下部	深鉢	口縁部	流状口縁, L&R圧痕(平行+刺突)/内面ナゲ	-	-	-	大木7b
572	F区②B層下部	深鉢	口縁部	流状口縁, 凹形キギザミ, 縦溝状隆縁+刺突, 流色文(隆縁)/内面ナゲ	-	-	-	大木7b
573	F区②B層下部~上部	深鉢	口縁~胴部	流状口縁, 横溝+凹文(流縁)+L&R線, 区内外磨削残ミガキ/内面ナゲ	-	-	-	大木5b
574	F区②B層下部	鉢	半定形	無文, 口縁部ゴロミシキ, 胴部ミガキ/内面ナゲ	10.8	5.4	<8.5>	中期後半
575	F区②B層下部	深鉢	口縁~胴部	流状+凹文(流縁)+L&R線, 区内外ミガキ/内面ナゲ	-	-	-	大木5b
576	F区②B層上部	浅鉢	胴部	曲線文(隆縁), L&R線光緒, 無文部赤色磨削密着/内面ナゲ	-	-	<8.7>	大木10a
577	F区②B層上部	深鉢	口縁部	流状口縁, 刺突, 曲線文(流縁), L&R線/内面ナゲ	-	-	-	大木10b
578	F区②B層下部	深鉢	半定形	流状口縁(4単位), 横溝+凹文(流縁)+L&R線/内面ナゲ	21(2)	(7.0)	28.3	大木5b

4 縄文時代の遺物

() 測定値 < > 残存値 単位: cm

No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口径	底径	器高	時期
329	F区③Ⅱ層下部	甕	半球形	基部にトンネル状突起。口縁?文(波線)。柄巾・口字文(波線)+L状。全体的に無文様(土器)。赤色顔料塗布/内面ミガキ/底面黒色ミガキ(漆?)	(6.6)	5.0	8.9	大89b
380	F区③Ⅱ層下部	深鉢	胴部	波状口縁+L波線/内面ナデ	-	-	-	大90
381	F区③Ⅱ層下部	深鉢	胴部	隆線+L波線。刺突/内面ナデ	-	-	-	内陸土層?
382	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁。底面部口縁に瓦調波色文。波色文(隆線)。交互刺突。垂下短行隆線/内面ナデ	-	-	-	大87b
383	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	柄巾・口字文(波線)+L波線/内面ナデ	(14.9)	-	<14.2>	大89b
384	F区③Ⅱ層上部~上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁・口字文(波線)+L波線/内面ナデ	25.5	-	<28.3>	大89b
385	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁~底面	口字文(波線)+L波線/内面ナデ	(16.2)	(7.3)	16.7	大89b
386	F区③Ⅱ層上部	台付鉢	台部	波状口縁。口字(幅広)文(波線)+L波線/内面ナデ	-	(8.5)	<7.1>	大89b
387	F区③Ⅱ層上部	ミニチュア鉢	口縁~底面	上半部無文ナデ。口字文(波線)+L波線/内面ナデ	(4.1)	(4.4)	6.7	大89b
388	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁(波色文)。波状・柄巾・口字文(波線)+L波線/内面ナデ	-	-	<18.5>	大89a
389	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁。波色文(隆波線)。L波線/内面ナデ	-	-	-	大89a
390	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁。波色文(隆波線)。L波線/内面ミガキ	-	-	-	大89a
391	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状・口字文(波線)+L波線/内面ナデ	-	-	-	大89b
392	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁。波色文(隆波線)。刺突/内面ナデ	-	-	-	大89a
393	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁。口字(隆線)。口字?文(波線)+L波線/内面ナデ	-	-	-	大89b
394	F区③Ⅱ層下部	台付鉢	底~台部	L波線/内面ナデ	-	-	<4.5>	中期後葉
395	F区③Ⅱ層上部	器台	台部	円形透かし。無文ナデ/上面ミガキ	(17.7)	(21.8)	9.2	中期後葉
396	F区③Ⅱ層上部~上部	深鉢	口縁~胴部	柄巾・口字文(波線)+L波線/内面ナデ	19.3	-	<20.5>	大89b
397	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底面	柄巾・口字文(波線)+L波線/内面ナデ	21.4	4.0	23.5	大89b
398	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	柄巾・口字文(波線)+L波線/内面ナデ	-	-	-	大89b
399	F区③Ⅱ層下部	甕	胴~底面	隆線+貫通孔之文。波色文(隆波線)。L波線/内面ナデ	-	-	-	大89b
400	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~底面	円・楕円(隆波線)。L波線/内面ナデ	-	-	-	大89a
401	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	L波線/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
402	F区③Ⅱ層上部	深鉢	胴~底面	口字文(波線)。L波線/内面ナデ	-	9.3	<12.9>	大89
403	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁。波色文(隆波線)。刺突/内面ナデ	-	-	-	大89a
404	F区③Ⅱ層	深鉢	口縁~胴部	L波線/内面ナデ	(15.0)	-	<15.0>	中期後葉
405	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	口字文(上部隆線突起化。隆波線)+刺突(斜)。柄巾文(波線)+L波線/内面ナデ	-	-	-	大89a
406	F区③Ⅱ層上部	台付鉢	台部	円形透かし。沈線/内面ナデ	-	-	-	大89
407	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	円形孔(透かし。2層1縦)。単純輪条体1期L線/内面ナデ	(18.4)	(20.0)	<20.5>	中期後葉
408	F区③Ⅱ層下部	台付鉢	台部	L波線/底面ナデ	-	(20.0)	<2.5>	中期後葉
409	F区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁。波線部に波状文(隆波線)。口字文(波線)+L波線/内面ナデ	-	-	-	大89a
410	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	S字状文(波線)。L波線/内面ナデ	-	-	-	大89a
411	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁。沈線。無文ナデ。単純輪条体1期L線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
412	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁。円文+刺突。L波線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
413	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	輪条状+透孔(縦型)+波色文?沈線。L波線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
414	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	方形文(波線)/内面ナデ	-	-	-	後期初期
415	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	口縁有段。刺突。三角形文(波線)。L波線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
416	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	口縁・斜行沈線。L線?/内面ナデ	-	-	-	後期初期
417	F区③Ⅱ層	深鉢	口縁部	波色?文(隆波線)/内面ナデ	-	-	-	大89a
418	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	貫通孔之箇所(輪条孔小)。隆線+器頸ミガキミ。地文不明/内面ナデ	-	-	-	後期初期
419	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	波色・斜行・垂下沈線。L波線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
420	F区③Ⅱ層下部	台付鉢or器台	台部	方形透かし。L波線/内面ナデ	-	-	-	中期
421	F区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	斜近し口縁。沈線。交互刺突/内面ナデ	-	-	-	大89b
422	G区①Ⅱ層下部	深鉢	胴部	幾何学文(波線)。L波線/内面ナデ	-	-	-	後期初期
423	G区①Ⅱ層	深鉢	口縁部	円形孔+波線+刺突(三角状)。隆線(縦)/内面輪条ナデ	-	-	-	後期初期

IV 検出された遺構と遺物

() 推定値 < > 残存量 単位: cm

No.	出土地点(修正)	層位	部位	特徴	口縁	底径	器高	時期
624	G区①1-Ⅱ層	深鉢	胴部	染織、褐色状沈殿/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
625	G区①1-Ⅱ層	深鉢	胴部	褐色文(沈殿)、LR縞/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
626	G区①Ⅱ層下部	深鉢	口縁-胴部	早輪軸条体1期互換圧痕、早輪軸条体1期互多方向/内面ナゲ	-	-	-	中期後葉
627	G区②Ⅱ層	鉢	口縁-胴部	LR直線、その他無文	(76)	-	<93>	中期後葉
628	G区②北東部Ⅱ層(T9)	深鉢	口縁部	長方形文(沈殿)、刺突列/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
629	G区②Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	染織、垂下沈殿+刺突列、弧状沈殿/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
630	G区②Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁刺突、垂下沈殿、方形文(沈殿)、LR縞+帯縁著しい/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
631	G区②Ⅱ層下部、G区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	流状口縁、沈殿、LR縞光輝/内面ナゲ	-	-	-	大木7b
632	G区③Ⅱ層下部	深鉢	胴部	染織、平円状沈殿、LR縞/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
633	G区③北東部1層(T9)	鉢	胴部	工字文/内面ナゲ	-	-	-	大洲A
634	G区③1層	深鉢	口縁部	斜行沈殿、山形隆線+キザミ、褐色状沈殿/内面ナゲ	-	-	-	大木7a
635	G区③1-Ⅱ層上部、G区③1-Ⅱ層、1区ⅢⅡ層上部	深鉢	口縁-胴部	口唇キザミ状、沈殿、羊歯状文/内面ナゲ	-	-	-	大洲DC
636	G区③1-Ⅱ層	深鉢	口縁部	口縁突起、平円状沈殿/内面ナゲ	-	-	-	晩期中葉
637	G区③Ⅱ層	深鉢	口縁部	流状口縁、斜り状口縁突起、LR縞/内面ナゲ、帯付着	-	-	-	後期初期
638	G区③Ⅱ層	深鉢	口縁部	刺突、横竹目(沈殿)+LR縞、隆線+キザミ(斜)/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
639	G区③Ⅱ層	深鉢	口縁部	同心円状沈殿、LR縞/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
640	G区③Ⅱ層	深鉢	胴部	流状沈殿/内面ナゲ	-	-	-	大木7a
641	G区③Ⅱ層	深鉢	胴部	突起帯付、沈殿、LR縞、一部斜状(LR縞+横)/内面ナゲ	-	-	-	後期後葉
642	G区③1-Ⅱ層	深鉢	口縁部	口唇キザミ、平円沈殿+キザミ、LR縞/内面ナゲ	-	-	-	大洲DC
643	G区③Ⅱ層	皿	胴部	多条沈殿、刺突列/内面ナゲ	-	-	-	晩期後葉
644	G区③1-Ⅱ層、G区③Ⅱ層(T6)、G区③Ⅱ層上部、1区ⅢⅡ層上部	皿	胴-底部	帯縁著しい、雲形文(浮彫状沈殿)、LR縞/内面ナゲ	-	(140)	<38>	大洲C1
645	G区③1-Ⅱ層	軒付鉢	胴部	LR縞、沈殿	-	-	-	晩期後葉
646	G区③1-Ⅱ層	ニニチュア沈鉢	定形	口縁突起(4単位)、口唇に沈殿、帯状突起(2対)/内面ナゲ	5.5	1.8	20	晩期後葉
647	G区③1層	沈鉢	口縁-胴部	口唇突起、雲形文(浮彫状沈殿)、ミザキ、LR縞/内面褐色ミザキ	-	-	-	大洲C1
648	G区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁-胴部	大流状口縁、ミザキ、幾何学文(沈殿)、LR縞+斜光輝/内面ミザキ	-	-	-	後期中葉
649	G区③Ⅱ層下部	ニニチュア鉢	底蓋	LR縞/内面ナゲ	(71)	41	<37>	中期
650	G区③Ⅱ層上部	皿	胴部	人相文(沈殿)、LR縞/内面ナゲ	-	-	-	大洲DC
651	G区③Ⅱ層下部	沈鉢	口縁-胴部	工字文(沈殿)、沈殿部に赤色顔料散布/内面ナゲ、口縁に突起あり	(170)	-	<66>	大洲A
652	G区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	流状口縁、突起部に斜り状突起、帯状把手/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
653	G区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁-胴部	0段多糸L状縞+斜/内面ナゲ	-	-	-	後期前葉
654	G区③1-Ⅱ層上部、G区③Ⅱ層上部	深鉢	胴-底部	LR縞/内面ナゲ	-	(94)	<25.7>	晩期中葉
655	G区③Ⅱ層上部	皿	胴部	工字文系(沈殿)/内面ナゲ	-	-	-	大洲A
656	G区③Ⅱ層(T8)	深鉢	口縁-胴部	平円沈殿、帯状工字文(沈殿)+LR縞/内面ナゲ	-	-	-	大木9b
657	G区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	円一帯色状文(沈殿)、LR縞/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
658	G区③Ⅱ層上部-下部	深鉢	口縁-胴部	流状口縁、同心文、玉帯雲文(沈殿)、早輪軸条体1期ミザキ/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
659	G区③Ⅱ層上部、1区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁-胴部	流状口縁、同心文+弧状垂下沈殿、縦線状垂下沈殿、LR縞+横/内面ナゲ	(276)	-	<43.1>	後期初期
660	G区③Ⅱ層下部	皿	胴部	幾何学文状沈殿/内面ナゲ	-	-	-	後期前葉
661	G区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	流状口縁、同心文+刺突、刺突列、縦線、円~平円状沈殿(同心円状)/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
662	G区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	円一弧状沈殿(同心円状)、垂下隆線+キザミ/内面ナゲ	-	-	-	後期初期
663	G区③Ⅱ層下部	皿	口縁部	帯状隆線+玉状突起、ミザキ、沈殿/内面沈殿(隆)、ミザキ	-	-	-	晩期中葉
664	G区③1-Ⅱ層上部、1区③Ⅱ層上部	深鉢	口縁-胴部	口唇キザミ、平円沈殿、LR縞/内面ナゲ	-	-	-	晩期中葉
665	G区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁-胴部	流状口縁、帯状工字文(沈殿)+LR縞/内面ナゲ	-	-	-	大木9b
666	G区③Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	褐色文(染織)、LR縞、無文ナゲ/内面ミザキ	-	-	-	大木9a
667	G区③Ⅱ層上部	深鉢	胴部	同心文(沈殿)+LR縞/内面ナゲ	-	-	<25.7>	大木9
668	G区③Ⅱ層上部	軒付鉢	底蓋	流状口縁、同心文(沈殿)+LR縞/内面ナゲ	(70)	-	<92>	大木9b

4 縄文時代の遺物

() 測定値 < > 残存値 単位: cm

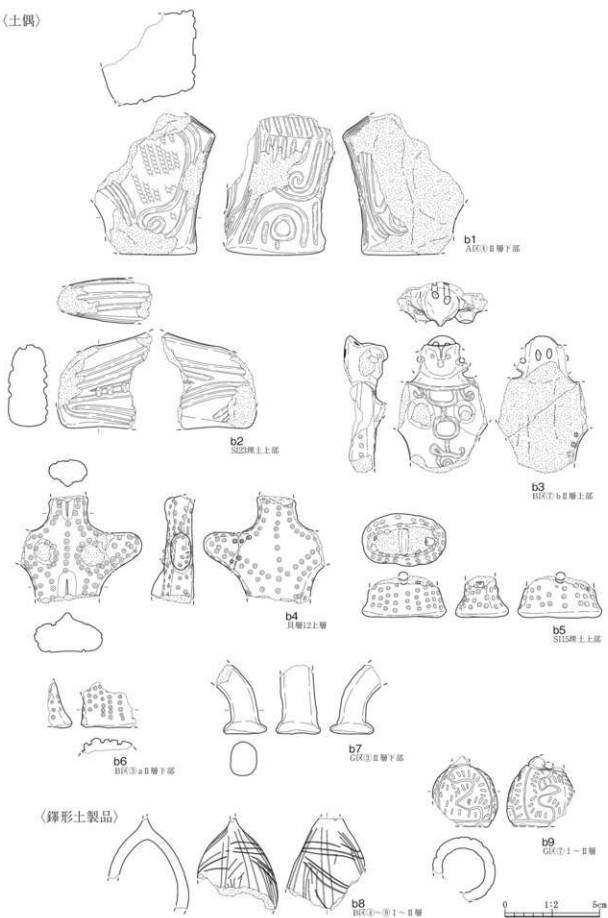
No.	出土地点(修正)	器種	部位	特徴	口縁	底径	器高	時期
609	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	平行~波状沈線、L&R線/内面ナデ	-	-	-	大木7b
620	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	波状口縁、横槽口/波状沈線、縦溝状沈線、L&R線/内面ナデ	-	-	-	大木7c
621	G区伊豆Ⅱ層上部~下部	深鉢	口縁~底部	波状口縁、槽口/凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデミガキ、ミガキナデ	(283)	(96)	354	大木9b
672	G区伊豆Ⅱ層上部	皿	口縁~胴部	褐色文(隆線)、凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	(105)	-	<136>	大木9a
623	G区伊豆Ⅱ層上部	小型深鉢	半定形	波状口縁、底面部に凹形~褐色文、凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	(117)	6.2	<121>	大木9b
674	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	胴~底部	曲線文(ヒト状突起+沈線)、L&R線/内面ナデ	-	100	<209>	大木9b
625	G区伊豆Ⅱ層上部~下部	小型深鉢	半定形	波状口縁、縦溝文(隆沈線)、凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	(100)	4.8	<122>	大木9b
626	G区伊豆Ⅱ層上部、G区伊豆Ⅲ層上部~Ⅲ層中絶上層	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、槽口/凸字文(沈線)+L&R線、区内外ミガキ/内面ナデ	(270)	-	<166>	大木9b
677	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	縦溝+凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ、上部のみミガキ	-	-	-	大木9b
628	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~底部	波状口縁下、やや歪みあり、縦溝+凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	(256)	7.4	337	大木9b
629	G区伊豆Ⅱ層上部、具層10QN上層	深鉢	半定形	波状口縁(4突起)、凸字文(2隆、沈線)+L&R線一部波状/内面ナデ、一部ミガキ	31.0	9.4	37.0	大木9b
680	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	ほぼ定形	波状口縁、凸字文(2隆、沈線)+L&R線、区内外ミガキ/内面ナデ、下部ミガキナデ	(264)	8.5	337	大木9b
681	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	槽口/凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	-	-	-	大木9b
682	G区伊豆Ⅱ層上部、G区伊豆Ⅲ層上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、変形5字状文(沈線)、L&R線光沢/内面ナデ	-	-	-	大木10a
683	G区伊豆Ⅰ~Ⅱ層	深鉢	胴部	凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	-	-	<203>	大木9b
684	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	胴~底部	L&R線/内面ナデ、一部ミガキ	-	8.6	<21.1>	中期後葉
685	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~底部	無文字ナデ、L&R線(横起)/内面ナデ	(264)	11.7	<22.5>	中期後葉
686	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	胴~底部	凸字文(下隆、沈線)+L&R線/内面ナデ、一部ミガキ	-	100	<135>	大木9
687	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	L&R線、L上・初合形断面/内面ミガキ	-	-	-	中期後葉
688	G区伊豆Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	口縁大きく歪み、波状口縁、底面部に縦溝文(隆沈線)、凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	(220)	-	<180>	大木9a
689	G区伊豆Ⅱ層(T4)	深鉢	胴~底部	曲線文(隆沈線)、L&R線~斜光沢/内面ナデ	-	8.0	<9.4>	大木10a
690	G区伊豆Ⅱ層上部	小型深鉢	半定形	波状口縁(3突起)、凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	(118)	5.2	132	大木9b
691	G区伊豆Ⅱ層上部	小型深鉢	口縁~胴部	波状口縁、凸字文(沈線)+R線光沢/内面ナデ、上部ミガキ	(102)	-	<128>	大木9b
692	G区伊豆Ⅱ層(T4)、G区伊豆Ⅰ~Ⅱ層上部、具層10Q2上層、具層10Q3	深鉢	口縁~底部	波状口縁(5突起)、凸字文(不整曲線文(沈線)+L&R線光沢、区内外ミガキ/内面ナデ	(332)	(76)	364	大木9b
693	G区伊豆Ⅱ層上部、G区伊豆Ⅲ層、具層10QE	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、平行沈線+斜突起、曲線文(沈線)、L&R線光沢/内面ナデ	(260)	-	<198>	大木10a
694	G区伊豆Ⅱ層上部	鉢	口縁~底部	全体にミガキ、C字状文(沈線)+L&R線/内面ミガキ	14.2	6.0	10.2	大木10a
695	G区伊豆Ⅱ層上部、具層10QE上層~下層	深鉢	口縁~胴部	L&R線~L&R線隆文/内面ナデ、一部ミガキ	(341)	-	<27.6>	中期後葉
696	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁部	ミガキ、赤色顔料塗布/内面ミガキ、赤色顔料塗布	-	-	-	中期後葉
697	G区伊豆Ⅱ層中絶上層	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、半輪縁条体1期Ⅱ層-弱/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
698	G区伊豆Ⅱ層下部	ミニチュア鉢	半定形	波状口縁(3突起)、L&R線/内面ナデ	(54)	3.6	6.0	中期
699	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	口縁ミガキ、L&R線/内面ナデ	(282)	-	<24.2>	中期後葉
700	G区伊豆Ⅱ層上部	鉢	口縁~胴部	波状口縁、波瀾V字状突起、口縁同形沈線~一部輪状突起、上字状沈線、L&R線、L&R線隆線/内面ミガキ	(209)	-	<11.1>	大木7b
701	G区伊豆Ⅰ~Ⅱ層上部	小型深鉢	口縁~胴部	波状口縁、凡字状沈線+貫通孔、L上線/内面ナデ	(128)	-	<12.7>	後期初葉
702	G区伊豆Ⅰ~Ⅱ層下部	深鉢	口縁部	波状口縁、刺突、沈線、縦溝条状/内面ナデ	-	-	-	後期初葉
703	G区伊豆Ⅰ~Ⅱ層下部、G区伊豆Ⅰ~Ⅱ層、G区伊豆Ⅲ層	深鉢	口縁~底部	槽口/凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	(283)	10.0	54.6	大木9b
704	G区伊豆Ⅱ層下部	深鉢	口縁~胴部	変形5字状文(沈線)+L&R線光沢、区内外ミガキ/内面ナデ	(258)	-	<47.4>	大木10a
705	G区伊豆Ⅱ層下部~Ⅲ層	深鉢	胴~底部	L&R線~L&R線隆線/内面ナデ	-	10.4	<9.7>	後期初葉
706	G区伊豆Ⅱ層上部~下部	深鉢	口縁~胴部	槽口/凸字文(沈線)+L&R線/内面ナデ	(326)	-	<34.3>	大木9b
707	G区伊豆Ⅰ~Ⅱ層	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、凹形孔沈線、縦溝状隆線、刺突、L&R線/内面ナデ	-	-	-	後期初葉
708	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	L&R線/内面ナデ	-	-	-	中期後葉
709	G区伊豆Ⅱ層上部~下部	深鉢	胴~底部	L&R線、下部十字調整溝断面/内面ナデ	-	(10.3)	<23.8>	中期後葉
710	G区伊豆Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、褐色文(隆沈線)、L&R線/内面ナデ	(226)	-	<16.1>	大木9b
711	G区伊豆Ⅰ~Ⅱ層上部	深鉢	口縁~胴部	波状口縁、ヒト状突起、凹文+刺突、凹状沈線?、R化痕?/内面ナデ	-	-	-	後期初葉

IV 検出された遺構と遺物

() 測定値 < > 残存量単位: cm

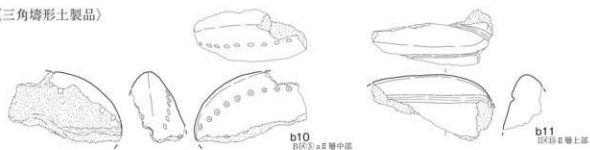
No.	出土施設(修正)	習種	部位	特徴	口径	底径	器高	時期
712	G区①I-1B層上部, I区①B層下部	小型深鉢	半定形	底状沈線/内面十字/底部木葉痕	(108)	(62)	<108>	中期後葉
713	G区①I-1B層上部	深鉢	口縁~胴部	0段多条沈線/内面十字	(260)	-	<199>	中期後葉
714	I区②B層下部	ミニチュア鉢	胴部	沈線/内面十字	-	-	-	後期
715	I区②B層下部	鉢	口縁部	口唇キザ1, 沈線, 刺突, 紅線/内面十字	-	-	-	大洲IC
716	I区②B層下部	浅鉢	口縁~胴部	沈線, 一部隆沈線, L形線/内面十字	-	-	-	大洲C2
717	I区②B層下部	深鉢	口縁部	底状口縁, 楕円形(隆線+1)圧痕/内面十字	-	-	-	大木7b
718	I区②B層下部	深鉢	胴部	曲線文(凹形?), 多条沈線+刺突列/, L形線/内面十字	-	-	-	後期前葉
719	I区②B層下部	深鉢	口縁部	口縁突起, 凹形孔, 沈線	-	-	-	後期前葉
720	I区②B層下部	深鉢	口縁部	底状口縁, 凹字文(隆沈線)+0段多条L形線, 沈線部に赤色顔料塗布/内面十字	-	-	-	大木5b
721	I区②B層下部	深鉢	胴部	隆線+刺突/内面十字	-	-	-	後期前葉
722	I区②B層下部	浅鉢	口縁~胴部	キザ1, 平行沈線, 赤色顔料付着, L形線+ナテ/ナテ, 赤色顔料	-	-	-	大洲IC
723	I区②B層上部・下部	深鉢	口縁部	底状口縁, 沈線, L形線/内面十字	-	-	-	後期前葉
724	I区②B層上部~下部	深鉢	胴~底部	L形線/内面十字	-	(127)	<145>	中期後葉
725	I区②B層下部	浅鉢	口縁~胴部	キザ1, 浮彫状沈線, L形線光焼	-	-	-	大洲C1
726	I区②B層下部	浅鉢	口縁部	口唇隆文(底上?, 工字文/内面沈線, ナテ, 塚付着	-	-	-	大洲A
727	I区②B層	深鉢	口縁部	底状口縁, 楕円形突起(上-前面に凹形孔), 口唇一帯状文(隆線), 曲線文(凹字?), 沈線+紅線(隆線光焼)/内面十字	-	-	-	大木9a
728	I区②B層下部	深鉢	胴部	連続状隆線/内面十字	-	-	-	後期前葉
729	I区②B層下部	深鉢	口縁部	底状口縁, 楕円形突起, 凹文彫付, 刺突, 紅線/内面凹文彫付, ナテ	-	-	-	後期前葉
730	I区②B層下部	浅口	胴部	沈線, L形線光焼/内面十字	-	-	-	大洲C1
731	I区②B層下部	浅口	胴部	キザ1, 浮彫状沈線, 紅線光焼/内面十字	-	-	-	大洲C1
732	具懸10QW	深鉢	口縁~胴部	底状口縁, 流線部に線状キザ字状文, 底状隆沈線, 黄褐色文(一部, 沈線), L形線/内面ミガキ	(430)	-	<244>	大木8a
733	具懸10QS下層	深鉢	口縁~胴部	底状口縁, 流線部から縦状文(隆沈線)垂下+楕円文(沈線)+刺突, 凹字文(沈線)+L形線/内面十字, 一部ミガキ	(250)	-	<156>	大木9a
734	具懸10QW上層	深鉢	口縁~胴部	底状口縁, 凹形文(隆線), 楕円文(隆沈線)+刺突, 凹字文(沈線)+紅線/内面十字	-	-	-	大木9a
735	具懸10QS下層	深鉢	口縁~胴部	凹字状文(沈線)+紅線, 区画外ミガキ/内面十字	-	-	-	大木10a
736	具懸10QE下層	小型深鉢	口縁部	底状口縁, 凹門文(楕円形), 凹字文(沈線, 一部楕円文もあり)+L形線/内面十字	132	5.8	15.5	大木9b
737	具懸10QE下層	深鉢	口縁~胴部	曲線文(沈線), L形線光焼, ミガキ/内面十字	-	-	-	大木10a
738	具懸10QE下層	深鉢	口縁~胴部	底状口縁下, C字状突起, 刺突列, 曲線文(沈線), 単純線条体1期直線, ミガキ/内面ミガキ	(133)	-	<168>	大木10a
739	具懸10QN	深鉢	胴部	黄色状文(隆沈線, 隆線幅広彫形), L形線/内面ミガキ	-	-	-	大木10b
740	具懸10QN	深鉢	口縁~胴部	曲線文(沈線)+L形線+斜光焼, 区画外ミガキ/内面十字	-	-	-	大木10a
741	具懸10QE上層~下層	深鉢	口縁部	L形線/内面ミガキ	(220)	(8.2)	28.0	中期後葉
742	具懸10QW	ミニチュア鉢	口縁部	隆線, 沈線/内面十字	(1.4)	-	<1.6>	後期前葉
743	具懸10QE	浅口上蓋	胴部	紅線/内面十字, 底部付近まで付着あり	-	-	-	中期後葉

〈土偶〉



第165図 土製品(1)

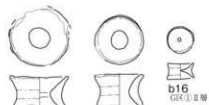
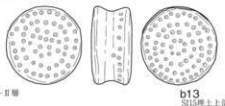
〈三角埴形土製品〉



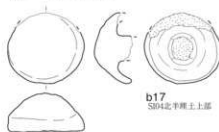
〈匙形土製品〉



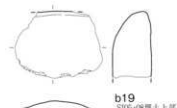
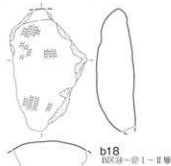
〈土製耳飾〉



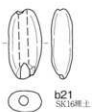
〈キノコ形土製品〉



〈腕輪形土製品〉



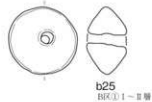
〈土錘〉



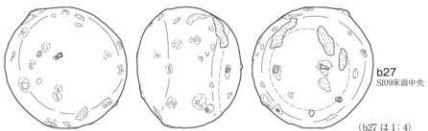
〈土玉〉



〈巨大焼成粘土塊〉

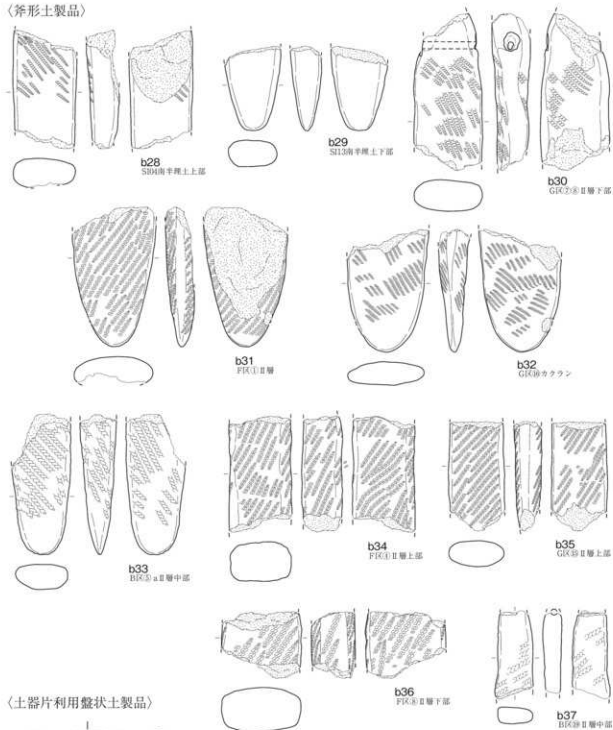


〈不明土製品〉

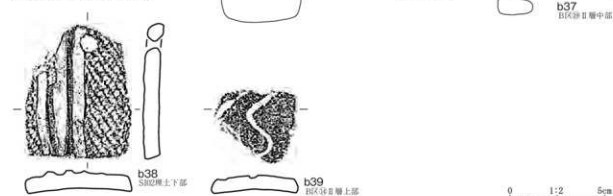


第166図 土製品(2)

〈斧形土製品〉



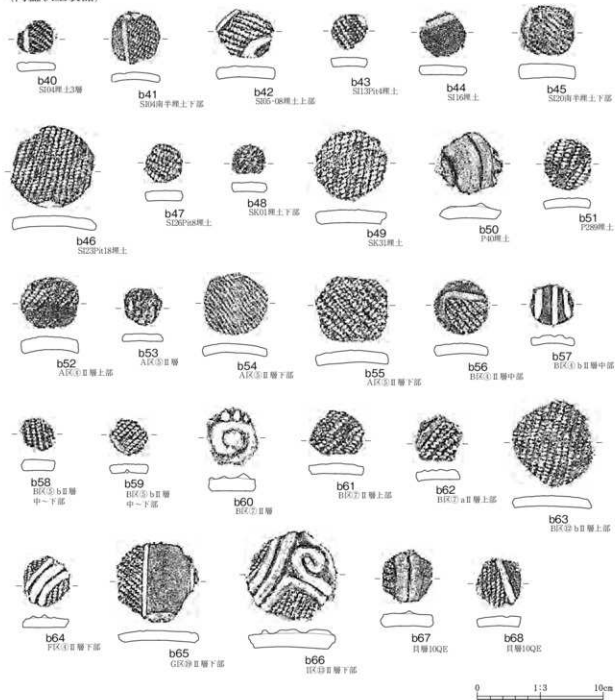
〈土器片利用盤状土製品〉



0 1:2 5cm

第167図 土製品(3)

〈円盤状土製品〉



第168図 土製品(4)

第19表 土製品観察表

() 残存値 () 推定値

No.	出土地点	種類	特徴	計測値 (cm)	重量 (g)	登録番号
b1	A区④Ⅱ層下部	土偶	出尻形中実土偶左脚片 全面沈線文・LR縄文	高(7.3)幅(5.2)厚(6.8)	167.21	C0005
b2	S123埋土EW・ベルト中央埋土上部	土偶	板状土偶脚部片 両面・上面沈線文 一部刷目列点	高(5.1)幅(4.9)厚(2.3)	48.70	C0487
b3	B区⑦bⅡ層上部	土偶	中実土偶 頭頂部貫通孔2 胸部腹面沈線文 両腕・背面・下半身欠損	高(7.3)幅(4.8)頭頂部孔徑0.3	42.19	C0015
b4	貝層12土層	土偶	中実土偶 全面刺突文 頭頂部・右腕・下半身欠損	高(5.7)幅(6.4)厚(2.2)	45.40	C0489
b5	S15埋土上部	土偶	脚表現省略中実土偶 全面刺突文 中央貫通孔 上半身欠損	高(2.1)幅3.0中央孔徑0.4	22.44	C0027
b6	B区③aⅡ層下部	土偶	脚表現省略中実土偶 全面刺突文 破片	高(2.4)幅(3.0)	4.82	C0413
b7	G区③Ⅱ層下部	土偶	中実土偶脚部片 左右不明 無文	高(3.7)足部長径2.4脚部径1.8	13.50	C0486
b8	B区④～⑨Ⅰ～Ⅱ層	鐸形土製品	紡錘形 頂部・下部欠損 全面細い沈線文	径(4.5)高(5.2)	25.13	C0001
b9	G区⑦Ⅰ～Ⅱ層	鐸形土製品	紡錘形 頂部・下部欠損 細い沈線文と刺突列 頂部貫通孔	径(3.7)高(3.9)孔徑0.4	17.10	C0484
b10	B区⑤aⅡ層中部	三角錐形土製品	頂部破片 正面形半円形 両面刺突列 貫通孔あり	長(6.0)幅(2.5)高(3.6)	36.88	C0009
b11	I区⑬Ⅱ層上部	三角錐形土製品	頂部破片 両面沈線文 破損品	長(6.5)幅(3.1)高(3.7)	33.50	C0490
b12	B区④～⑨Ⅰ～Ⅱ層	甕形土製品	柄部短く扁平な突起 貫通孔2 趾部欠損	長(3.6)幅(2.1)孔徑0.2	7.10	C0456
b13	S15埋土上部	土製耳飾	円板形 両面刺突列円環4重 銅緑片銅刺突列	径4.0高2.1	40.59	C0031
b14	S123埋土EW・ベルト中央埋土下部	土製耳飾	鼓形 無文	径3.3高2.0孔徑1.1	9.00	C0488
b15	B区⑦bⅡ層上部	土製耳飾	鼓形 無文 内外面赤彩	径2.6高1.9孔徑0.9	7.64	C0013
b16	G区①Ⅱ層	土製耳飾	小型鼓形 無文 胎土赤褐色	径1.4高0.9孔徑0.15	1.10	C0485
b17	S104北半埋土上部	キノコ形土製品	輪軸部欠損 表面にひび割れ多数	径4.0高(2.1)	16.75	C0016
b18	B区⑧～⑬Ⅰ～Ⅱ層	輪軸形土製品	大型輪軸破片 RL縄文 破損品	幅7.5厚2.1	46.30	C0457
b19	S105・08埋土上部	輪軸形土製品	大型輪軸破片 外面無文 破損品	幅(3.5)厚2.2	30.80	C0460
b20	B区⑤aⅡ層上部	土錘	十字型沈線	長2.3径2.1	11.07	C0008
b21	SK16埋土	土錘	紡錘形 無文	長3.7径1.7孔徑0.4	7.43	C0028
b22	B区⑦Ⅱ層上部	土玉	縦横に細い貫通孔 無文	長3.2幅2.5厚1.7孔徑0.2	15.10	C0007
b23	B区⑧bⅡ層中部	土玉	両面やや凹む 貫通孔1本 無文	長2.3幅2.4厚1.2孔徑0.3	7.73	C0011
b24	貝層05a (B区⑧bⅡ層下部)	土玉	小型球形 表面黒色	径1.3高1.2孔徑0.2	1.90	C0474
b25	B区①Ⅰ～Ⅱ層	土玉	算盤玉形 無文	径3.7高2.0孔徑0.5	20.25	C0002
b26	A区⑤Ⅱ層	不明土製品	断面楕円形の円柱状 貫通孔1本	長(6.5)幅(3.0)孔徑0.5	43.60	C0465
b27	SI09床面中央RP1	巨大焼成粘土塊	やや歪な球形 表面に砂粒・小窪突出 下面面を除き二次被熱	長径13.6短径11.3高11.0	1656.70	C0034
b28	SI04南半埋土上部	斧形土製品	LR縄文 刃部・基部側欠損	長(6.3)幅3.3厚(1.9)	36.20	C0464
b29	SI13南半埋土下部	斧形土製品	無文 基部側欠損	長(4.3)幅(3.2)厚(1.6)	19.64	C0030
b30	G区⑦⑧Ⅱ層下部 (T6)	斧形土製品	LR縄文 基部側貫通孔 刃部側欠損	長(8.3)幅3.7厚2.0孔徑0.4	61.10	C0481
b31	F区①Ⅱ層	斧形土製品	RLR縄文 基部側欠損	長(7.4)幅(4.5)厚(1.2)	39.64	C0033
b32	G区⑧カクラン	斧形土製品	L縄文 基部側欠損 一部黒色付着物	長(6.5)幅(4.3)厚(1.5)	35.40	C0482
b33	B区⑤aⅡ層中部	斧形土製品	LR縄文 基部側欠損	長(7.3)幅(3.3)厚(2.0)	37.10	C0006
b34	F区④Ⅱ層上部	斧形土製品	RLR縄文 刃部・基部側欠損	長(6.2)幅(2.4)厚2.1	55.66	C0024

() 残存値

No.	出土地点	種類	特徴	計測値 (cm)	重量 (g)	登録番号
b35	G区②Ⅱ層上部	斧形土製品	RLR縄文 刃部・基部側欠損	長(5.8)幅3.0厚1.5	29.20	C0483
b36	F区⑧Ⅱ層下部	斧形土製品	RLR縄文 刃部・基部側欠損	長(3.5)幅(4.0)厚(2.3)	37.67	C0026
b37	B区⑩Ⅱ層中部	斧形土製品	LR縄文 刃部・基部側欠損 表面摩滅	長(4.5)幅(2.0)厚(1.0)	10.38	C0020
b38	SI02埋土下部	土器片利用土製品	隆沈線 LR縦 貫通孔	長7.3幅5.6厚0.9孔径0.4	52.30	C0463
b39	B区⑩Ⅱ層上部	土器片利用土製品	蛇行垂下沈線 縁辺磨り顕著 三角形	長4.7幅4.3厚0.6	18.10	C0461
b40	SI04埋土3層	円盤状土製品	沈線 LR縦	径3.2	7.32	C0371
b41	SI04南半埋土下部	円盤状土製品	沈線 LR縦 縁辺磨り顕著 楕円形	径4.8	12.12	C0316
b42	SI05・08EWベルト埋土上部	円盤状土製品	沈線 LR縦	径4.5	21.20	C0447
b43	SI13Pit4埋土	円盤状土製品	LR縦	径2.9	7.54	C0376
b44	SI16埋土	円盤状土製品	沈線	径3.6	12.76	C0363
b45	SI20南半埋土下部	円盤状土製品	LR縦	径4.5	26.10	C0478
b46	SI23Pit18埋土	円盤状土製品	RLR縦	径6.6	46.20	C0491
b47	SI26Pit8埋土	円盤状土製品	LR	径3.2	9.50	C0492
b48	SK01埋土下部	円盤状土製品	RL縦?	径2.9	6.18	C0148
b49	SK31埋土	円盤状土製品	RLR縦	径5.6	37.70	C0494
b50	P40埋土	円盤状土製品	隆沈線 RLR縦	径4.5	25.90	A0218
b51	P280埋土	円盤状土製品	RL縦	径4.1	15.00	C0493
b52	A区④Ⅱ層上部	円盤状土製品	RL縦?	径4.6	28.30	C0164
b53	A区⑤Ⅱ層	円盤状土製品	LR	径3.2	6.33	C0110
b54	A区⑤Ⅱ層下部	円盤状土製品	LR縦	径5.4	27.35	C0122
b55	A区⑤Ⅱ層下部	円盤状土製品	LR縦	径6.3	42.91	C0132
b56	B区④Ⅱ層中部	円盤状土製品	沈線 LR縦	径4.4	19.31	C0215
b57	B区④bⅡ層中部	円盤状土製品	沈線 ミガキ 縁辺磨り顕著	径3.5	10.42	C0290
b58	B区⑤bⅡ層中～下部	円盤状土製品	LR縦	径3.9	7.57	C0228
b59	B区⑤bⅡ層中～下部	円盤状土製品	沈線 RLR縦 内面中央に未貫通孔	径3.2	7.81	C0232
b60	B区⑦Ⅱ層	円盤状土製品	隆沈線(渦巻文)+キザミ	径4.3	20.30	C0428
b61	B区⑦Ⅱ層上部	円盤状土製品	RL縦 煤付着	径4.3	15.94	C0189
b62	B区⑦aⅡ層上部	円盤状土製品	沈線 RL縦	径3.9	14.03	C0207
b63	B区⑦bⅡ層上部	円盤状土製品	RL縦	径7.5	43.74	C0253
b64	F区③Ⅱ層下部	円盤状土製品	隆沈線 LR縦	径4.1	15.95	C0352
b65	G区⑨Ⅱ層下部	円盤状土製品	沈線 LR縦	径6.4	40.70	C0498
b66	I区⑩Ⅱ層下部	円盤状土製品	隆沈線(渦巻文) RLR縦	径7.2	71.40	C0497
b67	貝層10QE (G区⑩Ⅱ層上部)	円盤状土製品	隆沈線 LR縦	径4.5	24.90	C0495
b68	貝層10QE(G区⑩)	円盤状土製品	沈線 RL縦	径3.9	15.20	C0496